

目 次

香川大学医学部の基本理念	(1)
教育目標・人材養成上の目的	(1)
香川大学医学部履修要項	(2)
気象警報の発令等における休講措置の基準	(21)
香川大学医学部医学科編入学生の在学期間の通算等の取扱いに関する要項	(22)
平成 23 年度行事予定表	(28)
平成 23 年度授業時間割表(1～6 年次生用)	(30)
シラバス	
1 年次生	
医学概論 I	I - 1
医学概論 II	I - 3
早期体験学習	I - 5
医用統計学	I - 7
21 世紀の社会・環境と保健医療福祉	I - 9
情報科学実習	I -12
2 年次生	
医用物理学	II - 1
生命物質化学	II - 3
生命有機化学	II - 5
分子遺伝学	II - 7
応用生物科学	II - 9
神経生物学	II -12
自然科学実習(物理学)	II -14
自然科学実習(化学)	II -15
自然科学実習(生物学)	II -17
情報科学実習	II -19
医用統計学	I - 7
保健医療福祉看護・介護論	II -22
保健指導・カウンセリング・チーム医療の基礎	II -24
分子生物学	II -27
解剖学(I)	II -29
解剖学(II)	II -34
生理学(I)	II -40
生理学(II)	II -44
生化学	II -48
英語(全学共通科目)	II -52
3 年次生	
児童・思春期医学	III - 1
課題実習	III - 3
ボランティア体験学習	III - 4
医学英語	III - 5
解剖学(I)	III - 7

内分泌学	Ⅲ-11
病理学（Ⅰ）	Ⅲ-14
病理学（Ⅱ）	Ⅲ-17
免疫学	Ⅲ-19
薬理学	Ⅲ-23
微生物学	Ⅲ-26
医動物学	Ⅲ-29
神経系、運動器(筋骨格)系、精神系（第1ユニット）	Ⅲ-32
内分泌・栄養・代謝系（第2ユニット）	Ⅲ-41
消化器系（第6ユニット）	Ⅲ-46
臨床総論講義	Ⅲ-52
上級英語（全学共通科目）	Ⅲ-57

4年次生

臨床英語	Ⅳ- 1
衛生学	Ⅳ- 3
公衆衛生学	Ⅳ- 6
法医学	Ⅳ-10
循環器系、腎・尿路系（第3ユニット）	Ⅳ-14
感染症、血液・造血器・リンパ系、免疫・アレルギー疾患（第4ユニット）	Ⅳ-23
呼吸器系（第5ユニット）	Ⅳ-29
生殖機能、妊娠と分娩、乳房、成長と発達（第7ユニット）	Ⅳ-34
皮膚系、眼・視覚系、耳鼻・咽喉・口腔系（第8ユニット）	Ⅳ-39
臨床総論講義	Ⅲ-52

5年次生

児童思春期医学Ⅱ 一 家族療法・薬物療法を中心に	V- 1
臨床病理検討会	V- 2
医療管理学・診断学	V- 4

6年次生

医療総合講義	Ⅵ- 1
臨床病理検討会	V- 2

講義・実習時間割表

1年次生	[Ⅰ-1]
2年次生	[Ⅱ-1]
3年次生	[Ⅲ-1]
4年次生	[Ⅳ-1]
5年次生	[Ⅴ-1]
6年次生	[Ⅵ-1]

香川大学医学部の基本理念

- 1 世界に通ずる医学及び看護学の教育研究を目指す。
- 2 人間性の豊かな医療人並びに医学及び看護学の研究者を養成する。
- 3 医学及び看護学の進歩並びに人類の福祉に貢献すると共に地域医療の充実発展に寄与する。

教 育 目 標

- 1 医学に関する問題を的確に把握し、その問題を自主的、積極的かつ総合的に解決するために必要な基本的知識及び基本的技術を修得する。
- 2 生涯を通じて自己学習する基本的態度・習慣を身につけ、自らを正しく評価できる客観的判断能力を養う。
- 3 医療を単に疾病の治療として把握するにとどまらず、予防・リハビリテーションをも含む包括的なものとしてとらえ、その背景にある精神的・社会的諸問題と関係づけて考える総合的な視野を養う。

人 材 養 成 上 の 目 的

- 1 幅広い教養と高い倫理観を備えた人間性豊かな医師・医学研究者を育成する。
- 2 自ら課題を探求し、それを解決できる高度な専門知識と技術、科学的思考力、判断力をもった医師・医学研究者を育成する。
- 3 地域に根ざした医療人として地域医療に貢献し、かつ地域における医学・医療の中核としての指導的役割を担うことのできる医師・医学研究者を育成する。
- 4 国際交流や国際貢献のための幅広いコミュニケーション能力と国際的視野を持った医師・医学研究者を育成する。

香川大学医学部履修要項

(趣旨)

第 1 この要項は、香川大学学則(以下「学則」という。)、香川大学医学部規程及び香川大学追試験及び再試験に関する規則に定めるもののほか、履修に関し必要な事項を定める。

(授業科目等)

第 2 開設する授業科目、単位数及び履修年次は、医学科にあつては別表 1、看護学科にあつては別表 2 のとおりとする。ただし、必要がある場合には教授会の議を経て、各年次配当及び単位数を変更することがある。

(授業科目の履修)

第 3 授業科目は、原則として別表 1 及び別表 2 に定める年次配当順に履修するものとする。

2 学生は、別表 1 又は別表 2 に掲げる授業科目を履修しようとするときは、履修届を所定の期日までに総務課学務室(以下「学務室」という。)に提出しなければならない。

3 前項の履修届を提出したのち、履修すべき授業科目の変更又は取消しをする場合は、履修科目変更(取消)届を所定の期日までに学務室に提出しなければならない。

(単位の認定)

第 4 履修した授業科目については、試験又はその他の審査を行い、合格した科目について所定の単位を認定する。また、2 学年以上にまたがる科目については、それぞれ履修途中における学年末に履修段階判定を行うことがある。

(試験)

第 5 試験は、定期試験、追試験及び再試験とする。

2 定期試験は、原則として学期末に一定の期間を定めて行う。

3 追試験は、定期試験終了後に、再試験は、定期試験及び追試験終了後に期間を定めて行う。

4 前 2 項に定める試験のほか、担当教員は学習成果の評価を随時に行うことができる。

5 医学科の学生は、授業科目の講義、実験、実習及び実技のそれぞれの時間数の 3 分の 2 以上出席しなければその授業科目の試験を受けることができない。

6 看護学科の学生は、学内の講義、実験、実習及び実技については 3 分の 2 以上、臨地実習については 5 分の 4 以上出席しなければその授業科目の試験を受けることができない。

7 次の各号のいずれかの事由により定期試験に欠席した者に対しては、追試験を行う。

(1) 天災その他の非常災害(事由書添付)

(2) 交通機関の突発事故(事由書添付)

(3) 負傷又は疾病(医師の診断書添付)

(4) 3親等内の親族の死亡による忌引き(事由書添付)

(5) 就職試験の受験(事由書添付)

(6) その他学部長が相当と認める事由(事由書添付)

8 前項による追試験の許可を受けようとする者は、欠席した試験が行われた日の翌日から起算して 7 日以内に、前項各号に掲げる書類を添えて医学部長に願い出なければならない。

9 再試験は、定期試験又は追試験を受験し、不合格になった場合、願い出により科目担当教員の承認を得て受けることができる。

(成績の評価)

第 6 成績の評価は、次表のとおりの評点及び評語をもって表し、秀、優、良又は可を合格、不可を不合格とする。

評 点	評 語
90 点以上	秀
80 点以上 90 点未満	優
70 点以上 80 点未満	良
60 点以上 70 点未満	可
60 点未満	不可

ただし、医学実習 II はこれらの評点及び評語によらずと評価することができる。

2 再試験の評価は、可を限度とする。

3 2 年以上の年次にわたって開講する科目については、その途中の各年次ごとに合又は否の履修段階判定を行うこと

ができる。

(医学科の履修段階判定及び進級判定)

第 7 2 年次末において、1 年次及び 2 年次に履修すべき授業科目等に不合格となった授業科目がある場合は、3 年次に進級できない。

ただし、不合格科目が全学共通科目のみのときは進級できる。

2 3 年次末において、当該年次に履修すべき授業科目等に不合格又は否となった授業科目がある場合は、4 年次に進級できない。

ただし、不合格科目が全学共通科目のみのときは進級できる。

3 4 年次末において、当該年次に履修すべき授業科目等に不合格又は否となった授業科目がある場合は、5 年次に進級できない。全学共通科目についても、所定の単位以上修得していない場合は進級できない。

4 臨床実習開始前の学生評価のための共用試験(CBT 及び OSCE)に不合格となった場合は、医学実習 I を履修できない。

5 5 年次末において、当該年次に履修すべき授業科目等に不合格若しくは否となった授業科目がある場合又は医学実習 I を履修していない場合は、6 年次に進級できない。

(看護学科の進級判定)

第 8 各学年次末において、該当学年次末までに履修しなければならない必修科目について、不合格となった授業科目がある場合は進級できない。

ただし、1 年次末において、全学共通科目は進級判定から除くものとし、2 年次末までに修得しなければならない。

2 3 年次末において、1 年次から 3 年次までに履修しなければならない選択科目について、所定の単位以上修得していない場合は進級できない。

3 3 年次編入学生については、前 2 項の規定は適用しない。

(成績の認定)

第 9 成績の総合認定は、教授会において審議する。

(再履修)

第 10 2、3、4、5 年次に留め置かれた場合は、不合格又は否となった授業科目(実習を含む。)を再履修するものとする。ただし、選択科目については該当する授業科目のうちから再履修するものとする。

2 前項の再履修の方法は、担当教員の指示による。

(聴講)

第 11 既に合格となった授業科目の聴講を希望する者は、当該授業科目担当教員に聴講願を出して、許可を得た上で講義を聴講することができる。

なお、聴講できる授業科目は、聴講する学生の該当する学年次以下において開講されている授業科目とする。

(試験における不正行為)

第 12 試験において不正行為があつたときは、教授会の議を経て次のとおり措置する。

(1) 不正行為があつた学期のすべての授業科目の成績を無効とし、原級に留め置く。

(2) 不正行為について反省が認められない場合は、(1)の措置に加えて、学則第 84 条により懲戒する。

(特例措置)

第 13 平成 16 年度に医学科 3 年次に在籍していた学生のうち、平成 17 年度以降 2 年次に履修することに変更になった授業科目を履修する者については、学則第 26 条の規定にかかわらず、3 年次及び 4 年次の在学期間は 5 年を、それぞれ超えることができないものとする。

(その他)

第 14 その他この履修要項の定めにより処理し難い事項及び不合理な事例が生じた場合は、学務委員会の議を経て処理する。

附 則

1 この要項は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。

2 平成 15 年 9 月 30 日に香川医科大学(以下「旧香川医科大学」という。)に在学し、かつ平成 16 年 3 月 31 日に旧香川医科大学に在学する者(以下「在学者」という。)及び在学者の属する年次に編入学等する者が在学なくなるまでの間、旧香川医科大学を卒業するために必要とされる教育課程その他教育に必要な事項は、旧香川医科大学の履修要項等の定めるところによる。

附 則

この要項は、平成 17 年 3 月 1 日から施行する。ただし、改正後の要項第 14 及び別表 1 については、平成 17 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要項は、平成 18 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要項は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要項は、平成 20 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要項は、平成 21 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要項は、平成 21 年 10 月 21 日から施行する。

附 則

この要項は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要項は、平成 23 年 4 月 1 日から施行する。

別表 1 (平成 23 年度入学～)

授 業 科 目 等		単 位 数	履修年次						備 考		
			1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	5 年 次	6 年 次			
全 学 共 通 科 目	主題科目 A	2	2						2 単位修得	24 単位 以上修得 35 単位 以上修得	
	主題科目 B	6	6						6 単位以上修得		
	教養ゼミナール	2	2						選 択		
	学問基礎科目	14	14						14 単位以上修得		
	コミュニケーション科目	既修外国語	5	4	1						5 単位以上修得
		初修外国語	4	4							4 単位以上修得
		健康・スポーツ実技	2	2							2 単位修得
高学年向け教養科目											
専 門 基 礎 科 目	医用物理学	2		2					必修		
	生命物質化学	2		2							
	生命有機化学	2		2							
	応用生物科学	2		2							
	神経生物学	2		2							
	自然科学実習	2		2							
	情報科学実習	1	1								
	医用統計学	2	2								
	分子遺伝学	2		2							
	分子生物学	2		2							
	児童精神医学 I	2			2						
早 期 医 学	医学概論	1	1						必修		
	早期体験学習	3	3								
医 療 学	総合保健福祉	保健医療福祉看護・介護論	1		1				必修		
		21 世紀の社会・環境と医学・医療	1	1							
		保健指導・カウンセリング・チーム医療の基礎	1		1						
		児童精神医学 II	1				1				
	ボランティア体験学習	1			1			自由			
学 際 医 学	医学英語	1			1			必修			
	臨床英語	1				1					
基 礎 医 学 系	基礎医学	解剖学	6		6				必修		
		生理学	4		4						
		生化学	2		2						
	臨床基礎医学	内分泌学	2			2					
		病理学	4			4					
		免疫学	2			2					
		薬理学	2			2					
		微生物学	2			2					
医動物学	2			2							

授 業 科 目 等		単 位 数	履修年次						備 考
			1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	5 年 次	6 年 次	
社会 医学	衛生学	2				2			必修
	公衆衛生学	2				2			
	法医学	2				2			
臨床 医学	内科学	6				6			必修 医療総合講義及び医学実習Ⅰ を含む。
	小児科学	2				2			
	精神神経医学	2				2			
	皮膚科学	2				2			
	放射線医学	2				2			
	外科学	6				6			
	脳神経外科学	2				2			
	整形外科学	2				2			
	形成外科学	1				1			
	泌尿器科学	2				2			
	眼科学	2				2			
	耳鼻咽喉科学	2				2			
	周産期学婦人科学	2				2			
	小児外科学	1				1			
	麻酔学	2				2			
	救急災害医学	1				1			
	歯科口腔外科学	1				1			
	臨床検査医学	1				1			
	総合診療医学	2				2			
	臨床病理検討会	2					2		必修
医療管理学・診断学	2					2			
医学実習Ⅱ	6						6		
地域医療実習	1					1			
(医療総合講義)							○	必修	
(医学実習Ⅰ)						○			
統合 講義等	神経系、運動器(筋骨格)系、精神系	6			6				必修
	内分泌・栄養・代謝系	3			3				
	循環器系、腎・尿路系	7				7			
	感染症、血液・造血器・リンパ系、免疫・アレルギー疾患	4				4			
	呼吸器系	3				3			
	消化器系	3			3				
	生殖機能、妊娠と分娩、乳房、成長と発達	3				3			
	皮膚系、眼・視覚系、耳鼻・咽喉・口腔系	4				4			
	臨床総論講義	3			3				
	課題実習	2			2				
計									卒業要件188単位以上

(平成 21 年度入学～)

授 業 科 目 等		単 位 数	履修年次						備 考		
			1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	5 年 次	6 年 次			
全 学 共 通 科 目	教養ゼミナール	2	2						選 択	24単位 以上修得	35単位 以上修得
	主題科目	8	8						8 単位以上修得		
	共通科目	14	14						14 単位以上修得		
	健康・スポーツ科目	2	2						2 単位修得		
	高学年向け教養科目										
	外国語科目	既修外国語	5	4	1					5 単位以上修得	
初修外国語		4	4						4 単位以上修得		
専 門 基 礎 科 目	医用物理学	2		2					必修		
	生命物質化学	2		2							
	生命有機化学	2		2							
	応用生物科学	2		2							
	神経生物学	2		2							
	自然科学実習	2		2							
	情報科学実習	1		1							
	数学解析入門	1	1								
	医用統計学	1		1							
	分子遺伝学	2		2							
	分子生物学	2		2							
	児童・思春期医学	2			2						
早 期 医 学	医学概論	1	1						必修		
	早期体験学習	3	3								
総 合 保 健 福 祉 医 療 学	保健医療福祉看護・介護論	1		1					必修		
	21 世紀の社会・環境と保健医療福祉	1	1								
	保健指導・カウンセリング・チーム医療の基礎	1		1							
	臨床心理／家族・チームケア	1					1		自由		
	時事医学	1						1			
	ボランティア体験学習	1			1						
学 際 医 学	医学英語	1		1					必修		
	臨床英語	1				1					
基 礎 医 学 系	基礎医学	解剖学	6		6				必修		
		生理学	4		4						
		生化学	2		2						
	臨床基礎医学	内分泌学	2		2						
		病理学	4		4						
		免疫学	2		2						
		薬理学	2		2						
		微生物学	2		2						
医動物学	2		2								

授 業 科 目 等		単 位 数	履修年次						備 考
			1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	5 年 次	6 年 次	
社会医学	衛生学	2				2			必修
	公衆衛生学	2				2			
	法医学	2				2			
臨床医学	内科学	6				6			必修 医療総合講義及び医学実習Ⅰ を含む。
	小児科学	2				2			
	精神神経医学	2				2			
	皮膚科学	2				2			
	放射線医学	2				2			
	外科学	6				6			
	脳神経外科学	2				2			
	整形外科学	2				2			
	形成外科学	1				1			
	泌尿器科学	2				2			
	眼科学	2				2			
	耳鼻咽喉科学	2				2			
	周産期学婦人科学	2				2			
	小児外科学	1				1			
	麻酔学	2				2			
	救急災害医学	1				1			
	歯科口腔外科学	1				1			
	臨床検査医学	1				1			
	総合診療医学	2				2			
	臨床病理検討会	2					2		必修
医療管理学	2					2			
医学実習Ⅱ	6						6		
地域医療実習	1					1			
(医療総合講義)							○	必修	
(医学実習Ⅰ)						○			
統合講義等	神経系、運動器(筋骨格)系、精神系	6			6				必修
	内分泌・栄養・代謝系	3			3				
	循環器系、腎・尿路系	7				7			
	感染症、血液・造血器・リンパ系、免疫・アレルギー疾患	4				4			
	呼吸器系	3				3			
	消化器系	3			3				
	生殖機能、妊娠と分娩、乳房、成長と発達	3				3			
	皮膚系、眼・視覚系、耳鼻・咽喉・口腔系	4				4			
	臨床総論講義	3			3				
	課題実習	2			2				
計									卒業要件188単位以上

(平成20年度入学～)

授 業 科 目 等		単 位 数	履修年次						備 考		
			1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	5 年 次	6 年 次			
全 学 共 通 科 目	教養ゼミナール	2	2						選 択	24単位 以上取得	35単位 以上取得
	主題科目	8	8						8 単位以上修得		
	共通科目	14	14						14 単位以上修得		
	健康・スポーツ科目	2	2						2 単位修得		
	外国語科目	既修外国語	5	4	1					5 単位以上取得	
初修外国語		4	4						4 単位以上修得		
専 門 基 礎 科 目	医用物理学	2		2					必修		
	生命物質化学	2		2							
	生命有機化学	2		2							
	応用生物学	2		2							
	神経生物学	2		2							
	自然科学実習	2		2							
	情報科学実習	1		1							
	数学解析入門	1	1								
	医用統計学	1		1							
	分子遺伝学	2		2							
児童・思春期医学	2			2							
早 期 医 学	医学概論	1	1						必修		
	早期体験学習	3	3								
総 合 保 健 福 祉 医 療 学	保健医療福祉看護・介護論	1		1					必修		
	21 世紀の社会・環境と保健医療福祉	1	1								
	保健指導・カウンセリング・チーム医療の基礎	1		1							
	臨床心理／家族・チームケア	1					1		自由		
	時事医学	1						1			
ボランティア体験学習	1			1							
学 際 医 学	医学英語	1			1				必修		
	臨床英語	1				1					
基 礎 医 学 系	基礎 医学	解剖学	6		6					必修	
		生理学	4		4						
		生化学	2		2						
	臨床 基礎 医学	内分泌学	2			2					
		病理学	4			4					
		免疫学	2			2					
		薬理学	2			2					
		微生物学	2			2					
		医動物学	2			2					
分子生物学	1			1							

授 業 科 目 等		単 位 数	履修年次						備 考
			1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	5 年 次	6 年 次	
社会医学	衛生学	3				3			必修
	公衆衛生学	3				3			
	法医学	3					3		
臨床医学	内科学	6				6			必修 医療総合講義及び医学実習Ⅰ を含む。
	小児科学	2				2			
	精神神経医学	2				2			
	皮膚科学	2				2			
	放射線医学	2				2			
	外科学	6				6			
	脳神経外科学	2				2			
	整形外科学	2				2			
	形成外科学	1				1			
	泌尿器科学	2				2			
	眼科学	2				2			
	耳鼻咽喉科学	2				2			
	周産期学婦人科学	2				2			
	小児外科学	1				1			
	麻酔学	2				2			
	救急災害医学	1				1			
	歯科口腔外科学	1				1			
	臨床検査医学	1				1			
	総合診療医学	2				2			
	臨床病理検討会	2					2		必修
医療管理学	2					2			
医学実習Ⅱ	6						6	必修	
(医療総合講義)							○		
(医学実習Ⅰ)						○			
統合講義等	神経系、運動器(筋骨格)系、精神系	6			6				必修
	内分泌・栄養・代謝系	3			3				
	循環器系、腎・尿路系	7				7			
	感染症、血液・造血器・リンパ系、免疫・アレルギー疾患	4				4			
	呼吸器系	3				3			
	消化器系	3			3				
	生殖機能、妊娠と分娩、乳房、成長と発達	3				3			
	皮膚系、眼・視覚系、耳鼻・咽喉・口腔系	4				4			
	臨床総論講義	2			2				
	課題実習	2			2				
		計							卒業要件188単位以上

(平成 18 年度入学者 ～)

授 業 科 目 等		単 位 数	履修年次						備 考	
			1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	5 年 次	6 年 次		
全 学 共 通 科 目	教養ゼミナール	2	2						選択	24 単位以 上修得 35 単位以 上修得
	主題科目	8	8						8 単位以上必修	
	共通科目	14	14						14 単位以上必修	
	健康・スポーツ科目	2	2						2 単位必修	
	外国語科目	既修外国語	5	4	1					
初修外国語		4	4						4 単位以上必修	
専 門 基 礎 科 目	医用物理学 I	2		2					必修	
	医用物理学 II	2		2						
	生命物質化学	2		2						
	生命有機化学	2		2						
	応用生物科学	2		2						
	神経生物学	2		2						
	自然科学実習	2		2						
	情報科学実習	1		1						
	数学解析入門	1	1							
	医用統計学	1		1						
児童・思春期医学	2			2						
早 期 医 学	医学概論	1	1						必修	
	早期体験学習	3	3							
総 合 保 健 福 祉 医 療 学	保健医療福祉看護・介護論	1		1					必修	
	21 世紀の社会・環境と保健医療福祉	1	1							
	保健指導・カウンセリング・チーム医療の基礎	1		1						
	臨床心理／家族・チームケア	1				1				
	時事医学	1					1		自由	
	ボランティア体験学習	1		1						
学 際 医 学	医学英語	1		1					必修	
	臨床英語	1			1					
基 礎 医 学 系	基 礎 医 学	解剖学	6		6				必修	
		生理学	4		4					
		生化学	2		2					
	臨 床 基 礎 医 学	内分泌学	2		2					
		病理学	4		4					
		免疫学	2		2					
		薬理学	2		2					
		微生物学	2		2					
		医動物学	2		2					
分子生物学	1		1							

授 業 科 目 等		単 位 数	履修年次						備 考
			1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	5 年 次	6 年 次	
社会医学	衛生学	3				3			必修
	公衆衛生学	3				3			
	法医学	3					3		
臨床医学	内科学	6				6			必修 臨床総論講義、 医療総合講義及び 医学実習Ⅰを含む。
	小児科学	2				2			
	精神神経医学	2				2			
	皮膚科学	2				2			
	放射線医学	2				2			
	外科学	6				6			
	脳神経外科学	2				2			
	整形外科	2				2			
	形成外科学	1				1			
	泌尿器科学	2				2			
	眼科学	2				2			
	耳鼻咽喉科学	2				2			
	周産期学婦人科学	2				2			
	小児外科学	1				1			
	麻酔・救急医学	2				2			
	歯科口腔外科学	1				1			
	臨床検査医学	1				1			
	総合診療医学	2				2			
	臨床病理検討会	2						2	必修
	医療管理学	2						2	
医学実習Ⅱ	7						7	必修	
(医療総合講義)							○		
(医学実習Ⅰ)							○		
統合講義	神経系、運動器(筋骨格)系、精神系	6			6				必修
	内分泌・栄養・代謝系	3			3				
	循環器系、腎・尿路系	7			7				
	感染症、血液・造血器・リンパ系、免疫・アレルギー疾患	4				4			
	呼吸器系	3				3			
	消化器系	3				3			
	生殖機能、妊娠と分娩、乳房、成長と発達	3				3			
	皮膚系、眼・視覚系、耳鼻・咽喉・口腔系	4				4			
	臨床総論講義	2			2				
	課題実習	2			2				
計									卒業要件188単位以上

(平成16・17年度入学者の教育課程表)

授 業 科 目 等		単 位 数	履修年次						備 考			
			1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	5 年 次	6 年 次				
全 学 共 通 科 目	教養ゼミナール	2	2						選択	24 単位以 上修得	35単位以 上修得	
	主題科目	12	12						12 単位以上必修			
	共通科目	10	10						10 単位以上必修			
	健康・スポーツ科目	講義	2	2						2 単位必修		3 単位 修得
		実習	1	1						1 単位必修		
	外国語科目	英語	5	4	1					5 単位以上必修		8 単位以 上修得
ドイツ語		3	3						3 単位以上必修			
専 門 基 礎 科 目	医用物理学 I	2		2					必修			
	医用物理学 II	2		2								
	生命物質化学	2		2								
	生命有機化学	2		2								
	応用生物科学	2		2								
	神経生物学	2		2								
	自然科学実習	2		2								
	情報科学実習	1		1								
	数学解析入門	1		1								
	医用統計学	1		1								
	科学表現論	2		2								
	児童・思春期医学	2			2							
早期 医学	医学概論	1	1						必修			
	早期体験学習	3	3									
総合 保健 福祉 医療 学	保健医療福祉看護・介護論	1		1					必修			
	21 世紀の社会・環境と保健医療福祉	1	1									
	保健指導・カウンセリング・チーム医療の基礎	1		1								
	臨床心理／家族・チームケア	1					1		自由			
	時事医学	1						1				
	ボランティア体験学習	1			1							
学際 医学	医学英語	1			1				必修			
	臨床英語	1				1						
基礎 医学 系	基礎 医学	解剖学	6		6				必修			
		生理学	4		4							
		生化学	2		2							
	臨床 基礎 医学	内分泌学	2			2						
		病理学	4			4						
		免疫学	2			2						
		薬理学	2			2						

授 業 科 目 等			単 位 数	履修年次						備 考
				1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	5 年 次	6 年 次	
基礎 医学系	臨床基礎医学	微生物学	2			2				
		医動物学	2			2				
		分子生物学	1		1					
社会 医学		衛生学	3				3			必修
		公衆衛生学	3				3			
		法医学	3					3		
臨床 医学		内科学	6				6			必修 臨床総論講義、 医療総合講義及び 医学実習Ⅰを含む。
		小児科学	2				2			
		精神神経医学	2				2			
		皮膚科学	2				2			
		放射線医学	2				2			
		外科学	4				4			
		脳神経外科学	2				2			
		整形外科	2				2			
		形成外科学	1				1			
		泌尿器科学	2				2			
		眼科学	2				2			
		耳鼻咽喉科学	2				2			
		周産期学婦人科学	2				2			
		小児外科学	1				1			
		麻酔・救急医学	2				2			
		歯科口腔外科学	1				1			
		臨床検査医学	1				1			
		総合診療医学	2				2			
		臨床病理検討会	2					2		必修
		医療管理学	2					2		
	医学実習Ⅱ	7						7		
	(医療総合講義)							○	必修	
	(医学実習Ⅰ)						○			
統合 講義		神経系、運動器(筋骨格)系、精神系	8			8				必修
		内分泌・栄養・代謝系	2			2				
		循環器系、腎・尿路系	9			9				
		感染症、血液・造血管系、リンパ系、免疫・アレルギー疾患	6				6			
		呼吸器系	3				3			
		消化器系	3				3			
		生殖機能、妊娠と分娩、乳房、成長と発達	3				3			
		皮膚系、眼・視覚系、耳鼻・咽喉・口腔系	3				3			
		(臨床総論講義)				○				
計									卒業要件188単位以上	

(平成15年度入学者の教育課程表)

授業科目等		単位数	履修年次						備考
			1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	
自然科学	自然科学入門(物理学)	1	1						3科目のうちから 1科目選択必修
	自然科学入門(化学)	1	1						
	自然科学入門(生物学)	1	1						
	物理学Ⅰ	2	2						必修
	物理学Ⅱ	2	2						
	化学Ⅰ	2	2						
	化学Ⅱ	2	2						
	生物科学Ⅰ	2	2						
	生物科学Ⅱ	2	2						
	自然科学実習	2		2					
	数学	2	2						
	数学演習	1	1						
	分子生物学入門	1	1						
	現代物理学の応用	1		1					8科目のうち 4科目以上選択 (4単位必修)
	生物物理学入門	1		1					
	生体物質の化学	1		1					
	生体機能の化学	1		1					
神経生物学	1		1						
応用生物科学	1		1						
応用数学	1		1						
科学表現論	1		1						
心身科学	医学心理学	2		2					必修
	基礎スポーツ医学	2	2						
	基礎スポーツ医学実習	1	1						
総合人間学	人文社会科学	哲学・倫理学	2	2					13科目のうち 4科目以上選択 (7単位必修)
		芸術学(音楽)	2	2					
		芸術学(美術)	2	2					
		歴史学	2	2					
		法学	2	2					
		政治学	2	2					
		経済学	2	2					
		社会学	2	2					
	コミュニケーション学	教養特別講義	1	1					
		英語Ⅲ	2		2				
		英語Ⅳ	2		2				
		ドイツ語Ⅱ	2		2				
		コミュニケーション論	1	1					

授業科目等		単位数	履修年次						備考
			1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	
総合人間学	コミュニケーション学	英語Ⅰ	3	3					必修
		英語Ⅱ	2	2					
		ドイツ語Ⅰ	3	3					
		統計学	1	1					
		情報科学	1	1					
早期医学		医学概論	1	1				必修	
		生命科学講義	6		6				
		課題実習	6		6				
		早期体験学習	3	3					
総合保健福祉医療学		保健医療福祉看護・介護論	1	1				必修	
		少子高齢化社会の保健医療福祉	1		1				
		保健指導・心理行動科学	1		1				
		臨床心理／家族・チームケア	1				1	自由	
		時事医学	1				1		
		ボランティア体験学習	1			1			
学際医学		医学英語	1			1		自由	
		臨床英語	1			1		必修	
基礎医学系	基礎医学	解剖学	6	6				必修	
		生理学	4		4				
		生化学	2		2				
	臨床基礎医学	内分泌学	2			2			
		病理学	4			4			
		免疫学	2			2			
		薬理学	2			2			
		微生物学	2			2			
		医動物学	2			2			
分子生物学	1			1					
社会医学		衛生学	3			3		必修	
		公衆衛生学	3			3			
		法医学	3				3		

授業科目等		単位数	履修年次						備考
			1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	
臨床医学	内科学	6			6				必修 (臨床総論講義、 医療総合講義及 び医学実習Ⅰを 含む。)
	小児科学	2			2				
	精神神経医学	2			2				
	皮膚科学	2			2				
	放射線医学	2			2				
	外科学	4			4				
	脳神経外科学	2			2				
	整形外科	2			2				
	形成外科学	1			1				
	泌尿器科学	2			2				
	眼科学	2			2				
	耳鼻咽喉科学	2			2				
	周産期学婦人科学	2			2				
	小児外科学	1			1				
	麻酔・救急医学	2			2				
	歯科口腔外科学	1			1				
	臨床検査医学	1			1				
	総合診療医学	2			2				
	臨床病理検討会	2					2		
医療管理学	2					2	必修		
医学実習Ⅱ	7						7		
(医療総合講義)							○	必修	
(医学実習Ⅰ)						○			
統合講義	神経系、運動器(筋骨格)系、精神系	8			8				必修
	内分泌・栄養・代謝系	2			2				
	循環器系、腎・尿路系	9			9				
	感染症、血液・造血器・リンパ系、免疫・アレルギー疾患	6			6				
	呼吸器系	3			3				
	消化器系	3			3				
	生殖機能、妊娠と分娩、乳房、成長と発達	3			3				
	皮膚系、眼・視覚系、耳鼻・咽喉・口腔系	3			3				
	(臨床総論講義)				○				
計	214		87		127			卒業要件188単位以上	

(平成13年度入学者の教育課程表)

授 業 科 目 等		単 位 数	履 修 年 次						備 考
			1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	5 年 次	6 年 次	
自 然 科 学	自然科学入門（物理学）	1	1						3科目のうちから1 科目選択必修
	自然科学入門（化学）	1	1						
	自然科学入門（生物学）	1	1						
	物理学Ⅰ	2	2						必修
	物理学Ⅱ	2	2						
	化学Ⅰ	2	2						
	化学Ⅱ	2	2						
	生物科学Ⅰ	2	2						
	生物科学Ⅱ	2	2						
	自然科学実習	2		2					
	数学	2	2						
	数学演習	1	1						
	分子生物学入門	1	1						
	現代物理学の応用	1		1					8科目のうち4科目 以上選択 (4単位必修)
	生物物理学入門	1		1					
	生体物質の化学	1		1					
	生体機能の化学	1		1					
神経生物学	1		1						
応用生物科学	1		1						
応用数学	1		1						
科学表現論	1		1						
心 身 科 学	医学心理学	2		2					必修
	基礎スポーツ医学	2	2						
	基礎スポーツ医学実習	1	1						
総 合 人 間 学	人	哲学・倫理学	2	2					13科目のうち4科目 以上選択 (7単位必修)
	文	芸術学（音楽）	2	2					
		芸術学（美術）	2	2					
	社	歴史学	2	2					
	会	法学	2	2					
	科	政治学	2	2					
		経済学	2	2					
	学	社会学	2	2					
	コ ミュ ニ ケー ション 学	教養特別講義	1	1					
		英語Ⅲ	2	2					
	英語Ⅳ	2		2					
	ドイツ語Ⅱ	2		2					

授 業 科 目 等			単 位 数	履 修 年 次						備 考
				1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	5 年 次	6 年 次	
総 合 人 間 学	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 学	コミュニケーション論	1	1						
		英語Ⅰ	3	3						必修
		英語Ⅱ	2	2						
		ドイツ語Ⅰ	3	3						
		統計学	1	1						
		情報科学	1	1						
早 期 医 学	医学概論	1	1						必修	
	生命科学講義	6		6						
	課題実習	6		6						
	早期体験学習	3	3							
総 合 保 健 福 祉 医 療 学	保健医療福祉看護・介護論	1	1						必修	
	少子高齢化社会の保健医療福祉	1		1						
	保健指導・心理行動科学	1		1						
	臨床心理／家族・チームケア	1				1				
	時事医学	1						1	自由	
	ボランティア体験学習	1		1						
学 際 医 学	医学英語	1		1					自由	
	臨床英語	1			1				必修	
基 礎 医 学 系	基 礎 医 学	解剖学	6		6				必修	
		生理学	4		4					
		生化学	2		2					
	臨 床 基 礎 医 学	内分泌学	2		2					
		病理学	4		4					
		免疫学	2		2					
		薬理学	2		2					
		微生物学	2		2					
		医動物学	2		2					
		分子生物学	1		1					
社 会 医 学	衛生学	3			3					
	公衆衛生学	3			3					
	法医学	3				3				
臨 床 医 学	内科学	6				6		必修 〔臨床総論講義、 医療総合講義及 び医学実習Ⅰを 含む。〕		
	小児科学	2				2				
	精神神経医学	2				2				
	皮膚科学	2				2				
	放射線医学	2				2				
	外科学	4				4				

授 業 科 目 等		単 位 数	履 修 年 次						備 考
			1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	5 年 次	6 年 次	
臨 床 医 学	脳神経外科学	2					2		必修 〔臨床総論講義, 医療総合講義及 び医学実習Ⅰを 含む。〕
	整形外科	2					2		
	形成外科学	1					1		
	泌尿器科学	2					2		
	眼科学	2					2		
	耳鼻咽喉科学	2					2		
	周産期学婦人科学	2					2		
	小児外科学	1					1		
	麻酔・救急医学	2					2		
	歯科口腔外科学	1					1		
	臨床検査医学	1					1		
	総合診療医学	2					2		
	臨床病理検討会	2						2	
	医療管理学	2						2	
	医学実習Ⅱ	7							
	(医療総合講義)							○	必修
	(医学実習Ⅰ)						○		
統 合 講 義	神経系、運動器(筋骨格)系、精神系	8			8				必修
	内分泌・栄養・代謝系	2				2			
	循環器系、腎・尿路系	9				9			
	感染症、血液・造血器・リンパ系、免疫・アレルギー疾患	6				6			
	呼吸器系	3				3			
	消化器系	3				3			
	生殖機能、妊娠と分娩、乳房、成長と発達	3				3			
	皮膚系、眼・視覚系、耳鼻・咽喉・口腔系	3				3			
	(臨床総論講義)				○				必修
計		214	87		127			卒業要件188単位以上	

気象警報の発令等における休講措置の基準

平成22年1月6日（全学）教務委員会申合せ

全ての学部及び研究科の開講科目並びに全学共通教育の開講科目に関して、気象警報の発令等の場合における休講の措置は、次の基準による。

なお、その措置については、その都度掲示する。

1. 気象警報の発令による場合

- (1) 午前8時30分以降午後6時前の間に開始される授業について、香川県の全域又は一部地域に、大雨、洪水、暴風又は大雪の警報が、午前6時に既に発令中又はそれ以降に発令された場合は、休講とする。

ただし、午前9時の時点で警報が解除されている場合で、かつ、それ以降に発令されないときは、午後1時以降に開始される授業を実施する。

- (2) 午後6時以降に開始される授業（夜間主コースの授業を含む。）については、前号の「午前6時」とあるのは「午後3時」に読み替えるものとし、ただし書きは適用しない。

- (3) 教育実習、臨床実習、臨地実習等の授業で前各号によりがたい場合は、その都度、その授業を開講する部局の長が判断し措置する。

2. その他非常時の場合

学部の開講科目については学部長が、研究科の開講科目については研究科長が、全学共通教育の開講科目については大学教育開発センター長が判断し措置する。

この申合せは、平成22年4月1日から施行する。

香川大学医学部医学科第2年次第2学期編入生の 在学期間の通算等の取扱いに関する事項

(趣 旨)

第1 この要項は、香川大学医学部規定第8条第2項の規定に基づき、香川大学医学部医学科における第2年次第2学期編入学生（以下「編入学生」という。）の在学期間等について必要な事項を定める。

(修業年限)

第2 編入学生の修業年限は、香川大学学則（以下「学則」という。）第19条の規定にかかわらず4年6月とする。

(在学期間)

第3 編入学生の在学期間は、学則第20条第1項の規定にかかわらず9年を超えることができない。ただし、第2年次第2学期、第3年次及び第4年次については5年、第5年次及び第6年次については4年の在学期間をそれぞれ超えることはできない。

(卒業要件)

第4 編入学生の卒業要件は、学則第53条の規定にかかわらず4年6月以上在学し、別表に定めるところにより、127単位以上を習得し、その修了の認定を受けるものとする。

附 則

この要項は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、平成22年4月1日から施行する。ただし、平成22年3月31日以前に入学した学生については、なお従前の例による。

別表（平成22年度入学～）

授 業 科 目 等		単 位 数	備 考					
			2 年 次	3 年 次	4 年 次	5 年 次	6 年 次	
専門基礎 科目	児童・思春期医学	2		2				必修
総合保健	臨床心理／家族・チームケア	1				1		必修
福祉医療 学	時事医学	1					1	自由
	ボランティア体験学習	1		1				
学際 医学	医学英語	1		1				必修
	臨床英語	1			1			
基礎 医学系	基礎 医学	解剖学	6	6				必修
		生理学	4	4				
		生化学	2	2				
	臨床 基礎 医学	内分泌学	2		2			
		病理学	4		4			
		免疫学	2		2			
		薬理学	2		2			
	微生物学	2		2				
	医動物学	2		2				
社会 医学	衛生学	2			2		必修	
	公衆衛生学	2			2			
	法医学	2			2			

臨床医学	内科学	6		6		必修
	小児科学	2		2		医療総合講義及び医学実習 I を含む。
	精神神経医学	2		2		
	皮膚科学	2		2		
	放射線医学	2		2		
	外科学	6		6		
	脳神経外科学	2		2		
	整形外科	2		2		
	形成外科学	1		1		
	泌尿器科学	2		2		
	眼科学	2		2		
	耳鼻咽喉科学	2		2		
	周産期学婦人科学	2		2		
	小児外科学	1		1		
	麻酔学	2		2		
	救急災害医学	1		1		
	歯科口腔外科学	1		1		
	臨床検査医学	1		1		
	総合診療医学	2		2		
	臨床医学	臨床病理検討会	2			
医療管理学		2			2	
医学実習 II		6			6	
地域医療実習		1			1	
(医療総合講義)						○
(医学実習 I)					○	
統合講義等	神経系、運動器(筋骨格)系、精神系	6		6		必修
	内分泌・栄養・代謝系	3		3		
	循環器系、腎・尿路系	7		7		
	感染症、血液・造血器・リンパ系、免疫・アレルギー疾患	4		4		
	呼吸器系	3		3		
	消化器系	3		3		
	生殖機能、妊娠と分娩、乳房、成長と発達	3		3		
	皮膚系、眼・視覚系、耳鼻・咽喉・口腔系	4		4		
	臨床総論講義	3		3		必修
	課題実習	2		2		必修
計	129		129		卒業要件127単位以上	

(平成21年度入学)

授 業 科 目 等		単位数	備 考						
			2年次	3年次	4年次	5年次	6年次		
専門基礎 科目	児童・思春期医学	2		2				必修	
総合保健	臨床心理／家族・ケア	1				1		必修	
福祉医療 学	時事医学	1					1	自由	
	ボランティア体験学習	1		1					
学際 医学	医学英語	1		1				必修	
	臨床英語	1			1				
基礎医学系	基礎医学	解剖学	6	6				必修	
		生理学	4	4					
		生化学	2	2					
	臨床基礎医学	内分泌学	2		2				
		病理学	4		4				
		免疫学	2		2				
		薬理学	2		2				
		微生物学	2		2				
		医動物学	2		2				
分子生物学	1	1							
社会医学	衛生学	3			3			必修	
	公衆衛生学	3			3				
	法医学	3				3			
臨床医学	内科学	6		6				必修 医療総合講義及び医学 実習Ⅰを含む。	
	小児科学	2		2					
	精神神経医学	2		2					
	皮膚科学	2		2					
	放射線医学	2		2					
	外科学	6		6					
	脳神経外科学	2		2					
	整形外科学	2		2					
	形成外科学	1		1					
	泌尿器科学	2		2					
	眼科学	2		2					
	耳鼻咽喉科学	2		2					
	周産期学婦人科学	2		2					
	小児外科学	1		1					
	麻酔学	2		2					
	救急災害医学	1		1					
歯科口腔外科学	1		1						
臨床検査医学	1		1						

	総合診療医学	2		2				
	臨床病理検討会	2				2		
	医療管理学	2				2	必修	
	医学実習Ⅱ	6					6	
	(医療総合講義)						○	
	(医学実習Ⅰ)					○		
統合講義等	神経系、運動器(筋骨格)系、精神系	6		6				
	内分泌・栄養・代謝系	3		3				
	循環器系、腎・尿路系	7			7			
	感染症、血液・造血器・リンパ系、免疫・アレルギー疾患	4			4			
	呼吸器系	3			3			
	消化器系	3		3				
	生殖機能、妊娠と分娩、乳房、成長と発達	3			3			
	皮膚系、眼・視覚系、耳鼻・咽喉・口腔系	4			4			
	臨床総論講義	2		2				必修
課題実習	2		2				必修	
	計	131		131				卒業要件129単位以上

(平成16年度入学～)

授 業 科 目 等		単 位 数	備 考					
			2 年 次	3 年 次	4 年 次	5 年 次	6 年 次	
心身科学	医学心理学	1		1				必修
総合保健	臨床心理／家族・チーム	1				1		必修
福祉医療 学	時事医学	1					1	自由
	ボランティア体験学習	1		1				
学際 医学	医学英語	1		1				自由
	臨床英語	1			1			必修
基礎医学系	基礎 医学	解剖学	6	6				必修
		生理学	4	4				
		生化学	2	2				
	臨床 基礎 医学	内分泌学	2		2			
		病理学	4		4			
		免疫学	2		2			
		薬理学	2		2			
		微生物学	2		2			
		医動物学	2		2			
分子生物学	1	1						
社会 医学	衛生学	3			3		必修	
	公衆衛生学	3			3			
	法医学	3				3		
臨床 医学	内科学	6		6			必修 臨床総論講義、医療総 合講義及び医学実習 I を含む。	
	小児科学	2		2				
	精神神経医学	2		2				
	皮膚科学	2		2				
	放射線医学	2		2				
	外科学	4		4				
	脳神経外科学	2		2				
	整形外科	2		2				
	形成外科学	1		1				
	泌尿器科学	2		2				
	眼科学	2		2				
	耳鼻咽喉科学	2		2				
	周産期学婦人科学	2		2				
	小児外科学	1		1				
	麻酔・救急医学	2		2				
	歯科口腔外科学	1		1				
臨床検査医学	1		1					
総合診療医学	2		2					

	臨床病理検討会	2				2	必修
	医療管理学	2				2	
	医学実習Ⅱ	7				7	必修
	(医療総合講義)					○	
	(医学実習Ⅰ)					○	
統合講義等	神経系、運動器(筋骨格)系、精神系	8		8			必修
	内分泌・栄養・代謝系	2		2			
	循環器系、腎・尿路系	9		9			
	感染症、血液・造血器・リンパ系、免疫・アレルギー疾患	6			6		
	呼吸器系	3			3		
	消化器系	3			3		
	生殖機能、妊娠と分娩、乳房、成長と発達	3			3		
	皮膚系、眼・視覚系、耳鼻・咽喉・口腔系	3			3		
	(臨床総論講義)				○	必修	
	計	128		128			卒業要件125単位以上

平成23年度 行事予定表(医学科)

学期 学年	1			2			3					
前期	4	1 金	学年始 前期開始	4	1 金	学年始 前期開始	4	1 金	学年始 前期開始			
		4 月	入学式 新入生ガイダンス		4 月	前期授業開始		4 月	前期授業開始			
		5 火	新入生ガイダンス(全学)									
		6 水	定期健康診断									
		7 木	前期授業開始									
		9 土	新入生合宿研修									
		10 日		13 水	定期健康診断 (午後休講)	15 金	定期健康診断 (午後休講)					
		16 土	医学部新入生歓迎行事									
		5		5		5						
		21 土	2年次編入入試1次		21 土	2年次編入入試1次		21 土	2年次編入入試1次			
	6			6			6					
	7 2 土	2年次編入入試2次		7 2 土	2年次編入入試2次		7 2 土	2年次編入入試2次				
	28 木	28~3日第1学期末試験 4日~10日補講・予備日		16 土	夏季休業開始		16 土	夏季休業開始				
	8 10 水			8			8					
	11 木	夏季休業開始										
	9			9 4 日	夏季休業終了		9 4 日	夏季休業終了				
				5 月	授業開始		5 月	授業開始				
				12 月	前期定期試験		12 月	前期定期試験				
				30 金	授業ガイダンス 前期終了		30 金	授業ガイダンス 前期終了				
		30 金	夏季休業終了 前期終了				30 金	夏季休業終了 前期終了				
後期	10	1 土	大学記念日(休業) 後期開始	10	1 土	大学記念日(休業) 後期開始	10	1 土	大学記念日(休業) 後期開始			
		3 月	後期授業開始		3 月	後期授業開始		3 月	後期授業開始			
		8 土	医学部祭		7 金	前夜祭(午後休講)		7 金	前夜祭(午後休講)			
		9 日			8 土	医学部祭		8 土	医学部祭			
					9 日			9 日				
					26 水	慰霊祭		26 水	慰霊祭			
			28 金		香大祭(臨時休業)	28 金		香大祭	28 金	香大祭		
			31 月			30 日			30 日			
			11 1 火		月曜日授業振替日			11			11	
			26 土		推薦入試			26 土	推薦入試		26 土	推薦入試
		12 21 水	金曜日授業振替日		12			12				
		25 日	冬季休業		25 日	冬季休業		25 日	冬季休業			
		1 7 土			1 3 火			1 3 火				
		10 火	金曜日授業振替日		4 水	授業開始		4 水	授業開始			
		13 金	センター試験準備(臨時休業)		13 金	午後入試準備		13 金	午後入試準備			
		14 土	大学入試センター試験		14 土	大学入試センター試験		14 土	大学入試センター試験			
		15 日			15 日			15 日				
		2 9 木	9~15日第2学期末試験 16~22日補講・予備日		2 15 水	後期定期試験		2 15 水	後期定期試験			
		22 水			23 木			24 金	午後入試準備			
	24 金	午後入試準備		24 金	午後入試準備		25 土	前期入試				
	25 土	前期入試		25 土	前期入試		26 日					
	26 日			26 日								
				27 月	補講期間開始							
				9 金	補講期間終了							
	3 11 日	春季休業開始		11 日	春季休業開始		11 日	春季休業開始				
	12 月	後期入試		12 月	後期入試		12 月	後期入試				
	13 火			13 火			13 火					
	31 土	後期終了 学年終		31 土	後期終了 学年終		31 土	後期終了 学年終				

平成23年度 行事予定表(医学科)

学期 学年	4			5			6		
1学期	4	1 金	学年始 第1学期開始	4	1 金	学年始 第1学期開始	4	1 金	学年始 第1学期開始
		4 月	第1学期授業開始		1 金	臨床実習開始式 第1学期授業開始		4 月	第1学期授業開始
	5	13 水	定期健康診断 (午後休講)	5	18 月	定期健康診断 (午後休講)	5	15 金	定期健康診断 (午後休講)
								18 月	定期健康診断 (午後) 予備
	6	21 土	2年次編入入試1次	6	21 土	2年次編入入試1次	6	21 土	2年次編入入試1次
		7 2 土	2年次編入入試2次		7 2 土	2年次編入入試2次		7 2 土	2年次編入入試2次
	7	16 土	夏季休業開始	7	31 日	第1学期終了	7	9 土	Advance OSCE
31 日		第1学期終了	31 日		第1学期終了	16 土		夏季休業開始	
2学期	8	1 月	第2学期開始	8	1 月	第2学期開始	8	1 月	第2学期開始
		21 日	夏季休業終了		1 月	夏季休業開始		21 日	夏季休業終了
	9	22 月	第2学期授業開始	9	22 月	第2学期授業開始	9	28 日	夏季休業終了
								29 月	第2学期授業開始
	10	1 土	大学記念日(休業)	10	1 土	大学記念日(休業)	10	26 月	卒業試験開始
		7 金	前夜祭(午後休講)		8 土	医学部祭		8 土	医学部祭
	11	8 土	医学部祭	11	9 日		11	9 日	
		28 金	香大祭		28 金	香大祭		28 金	香大祭
	12	30 日		12	30 日		12	30 日	
		26 土	推薦入試		26 土	推薦入試		25 金	卒業試験終了
	3学期	12	30 水	第2学期終了	12	30 水	第2学期終了	12	26 土
1 木			第3学期開始 第3学期授業開始	1 木		第3学期開始 第3学期授業開始	30 水		第2学期終了
1		25 日	冬季休業	1	25 日	冬季休業	1	25 日	冬季休業
		3 火			7 土			7 土	
2		4 水	授業開始	2	10 火	授業開始	2	13 金	午後入試準備
		10 火	午後入試準備		13 金	午後入試準備		14 土	大学入試センター試験
3		13 金	大学入試センター試験	3	14 土	大学入試センター試験	3	14 土	大学入試センター試験
		14 土			15 日			15 日	
3		15 日		3	25 土	前期入試	3	25 土	前期入試
		25 土	前期入試		26 日			26 日	
3		26 日		3	4 日	春季休業開始	3	1 木	卒業認定日
	2 金	春季休業開始	12 月		後期入試	13 火			
3	11 日	後期入試	3	13 火	後期終了	3	24 土	卒業式	
	12 月	後期入試		31 土	学年終了		31 土	学年終了	

平成 23 年度 医学科授業時間割表 (1 年次生)

前 期 (4 月 7 日 ~ 8 月 10 日)

曜日	I 時限 8:50~10:20	II 時限 10:30~12:00	III 時限 13:00~14:30	IV 時限 14:40~16:10	V 時限 16:20~17:50
月	全学共通科目 (幸町キャンパス)				
火	全学共通科目 (幸町キャンパス)				
水	教養ゼミナール (板野 他) A,D,小D,小E	医学概論 (C・今井田) D	臨床入門 (C・千田)	早 期 体 験 学 習 D チュートリアル (C・大森)	
木	全学共通科目 (幸町キャンパス)				
金	全学共通科目 (幸町キャンパス)				

後 期 (10 月 1 日 ~ 3 月 10 日)

曜日	I 時限 8:50~10:20	II 時限 10:30~12:00	III 時限 13:00~14:30	IV 時限 14:40~16:10	V 時限 16:20~17:50
月	全学共通科目 (幸町キャンパス)				
火	全学共通科目 (幸町キャンパス)				
水	21世紀の社会・環境と医学・医療 (C・岡田 他) D		医用統計学 () D	情報科学実習 (C・横井) マルチ	
木	全学共通科目 (幸町キャンパス)				
金	全学共通科目 (幸町キャンパス)				

(備 考)

1. 教室名

- A …… 大講義室A (講義棟 1 階)
- D …… 大講義室D (講義棟 2 階)
- 小D …… 小講義室D (講義棟 2 階)
- 小E …… 小講義室E (講義棟 2 階)
- マルチ …… マルチメディア実習室 (看護学科棟 2 階)

2. 定期試験

- 前 期 … 7 月 28 日(木) ~ 8 月 3 日(水)
<補講・予備日 8 月 4 日(木)~8 月 10 日(水)>
 - 後 期 … 2 月 9 日(木) ~ 2 月 15 日(水)
<補講・予備日 2 月 16 日(木)~2 月 22 日(水)>
- ※ 毎水曜日は、医学部キャンパスで授業を実施する。

平成 23 年度 医学科授業時間割表 (2 年次生)

前 期 (4 月 4 日 ~ 7 月 15 日, 9 月 5 日 ~ 9 月 30 日)

曜日	I 時限 8:50~10:20	II 時限 10:30~12:00	III 時限 13:00~14:30	IV 時限 14:40~16:10	V 時限 16:20~17:50
月	生命有機化学 (徳光) C	医用統計学 () C	自然科学実習 (物理学・化学・生物学)		実
火	全学共通科目 (幸町キャンパス)		医用物理学 (久富) C	情報科学実習	(C・横井) マルチ
水	分子生物学 (神鳥 他) C	保健医療福祉看護・介護論/保健指導・カンセリナ [®] ・チーム医療の基礎 (岡田 他)			C
木	神経生物学 (中村) C	応用生物科学 (板野) C	自然科学実習 (物理学・化学・生物学)		実
金	(全学共通科目) 英語 (長井 他) C	医用物理学 (久富) C	生命物質化学 (小林) C	分子遺伝学 (竹崎 他) C	

後 期 (10 月 1 日 ~ 12 月 24 日)

曜日	I 時限 8:50~10:20	II 時限 10:30~12:00	III 時限 13:00~14:30	IV 時限 14:40~16:10	V 時限 16:20~17:50
月	補 講 C	補 講 C	解剖学 I・II (竹内・荒木) C	解剖学 II (荒木) C,実 1	
火	生理学 II (小坂) C	生理学 II (小坂) C	生化学 (上田) C	生化学 (上田) C	
水	生理学 I (徳田) C	解剖学 I (竹内) C	解剖学 I (竹内) C,実 1		
木	生理学 I (徳田) C	解剖学 II (荒木) C	解剖学 II (荒木) C,実 1,実 6		
金	生化学 (上田) C	解剖学 II (荒木) C	解剖学 II (荒木) C,実 1,実 6		

後 期 (1 月 4 日 ~ 2 月 23 日)

曜日	I 時限 8:50~10:20	II 時限 10:30~12:00	III 時限 13:00~14:30	IV 時限 14:40~16:10	V 時限 16:20~17:50
月	補 講 C	生化学 (上田) C	生化学 (上田) 実 5		
火	生化学 (上田) C	生化学 (上田) C	生化学 (上田) 実 5		
水	生理学 I (徳田) C	解剖学 I (竹内) C	解剖学 I (竹内) C,実 1		
木	生理学 II (小坂) C	解剖学 II (荒木) C	解剖学 II (荒木) C,実 1,実 6		
金	生化学 (上田) C	解剖学 II (荒木) C	解剖学 II (荒木) C,実 1,実 6		

(備考)

1. 教室名 C … 大講義室C(講義棟2階) 実 … 実習室
マルチ … マルチメディア実習室(看護学科棟2階)
2. 定期試験 前期…9月12日(月)~9月30日(金)
後期…2月15日(水)~2月23日(木)
- ※ 4月13日(水)午後から定期健康診断

平成 23 年度 医学科授業時間割表 (3 年次生)

前期(4月4日～7月15日, 9月5日～9月30日)

曜日	I 時限 8:50～10:20	II 時限 10:30～12:00	III 時限 13:00～14:30	IV 時限 14:40～16:10	V 時限 16:20～17:50
月	病理学 I (今井田) B	免疫学 (平島) B	内分泌学 (中村) B	微生物学(前半) () B 内分泌学(後半) (中村) B	上級英語 I B (Willy)
火	児童精神医学 I (石川) B	微生物学 () B	免疫学 (平島) B	医動物学(前半) (新井) B * 実習(後半)	
水	医学英語 (Willy) B	解剖学 I (竹内) B	解剖学 I 実習 (竹内) B, 実 1		
木	病理学 II (阪本) B	医動物学 (新井) B	* 実習		
金	薬理学 (西山) B	薬理学 (西山) B	* 実習		

* 実習日程

週	火	木	金
1 (4/4～)		内分泌学 実 5	内分泌学 実 5
2 (4/11～)		内分泌学 実 5	内分泌学 実 5
3 (4/18～)		内分泌学 実 5	内分泌学 実 5
4 (4/25～)		内分泌学 実 5	(予 備)
5 (5/2～)		(予 備)	内分泌学 実 5
6 (5/9～)		微生物学 実 4	微生物学 実 4
7 (5/16～)		微生物学 実 4	微生物学 実 4
8 (5/23～)		微生物学 実 4	微生物学 実 4
9 (5/30～)		微生物学 実 4	微生物学 実 4
10 (6/6～)	医動物学 実 4	医動物学 実 4	医動物学 実 4
11 (6/13～)	医動物学 実 4	医動物学 実 4	医動物学 実 4
12 (6/20～)	医動物学 実 4	免疫学 実 4	免疫学 実 4
13 (6/27～)	医動物学 実 4	医動物学 実 4	病理学 II 実 6
14 (7/4～)	病理学 I 実 6	医動物学 実 4	病理学 II 実 6
15 (7/11～)	病理学 I 実 6	(予 備)	病理学 II 実 6
16 (9/5～)	病理学 I 実 6	(予 備)	病理学 II 実 6

後 期 (10月1日～1月27日)

曜日	I 時限 8:30～9:45	II 時限 9:55～11:10	III 時限 11:20～12:35	IV 時限 13:30～14:45	V 時限 14:55～16:10	VI 時限 16:20～17:35	
月	統 合 講 義					B	上級英語 II B (Willy) 90分授業
火	統 合 講 義					B	
水	統 合 講 義					B	
木	統 合 講 義					B	
金	統 合 講 義					B	

後 期 (1月30日～2月10日)

曜日	I 時限 8:30～9:45	II 時限 9:55～11:10	III 時限 11:20～12:35	IV 時限 13:30～14:45	V 時限 14:55～16:10	VI 時限 16:20～17:35	
月	臨 床 総 論 講 義					B	上級英語 II B (Willy) 90分授業
火	臨 床 総 論 講 義					B	
水	臨 床 総 論 講 義					B	
木	臨 床 総 論 講 義					B	
金	臨 床 総 論 講 義					B	

後 期 (2月13日～3月9日)

曜日	I 時限 8:30～9:45	II 時限 9:55～11:10	III 時限 11:20～12:35	IV 時限 13:30～14:45	V 時限 14:55～16:10	VI 時限 16:20～17:35	
月	課 題 実 習 (講座配属)					B	上級英語 II B (Willy) 90分授業
火	課 題 実 習 (講座配属)						
水	課 題 実 習 (講座配属)						
木	課 題 実 習 (講座配属)						
金	課 題 実 習 (講座配属)						

(備 考)

1. 教室名 B … 大講義室 B(講義棟1階), 実 … 実習室
2. 定期試験 9月12日(月)～9月30日(金)
3. ボランティア体験学習(自由科目)は、休講とする。

※ 4月15日(金) 午後から定期健康診断

平成 23 年度 医学科授業時間割表 (4 年次生)

1 学期 (4 月 4 日～ 7 月 8 日)

曜日	I 時限 8:30～9:45	II 時限 9:55～11:10	III 時限 11:20～12:35	IV 時限 13:30～14:45	V 時限 14:55～16:10	VI 時限 16:20～17:35
月	統 合 講 義					臨 1
火	統 合 講 義					臨 1
水	統 合 講 義					臨 1
木	統 合 講 義					臨 1
金	衛生学 (宮武) 公衆衛生学 (平尾)		臨 1、実 5			

第 2 学期 (7 月 11 日～7 月 15 日, 8 月 22 日～9 月 2 日)

曜日	I 時限 8:30～9:45	II 時限 9:55～11:10	III 時限 11:20～12:35	IV 時限 13:30～14:45	V 時限 14:55～16:10	VI 時限 16:20～17:35
月	臨 床 総 論 講 義					臨 1
火	臨 床 総 論 講 義					臨 1 臨床英語 (Willy) 臨 1
水	臨 床 総 論 講 義					臨 1
木	臨 床 総 論 講 義					臨 1
金	法 医 学 (木下) 臨 1、実 4 衛生学 (宮武) 公衆衛生学 (平尾) 臨 1、実 5		衛生学 (宮武) 公衆衛生学 (平尾)			臨 1、実 5

8 月 26 日 (金) は、臨床総論講義を行う。

9 月 2 日の 1 回のみ I 時限～III 時限は法医学の講義を行う。巻末カレンダーを参照のこと。

第 2 学期 (9 月 5 日～11 月 18 日)

曜日	I 時限 8:30～9:45	II 時限 9:55～11:10	III 時限 11:20～12:35	IV 時限 13:30～14:45	V 時限 14:55～16:10	VI 時限 16:20～17:35
月	統 合 講 義					臨 1
火	統 合 講 義					臨 1 臨床英語 (Willy) 臨 1
水	統 合 講 義					臨 1
木	統 合 講 義					臨 1
金	法 医 学 (木下) 臨 1、実 4 衛生学 (宮武) 公衆衛生学 (平尾) 臨 1、実 5		衛生学 (宮武) 公衆衛生学 (平尾)			臨 1、実 5

9 月 9 日, 9 月 16 日, 9 月 30 日の I 時限～III 時限は法医学の講義を行う。巻末カレンダーを参照のこと。

10 月 7 日以降、金曜日は一日中法医学の講義を行う。

第3学期（11月21日～1月6日）

曜日	I時限 8:30～9:45	II時限 9:55～11:10	III時限 11:20～12:35	IV時限 13:30～14:45	V時限 14:55～16:10	VI時限 16:20～17:35
月	統合講義					臨1
火	統合講義					臨1 臨床英語 (Willy) 臨1
水	統合講義					臨1
木	統合講義					臨1
金	統合講義					臨1

第3学期（1月10日～3月2日）

曜日	I時限 8:30～9:45	II時限 9:55～11:10	III時限 11:20～12:35	IV時限 13:30～14:45	V時限 14:55～16:10	VI時限 16:20～17:35
月	共用試験（CBT、OSCE）、臨床実習講義、共用試験（CBT）再試験					
火	共用試験（CBT、OSCE）、臨床実習講義、共用試験（CBT）再試験					
水	共用試験（CBT、OSCE）、臨床実習講義、共用試験（CBT）再試験					
木	共用試験（CBT、OSCE）、臨床実習講義、共用試験（CBT）再試験					
金	共用試験（CBT、OSCE）、臨床実習講義、共用試験（CBT）再試験					

（備考）

1. 教室名 臨1 … 臨床講義棟1階講義室

※ 4月13日(水) 午後から定期健康診断

平成 23 年度 医学科授業時間割表 (5 年次生)

第 1 学期 (4 月 4 日～ 7 月 29 日)

曜日	I 時限 8:30～9:45	II 時限 9:55～11:10	III 時限 11:20～12:35	IV 時限 13:30～14:45	V 時限 14:55～16:10	VI 時限 16:20～18:00
月	臨床実習 (医学実習 I)				医療管理学・診断学 A	臨床病理検討会 * 5・6 年生合同 4 回臨 2 医療管理学・診断学 A
火	臨床実習 (医学実習 I)					
水	臨床実習 (医学実習 I)					
木	臨床実習 (医学実習 I)					
金	臨床実習 (医学実習 I)					

*(備考) 月曜日は、5 月 30 日までは「医療管理学・診断学」を A で (17:30 まで) 実施し、6 月 6 日, 13 日, 20 日, 27 日は 6 年生と合同で「臨床病理検討会(CPC)」を臨 2 で(18:00 まで)実施する。

第 2 学期 (8 月 22 日～ 12 月 22 日)

曜日	I 時限 8:30～9:45	II 時限 9:55～11:10	III 時限 11:20～12:35	IV 時限 13:30～14:45	V 時限 14:55～16:10	VI 時限 16:20～17:35
月	臨床実習 (医学実習 I)				医療管理学・診断学 A	児童精神医学 II (石川) A
火	臨床実習 (医学実習 I)					
水	臨床実習 (医学実習 I)					
木	臨床実習 (医学実習 I)					
金	臨床実習 (医学実習 I)					

第 3 学期 (1 月 10 日～ 3 月 2 日)

曜日	I 時限 8:30～9:45	II 時限 9:55～11:10	III 時限 11:20～12:35	IV 時限 13:30～14:45	V 時限 14:55～16:10	VI 時限 16:20～17:35
月	臨床実習 (医学実習 I)				医療管理学・診断学 A	児童精神医学 II (2/13 まで) (石川) A
火	臨床実習 (医学実習 I)					
水	臨床実習 (医学実習 I)					
木	臨床実習 (医学実習 I)					
金	臨床実習 (医学実習 I)					

(備考)

1. 教室名 臨 2 … 臨床講義棟 2 階講義室 ※ 4 月 18 日(月) 午後から定期健康診断
A …… 大講義室 A (講義棟 1 階)

平成 23 年度 医学科授業時間割表 (6 年次生)

第 1 学期 (4 月 4 日～ 7 月 1 日)

曜日	I 時限 8:30～9:45	II 時限 9:55～11:10	III 時限 11:20～12:35	IV 時限 13:30～14:45	V 時限 14:55～16:10	VI 時限 16:20～18:00
月	臨 床 実 習 (医学実習Ⅱ)					臨床病理検討会 5・6 年生合同 * 12 回 臨 2
火	臨 床 実 習 (医学実習Ⅱ)					
水	臨 床 実 習 (医学実習Ⅱ)					
木	臨 床 実 習 (医学実習Ⅱ)					
金	臨 床 実 習 (医学実習Ⅱ)					

* (備考) 月曜日の臨床病理検討会(CPC)は、6月6日、13日、20日、27日のみ5年生と合同で行う。

第 1 学期 (7 月 4 日～ 7 月 16 日)、第 2 学期 (8 月 29 日～ 9 月 17 日)

曜日	I 時限 8:30～10:10	II 時限 10:40～12:20	III 時限 13:30～15:10	IV 時限 15:20～17:00
月	医療総合講義 臨 2	医療総合講義 臨 2	医療総合講義 臨 2	医療総合講義 臨 2
火	医療総合講義 臨 2	医療総合講義 臨 2	医療総合講義 臨 2	医療総合講義 臨 2
水	医療総合講義 臨 2	医療総合講義 臨 2	医療総合講義 臨 2	医療総合講義 臨 2
木	医療総合講義 臨 2	医療総合講義 臨 2	医療総合講義 臨 2	医療総合講義 臨 2
金	医療総合講義 臨 2	医療総合講義 臨 2	医療総合講義 臨 2	医療総合講義 臨 2

Advanced OSCE は 7 月 9 日 (土) 実施

(備 考)

1. 教室名 臨 2…臨床講義棟 2 階講義室
2. 卒業試験 9 月 26 日 (月)～11 月 25 日 (金)
 - ※1) 4 月 15 日 (金) 午後から定期健康診断
 - ※2) 4 月 18 日 (月) 午後から臨時健康診断

シラバス

1 年次生

医学概論 I

医学概論 II

早期体験学習

医用統計学

21世紀の社会・環境と医学・医療

情報科学実習

医学概論 I

担当教員

教授	阪本晴彦(医学部長)	看護師	阪井真利子(看護部長)
教授	千田彰一(病院長)	教授	芳地一(薬剤部長)
教授	徳田雅明(国際交流委員長)	非常勤講師	岩井敏恭
非常勤講師	波多江種宣	教授	横井英人(医療情報部)
准教授	久郷敏明(保健管理センター)	教授	今井田克己(コーディネータ)
講師	松原修司(卒後臨床研修センター)	准教授	飴野清(副コーディネータ)

授業概要

今日、私たちの周囲を取りまいている環境をみまわすと、テレビや家庭医学書において見られるような形での医学情報が氾濫しており、一般の人々は見方によってはかなり豊かな医学的知識をもっている。そして、そのような人々の頭のなかに、病気の征服的な医学のイメージ、あるいは、「日進月歩」的な医学のイメージが成立しているようにみえる。そのような輝かしい「業績」は、西洋医学の一面の真実をあらわしており、賞讃に値することであるが、しかしながら、そのような状況のなかでは、より医学の根本にかかわる事柄、たとえば、「病むとはなにか」、あるいは「病気とはなにか」などについては、本格的に議論される機会はすくない。

医学概論とは、これから医学を学ぶことをころざす人たちに、早わかり的な「医学のあらまし」をてっとり早く知ってもらうことを目的とする科目ではなく、「医学とはなにか」について考える科目である。

また、医学は隣接する諸学科と密接に関連しながら発展している人間の総合科学である。

そのために、医師は、たんに個々の臓器障害を治療するだけでなく、高い倫理性と社会的使命の自覚をもつことが要請されている。とくに、近年、医学における分化と発展はいちじるしく、極度に専門化された科学的知識と人間性を正しく統合し、医療や医学研究に従事する必要がある。

医学概論は、こうした広い視野にたって、医師となるための基本的な素養を身につけることを目的としている。

一般目標

- 1) 医学をころざす者にとって最も基本的な事柄を理解するために、医学と関連する諸科学の事柄、たとえば、生命とはなにか、医学とはなにか、医の倫理、精神と身体、医療と社会などについての知識を修得する。
- 2) 将来、よき医師、あるいは医学研究者になるためには、学生時代にどのような態度で医学を学ばなければならないかについて理解するために、基礎医学における研究・臨床医学における研究および診療活動はどのように行われているか、その実例を知る。

行動目標

- 1) 医の倫理について説明する。
- 2) チーム医療について説明する。
- 3) 医療従事者に求められるものについて説明する。
- 4) 乱用薬物の基礎知識について説明する。
- 5) 医学部生に対する感染症防止対策について説明する。
- 6) 死生学とは何かについて説明する。
- 7) 国際化する医学教育について説明する。
- 8) 医師としての生涯設計を説明する。
- 9) I Tと医療の関係を説明する。
- 10) 医療と地域社会の関係について説明する。

授業内容

回	大項目	内 容	担当者
1	医学概論 I	医の倫理	阪本 晴彦
2		チーム医療	千田 彰一
3		医療従事者に求められるもの	阪井 眞利子
4		乱用薬物の基礎知識	芳地 一
5		医学部生に対する感染症防止対策	久郷 敏明
6		医学思想史から見た死生学	波多江 種宣
7		国際化する医学教育：香川大学の現状と展開	徳田 雅明
8		医師としての生涯設計	松原 修司
9		I Tと医療	横井 英人
10		医療と地域社会	岩井 敏恭

学習方法

まず、講義の内容を理解することである。そのうえで、興味をもった事柄については、積極的に関連の本を読むことをすすめる。そのためには、図書館を有効に利用することである。興味をもって積極的に取り組むことにより、理解が深まるだろう。

難解な本にも一度は挑戦しなければならない。予備知識不足のため、理解できないかもしれない。しかしながら、医学は人類の歴史とともにあり、豊穡で奥が深いということぐらいはわかるだろう。同時に、医学は、本来的に、西洋の論理から生まれた学問体系の一種であることがわかるだろう。

一部の授業は、3大学連携事業の一環として実施する。

評価方法

レポート、出席、受講態度などから総合的に評価する。特に出席を重視する。

教科書及び参考文献

必要な場合は、講義の時に、参考図書、文献を紹介する。

担当教員

教授 今井田 克己 (コーディネータ)
准教授 飴野 清 (副コーディネータ) 他

授業概要

昨今、マスコミは医療事故、脳死、院内感染等医療に関する様々な事を連日のように取り上げ、医師の倫理の欠如について問題視している。この授業においては、医学生として考えておかなければならない事柄や、現在問題となっている様々な医療に関する事柄について、主としてその倫理面を中心として、学生自らが調査し、それをレポートとしてまとめ、発表することにより、医の倫理について、深く理解する事を目的とする。

一般目標

様々な医療問題について、自ら調べる事により、それぞれの医療問題の概略について知るとともに、その問題点について考え、それに伴う倫理性・社会的側面について理解、習得する。

行動目標

- 1) インフォームド・コンセントの必要性について説明する。
- 2) 薬害の事例、倫理的・社会的側面について述べる。
- 3) 安楽死と尊厳死の違いについて説明する。
- 4) 院内感染の予防について説明する。
- 5) 脳死に対する日本人の考え方と臓器移植の今後について述べる。
- 6) 重篤な疾患を持つ新生児の医療について説明する。
- 7) 遺伝子治療の問題点について説明する。
- 8) 院内暴力について述べる。
- 9) 医療事故の予防について述べる。
- 10) 再生医療の問題点について述べる。

授業内容

回	大項目	内 容	担当者(助言者)
1-1	医学概論Ⅱ	インフォームド・コンセント	鈴木 康 之
1-2		薬害	芳 地 一
2-1		安楽死と尊厳死	木 下 博 之
2-2		院内感染	大 西 宏 明
3-1		脳死と臓器移植	横見瀬 裕保
3-2		重篤な疾患を持つ新生児の医療	伊 藤 進
4-1		遺伝子治療	寛 善 行
4-2		院内暴力	名 越 民 江
5-1		医療事故	河 野 雅 和
5-2		再生医療	窪 田 良 次

学習方法

クラス全体を10のグループに分け、各グループごとに一つのテーマを割り当てる。

まず自分で図書館に行き、関連する書籍を見つけ出し、テーマにつき勉強する。次いで、助言者から助言をもらい、発表内容を検討し、グループで役割分担を決め、それぞれ、書籍、新聞、インターネット等で調べ、その内容を、パワーポイントにまとめる。

発表当日は全員にパワーポイントの印刷物を配り、グループで司会進行役を決め、その人の司会で発表を行い、各発表が終わった時点で質問を受ける。最後に助言者又はコーディネーターからコメントを貰い発表を終わる。1グループの持ち時間(質疑応答を含む)は30分とし、司会進行役は時間内に終わるように気をつける。

評価方法

グループ発表時の理解度、レポート、出席を総合して評価する。

教科書及び参考文献

テーマにより異なるが、出来るだけ自分で図書館に行き、見つけ出す。

助言者の先生に教えていただく。

早期体験学習

担当教員

臨床系教員・基礎系教員

授業概要

入学当初から臨床医学を体験学習することにより、1年生で学ぶ教養教育や2年生以降に学ぶ基礎医学、さらに臨床医学の大切さを理解し、勉学のモチベーションを高める。

医学の発展に伴い必要とする知識技能も膨大になってきており、従来の知識伝授型の教育ではそれに対応することが難しくなっているところから、将来のあるべき医師の態度を学び、新しい教育法であるチュートリアル教育（課題探求型自己学習法）を早期から経験することで、自ら勉強する習慣を身に付ける。

一般目標

学習目標としては

- 1) 医療の実際について理解する。
- 2) 臨床の初歩体験学習を通じて勉学に対するモチベーションを自ら高める。
- 3) チュートリアル教育法を学ぶことで、課題を見付け、自己で学習する習慣を養う。

行動目標

- 1) 医師としてのマナー
- 2) 患者への対応
- 3) 救命救急法
- 4) 大学附属病院各部署の業務内容を把握する。
- 5) 臨床医学の基礎的知識
- 6) チュートリアル教育法によって自己学習を習慣づける。

授業内容

4月13日より、毎週水曜日3時限目から5時限目。ガイドブックは別に配布する。

(1) オリエンテーション

- 4月 6日：9:00～9:50 情報メディアガイダンス
- 4月13日：3時限目～ } 医学部附属病院内各部署の案内・説明
4月20日：3時限目～ } 救急救命蘇生法体験
(場所 看護学科教育研究棟 6階 603 地域・精神看護学実習室)
- 4月27日：3時限目～ 予備
- 5月 11日：4時限目～ チュートリアル・オリエンテーション
- 5月 11日：5時限目～ 医学概論Ⅱ 説明会

(2) 臨床入門

- 5月 11日：3時限目 肺が今、危険にさらされている
- 5月 18日：3時限目 心臓手術
- 5月 25日：3時限目 災害と救急
- 6月 1日：3時限目 新しい外科医たちへ
- 6月 8日：3時限目 手術で治る脳の病気
- 6月 15日：3時限目 患者さんの体にやさしい泌尿器科手術
- 6月 22日：2時限目 難聴とめまい
- 6月 29日：3時限目 未熟児・新生児医療の最前線
- 7月 6日：3時限目 手術で治すこどもの病気
- 7月 13日：3時限目 骨折
- 7月 20日：3時限目 予備
- 7月 27日：3時限目 予備

(3) チュートリアル教育入門

- 5月 11日：4時限目～ チュートリアル・オリエンテーション
- 5月 18日～7月20日 毎週水曜日4・5時限目はグループに分かれチュートリアルを行う。
詳細についてはチュートリアルを行う前に説明と小冊子を配布する。

評価方法

病院見学実習アンケート、臨床入門授業アンケート、チュートリアル教育入門チュートリアル評価による。特に出席を重視する。

医用統計学（生命情報統計学）

担当教員

准教授

授業概要

今世紀はある意味で、情報との戦いである。就中、情報処理への関心度は、従来に比して非常に高まるであろう。適当にサンプリングされたデータから、客観的な事実を指摘し、データの本質的な中身を知る推定や、従来データとの比較である検定の手法は欠かせないものになる。推定や検定の基本的な概念を理解することは、その情報との戦いにとって非常に有効な手段である。推定、検定の理論を具体的な演習問題を交えながら講義する。

一般目標

統計学の数学的理論を理解し、実践的な能力を涵養するために、基本的な数学の概念を含む、統計の基本的な事項を修得し、具体的なデータの客観的な評価の仕方、方法を身に付ける。

行動目標

- ・ 統計における基本的な概念を説明し、それらの相互関係を示すことが出来る。
- ・ 推定、検定の初等的な内容を知り、演習を通じて、基本的な操作に慣れる。
- ・ 不偏分散の意味がわかる。
- ・ 区間推定が出来る。
- ・ 両側検定、片側検定の違いが分かる。
- ・ 平均、カイ二乗、t、F 検定ができる。
- ・ 適合度・独立性の検定ができる。

授業内容

回	大項目	項目	内 容	担当者
1～5	統 計 学	確 率 分 布	確率変数、確率分布の基本的な性質	
6	推 測 統 計 学	推 定	点推定と区間推定	
7～15	推 測 統 計 学	推 定 と 検 定	推定と検定の基礎とその応用	
16			前期末試験	

評価方法

レポート、演習、定期試験などにより総合的に判断する。

学習方法

定理の内容を、公式の意味を理解することも必要であるが、ここでは、その具体的な利用法を身に付けるために、演習問題をきっちりと解くことを希望する。

教科書及び参考文献

ゼロから学ぶ統計解析 小寺平治著 講談社

新統計入門 小寺平治著 裳華房

基礎数学統計学通論（第2版） 北川敏男、稲葉三男共著 共立出版

オフィスアワー

特には設けない。

その他

随時統計的な概念についての理解を深めるために演習を行う。演習時には速やかな計算のため、電卓の使用をする。各自忘れないように準備すること。試験時にも必ず持参すること。貸与はしない。

担当教員

- 教授 徳田 雅明 (細胞情報生理学)
- 教授 木下 博之 (法医学)
- 教授 岡田 宏基 (医学教育学)
- 准教授 磯部 健一 (小児科学)
- 准教授 合田 文則 (総合診療部)
- 特任助教 泉川 美晴 (地域医療教育支援センター)
- 教務職員 住谷 和則 (医学教育学)
- 臨床系講座教員
- 非常勤講師 村主 節雄 (前香川大学准教授)
- 山神 眞一 (香川大学教育学部)
- 阿部 純也 (香川大学教育学部)
- 三宅 敬二郎 (敬二郎クリニック)
- 乗松 尋道 (四国医療専門学校長、香川大学医学部名誉教授)
- 大麻 陽子 (四国医療専門学校)
- 花房 順子 (四国医療専門学校)
- 菅原 英次 (高梁市川上医療センター長)
- 中井 宏次 (NPO 法人 健康笑い塾)

授業概要

わが国は人類史上未曾有のスピードで少子高齢化社会を迎えている。それに対応して社会のあらゆる分野で構造や制度の構築が急がれているが、本来人間の幸福に大きく寄与する保健医療分野においても、包括的な制度の見直しと活動が推し進められている。医学教育においても、これらの状況を基本的に理解し、健康増進から予防、治療、リハビリテーションにわたる、全人的、包括的な保健医療が実践できる医師の養成が課題となっている。

そこで、本講座では、これら今日の医学・医療を取り巻く諸事情、すなわち、少子高齢化に関する課題、地域医療の実情とそこに潜在する問題、終末期医療のあり方、また、リハビリテーションを含んだ補完医療について、更に、医師の生き方にも関連したワーク・ライフバランス等について、それぞれの専門家から講義を受け、今日の医学・医療が抱える課題について理解を深める。

一般目標

まず、以降の講義を理解しやすくするために、人体の基本的構造と機能、および日常的によく見られる疾患についての知識を習得する。次いで、今日の社会環境から生じた、医学・医療における諸課題について学ぶ。すなわち、少子化と小児の医学的問題、高齢者の医療における問題点、都市部における在宅医療や山間部における高齢者医療について具体的な事例を通じて学習する。さらに、医療を補完するリハビリテーションや、スポーツ医学、鍼灸治療についても基本的事項を学習する。最後に、内科系を中心とした臨床系講座の紹介を通じて、医学・医療に対する関心をより高める。

行動目標

1. 身体の大まかな構造と機能を説明できる。
2. 日常的によく遭遇する疾患について簡単に説明できる。
3. 疾患をもたらすような自然界の生物について説明できる。
4. 小児医療における問題点を説明できる。
5. 高齢者医療の特徴と孤独死とについて説明できる。
6. 希少糖の作用と医療におけるその利用について説明できる。
7. 緩和ケアとは何かについて説明できる。
8. 香川大学医学部における国際交流について説明できる。
9. 在宅医療について概説できる。
10. ワーク・ライフバランスについて概説できる。
11. ネットワーク医療について概説できる。
12. 山間部の医療の特徴について説明できる。
13. リハビリテーション及びスポーツ医療について概説できる。
14. 鍼灸治療など補完医療について概説できる。

授業内容

回	大項目	項目	内容	担当者
1	身体と疾患 の基礎知識	オリエンテーション	病気と社会・環境、健康と社会システムの概観、健康の概念	岡田
2, 4		からだを知ろう	骨格・筋肉・各器官の構造	住谷
3, 5		病気を知ろう	「家庭の医学」レベルの疾患の知識	岡田
6	現在の社会 環境と医学・	希少糖と医療	希少糖でメタボリックシンドロームを克服	徳田
7		小児医療	小児医療における今日的な諸問題	磯部
8		自然界の生物と病気との関わり	代表的な病原寄生虫について	村主
9		高齢者医療	高齢者の生活満足度と日常生活活動能力(ADL)及び体力との関連性について	山神
10		緩和ケア	緩和医療の今日的な考え方	合田
11		孤独死	法医学から見た孤独死	木下
12		香川大学医学部の国際交流	香川大学医学部の国際交流の実際	徳田(雅)

13	医療における諸課題	運動と健康づくり	医療人の資質と健康	阿部
14		ワーク・ライフバランス	生涯医師を続けていくための支援とは	泉川
15, 16		在宅医療と患者会からのメッセージ	在宅医療の実際と患者会からのメッセージ	三宅他
17		リハビリテーション概説	リハビリテーションの概要	乗松
18		スポーツ医学	競技スポーツと健康作りの現場	花房
19		ネットワーク医療	遠隔医療を含んだネットワーク医療について	岡田
20		山間部の高齢者医療	中山間地域の地域包括ケア	菅原
21		補完医療としての鍼灸	鍼灸治療概説	大麻
22		笑いとう医療	笑いが健康や疾患に及ぼす効果について	中井
23-28		臨床科からのメッセージ	各臨床科の診療及び研究の紹介	臨床科教員

学習方法

21世紀の社会・環境と医学・医療は、1年次より始まり6年次で終了する総合保健福祉医療学の一部である。これは学年進行に沿って良き医療人の養成を目指している学際的集学的科目であるが、本科目においては教養教育の側面、特に社会性の啓発を重視しており、関連学科目および医学概論、早期体験学習との関連において学習することが望ましい。また、日常の新聞、テレビ、インターネット等からの情報収集、あらゆる人文社会科学を中心とする読書により、21世紀の社会・環境における医学・医療の動向と社会的背景についても学習し、人間性豊かで全人的・包括的保健医療福祉の実践が可能となる医師となるべく総合的に学習してほしい。

評価方法

出席毎のミニレポート、学習態度等により総合的に評価する

教科書及び参考文献

各担当講師が必要に応じて提示する。

オフィスアワー

水曜日 16:30 ～ 17:30（第3水曜を除く）

情報科学実習

担当教員

教授	横井 英人
准教授	上村 幸司
特命助教	山肩 大祐
教務職員	寺中 正人

授業概要

情報化社会と言われる現在，他の学問分野と同様に医学・医療の領域においても，情報処理に関する知識はますます重要なものとなっている。電子カルテシステムをはじめとする様々な病院情報システムの利用，医療機器の制御，医療データの解析，人工知能を応用した医療診断システムの利用，そしてネットワークを介した医療データベースのアクセス等，膨大な医学，医療情報を取捨選択し，複雑な状況下で適切な判断を下すためには，コンピュータを操作できる能力が必須条件である。

本講義では，情報科学の基礎的事項，さらに情報処理の基礎的知識・技能の習得を目的とする。特に実際にコンピュータに触れながらプログラムやアプリケーションソフトの使用の体験を通じて，実際の情報処理能力を培うことに重点がおかれる。

一般目標

コンピュータやネットワークの基礎を学び、インターネットや電子メールの利用、レポートの作成、収集したデータの処理、成果報告のためのプレゼンテーションといった、大学生活で役に立つ基本的な情報リテラシーのスキルを習得することを目的とする。

行動目標

- コンピュータの基本的な仕組みを理解し，パーソナルコンピュータを操作できるようになる。
- WEB の仕組みを理解し、インターネットを介して様々な情報を検索・抽出できるようになる。
- 電子メールのシステムを理解し，使用できるようになる。
- 文書作成、表計算、プレゼンテーション資料作成等のアプリケーションソフトを利用できるようになる。
- 情報倫理やセキュリティについて理解し、コンピュータやネットワークの適正な利用方法を身につける。
- ネットワークの基本的な仕組みを理解し、パーソナルコンピュータのネットワーク設定ができるようになる。

授業内容

回	項目	内容	担当者
1	情報科学概説	情報科学の概念、成り立ち、実際	横井
2	パソコンの基本操作	コンピュータの起動、終了、再起動 ログイン、ログアウト Windows デスクトップの構成要素 ウィンドウの操作 プログラムの起動、終了 フォルダーとファイルの操作 設定変更 テキストエディタ 日本語入力 印刷 タッチタイピング	寺中
3	ウェブ	ウェブブラウザの利用 ホームページの閲覧 ブックマーク（お気に入り） ホームページの保存 香川大学が提供する主なウェブサービス	寺中
4	メール	メールの仕組み メールソフトの設定 メールの送受信 メール利用のマナー ウェブメール	寺中
5	文書作成	Word の概要 ページ設定 段落の設定 フォント ヘッダー、フッター 箇条書き タブとリーダー スタイルの利用 図の挿入 表の作成 数式の入力 印刷	上村
6	表計算(1)	Excel の概要 データ入力と修正 数式と関数 相対参照と絶対参照 書式設定 グラフの作成 印刷	上村
7	表計算(2)	Excel の概要 データ入力と修正 数式と関数 相対参照と絶対参照 書式設定 グラフの作成 印刷	上村

8	プレゼンテーション	PowerPoint の概要 スライドの作成と編集 デザインテンプレートの適用 テキストの入力 箇条書き 画像の挿入 作図 作表 スライドショー 配布資料の作成と印刷	山肩
9	情報倫理とセキュリティ (1)	ネットワーク関連の法律 知的財産権 著作権法 個人情報保護法 不正アクセス禁止法	山肩
10	情報倫理とセキュリティ (2)	被害にあわないための知識 アカウント・パスワードの管理 パソコンのセキュリティ対策 マルウェア、ウイルス 暗号化	山肩
11	情報倫理とセキュリティ (3)	インターネットのマナー 携帯電話のマナー 学内施設利用のマナー	山肩
12	情報検索・文献検索	検索エンジンの効果的な利用 インターネットの情報の質 香川大学図書館の利用方法とマナー 香川大学図書館所蔵の図書・雑誌の検索	横井
13	コンピュータの基礎知識	コンピュータの種類 ハードウェア CD-ROM, DVD, USB メモリ ソフトウェア 主な OS とアプリケーションソフトウェア 情報の表現 2進数、16進数 文字コード	横井
14	ネットワークの基礎知識	プロバイダ プロトコル TCP/IP IP アドレス DHCP ホスト名、ドメイン名 DNS WWW FTP SSH 香川大学のネットワーク	横井
15	試験	総合試験	

評価方法

実習を中心とする授業であるので、出席を重視し、何回かの課題、学期末の筆記試験等を総合して評価する。

学習方法

授業の空き時間などを利用して積極的にパーソナルコンピュータに触れ、色々と自分で試してみたり、確かめてみたりすることを期待する。興味を持って自分から積極的に取り組むことにより、理解が深まる。電子メールやアプリケーションソフトなどを利用して情報の収集、加工を行う経験を積んで欲しい。

教科書及び参考文献

教科書等は追って指示する。

シラバス

2 年次生

医用物理学

生命物質化学

生命有機化学

分子遺伝学

応用生物学

神経生物学

自然科学実習（物理）

自然科学実習（化学）

自然科学実習（生物）

情報科学実習

医用統計学（1年次生シラバス参照）

保健医療福祉看護・介護論

保健指導・カウンセリング・チーム医療の基礎

分子生物学

解剖学 I

解剖学 II

生理学 I

生理学 II

生化学

英語（全学共通科目）

医用物理学

担当教員

准教授 久 富 信 之

授業概要

自然科学の基礎の一つである物理学の基本法則を理解し、医学に必要な事象理解の育成を目標とします。具体的には静力学、慣性モーメント、流体力学、波動、電磁気学、原子核物理学について学びます。静力学、慣性モーメント、変形力学は臨床における整形外科学に関連しており、また流体力学は基礎医学における血行力学と関連しています。また最近では、物理学的方法が医療検査等にも応用されており、電磁気学や原子物理学を学んで、先進的医療装置の原理を理解できるようにします。また、物理的な事象の解釈法が重要視されるようになってきており、この論理的解釈法の理解を通じて生体内での事象の論理的解釈法の修得を図ります。

一般目標

- 1) いろいろな運動に関する問題の解法を通して、力学に関する応用力が身につくようにする。
- 2) 流体力学の基礎を学び、血行力学への応用さらに臨床医学への結びつきについて学ぶ。
- 3) 電磁気学を通して、基本法則の理解と応用力を身につける。
- 4) 先端医療装置・機器の動作原理を理解するために、原子物理学や放射線科学等を習得する。
- 5) 将来的な医療現場で、物理学的・論理的な展開を可能にするために、物理的な物の見方および考え方を習得する。

行動目標

- 1) 力の釣り合いとモーメントの釣り合いを正しく方程式化できる。また、いろいろな物体の運動についての運動方程式を立ててそれを解くことができる。
- 2) 静力学の知識を利用して簡単な医学的応用計算ができる。
- 3) 静止流体に関する現象（自由表面、表面張力、毛細管現象）を理解し、方程式を立ててそれを解くことができる。また医学的現象に応用できる。
- 4) 電磁気学の中身を細分化して、電気、磁気および電流などのそれ自身の性質ばかりでなく、これらの量の相互の関係を説明する。
- 5) 物質をミクロな観点（原子、分子）から説明する。
- 6) 実際に利用されている電子機器および物理学の医学的応用例にできるだけ多く触れる。

授業内容

回	大項目	項目	内 容
1	はじめに		物理学と医学、概論
2, 3	一般力学	運動方程式、保存則	室点の運動、等加速度運動、放物運動、単振動、等速円運動、減衰運動、エネルギー保存則、運動量保存則
4		静力学	力の釣り合いと力のモーメント、静力学の医学への応用
5	剛体の運動	慣性モーメント	平行軸の定理、薄い平面版の定理
6	固体の変形	弾性変形と塑性変形	ヤング率、体積弾性率、生体への応用
7, 8	流体力学	静止流体	自由表面、静水圧と空気圧、浮力、表面張力と毛細管現象、連続の式
9		運動流体	ベルヌーイの定理、ニュートン流体と粘性流体、乱流、ハーゲン-ポアズイユの法則
10	振動と波動	単振動	単振動、単振動の合成、強制振動
11, 12		波動	波動に関する基礎的知識、波の診断利用
13, 14		音波	音の3要素、音速と音圧、共鳴、音の生体への応用
15, 16		光学	光の干渉、回折、光学器械
17	熱と熱力学	熱現象、熱力学	温度と熱、熱の伝達、熱力学第1、2法則、エントロピー
18		分子運動論	分子の運動と熱分布、比熱、自由エネルギー
19	電磁気学	電場と電位	クーロンの法則、ガウスの法則、電気双極子、電気容量
20		電流現象、静磁場、電流と磁場	オームの法則、キルヒホッフの法則、熱起電力、ジュール熱、磁気双極子、磁性体
21, 22		電磁誘導、電磁波	ファラデーの法則、インダクタンス、インピーダンス、共振回路、変位電流とMaxwellの方程式
23	原子	原子と原子核	黒体放射、光電効果
24, 25		電子と原子	エネルギー準位、角運動量、粒子の波動性
26		原子核と素粒子	原子核、核融合、核磁気共鳴
27		X線、放射線	発生と利用、原子核の崩壊、利用例

評価方法

学期末の筆記試験あるいはレポート、小レポート、受講態度など総合的に評価する。

学習方法

講義は教科書に沿って主に行なわれるので、予習が講義を理解するのに役立ちます。

教科書及び参考文献

医歯系の物理学 赤野松太郎他著 東京教学社

オフィスアワー

特別な時間は設定しません。

メールアドレス kudomi@med.kagawa-u.ac.jp

生命物質化学

担当教員

教授 小林 良二

授業概要

私達が住んでいる地球にはわずかに 100 あまりの元素があるだけです。これが組み合わせたり、組み換えられたりしてあらゆる物質を構成しています。生命体もその例外ではなく高度に統一された化学反応の集合、連鎖から成り立っています。生命現象を理解する上で現代的な意味を持つ「細胞内の情報伝達機構 (signal transduction/細胞内信号系)」に焦点をあて、細胞機能を分子レベルで理解することを目標としています。そのためには生体を構成する物質やその反応についての深い理解が必要です。講義では、生命現象を分子に基礎をおいた考え方で学ぶ (つまり生命体や生命現象を分子論的に理解する) ことを目標としています。また、講義のみならず必要な学术论文を読み、到達点を理解すると共に、批判的検討を加えたり、研究方法論などについても討論しながら理解を深めることが大切です。学術的レベルの高い (知的に楽しい) 授業を目指しています。

一般目標

細胞がいかにして外界 (つまり細胞の外から) の情報を受け取り、それを細胞内の情報に変換し、最終的に各々の細胞に特有な機能発現に結びつけていくかを理解する。生命現象をこのような「情報の流れ=信号系」として捉え、この情報の増幅や変換の仕組みを理解する。このようなテーマについて学習する過程で、生命科学の先端的研究方法、分子生物学、生化学、分子薬理学、創薬科学などについて自らの創意性を生かして学習する。

行動目標

- 1) 細胞表面の信号受容機構 (細胞膜受容体、イオンチャンネルなど) の基礎を理解する。
- 2) 細胞内 (細胞質、核内) 受容体の基礎を理解する。
- 3) 受容体の調節機構を理解する。受容体に関連する G タンパク質、分子シャペロン複合体などを理解する。
- 4) 細胞内信号分子を調節する薬物の分子メカニズムを理解する (分子薬理学)。
- 5) タンパク質のリン酸化/脱リン酸化反応の生物学的意義を理解し、プロテインキナーゼ、プロテインホスファターゼの役割を理解する。
- 6) 骨格筋/心筋の収縮機構調節を理解し、カルシウムイオンによる調節機構を理解する。カルシウム受容タンパク質の機能と構造について理解する。
- 7) 生命科学研究の方法論を理解する。

授業内容

回	大項目	項目	内容	担当者
1	細胞信号の科学	細胞内情報伝達系	Overview:基本的な概念と細胞内情報伝達系の概要	小林
2	受容体	細胞膜受容体	細胞膜受容体とイオンチャンネルの基礎	小林
3	Gタンパク質	3量体Gタンパク質	Gタンパク質の発見、機能、構造とGタンパク質による受容体調節。Gタンパク質を制御する薬物	小林
4	細胞内受容体	細胞質、核受容体	受容体の機能と構造、転写調節の仕組み、分子シャペロンの役割	小林
5	タンパク質リン酸化反応	プロテインキナーゼI	糖代謝調節(グリコーゲン代謝調節)を例としてプロテインキナーゼの役割を考える	小林
6	タンパク質リン酸化反応	プロテインキナーゼII	平滑筋の収縮調節を中心としてプロテインキナーゼの役割を考える	小林
7	筋収縮メカニズム	骨格筋、平滑筋	筋肉の収縮装置とその仕組み、ミオシン、アクチン、トロポニン	小林
8	カルシウム受容タンパク質I	トロポニン	カルシウムによる生体調節の端緒になったトロポニンCを中心として	小林
9	カルシウム受容タンパク質II	カルモデユリン	カルシウム受容タンパク質による細胞制御機構	小林
10	テーマ学習	学生グループ主体の学習	免疫、神経機能、難治性神経変性疾患、糖尿病など任意のテーマを選び細胞信号科学の立場から理解する	小林
11	テーマ学習	学生グループ主体の学習	免疫、神経機能、難治性神経変性疾患、糖尿病など任意のテーマを選び細胞信号科学の立場から理解する	小林
12	テーマ学習	学生グループ主体の学習	免疫、神経機能、難治性神経変性疾患、糖尿病など任意のテーマを選び細胞信号科学の立場から理解する	小林
13	発表/討論I		テーマ学習を発表、討論を通じてまとめ、整理して学習	小林
14	発表/討論II		テーマ学習を発表、討論を通じてまとめ、整理して学習	小林

学習方法

- 1) 教科書を特に指定しないが、準備したプリント、原著論文、スライドなどを使って生体物質の化学の知識を理解できるように努める。
- 2) 生物学的考察が必要となるため、参考情報、図書より自学自習に努める。

評価方法

学生のグループ学習の成果(発表会)を重視するが、学期末に試験を実施する。また、必要に応じて、小テストおよびディスカッションを行い、理解度を判定する。

教科書及び参考文献

推薦参考書: Bruce Alberts 他「Molecular Biology of the Cell」(教育社)

J. David. Rawn「Biochemistry」(医学書院)

D. Voet, j. G. Voet「生化学」(東京化学同人)

オフィスアワー

金曜日、午後4時～5時とします。また、メールで御連絡頂ければ、お返事します(ryoji@med.kagawa-u.ac.jp)。

生命有機化学

担当教員

准教授 徳 光 浩 非常勤講師 獅々堀 彊

授業概要

生命現象を理解するための基礎として、生体物質の体系立った理解が不可欠である。この科目では主として生命有機化学を学習する。有機化学は元来“生命機能のある”物質の研究を起原とし、炭素化合物の化学として体系化され、我々の日常生活を支える学問となっている。生体の構成物質であるタンパク質、脂質、糖や DNA/RNA をはじめとする核酸などは有機物質であり、これら有機化合物の生体内における合成や分解（代謝）は、多くの酵素の触媒作用による化学反応として理解できる。一方、これら生体機能分子とは異なる、低分子量有機化合物やさらに小さなイオンですら生命機能を支える重要な物質である。これら分子の大きさに関わらず様々な生体物質分子の化学反応、物理的相互作用を理解する事により、生理機能ひいては生命現象の分子メカニズムを理解する事が可能となる。特に個々の生体物質の羅列的知識の伝搬ではなく、生体および生命現象のダイナミクスに主眼をおいて講義をおこなう。

一般目標

授業を通じて生命有機化学の基本概念の理解を深めるとともに、生体物質の生体内における化学反応や物理的反応と生理作用、さらには生命現象との関係についての理解を深める。また代表的な生体物質の構造、機能、反応機構について基礎的な知識を習得する。さらに、これら基礎的な知識を統合させ、生命現象を分子レベルで理解できるようになるための基礎能力を身につける。この目標のためには、基礎知識の習得だけではなく、最新の生命科学の知識の習得とその方法についても学ぶ。

行動目標

- 1) 細胞内情報伝達機構の基本概念を情報伝達物質の化学的／物理的反応を用いて説明できる。
- 2) タンパク質分子の分子運動、構造変化の生理的役割を説明できる。
- 3) 酵素とその触媒反応について、細胞内における時間的、空間的機能を説明できる。
- 4) 遺伝情報としての核酸の生理的役割を説明できる。
- 5) 遺伝子発現の制御機構とその生理機能について説明できる。
- 6) 生体分子の構造解析法について説明できる。
- 7) 生命科学における遺伝子工学の役割を理解する。

授業内容

回	大項目	項目	内容	担当者
1	細胞内情報伝達システム の化学	細胞内情報伝達因子 1	細胞内カルシウム	徳光
2		細胞内情報伝達因子 2	環状ヌクレオチド	徳光
3		細胞膜	脂質代謝と反応	徳光
4		高エネルギー化合物	ATP と生体エネルギー	徳光
5	生体物質の構造決定	各種スペクトル 1	電子構造	獅々堀
6		各種スペクトル 2	赤外線、紫外線、	獅々堀
7		各種スペクトル 3	核磁気共鳴スペクトル	獅々堀
8	前期まとめ			徳光
9	タンパク質の化学	構造と機能	高次構造と生理機能	徳光
10		酵素の化学	触媒反応と調節機構	徳光
11		酵素阻害剤	酵素反応阻害機構	徳光
12		情報伝達機構	分子間相互作用	徳光
13	核酸の化学	構造と機能	DNA/RNA と塩基配列	徳光
14		遺伝子発現機構	遺伝情報／転写調節	徳光
15		遺伝子工学	遺伝子操作と生物工学	徳光

評価方法

中間および学期末に試験を実施する。試験の成績、授業の出席、態度を総合的に評価し、可否を判定する。

学習方法

- 1) 教科書を特に指定しないが、準備したプリント、原著論文、スライドなどを使用して生体物質の化学の知識を理解できるように努める。
- 2) 生物学的考察が必要となるため、参考情報、図書により自学自習に努める。

教科書及び参考文献

推薦参考書：Bruce Alberts 他「Molecular Biology of the Cell」(教育社)
H. Hart 「基礎有機化学」(培風館)
G. W. Stacy 「生命科学のための有機化学」(東京化学同人)

オフィスアワー

前期 金曜日 午後 4 時～5 時 メールアドレス：tokumit@med.kagawa-u.ac.jp

分子遺伝学

担当教員

教授 竹崎直子 准教授 岩間久和

授業概要

現在、ゲノムプロジェクトの進行とともに、様々な遺伝的データが得られるようになり、遺伝子疾患などの研究も急速に進展している。遺伝情報についての基本的な知識、遺伝的変異やこれを用いた疾患遺伝子の探索方法などについての紹介を行う。

一般目標

遺伝情報伝達の機構、遺伝的変異、遺伝情報の長期的変化、疾患遺伝子の探索方法などについて学習する。

行動目標

- 1) 遺伝情報伝達の仕組みを理解する。
- 2) 遺伝的変異の創成、維持などのメカニズムについて理解する。
- 3) 遺伝情報の変化について知る。
- 4) 遺伝的変異を用いた疾患遺伝子探索方法を学習する。
- 5) 多因子疾患等のモデルについて学習する。
- 6) ゲノムやそれに関連する新しい遺伝的データおよびその活用方法についての知識を得る。

授業内容

回	大項目	項目	内容	担当者
1	遺伝情報	遺伝情報伝達のしくみ	遺伝情報伝達の基本的仕組み	竹崎
2		ヒトの染色体	ヒトの染色体と細胞分裂	竹崎
3	遺伝的変異・遺伝情報の変化	集団内の遺伝的変異	ハーディ・ワインベルグの法則	竹崎
4		対立遺伝子頻度の変化	自然選択と遺伝的浮動	竹崎
5		遺伝的多様性	様々な突然変異とそのモデル	竹崎
6		長期的進化	生物種間の遺伝情報の変化	竹崎
7	ヒトの遺伝的変異	ヒトの進化	ヒトの起源、進化	竹崎
8		中間テスト		竹崎

9	連鎖解析	連鎖解析の基礎	連鎖解析の基礎概念	岩 間
10		連鎖解析の応用	連鎖解析による病因遺伝子の探索	岩 間
11	多因子遺伝	量的形質座位 (QTL)	QTL と相加的ポリジーンモデル	岩 間
12		多因子疾患	多因子疾患における遺伝因子と環境因子の関係	岩 間
13	関連解析	ハプロタイプと連鎖不平衡	ハプロタイプと連鎖不平衡の概念	岩 間
14		一塩基多型 (SNP)	SNP を利用した病因遺伝子探索	岩 間
15		ゲノムワイドな解析	ゲノムレベルの網羅的解析の方法論	岩 間

学習方法

- 1) 教科書を特に指定しないが、準備した資料を参考にしながら、講義内容の復習を基本とする。
- 2) 単なる用語の暗記ではなく、方法論に至る考え方の理解を深めること。

評価方法

中間試験、期末試験を実施する。また、必要に応じて、小テストを行い、理解度を判定する。

教科書及び参考文献

推薦参考書：

Bruce Alberts ほか、中村桂子、松原謙一監訳編. 細胞の分子生物学 . 第 5 版, ニュートンプレス, 2010. 原
タイトル: Molecular Biology of the Cell

Strachan, Read. ヒトの分子遺伝学. 第 3 版, メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2005.

原タイトル Human Molecular Genetics.

オフィスアワー

金曜日、午後 4 時半～5 時半とします。また、メールで御連絡頂ければ、お返事します (takezaki@med.kagawa-u.ac.jp、iwama@med.kagawa-u.ac.jp)。

応用生物科学

担当教員

教授 板野俊文

非常勤講師 久加晴茂（きゅうか内科クリニック院長）

授業概要

医学系生物学の基本を学習するために、準備モデルコアカリキュラムを中心に講義をする。既にこの一部は教養で教育を行った。しかし、他学部の学生の受講もあり内容が易しくなっている。そこでより詳しく細胞および細胞内小器官と、代謝、細胞分裂とそれに関与する分子レベルのミクロな物質レベルの内容を講義する。また本年度は久加先生に漢方医学の基礎を講義していただく。

一般目標

細胞の構造とさまざまなはたらきを学ぶ。

細胞の分裂とそれに関与する遺伝情報伝達のしくみについて学ぶ。

細胞内情報伝達系の概要を知る。

漢方医学の基礎を知る。

行動目標

【細胞の構造と機能】

到達目標

1. 細胞の観察法を説明できる。
2. 細胞の全体像を図示できる。
3. 核とリボソームの構造と機能を説明できる。
4. 小胞体、ゴルジ体、リソソームなどの細胞内膜系の構造と機能を説明できる。
5. ミトコンドリア、葉緑体の構造と機能を説明できる。
6. 細胞骨格の種類とその構造と機能を概説できる。
7. 細胞膜の構造と機能、細胞同士の接着と結合様式を説明できる。
8. 原核細胞と真核細胞の特徴を説明できる。

【細胞内の代謝と細胞呼吸】

到達目標

1. 酵素の構造、機能と代謝調節（律速段階、アロステリック効果）を説明できる。
2. ATPの加水分解により自由エネルギーが放出されることを説明できる。
3. 解糖、TCA回路、電子伝達系、酸化的リン酸化によるATPの産生を説明できる。

【細胞周期】

到達目標

1. 細胞分裂の過程を図示し、説明できる。

2. 細胞周期の各過程、周期の調節を概説できる。

【減数分裂】

到達目標

1. 減数分裂を説明できる。
2. 遺伝的多様性を減数分裂の過程から説明できる。

【遺伝子と染色体】

到達目標

1. メンデルの法則を説明できる。
2. 遺伝子型と表現型の関係を説明できる。
3. 染色体を概説し、減数分裂における染色体の挙動を説明できる。
4. 性染色体による性の決定と伴性遺伝を説明できる。

【DNAとタンパク質】

到達目標

1. DNAの複製過程と修復機構を説明できる。
2. セントラルドグマを説明できる。
3. 転写と翻訳の過程を説明できる。

【細胞内情報伝達系】

到達目標

1. セカンドメッセンジャーの概念を理解する。
2. タンパク質リン酸化反応による情報伝達を説明できる。

【漢方医学の基礎】

到達目標

1. 漢方医学の基礎を知ること、応用漢方医学への橋渡しをする。

授業内容

回	大項目	項目	内容	担当者
1	細胞の構造と機能	細胞の形態	細胞の構成	板野
2		細胞の機能	細胞内小器官の名称と機能	板野
3			細胞骨格系と細胞間連絡	板野
4	細胞内の代謝と細胞呼吸	酵素概要	酵素の働きを知る	板野
5		ATP産生系	ミトコンドリアとATPの産生	板野
6	細胞周期	細胞分裂と細胞周期	細胞周期の各期について知る	板野
7	減数分裂	遺伝のしくみ	減数分裂の方法を知る	板野
8	遺伝子と染色体	遺伝子系と表現型	メンデルの法則を理解する	板野
9		性染色体	遺伝子診断について知る	板野
10	DNAとタンパク質	核酸とタンパク質合成	DNAの複製と転写・翻訳	板野
11			セントラルドグマ	板野
12	細胞内情報伝達系	セカンドメッセンジャー	セカンドメッセンジャーの概念を知る	板野

13				板野
14		タンパク質リン酸化反応	情報伝達系におけるタンパク質リン酸化の意義を知る	板野
15	漢方医学の基礎			久加

評価方法

集計システムを用いて出席のチェックと小テストを行い、それをもとに評価する。最終的にそれでも成績が合格点に達しない場合には、小テストを中心に出題をする期末テストを受験すること。

学習方法

講義は教科書とプリントを中心としてパワーポイントと提示システムを用いて行う。講義の時に不明な部分は質問の時間があるので、わからないところを明らかにしておく。インターネットで情報を得て、自分なりに情報を理解し、記憶する。また図書館に参考図書が購入されているので、自習することで、講義内容を理解する。加速度的に増加している膨大な医学知識をどのように収集し、自己の物とするかの方法を身につけるようにする。

教科書及び参考文献

参考書は講義に伴って適宜紹介するが、以下は比較的良好に講義の参考としている。

CBT 準拠 MCQ による生理学問題集 文光堂

Molecular Biology of THE CELL 第3版 Watson ら、Garland Co. : (訳本 細胞の分子生物学 中村ら監訳 教育社)

オフィスアワー

質問等あれば、毎週火曜日午前9時～12時に教員室（講義棟3階）にて受け付ける。

神 經 生 物 学

担当教員

准教授 中 村 丈 洋

授業概要

医学を学ぶ上で生物学は基礎となり重要である。本講義は、1年次の医科生物学を発展させ、専門科目の入門としてヒトの生物学について神経系を中心に解説して行く。4年次に行なわれる共用試験 CBT (Computer Based Test) の関連より、準備教育モデル・コア・カリキュラム (教育内容ガイドライン) に準じて講義を進めていく。本講義の前半は神経系の構造および機能、後半はヒトの生物学系統講義として人体を構成する器官およびマクロな臓器の構造と機能の相関について解説していく。理解を深めるために、講義では演習を多く取り入れている。

一般目標

神経機能および身体機能を全般的に理解するため、その構成、構造、機能について学習する。

行動目標

1. 脳の基本的な構成要素とその機能を説明することができる。
2. 脳幹の機能と 12 対ある脳神経を説明することができる。
3. 記憶の基本的機序を説明することができる。
4. 運動の調節について説明することができる。
5. 視覚や聴覚の伝導路を説明できる。
6. 交感神経および副交感神経について説明できる。
7. 血液と体液の構成成分とその機能を説明することができる。
8. 循環器系に属する臓器の形態と機能を説明できる。正常心電図を説明できる。
9. ガス交換 (呼吸器系) に関係する臓器とその機能を説明することができる。
10. 消化と吸収のしくみを説明することができる。
11. 内分泌器官の名称と機能およびホルモン作用、フィードバック調節について概説できる。

授業内容

回	大項目	項目	内容	担当者
1	神経生物学講義-1	神経系一般	神経解剖生理の基本	中村
2	神経生物学講義-2	脳幹と脳神経	脳幹の機能、脳神経の局在	中村
3	神経生物学講義-3	大脳と高次機能	大脳皮質の機能局在、記憶学習の機序	中村
4	神経生物学講義-4	運動系	随意運動と不随意運動	中村
5	神経生物学講義-5	感覚系	知覚、視覚、聴覚	中村
6	神経生物学講義-6	自律神経系	自律神経の機能、ストレス反応	中村
7	ヒトの生物学系統講義-1	血液と体液	血球と血漿の機能、白血球と免疫	中村
8	ヒトの生物学系統講義-2	循環器系	心臓の機能と循環器の調節、心電図入門	中村
9	ヒトの生物学系統講義-3	ガス交換系	肺の解剖とガス交換のしくみ	中村
10	ヒトの生物学系統講義-4	消化と吸収(1)	消化器の概説と機能	中村
11	ヒトの生物学系統講義-5	消化と吸収(2)	消化酵素と吸収の実際	中村
12	ヒトの生物学系統講義-6	内分泌系	ホルモン作用とその病気	中村
13	演習-1	講義前半の復習	神経生物学のまとめ	中村
14	演習-2	講義後半の復習	ヒトの生物学系統講義のまとめ	中村

評価方法

本講義では項目ごとに到達目標を設定している。この到達度を指標とし、講義中に行う小テスト、出席、定期試験などによって総合的に評価する。

学習方法

講義はプリントとスライドを用いて行う。教科書を特に指定しないが、図書館に参考図書が購入されているので、自習することで、講義内容を理解する。

教科書及び参考文献

参考図書として、

ニューロンの生物学 F. Delcomyn 著 (小倉 訳) ISBN4-524-22431-9 南江堂

ヒューマンバイオロジー人体と生命 S. Mader 著 (坂井 他訳) ISBN4-260-00156-6 医学書院

他については講義に伴って適宜紹介する。

オフィスアワー

質問等あれば、毎週木曜日午後3時～4時に教員室（講義棟3階）にて受け付ける。

自然科学実習（物理学）

担当教員

准教授 久 富 信 之 教務職員 寺 中 正 人

授業概要

基礎的な物理実験技術と原理および実験内容を整理し、まとめる技術の習得を目標にする。具体的には、前半2テーマの基礎コース（全員）と後半1テーマ+発表会のアドバンスコース（選択）の実習・実験を行う。

一般目標

- (1) 基礎的な計測器が使用できるように、物理実験技術を習得する。
- (2) 物理現象の本質的な理解を深めるために、実践を通して、科学的な思考方法を体得する。
- (3) 医療技術の原理を習得する。

行動目標

- (1) オシロスコープ、発振器等の計測器を操作する。
- (2) 電気、磁気、温度および光等を測定する。
- (3) X線技術に触れる。
- (4) 電子回路を理解し、制作する。
- (5) コンピューターによるデータ処理技術を習得する。

評価方法

主として、提出レポートとその考察によるが、実験中の実習態度も加味して評価する。

実習では、現象を正しく捉え、確実なデータをとることはきわめて大切なことであり、また、結果を整理して、解釈を議論し結論を与えることが重要な事項である。結果を処理して、結論づけられる内容を他人に分かりやすくまとめる能力は、将来にも必要なことである。

教科書及び参考文献

テキスト：特別配布資料

オフィスアワー

電子メールアドレス kudomi@med.kagawa-u.ac.jp, teranaka@med.kagawa-u.ac.jp

自然科学実習（化学）

担当教員

教授 小林 良二

准教授 徳光 浩

非常勤講師 獅々堀 彊

授業概要

この実習では化学実験を通して種々の化学反応を用いた分析法を学習する。

また、有機化学は生命体をあつかう学問領域とも密接な関係があり、生体の構成物質である蛋白質、炭水化物、脂質や核酸、ホルモンなどは有機物質である。そこで、蛋白質や遺伝子の分離法、解析法についても実習する。

一般目標

実習を通じて化学反応の基本的概念の理解を深めるとともに、実験器具の取り扱い法や実験データの解析法を習得する。さらに、これら基礎的な知識を統合させ、生命現象を分子レベルで理解できるようにするため蛋白質や核酸の取り扱い等の基礎能力を身につける。

行動目標

- 1) 化学実験における心得と実験器具の取り扱いについて説明できる。
- 2) 酸・塩基滴定の反応と実験データ解析について実習する。
- 3) 吸光光度法分析を用いた定量分析を行う。
- 4) イオン交換樹脂とイオン交換について実習する。
- 5) 各種クロマトグラフィーを用いた定性分析を行う。
- 6) 遺伝子の取り扱い法について実習する。
- 7) 蛋白質の定量法および電気泳動による可視化をおこなう。

授業内容

回	大項目	項目	内 容	担当者
1	実習講義	実験の心得	器具の取り扱いと注意	小林・徳光
2	定量分析	酸・塩基滴定	塩酸を用いた酸・塩基滴定	小林・獅々堀
3		酸・塩基滴定	塩酸を用いた酸・塩基滴定	徳光
4	吸光光度法分析	吸光光度法分析	O-フェナントロリン法を用いた定量分析	徳光・獅々堀
5		吸光光度法分析	O-フェナントロリン法を用いた定量分析	小林
6	イオン交換法	イオン交換法	イオン交換樹脂を用いた定量分析	小林・獅々堀
7		イオン交換法	イオン交換樹脂を用いた定量分析	徳光
8	定性分析	クロマトグラフィー	ペーパークロマトグラフィーおよび薄層クロマトグラフィー	小林・徳光・獅々堀
9		クロマトグラフィー	ペーパークロマトグラフィーおよび薄層クロマトグラフィー	小林・徳光
10	集中実習オリエンテーション	集中実習講義	核酸・蛋白質の取り扱い	小林・徳光
11	遺伝子操作	形質転換	大腸菌への遺伝子導入	小林・徳光
12		遺伝子の単離	大腸菌からの遺伝子単離	小林・徳光
13	遺伝子の可視化	遺伝子の可視化	電気泳動法	小林・徳光
14		定 量	蛋白質の定量法	小林・徳光
15	蛋白質の可視化	蛋白質の可視化	電気泳動法	小林・徳光
16		変異体蛋白質の解析	遺伝子改変蛋白質の操作	小林・徳光
17	実習結果のまとめ	実習結果発表の準備	小林・徳光	
18	学生発表会	実習結果発表	小林・徳光	

学習方法

- 1) 準備したプリント，スライドなどを使って化学実習の知識を理解できるように努める。
- 2) 生物学的考察も必要となるため，参考情報，図書より自学自習に努める。

評価方法

実習毎にレポート提出。レポート，実習の出席，態度を総合的に評価して可否を判定する。

教科書及び参考文献

推薦参考書：R. A. Day & L. Underwood 「定量分析化学」(培風館)

J. Sambrook et al. 「Molecular Cloning」(Cold Spring Harbor Laboratory Press)

自然科学実習（生物学）

担当教員

脳神経生物学教授 板野俊文 脳神経生物学准教授 中村丈洋
脳神経生物学教務職員 豊島哲彦

授業概要

実際に手にとって生物を見てみると、教科書的な知識だけでは理解できない様々な現象がわかってくる。これが実習の醍醐味である。

限られた時間なので多くの実験は行えないが、共通部分では、生物に対する接し方を含め・マウスとヒトで実験を行う一方で、顕微鏡実習では、取扱やスケッチの仕方を含めて実習を行い、基礎医学系の形態観察の基礎を養成する。

生物学選択の部分では、我々が日常行っている研究の内からいくつかの物を取りあげ実験する。これらの実習を通して、作業仮説のたて方、実験の実際、データの解析および解釈の方法を学ぶ。

一般目標

実習の目的をよく理解し、正確な手技を身につけてから実験を行うようにする。得られた結果を正しく評価し、考察を加える。また実際にレポートを書くことによって、科学論文の構成を知り、その方法を習得する。

行動目標

共通部分

板野担当分

コリンズの利き腕判定装置を用いてマウスの利き腕を判定する。得られたデータをコンピューターに入力し有意差判定を行う。

中村担当分

脳および神経機能の理解を深めることを目的として、基本的な神経学的検査所見の取り方を学ぶ。

豊島担当

- (1) ダニの観察：コナダニ、コナヒョウヒダニの標本を用い、顕微鏡の取扱方、生物スケッチの描き方を習得する。
- (2) ヒトの核型分析：G染色を施したヒト染色体の写真を使い、各染色体を同定することでヒト染色体の構成を学習する。

生物学選択の部分

板野担当部分

体温測定装置（A v i o）を用いて、運動前後の体表面での体温変化を測定する。このデータをコンピューターに入力し、解析ソフトを用いて、実際の体温変化を数値化する。このデータを統計解析ソフトを用いて解析し、グラフ表示や有意差検定を行う。

中村担当分

疾患モデル動物の作製とその評価方法について学習する。

第一日目：疾患モデルの一つとして、脳卒中モデル動物を作成する。砂ネズミをネンブタールにて麻酔し、頸部にハサミをいれ、両側総頸動脈を出し迷走神経よりきれいに剥離する。両側総頸動脈を脳動脈瘤クリップにて5分間閉塞する。その後再灌流し、皮膚を縫合してケージに戻す。本実習では動物に手術を施行するので、医学研究の心構えも学習する。

第2日目：虚血脳へのヘマトキシリン・エオジン染色を行い、組織観察・スケッチを行う。正常脳組織との違いについて考察する。

豊島担当分

野外で蚊を採集し、鳥マラリア感染の有無を調べることで伝染病の野外調査について学習する。

授業内容

回	大項目	項目	内容	担当者
1	基礎コース	生物実習説明		板野
2		実験動物の実習	マウスの利き腕の決定	板野
3				
4		ヒトの実習	基本的神経学的観察方法	中村
5				
6		顕微鏡観察	ダニ観察	豊島
7				
8				
9		染色体の観察	ヒトの核型分析	豊島
10	集中実習コース		運動による体温の変化	板野
11				
12			脳虚血の実習	中村
13				
14			伝染病の野外調査	豊島
15				
16				

学習方法

実際に生物に触れ、直接に手術をするような機会もあるので、積極的に参加する。

そのためには、前もって配付されるプリント等で、実験の目的は何であるか、また手技等はどのような方法か？をよく理解しておくことが必須である。また当初予想された結果と異なる結果を得たとしても、直ちに失敗とするのではなく、どうしてそうなったのかを考察することも重要なことである。

小グループで行われる実験では協力してチームワークをどのようにとるかも、実験を成功させる要因である。

評価方法

実習態度を評価する。各実習ごとにレポートを提出する。これらを総合して合否判定を行う。

教科書及び参考文献

各実習ごとにプリントを配付し、実際の手順を解説する。

推薦参考書：R. A. Day & L. Underwood「定量分析化学」(培風館)

J. Sambrook et al.「Molecular Cloning」(Cold Spring Harbor Laboratory Press)

情報科学実習

担当教員

教授	横井 英人
准教授	上村 幸司
特命助教	山肩 大祐
教務職員	寺中 正人

授業概要

情報化社会と言われる現在、他の学問分野と同様に医学・医療の領域においても、情報処理に関する知識はますます重要なものとなりつつある。医療機器の制御、医療データの解析、人工知能を応用した医療診断システムの利用、そしてネットワークを介した医療データベースのアクセス等、膨大な医学、医療情報を取捨選択し、複雑な状況下で適切な判断を下すためには、コンピュータを操作できる能力が必須条件である。本講義では、情報科学の基礎的事項、さらに情報処理の基礎的知識・技能の習得を目的とする。特に実際にコンピュータに触れながらプログラムやアプリケーションソフトの使用の体験を通じて、実際の情報処理能力を培うことに重点がおかれる。

一般目標

コンピュータの仕組みを理解するとともに、パーソナルコンピュータにできる限り触れることにより、計算機を操作する能力を身につけ、ワードプロセッサや表計算などの使用法や、プログラムの基礎を学ぶ。データ解析について学ぶ。

行動目標

- コンピュータの仕組みを理解し、パーソナルコンピュータを操作できるようになる。
- ワードプロセッサや表計算等のアプリケーションソフトを利用できるようになる。
- 電子メールのシステムを理解し、使用できるようになる。
- 簡単なプログラムの流れが理解できるようになる。
- データ処理の基本を理解する。
- 電子カルテに触れ、その概念を理解する。

授業内容

回	項目	内容	担当者
1, 2	情報科学概説	情報科学の概念、成り立ち、実際	横井
3, 4	ユーザー・インターフェース	Windows の使用方法	寺中
5, 6	電子メール	電子メールのシステム	寺中
7, 8	インターネット	URL、DNS、ブラウザ、HTML	寺中
9, 10	画像の処理 (1)	画像形式、動画作成	寺中
11, 12	画像の処理 (2)	IrfanView、GIMP	寺中
13, 14	ワードプロセッサ・表計算 (1)	ワープロの基本的な使用法、表の作成、罫線の使い方、表現	横井
15, 16	表計算 (2)	各種関数の使い方、統計機能、グラフ表示	横井
17, 18	表計算 (3)	各種関数の使い方、統計機能、グラフ表示	横井
19, 20	発表スライドの作成	プレゼンテーション用ソフトの使用法	横井
21, 22	データベース (1)	リレーショナルデータベースの扱い方	横井
23, 24	データベース (2)	リレーショナルデータベースの扱い方	横井
25, 26	プログラミング	Java Script、Visual Basic for Applications (VBA) 他	寺中
27, 28	電子カルテ概論	電子カルテの概念習得、標準規格	横井
29, 30	試験	総合試験	横井・寺中

評価方法

実習を中心とする授業であるので、出席を重視し、何回かの課題、学期末の筆記試験等を総合して評価する。

学習方法

授業の空き時間などを利用して積極的にパーソナルコンピュータに触れ、色々と自分で試してみたり、確かめてみたりすることを期待する。興味を持って自分から積極的に取り組むことにより、理解が深まる。電子メールやアプリケーションソフトなどを利用して情報の収集、加工を行う経験を積んで欲しい。

教科書及び参考文献

教科書等は追って指示する。

医用統計学（生命情報統計学）

1年次生 I - 7 参照

保健医療福祉看護・介護論

担当教員

教授 岡田 宏基 (医学教育学講座, コーディネータ)

教授 松井 妙子 (地域・精神看護学講座)

教務職員 住谷 和則 (医学教育学講座)

協力者 医学部附属病院看護部、薬剤部、理学療法部、
栄養管理室、地域連携室

授業概要

今日、医療のあるべき姿に対応して、教養を備えた人間性豊かで、健康増進から予防、治療、リハビリテーションにわたる全人的、包括的医療の実践ができる医師の養成が求められている。また少子高齢化社会の進展などの社会的背景とも相俟って、保健・福祉・看護・介護・リハビリテーションに精通し積極的に取り組んでいける医師の養成が求められており、これらと協調した医学教育の充実を図る必要が生じている。特に、保健医療福祉の各分野において、看護は主要な構成要素であり、また社会（患者等）からは、これらの分野を通じての継続性（継続看護）も求められおり、全人的医療の実践には不可欠な要素である。看護の良否は医療の評価に係わってくる重要な要件であり、医学と看護学は協調して良質な保健医療福祉を社会に提供する責務を負っている。

以上の観点より、良き医師となるために、講義で看護の対象と看護援助を学ぶとともに、臨地実習での見学などを行い、主に看護職者がどのようにケア技術を活用し対象に看護を提供しているのかを体験する。それらを通して、対象と看護ケアについての理解を深めるとともに、医師と看護師、他の保健医療職者との連携・協働のあり方について自らの考えを明らかにする。

一般目標

1. 保健・福祉・看護・介護・リハビリテーションに精通し積極的に取り組む良き医師となるため、とくに全人的、包括的医療と看護の関係について理解する。
2. 保健・医療チームにおける看護職の役割と機能について理解する。
3. 看護の対象のとらえ方や援助のあり方について理解する。
4. 2、3をとおして保健・医療チームメンバーにおける医師の役割と連携のあり方を理解する。

行動目標

1. 全人的、包括的医療における看護・介護・リハビリテーションの意義・役割を論述する。
2. 保健・医療チームで働く看護職の役割と機能について説明できる。
3. ケアを受ける対象を生活者として捉え説明できる。
4. 保健・医療チームにおける医師の役割と連携のあり方について説明できる。
5. 看護ケアにおける安全・安楽・安寧の意義について説明できる。

授業内容

回	大項目	項目	内 容	担当者
1	講 義	オリエンテーション	学習目標・学習方法・評価方法と講義展開 看護の対象と看護援助	岡田・松井
2			病院実習オリエンテーション	病院スタッフ・看護部・岡田・住谷
3		病院の専門職の 機能と役割	看護部、薬剤部、治験管理センター、理学療法室、緩和ケアチームの機能と役割、NST、感染予防室、安全管理室、認定看護師、医療ソーシャルワーカーの機能と役割	病院スタッフ・看護部・岡田・住谷
4				
5				
6	臨地実習	病院見学実習 (前半)	前半学生：見学実習 後半学生：自主学习	看護部・岡田・住谷
7				
8		病院見学実習 (後半)	前半学生：自主学习 後半学生：見学実習	
9				
10	演 習	グループ学習	まとめ・発表準備	看護部・岡田・住谷
11			発表会	

学習方法

講義・臨地実習，グループワークや自己学習，発表などを組み合わせて行う。授業には積極的に参加し，主体的に学習を行うこと。

評価方法

講義・臨地実習，グループワークや自己学習において，発表態度，出席，レポート等による総合評価。

教科書及び参考文献

その都度提示する。

保健指導・カウンセリング・チーム医療の基礎

担当教員

教授	村尾孝児	(先端医療・臨床検査医学)
教授	岡田宏基	(医学教育学)
准教授	久郷敏明	(保健管理センター)
准教授	鈴江毅	(公衆衛生学)
教務職員	住谷和則	(医学教育学)
非常勤講師	松岡久美子	(香川大学教育学部附属高松中学校)
	宮前善和	(香川大学教育学部)
	竹森元彦	(香川大学教育学部)
	大西聡、藤川愛	(高松市保健所)
	二宮昌樹	(徳島文理大学香川薬学部)
	新見道夫	(香川県立保健医療大学)
	中田敬司	(東亜大学医療工学部)
	井上和臣	(鳴門教育大学)
	高橋圭三	(東雲女子大学)

授業概要

保健指導・カウンセリング・チーム医療の基礎は、保健医療福祉におけるさまざまな活動のうち、特に個人や集団の心理や行動に対してアプローチする考え方と方法を習得することを目標とする。個人や集団の行動は、単に個人や集団の意思のみにより行われるものではなく、社会・環境と密接な関わり合いを持ちながら形成される。保健指導・カウンセリング・チーム医療の基礎に対する理解を深めることによって、将来、保健医療福祉を実践する上での基礎的知識を習得し、基本的態度を身につける。

一般目標

(1) 保健指導

個人と周囲の環境への働きかけの方法である教育を理解するために、教育心理、行動科学およびストレスに対する心身の反応等の概論を習得し、その保健医療福祉への適用として、保健指導についての基礎的知識を身につける。なお、医師法でも医師による保健指導の義務が定められているように、医師にとって保健指導の知識は必須なものであるから、保健指導の理論と、主として診療現場における生活指導を含めた保健指導の実際を理解する。

その上で健康教育についても学習する。健康教育は疾病予防、とりわけ疾病の一次予防のための大きな手段であるとともに、いきいきとした日常生活（QOLの向上）を送るための働きかけの技術である。ここでは、健康教育の基礎理論を習得し、健康教育の企画、教材づくりの経験を通して健康教育のシミュレーションを実施することにより健康教育の実践のための基礎的事項を理解する。

(2) カウンセリング

個人の行動に対して臨床心理学的にアプローチする方法としてのカウンセリングを理解する。カウンセリングの基礎を習得し、主として患者心理を中心に臨床現場におけるカウンセリングについてロールプレイング等の実習を行い、その実際をシミュレーションにて習得する。

(3) チーム医療の基礎

医療現場においては、利用者に質の高い医療を提供するために、複数の診療科によって組織されるチーム医療の重要性が高まっている。そのためには、医師間はもちろん、他職種と円滑な連携を取ることが求められる。ここでは、チーム医療の基礎理論と、シミュレーション等を用いてチーム医療の実践を理解する。

行動目標

1. 教育の理論について説明し、また、保健指導の実際について説明する。
さらに、健康教育の理論について説明し、健康教育の実際について説明する。
2. カウンセリングの理論について説明し、カウンセリングの実際について説明する。
3. チーム医療について説明し、チーム医療の実際について説明する。

授業内容

回	大項目	項目	内容	担当者
1	保健指導	オリエンテーション	本コースの意義と全体の概説	岡田
2		保健指導概説	保健指導の概念	久郷
4		健康教育概説	健康教育の理論と発展	鈴江
7		保健指導の実際	生活習慣病の保健指導	村尾
13,14		健康教育の実際1	保健所における健康教育の実際	大西(筒井、藤川)
15		健康教育の実際2	学校保健における健康教育の実際	松岡
16		グループワークオリエンテーション	健康教育グループワークの意義と進め方	鈴江、住谷
19		健康教育グループワーク	健康教育シミュレーション実習(企画、教材作成)	岡田、鈴江、住谷
22,23		健康教育発表会	健康教育シミュレーション実習(発表)	岡田、鈴江、住谷
3	カウンセリング	カウンセリングの概要	カウンセリングの基本的理解	竹森
5,6		行動科学概説	行動科学の基礎	宮前
8,9		認知療法とカウンセリング	認知療法とカウンセリングについての講義と実習	井上
10,11		心理テストと心理カウンセリング	カウンセリング実習(心理測定・ロールプレイ等)	高橋
17,18	チーム医療の基礎	チーム医療の実際①	チーム医療における看護師、臨床検査技師の役割(香川県立保健医療大学において実施)	新見
20,21		チーム医療の実際②	チーム医療における薬剤師の役割(徳島文理大学香川薬学部において実施)	二宮
24,25,26		チーム医療の実際③	チーム医療の実際・実習	中田

※これらのうち、チーム医療の実際①および②は、3大学連携事業として実施するものである。

学習方法

基礎的事項の解説に加え、関連領域の実際例を用いた講義（診療現場での保健指導など）を重視する。なお、健康教育実習では健康教育の企画、教材開発などのシミュレーションを行い、また、カウンセリングやチーム医療の実際ではロールプレイング演習など、小演習を取り入れる。

評価方法

試験（小テストを含む）、レポート、学習態度等により総合的に評価する。

教科書及び参考文献

各教員によりその都度指示する。

オフィスアワー

水曜日 16:30 ～ 17:30

分子生物学

担当教員

教授 神鳥 成弘

准教授 吉田 裕美

授業概要

今日の分子生物学の進歩はめざましく、医学の発展にも大きく貢献している。ここでは、分子生物学の基礎となる、生体分子の分子構造とそれらが持つ機能との関係、および、分子レベルでの遺伝子の構造、複製、修復、組換え、転写、翻訳、発現の調節、についての講義を行う。

一般目標

生命現象の基本原理を分子レベルで理解し、医学・薬学的応用を易とするために、生体分子の構造と機能との関係、遺伝情報の伝達と発現について習得する。

行動目標

- 1 分子生物学の学術用語を説明する。
- 2 生体分子の構造について理解する。
- 3 ミオグロビン・ヘモグロビン、筋肉収縮、抗体の構造と機構について分子レベルで理解する。
- 4 生命現象における分子生物学のセントラルドグマを理解する。
- 5 遺伝子の構造・発現調節機構について理解する。

授業内容

回	大項目	項目	内容	担当者
1	生体分子	アミノ酸とタンパク質の一次構造	アミノ酸の化学	神鳥
2		タンパク質の三次元構造	タンパク質の高次構造とフォールディング	神鳥
3		核酸の構造	DNAらせん、染色体の構造	神鳥
4		タンパク質の機能	ミオグロビンとヘモグロビン、筋肉収縮、抗体	神鳥
5		単糖と多糖	単糖、多糖、糖タンパク質	神鳥
6		脂質と生体膜・膜輸送	脂質の化学、生体膜、能動輸送、受動輸送	神鳥
7		酵素触媒	酵素の一般的性質と触媒反応機構	神鳥
8	遺伝子の発現と複製	DNA:複製、修復、組換え(1)	DNA複製の諸酵素	吉田
9		DNA:複製、修復、組換え(2)	原核・真核細胞のDNA複製と修復	吉田
10		転写と翻訳(1)	転写制御と転写後修飾	吉田
11		転写と翻訳(2)	タンパク合成におけるRNAの役割、RNAポリメラーゼ	吉田
12		中間テスト		神鳥
13		転写と翻訳(3)	遺伝暗号、転移RNA、リボソーム	吉田
14		遺伝子発現の調節(1)	原核生物の遺伝子発現調節	吉田

評価方法

- 1) 中間および学期末筆記試験を行い、学習達成度を評価する。
- 2) 理解度を評価するため、レポート提出を求めることもある。

学習方法

授業の復習に重点をおくこと。授業中、理解不足な箇所は、教科書を復習しておくこと。また、現在、分子生物学に関する多くのサイトが開設されている。こういったサイトに入って、分子生物学の最前線をのぞいてほしい。

教科書及び参考文献

D. Voet, J. G. Voet, P. Charlotte 著, ヴォート基礎生化学第3版, 東京化学同人, 2010年第1刷発行, (日本語訳, 田宮・村松・八木・遠藤 訳)

オフィスアワー

水曜日の昼休み

ただし、メールにてアポイントメントをとる場合は、この限りではなく随時受付ける。

e-mail : kamitori@med.kagawa-u.ac.jp (神鳥) h.yoshi@med.kagawa-u.ac.jp (吉田)

解剖学 I (2年)

担当教員

教授	竹内 義喜	非常勤講師	筒井 公子 (岡山大学 教授)
准教授	三木 崇範	非常勤講師	伊藤 正裕 (東京医科大学 教授)
学内講師	割田 克彦 (研究休職)		
助教	太田 健一		

授業概要

解剖学は、人体の正常な構造を明らかにする学問である。そのために必要な分野として、肉眼解剖学、組織学、発生学がある。このうち解剖学 I では、末梢神経学、中枢神経学、発生学、筋学、脈管学、内臓学の各講義および、系統解剖学実習、脳実習を担当する。これらの実習は全て御遺体を用いて行うことになるので、医学生が大学に入学して最初に人体に接する機会ともなる。言うまでもなく、この御遺体は医学発展のために自らの意志によって本学に献体されたものであるから、学生はこれに応えるため、予習、復習を充分に行って実習に臨まなければならないし、また、実際にそれをやらないと実習についていけなくなる。系統解剖学実習に献体による御遺体が必要不可欠である理由は二つある。その一つは、医学生が人体解剖実習を行う時、人間一人一人の顔付や指紋が違っている様に、各個人の血管、神経、筋肉や内臓などの各器官、組織がそれぞれ微妙に異なっており、成書に記述されている通りではないことを知ると同時に、将来臨床医学を学ぶ時、患者さん一人一人に細心の注意を払って診察にあたる心がけの基礎が培われる。もう一つの理由は、医学生が将来立派な良い医者になって下さる様、全くの善意で自らの体を献体して下さった方々の無言の態度を解剖学実習室で目のあたりにした時、いかに医学生をして将来この方々の御意志に報いるよう、自分も立派な医者になろうと決意を新たにするかということである。長い医学教育過程にあたって、自らの手で人体を解剖することのできるのはこの系統解剖学実習の時だけであるから、学生は十分この機会に献体に対する感謝の気持ちを持って人体構造の知識の習得にあたるとともに、その期待に応えるよう努力しなければならない。

一般目標

人体の基本的構造を学習し、中枢・末梢神経系の機能や発生・発育過程および心血管系の循環機構を理解する能力を身につける。

将来臨床医学においてCT、MRI等の画像読解に必要な不可欠である人体の立体的構造解析の基礎知識を修得する。

行動目標

1. 大脳・小脳・脳幹・脊髄の構造と主な神経路および神経機能を説明できる。
2. 脊髄神経・自律神経の走行、分布および機能を説明できる。
3. 人体の正常発生のメカニズムについて説明できる。
4. 心臓の構造と循環機構を説明できる。
5. 動脈・静脈(門脈)およびリンパ系の走行と分布を述べることができる。
6. 人体を構成する骨・筋・靭帯をはじめ消化器系、呼吸器系、泌尿器生殖器系、内分泌系等の諸器官の形態と機能を述べることができる。

授業内容

回	大項目	項目	内容	担当者
1	中枢神経学	神経細胞	髄膜(脳膜), 脳の血管, 脳神経, 大脳の回, 溝 機能的局在 脳室, 脳脊髄液 神経核及び神経回路	竹内
2		グリア細胞		竹内
3		大脳表面		竹内
4		大脳皮質		竹内
5		大脳辺縁系		竹内
6		大脳の内部構造		竹内
7		大脳の内部構造		竹内
8		脳幹		竹内
9		小脳		竹内
10		脊髄		竹内
予備		竹内		
1	末梢神経学 I	総論	頸神経叢, 腕神経叢 腰神経叢, 仙骨神経叢 交感神経・副交感神経	太田
2		脊髄神経		太田
3		脊髄神経		太田
4		自律神経		太田
1	脈管学	総論	血管の構造, 体循環, 肺循環, 動静脈の主幹の走行 心臓の位置, 心膜, 冠状血管, 内部構造, 胎児循環 S-A node, A-V node, His 束, 右脚, 左脚 頭頸部の動静脈 胸腹部の動静脈 上・下肢の動静脈 リンパ系総論, リンパ節の位置, リンパ液の流れ	竹内
2		心臓の構造		竹内
3		刺激伝導系		竹内
4		頭頸部の脈管		竹内
5		胸腹部の脈管		竹内
6		上・下肢の脈管		竹内
7		リンパ系		竹内
1	発生学 I	総論 (1)	概論 生殖器の解剖, 生理 精子発生, 卵子発生, 受精～着床まで 二層性胚盤 三層性胚盤	三木
2		総論 (2)		三木
3		総論 (3)		三木
4		総論 (4)		三木
1	内臓学	循環器系	循環器系—心臓、血管、リンパ系 呼吸器系 —気管・肺 消化器系 1 —肝臓、胆嚢、膵臓 消化器系 2 —十二指腸、小腸、大腸 尿路系 生殖器系—男性生殖器、女性生殖器 内分泌系 神経系—脳と脊髄	三木
2		呼吸器系		三木
3		消化器系 (1)		三木
4		消化器系 (2)		三木
5		尿路系		三木
6		生殖器系		三木
7		内分泌系		三木
8		神経系		三木
1	脳実習		髄膜と血管, 脳神経 脳の表面(回, 溝), 大脳内側の血管 大脳内側面, 大脳の内部構造, 小脳 上記内容の再観察	全員
2				全員
3				全員
4				全員

5			脳幹, 脊髄, 総括	全 員
6			中枢神経学・脳実習試験	全 員
1	系統解剖 実習 I		§ 1 首・胸・腹部の体表観察と皮切り, § 2 広頸筋と乳腺, § 3 胸腹部の皮静脈と皮神経, § 4 大胸筋と外腹斜筋, § 11 腕の皮切りと腕神経叢, § 12 上腕屈側の筋と神経, § 33 臍, § 53 下肢の皮静脈と皮神経	全 員
2			§ 5 頸神経叢の枝と胸鎖乳突筋, § 8 首のやや深層, § 9 胸部の深層と腋窩, § 10 鎖骨下動静脈とその枝, § 21 上肢の血管と神経のまとめ, § 22 肩の関節と周辺, § 23 肘の関節, § 38 § 72 首の深層	全 員
3			§ 6 背中 of 皮切り, § 7 背中 of 浅深筋, § 13 肩甲骨の前 面の筋, § 14 上腕伸側と肩甲骨背面の筋, § 15 上肢の切 り離し, § 16 前腕屈側の浅い層, § 26 胸腰筋膜と固有背 筋, § 27 後頭下の筋, § 54 大腿筋膜と大殿筋	全 員
4			§ 17 前腕の伸側と手背, § 18 手のひらの皮切りと手掌腱 膜, § 19 § 20 手のひらの浅い層・深い層, § 24 手首の関 節, § 25 手と指の関節, § 28 脊髄, § 56 殿部深層	全 員
5			§ 55 大腿前面の深層, § 57 大腿後面の深層, § 58 膝窩と 下腿後面, § 59 下腿前面と足背, § 60 § 61 足底・下腿の 最深層, § 62 膝の関節, § 63 足の関節	全 員
6			§ 9 胸部の深層と腋窩, § 29 胸壁, § 30 単径部と側腹筋 群, § 31 腹直筋鞘, § 32 横筋筋膜と腹膜, § 35 胸腔を開 く, § 36 胸膜と心膜, § 37 肺, § 39 縦隔, § 40 心臓の外景	全 員
7			§ 34 腹部内臓の原位置での観察, § 41 心臓の内景, § 42 縦隔の深部, § 43 腹部内臓の位置, § 44 腹膜と腹膜腔, § 45 腹部内臓に分布する血管と神経, § 46 空腸と回腸と 結腸, § 47 胃, § 48 肝臓	全 員
8			§ 49 十二指腸・膵臓・脾臓, § 50 腎臓と副腎, § 51 後胸壁 と後腹壁, § 52 横隔膜と腰神経叢, 下半身切り離し, § 64 膀胱とその周辺	全 員
9			§ 65m 男性の外陰部と精巣, § 65f 女性の外陰部, § 66m 男性の会陰, § 66f 女性の会陰, § 67 骨盤の切半	全 員
10			§ 68m § 70m 男性の骨盤内臓の位置, § 68f § 70f 女性 の骨盤内臓の位置, § 69 骨盤の血管と神経, § 71 骨盤壁の 筋と股関節	全 員
11			系統解剖実習 I 試験	全 員

学習方法

解剖学は生理・生化学などとは異なり形態学であるので、系統解剖実習などを中心に授業が行われ、講義は総論のみである。それゆえ、学生は実習を行いながら自ら積極的に学習すべきである。発生学では一つの細胞が増殖、分化し、種々の臓器・組織が形成され、一個体となるまでを学習するが、この過程を十分に理解しておかなければ、正常人体の構造や将来臨床科目において種々の疾病を理解する際に余分の時間と労力を費やすことになる。発生学は実習がなく講義のみであるので、特に授業を大切に、自らも参考書、図譜を参照して十分に勉強すべきである。

系統解剖実習では、下記参考書のうち、解剖実習の手引き（南山堂）・ネッター解剖学アトラス（南江堂）が必須である。

評価方法

1. 中枢神経学，末梢神経学 I，脈管学，発生学 I，内臓学等のペーパー試験を行なう。
2. 系統解剖実習（I）試験，脳実習試験を行なう。

教科書及び参考文献

辞書

1. Nomina Anatomica Japonica（日本解剖学会編）丸善
2. 図解解剖学辞典 医学書院
3. ドーランド図説医学大辞典 廣川書店
4. ステッドマン医学大辞典 メディカルビュー社

実習の手引き

1. 解剖実習の手引き 寺田春水，藤田恒夫 南山堂

アトラス

1. ネッター解剖学アトラス Frank H. Netter (著)，相磯 貞和 (訳)，南江堂
2. ハインズ神経解剖学アトラス 山内昭雄，メディカル・サイエンス・インターナショナル
3. 図説中枢神経系，水野・岩堀・中村 (訳)，医学書院
4. グラント解剖学図譜 山下 廣訳ら (訳)，医学書院
5. Atlas of Human Anatomy Vol. 1, 2, 3 (Sobotta&Becher) [図説人体解剖学 1, 1, 3 訳]
6. Color Atlas of Human Anatomy, R. M. H. McMinn&R. T. Hutchings 医学書院
7. Color Atlas of Anatomy, Rohen Yokochi, 医学書院
8. 解剖学アトラス 越智淳三 (訳)，文光堂

成書

1. 分担解剖学 (全3巻)，金原出版
2. 解剖学講義 伊藤 隆 (著)，南山堂
3. Core Text of Neuroanatomy, M. B. Carpenter, 廣川書店
4. ラングマン人体発生学, T. W. Sadler (著)，医学書院MYW
5. スネル臨床解剖学 RS. Snell (著)，山内 昭雄 (訳) メディカル・サイエンス・インターナショナル
6. Gray's Anatomy, I, II, III, 廣川書店
7. Textbook of Human Anatomy, Hamilton, Maruzen/MacMillan

8. Cunningham's Textbook of Anatomy, G.J. Romanes, Oxford University Press
9. Human Neuroanatomy, M. B. Carpenter, Williams&Wilkins
10. 日本人体解剖学 (全3巻) 金子 丑之助 (原著) 金子勝治, 穂田真澄 (改著), 南山堂
11. 神経解剖学 テキストとアトラス, 西村書店
12. カラースケッチ 解剖学 嶋井和世 (監訳), 廣川書店
13. Gray's Anatomy for students, Richard L. Drake, Elsevier
14. イラスト解剖学, 松村譲児 (著), 中外医学社
15. 臨床人体発生学, 岡本直正, 南江堂
16. 人体発生学, K. L. Moore, 医歯薬出版
17. スネル臨床発生学, R. S.Snell (著), 山内昭雄, メディカル・サイエンス・インターナショナル
18. ムーア臨床解剖学, 坂井建雄 (訳), メディカル・サイエンス・インターナショナル

オフィスアワー

当講座は必ず勤務時間内に教員がいるので随時可能。

解剖学Ⅱ

担当教員

教授	荒木伸一	非常勤講師
准教授	三宅克也	波多江種宣（香川大学名誉教授）
助教	江上洋平	
助教	藤井誠	

授業概要

解剖学は正常な人体の構造を研究する学問であり、医学の体系の中でも基礎中の基礎となる領域です。将来、臨床医になる人も基礎医学研究者になる人も、まず解剖学(Anatomy)で人体の形態と構造を学び、生理学(Physiology)で役割と機能を学ぶことから医学の学習が始まる。人体の正常な構造と機能の正確な理解によって、異常な状態、病気の成り立ちを知ることができ、その診断や治療法へとつながる。

解剖学は大きく分けて、肉眼解剖学、組織学（顕微解剖学）、神経解剖学、発生学に分けられる。解剖学Ⅱでは、骨学（Osteology）と組織学(Histology)を分担する。骨学は、肉眼解剖学の一部をなすもので、実習室での人骨標本の観察から、個々の骨の形態、名称を覚えるとともに身体の支柱、運動器としての骨格系の働きを学習する。

組織学は、人体の構造、成り立ちを肉眼レベルから光学顕微鏡レベルさらに電子顕微鏡レベルへと追究し、機能との関連を学ぶ。組織学の講義内容は、総論と各論に区分される。総論では、生命体の構成単位となる細胞についてと、細胞と細胞間質の特徴的な配列によって構成される基本的な組織の構造、特性について学ぶ。各論では、総論で学習した組織の知識をふまえ、さらにその組み合わせによって構成されている全身の器官・臓器について個々の構造を学習し、なぜそのような構造をしているのかを、その器官・臓器の働きと関連づけて理解する。

一般目標

人体の構造についての知識を習得すると共に機能や臨床医学との関連を考察し、問題解決能力を培う。

骨学実習、組織顕微鏡実習を通じ、観察力、医学的洞察力を培う。

行動目標

1. 人体を構成する細胞、組織の基本構造と特性を理解する。
2. 正常な人体の各部の形態や構造を肉眼レベルから顕微鏡レベルまで理解し、機能と関連づけることができる。
3. 顕微鏡の操作・観察法を習得し、観察眼を養う。
4. 骨格系の概要、個々の骨の形態、名称を理解する。

授業内容

回	大項目	項目	内 容	担当者
1	骨学講義 および実習	解剖学総論	解剖学の定義, 解剖学の内容, 解剖学の方法 医学における解剖学の発達, その意義, 骨学総論, 関節学, 靭帯学	荒 木
2		椎骨と脊柱	脊柱を構成する骨, 椎骨の基本的形状, 頸椎, 胸椎, 腰椎, 仙骨, 尾骨, 椎骨相互の連結, 脊柱の弯曲, 脊柱の運動性, 動物の脊柱との比較	荒木他
		胸 郭	胸郭を構成する骨, 胸骨, 肋骨, 胸骨と肋骨の連結, 肋骨と胸椎の連結, 胸郭の概観	荒木他
3		上 肢 帯	鎖骨, 胸骨と鎖骨の連結, 肩甲骨, 肩甲骨と鎖骨の連結	荒木他
		自由上肢骨	上腕骨, 上腕骨と肩甲骨の連結, 橈骨, 尺骨, 上腕骨・橈骨・尺骨の間の連結, 手根骨, 手根の連結, 中手骨, 手根骨と中手骨の連結, 手の指骨, 中手骨と基節骨の連結, 手の指骨の間の連結	荒木他
4		下肢帯と骨盤	寛骨, 腸骨, 坐骨, 恥骨, 仙骨と腸骨の連結, 恥骨間の連結, 骨盤	荒木他
5		自由下肢骨	大腿骨, 寛骨と大腿骨の連結, 膝蓋骨, 脛骨, 大腿骨・膝蓋骨・脛骨の連結, 腓骨, 脛骨と腓骨の連結, 足根骨, 距骨と下腿骨の連結, 足根骨の間の連結, 中足骨, 足根骨と中足骨の連結, 足の指骨, 足の骨格の概観	荒木他
6		頭蓋の概観	頭蓋の構成, 脳頭蓋の概観, 顔面頭蓋の概観, 頭蓋の構成, 脳頭蓋の概観, 顔面頭蓋の概観, 頭蓋の規準位	荒木他
7		脳 頭 蓋	頭蓋冠の外側, 頭蓋冠の内側, 頭蓋冠の断面, 内頭蓋底, 外頭蓋底, 環椎と後頭骨の連結	荒木他
8		顔 面 頭 蓋	眼窩, 頬骨弓, 鼻腔, 副鼻腔, 骨口蓋, 翼口蓋窩を中心として, 下顎骨, 側頭骨と下顎骨の連結	荒木他
9		個々の頭蓋骨	前頭骨, 頭頂骨, 後頭骨, 蝶形骨, 側頭骨, 篩骨, 下鼻甲介, 鋤骨, 鼻骨, 涙骨, 上顎骨, 頬骨, 口蓋骨, 下顎骨, 舌骨	荒木他
10	復 習			
11	実 習 試 問	骨標本を用いての試験	全 員	
1	組織学総論講義 および実習	組 織 学 総 論	組織学序論	
		細 胞 1	細胞質, 細胞膜, 小胞体, ゴルジ装置	荒 木
2		細 胞 2	エンドゾーム, ライソゾーム, ペルオキシゾーム	荒 木

3		細胞 3	細胞骨格, 核, 細胞分裂, 顕微鏡および顕微鏡標本の貸与	荒 木
4		上皮組織	上皮細胞の分化, 上皮組織の分類とそれぞれの構造	江 上
5			顕微鏡実習	
6		結合組織	結合組織の細胞要素, 非細胞要素	藤 井
7			顕微鏡実習	
8		結合組織	結合組織の分類とそれぞれの構造	藤 井
9			顕微鏡実習	
10		軟骨組織	軟骨組織	三 宅
11			顕微鏡実習	
12		骨組織	骨組織	三 宅
13			顕微鏡実習	
14		筋組織	平滑筋, 横紋筋, 心筋	荒 木
15			顕微鏡実習	
16		神経組織	神経細胞, 神経線維, シナプス, 神経膠細胞	荒 木
17			顕微鏡実習	
18	組織学各論	血液	血液の構成成分と白血球の分類	三 宅
19	内臓学 感覚器学 講義および実習		顕微鏡実習	
20		骨 髄	骨髄および造血	三 宅
21			顕微鏡実習	
22		組織学総論試	ペーパー試験	全 員
23		脈管系	動脈, 静脈, 毛細血管, リンパ管	三 宅
24			顕微鏡実習	
25		防御系	リンパ節, 扁桃, 脾臓, 胸腺	三 宅
26			顕微鏡実習	
27		消化器系 1	口腔, 歯, 舌, 口蓋, 咽頭	荒 木
28			顕微鏡実習	
29		消化器系 2	食道, 胃, 小腸	荒 木
30			顕微鏡実習	
31		消化器系 3	大腸, 虫垂, 唾液腺(耳下腺, 顎下腺, 舌下腺)	荒 木
32			顕微鏡実習	
33		消化器系 4	肝臓, 胆嚢, 膵臓	荒 木
34			顕微鏡実習	
35		呼吸器系	鼻腔, 喉頭, 気管, 気管支, 肺	三 宅
36			顕微鏡実習	
37		泌尿器系 1	腎臓	荒 木
38			顕微鏡実習	
39		泌尿器系 2	尿管, 膀胱, 尿道	荒 木
40			顕微鏡実習	

41	内 分 泌 系 1	下垂体, 松果体, 上皮小体, 副腎, 甲状腺	三 宅
42		顕微鏡実習	
43	内 分 泌 系 2		三 宅
44	生 殖 器 系 1	男性生殖器, 精子形成	江 上
45		顕微鏡実習	
46	生 殖 器 系 2	男性生殖器	江 上
47		顕微鏡実習	
48	生 殖 器 系 3	女性生殖器, 卵形成	江 上
49		顕微鏡実習	
50	生 殖 器 系 4	女性生殖器	江 上
51		顕微鏡実習	
52	皮 膚	手掌, 頭皮	荒 木
53		顕微鏡実習	
54	感 覚 器 系 1	視覚器(眼球, 眼瞼)	荒 木
55		顕微鏡実習	
56	感 覚 器 系 2	嗅覚器, 聴覚平衡覚器(蝸牛, 三半規管, 前庭)	荒 木
57		顕微鏡実習	
58	復 習	顕微鏡実習開放日	
59			

学習方法

一回完結方式、すなわち、講義で学習した内容を同日実習室で実物標本の観察を行うことで、得た知識を自らが確認し、定着させる教育方法をとっている。

解剖学分野における学習内容は、膨大で学生には無限とも感じさせる。コアとなるところ、すなわち要点をしっかり理解した上で、重要な基本事項から覚えるのが最も良い学習法であろう。講義室へ望む前に、ざっとでも良いからテキストなどを読んで予習をしてきてもらいたい。前もって少し専門用語に触れるだけでも、講義への興味、理解度は随分違うものである。予習をせずに、講義実習に臨むのは、全く知らないところへ、地図を見ずに乗り込むようなものである。

講義で学んだ知識を自ら直ぐに実習で確認定着させる一回完結方式の教育効果は非常に高いようである。しかし、講義内容を全く理解していない場合には、実習も無意味なものになってしまう。たまに、実習室で「今日は何をスケッチすればよいのですか。」ととぼけた質問を教員にする学生がいるが、これは、自分が講義を全く聞いていなかったといっているのと同じである。このような状態で実習をしても、単にお絵かきの時間になってしまう。

解剖学、組織学は、記憶力の勝負のように思われがちであるが、単に単語帳を覚えるような学習法では、何とか試験に合格したとしても将来役に立たない。試験が終わってホッとした時点でまず半分は忘れ、その後月日と共に記憶は薄れ、医者になるころにはほとんど覚えていないことが多い。有効的な学習方法は、まず基本的なテキストを読んで全体のながれ、普遍的な人体/組織の成り立ち・仕組みを総論的に理解すること、次に、各臓器、組織の特徴を各論的に理解することである、基本的知

識とそれを応用できる能力を得ることができれば、将来、病理学や臨床医学を学ぶときにはもちろんのこと、問題解決能力・科学的判断力・洞察力のある医師・医学研究者として十分役立つことであろう。枝葉末節にこだわらず、まず本幹を捉えること、細かいことは必要なときに調べればよいのです。

講義は、PowerPoint で行います。プリントは、PowerPoint の内容に準拠しており、授業中にワークシート形式で書き込んでいきます。プリントはカラー印刷で、余分はありませんので自分の分だけ各一部取ってください。講義のファイルは、Web でダウンロード閲覧できます。予習・復習、出席できなかつた場合に利用してください。

評価方法

骨学実習試験（主として骨標本を用いた質問。ラテン語問題を含む）

組織学総論試験（ペーパー筆記）

組織学各論試験（ペーパー筆記）

組織学実習試験（組織標本・写真による）

その他、組織実習スケッチ、授業および実習の態度、出席状況を考慮し、総合的に評価する。

再試験は一度だけ行う。

量が多いので、すべての学生に求める到達レベルはやや低めに設定し、基本事項に重点をおいている。何が重要で本質的なものかは、講義実習で学習した内容が理解できれば自然にわかるはずである。

教科書及び参考文献

教科書は指定しないが、参考図書として少なくともテキスト一冊と実習用図譜が必要である。多くのテキストが出版されており、「このテキストが絶対良い」というようなことはない。自分の学習法、スタイルに合ったものを見つけて使用すればよい。参考のために、幾つか代表的なテキストを紹介しておく。

【テキスト】

坂井建雄ほか. 監訳. ジュンケイラ組織学. 第3版, 丸善, 2011. 原書名:Junqueira's Basic Histology text&atlas.

世界中の医学部で使われる伝統的な組織学テキスト。頻繁に改定されているが、ところどころに詳しすぎるところや、内容がやや古いところが混在するが、世界標準のテキストとして信頼度は高い。原書版 (Basic Histology, Lange) には、CDROM がついている。

内山安男ほか. 監訳. 人体組織学 . 南江堂, 1999. 原タイトル:Human histology

新しいテキストで、現代の医学カリキュラムに即した構成になっており、ユーザーフレンドリーで読みやすい。内容も詳しすぎず、分子生物学から臨床関連までを適度に盛り込んである。

Michael H.Ross,ほか. Ross 組織学. 原著第5版, 南江堂, 2010. 原タイトル:Histology : a text and atlas.

米国の医科大学の定番のテキスト Ross 『HISTOROGY A TEXT and ATLAS』の訳本が201

0年に刊行された。内容は充実しており、参考書として一生使えそう。美しい顕微鏡写真、図が多用されており顕微鏡実習用のアトラスとしても利用価値あり。組織は、これ一冊で十分といえる。ただし、内容が豊富で詳しすぎるため、試験前に読み始めても間に合わない。

L. P. ガートナーほか. 最新カラー組織学. 西村書店, 2003.

最新の分子生物学的内容、機能との関連、臨床ノートなども適度に盛り込まれたモダンな体裁。内容も結構充実している。写真、イラストも良い。米国でも人気のテキスト。コストパフォーマンス No. 1.

牛木辰男. 入門組織学. 南江堂, 1989.

非常に簡単に基本事項が分かりやすくまとめられている。時間をかけずに、最小限の勉強で済ませたい人向け。何をどこまで覚えればよいかどうしても分からなければ、この本を何度も読んでまる覚えする。

【図譜 (アトラス)】

Victor P. Eroschenko. Di Fiore 人体組織図譜. 南江堂, 2003.

組織図が写真でなく、すべて描画である点が、組織実習スケッチの参考に最適である。

【骨学実習書】

寺田春水ほか. 骨学実習の手びき. 第4版, 南山堂, 1992.

骨学実習はこの本にそっておこないます。必ず入手して、実習時に持ってくるように。

オフィスアワー

担当教員	学期・曜日	時間帯	メールアドレス
荒 木 伸 一	後期・木曜日	12時～13時	naraki@med.kagawa-u.ac.jp
三 宅 克 也	後期・金曜日	17時～18時	kmiyake@med.kagawa-u.ac.jp
江 上 洋 平	後期・木曜日	17時～18時	youhei@med.kagawa-u.ac.jp
藤 井 誠	後期・金曜日	17時～18時	mfujii@med.kagawa-u.ac.jp

生 理 学 I

担当教員

教 授	徳 田 雅 明	非常勤講師
准教授	山 口 文 徳	田 邊 康 人 (大阪大学大学院生命機能研究科)
助 教	董 有 毅	脳神経工学講座准教授)
助 教	神 鳥 和 代	

授業概要

生理学は生体の機能とそのメカニズムを解明する学問である。「生体」とは、人体を含めて全ての生物体を意味し、「機能」とは個体レベルにおける生体機能のみならず、その個々の構成体（分子、細胞、組織、器官）の機能や、複数の個体が社会生活を営む上での（生態学的、心理学的現象を含めた）機能をも意味する。生理学が扱う対象は生きた材料であり、生きている条件下でリアルタイムに観察することが特徴である。生体機能は、多くの分子群や細胞群の働きと、その相互作用によって、更にはそれらが作り上げる器官や個体レベルの働きによって逆に統御されながら、全体としてホメオスタシスを保つ形で実現されている。従って、これを研究する生理学は、生体機能を分子、細胞、器官、個体の各レベルでのメカニズムを解明するとともに、それらをシステムとして統合的に取り扱う「統合生物学」**Integrative Biology** としても位置づけられる。このような意味で、生理学は「生」体が働く仕組み（ハードウェア）とその論「理」・法則（ソフトウェア）及び意義を明らかにする「学」問である。ノーベル賞の領域名が”医学・生理学”と呼ばれるように、生理学は本来、医学を含め全ての生命科学の基礎を与える重要な学問である。（日本学術会議生理学研究連絡委員会より）

細胞情報生理学では、細胞生理学、神経生理学（感覚生理学を含む）、筋肉生理学の3分野をカバーする。講義としては、2年次後期の系統講義および3年次3学期から始まる統合講義の中でカバーする。この他に実習では細胞生理学、神経生理学的解析方法について理解できるように進めていく。

授業では基本となる知的目標を **Goals to Study** として提示し、それらについてプリント、スライドなどを用いて進める。

目標達成度は定期試験において確認するが、適宜レポートや小ドリルによって補うことがある。

一般目標

1. 生命の成り立ちを理解するとともに細胞内部の構築と機能とを理解する。
2. 生命現象に必要な細胞内外の物質の輸送機構を理解する。
3. 興奮性膜における活動電位の発生機構とその伝播機構につき理解する。
4. 筋肉の構造と収縮の機構を理解する。
5. 細胞内情報伝達機構の種類とその各々の概略を理解する。
6. 統合的情報処理機構としての中樞神経系の構造と機能を理解する。
7. 運動調節に関与する中樞神経系とその機能分担を理解する。
8. 自律機能や本能行動を司る脳の働きを理解する。
9. 学習や記憶に関わる脳の働きを理解し、その分子機構についても理解する。
10. 感覚（5感と体性感覚）の中樞機構と分子メカニズムを理解する。
11. 実習を通じて実験研究の進め方を体験し、研究の楽しさを認識する。
12. 実験動物などの生命体への配慮やいたわりの心を習得する。

行動目標

1. 中枢神経の主要部位の構造と主な機能を論述できる。代表的な疾患病態により特定の部位が障害された時どのような機能不全が生じるか指摘できる。
2. ヒトの姿勢や運動を調節するために働く脳の各部位を指摘し、それらの相互作用を述べることができる。随意運動のメカニズムや行動について記述できる。
3. 思考・記憶・感情の形成がどのようになされるか概念を述べるができる。
4. 感覚情報がどのように受容され、伝達され、加工されるか論述できる。
5. 筋肉の収縮・弛緩の機構を体系的に論述できる。
6. 細胞の独立体としての生理機能を理解するとともに、細胞間の相互コミュニケーションやエネルギー論について述べるができる。
7. 細胞内情報伝達の主な機構について体系的に論述できる。

授業内容

回	大項目	項目	内 容	担当者
1	神経生理学	神経系総論Ⅰ	神経生理学イントロダクション 神経の特性	徳 田
2		神経系総論Ⅱ	神経回路の特性	徳 田
3		神経系総論Ⅲ	神経の情報伝達	徳 田
4		神経系総論Ⅳ	神経伝達物質	
5		大脳皮質の区分と構造	大脳皮質の区分と構造機能局在	
6		大脳連合野、優位半球	大脳連合野の機能、優位半球、言語機能	徳 田
7		視床の区分と働き	視床の区分、特殊核、非特殊核	徳 田
8		自律神経系の働き	交感神経系と副交感神経系の働き	徳 田
9		視床下部の働きⅠ	本能行動と辺縁系	徳 田
10		視床下部の働きⅡ	摂食行動、飲水行動、性行動	徳 田
11		大脳辺縁系の働き	大脳辺縁系の解剖と機能	徳 田
12		高次神経活動Ⅰ	脳波と睡眠、意識レベルと網様体賦活系	徳 田
13		高次神経活動Ⅱ	学習と記憶Ⅰ	徳 田
14		高次神経活動Ⅲ	学習と記憶Ⅱ	徳 田
15		脊髄の運動機能と反射	筋紡錘、 γ 運動系、腱反射、伸長反射、屈曲反射	徳 田
16	脳幹の運動機能	脳幹の運動機能	徳 田	
17	大脳運動野の働き	運動前野、補足運動野の働き	徳 田	
18	大脳基底核の働き	大脳基底核の解剖と入力・出力と機能	徳 田	
19	小脳の働きⅠ	小脳の解剖と機能的区分、小脳の連絡路	徳 田	
20	小脳の働きⅡ	小脳の神経回路網と機能	徳 田	
21	神経系特論	神経系の発達・分化：転写因子と遺伝子の発現の機構	田 邊	
22	神経系特論	神経系の発達・分化：転写因子と遺伝子の発現の機構	田 邊	
23	感覚生理学	感覚生理総論	感覚と知覚、感覚の種類、感覚受容体の分類ほか	山 口
24		感覚生理各論Ⅰ	視覚の生理	山 口
25		感覚生理各論Ⅱ	聴覚と平衡覚の生理	山 口
26		感覚生理各論Ⅲ	嗅覚と味覚の生理	山 口
27		感覚生理各論Ⅳ	体性感覚の生理	山 口
28	筋肉生理学	筋肉生理学Ⅰ	筋肉収縮の生理Ⅰ	徳 田

29		筋肉生理学Ⅱ	筋肉収縮の生理Ⅱ	徳田 董 神鳥
30	研究トピックス	内耳の分化と発達 細胞周期	内耳の分化と発達に関与する因子の解明 細胞周期に関与するタンパク質の解析	

学習方法

授業では基本となる知識目標が設定され、これを理解するために必要なプリント等が配布される。また、この内容はスライド・ビデオ等を用いた講義、コンピュータを用いた自習等によって補われる。膨大な知識をこれらの図・表によって整理理解し、単なる暗記による詰め込みではなく自らの体系を形づくることを心掛けるべきである。また、講義を理解するために必要な単語集モデルがあらかじめ配布されるので、これらの語彙について予備知識を修得しておくことが一助となる。

評価方法

2年後期

定期試験（記述式，客観式）の成績にレポート・小テスト等を総合的に考慮し、目標達成度を評価判定する。

教科書及び参考文献

- ・小澤瀨司ほか. 標準生理学 . 第7版, 医学書院, 2009.
 - ・Berne, Robert M et al. Berne & Levy physiology. 6th ed., Elsevier Mosby, 2008.
 - ・小幡邦彦ほか. 新生理学. 第4版, 文光堂, 2003
 - ・古河太郎ほか. 現代の生理学 . 改訂第3版 , 金原出版, 1994.
 - ・Bruce Alberts et al. Molecular biology of the cell. 5th ed., Garland Science, 2008.
 - ・Ganong, William F.ほか. ギャノン生理学 . 丸善, 2006.
 - ・Barrett, Kim E. et al. Ganong's review of medical physiology. 23rd ed., McGraw-Hill Medical, 2010.
 - ・日本生理学会. 新・生理学実習書 . 南江堂, 1991.
 - ・Hall, Zach W.ほか. 脳の分子生物学. メディカル・サイエンス・インターナショナル, 1996.
- (その他適宜推薦する。)

主要研究テーマ

1. 神経の可塑性（発達・分化）の制御機構
2. カルシウムシグナリングを中心とした情報処理機構
3. 希少糖の生理作用の研究

オフィスアワー

担当教員	学期・曜日	時間帯	メールアドレス
徳田 雅明	後期・水曜日	12時～13時	physiol1@med.kagawa-u.ac.jp
山口 文徳	後期・水曜日	12時～13時	physiol1@med.kagawa-u.ac.jp
神鳥 和代	後期・水曜日	12時～13時	physiol1@med.kagawa-u.ac.jp
董 有毅	後期・水曜日	12時～13時	physiol1@med.kagawa-u.ac.jp

生 理 学 II

担当教員

教授 小坂博昭
准教授 五十嵐淳介
助教 山下哲生
助教 橋本剛

授業概要

生理学 (II) では、主として生命維持に必要な各臓器の機能が如何に統合的に調節されているかを学習する。細胞が要求する栄養物は消化と吸収の機構により必要なだけ消化管より吸収され、呼吸系は血中 O_2 と CO_2 濃度を一定に保つよう調節している。細胞が産生した代謝産物は、肺あるいは腎に運ばれて血中濃度が一定量以上にはならない様排泄されている。これらの物質は、血液や体液と混合して、心臓を中心とする循環系によって運搬されている。また、体温は種々の機序によって一定に保たれ、体温分布は循環系によって均等にされている。動脈から静脈への血液の流れは、動静脈間の圧差がその原動力であり、圧差は厳密なフィードバック機構によって維持されている。このように、動物と植物のいずれにもみられる循環、呼吸、消化、泌尿といった植物性機能の多くは、生体に外乱が加わっても生体の内部状態を一定に保つよう働く種々のフィードバック機構で調節されている。したがって、生命維持機能の解明は、こうした生体の恒常性（ホメオスターシス）維持機構の解明に他ならない。

一般目標

1. 生体を構成している各臓器の機能を知る。臓器毎に機能が違うので制御機構も細胞の機能も全く異なることが多く、また高度に精妙で複雑な仕組みが多いので、理解を深めるためには予習。
2. 生体の各種調節系の input、output とこの間のメディエーターと、これらのセンサーを理解する。
3. これにもとづき生体を構成している各臓器が如何に絶妙に働いているかを理解する。

行動目標

1. 血液の運搬機能を理解する。
2. 血液の止血機能を理解する。
3. 血液の生体防御機構を理解する。
4. 血液型と輸血に機能を理解する。

5. 血液の pH、イオン組成などが精密にたもたれているホメオスタシスの維持機構を理解する。
6. 血液の細胞成分と血漿成分の機能を理解する。
7. 酸素を取り入れ二酸化炭素を排出するための呼吸器の機能を肺胞中、動脈血、静脈血中の酸素分圧と二酸化炭素分圧、ヘモグロビンの酸素飽和度を確認しながら理解する。
8. 呼吸器の構造と換気の仕組みを肺胞内圧を確認しながら理解し、肺機能検査の意義を理解する。
9. 肺胞内面の水分による表面張力を表面活性物質により低下させ肺の虚脱を防いでいることを理解する。
10. ヘモグロビンの酸素解離曲線の S 字状である意義を理解し、pH、温度、2, 3-DPG などの変化で酸素解離曲線が変化する意義を理解する。
11. 赤血球中の炭酸脱水酵素の肺と末梢での機能と役割を理解する。
12. 呼吸性、代謝性、アシドーシス、アルカローシスの病態の病因と、その代償作用を理解する。
ヘンダーソン・ハッセルバルヒの式を理解する。
13. 延髄と大動脈、頸動脈小体の化学受容器と呼吸の調節との関係を理解する。
14. 高山病、低酸素症について理解する。
15. 肺循環系、右心系と体循環系、左心系の違いについて理解する。
16. 血管の違い（大動脈、細動脈、毛細血管、静脈）と機能の違い、リンパ管の機能について理解する。
17. 心臓での電氣的活動と心房、心室の活動周期、心電図、心音図、動脈圧との時間的關係について理解する。
18. 毛細血管での限外濾過と再吸収による物質交換の仕組みを理解する。
19. 静脈還流量に影響を与える因子を理解する。
20. 圧受容器を介した求心経路と遠心経路による神経性動脈圧調節を理解する。
21. 腎臓—体液性動脈圧調節を理解する。

授業内容

回	大項目	項目	内 容	担当者
1	生理学序論	血液総論	スタッフ紹介、講義日程と評価方針	小 坂
	血液		血液の生理機能	五十嵐
2	血液	血液の成分	血液の一般的性質、血液成分	小 坂
3	血液	血液の成分	赤血球、白血球、血小板等の性質と機能	小 坂
4	血液	凝固と線溶	血液凝固と線溶系	小 坂
5	循環	血液循環	心血管系と体液、循環調節 (ホメオスタシス)	小 坂
6	循環	血液循環	心血管系と体液、循環調節 (ホメオスタシス)	小 坂
7	循環	血液循環	心血管系と体液、循環調節 (ホメオスタシス)	小 坂
8	循環	血液循環	心血管系と体液、循環調節 (ホメオスタシス)	小 坂
9	体液	調節	組織間液量の調節	小 坂
10	体液	異常状態	浮腫と脱水の発生機序とその治療	小 坂
11	呼吸器	総論、呼吸系の解剖学と機械的性質	呼吸系の目的、肺の生理学的解剖 肺活量、死腔、肺胞換気量と肺胞換気 肺の弾性、気道抵抗、不均等換気	小 坂
12	呼吸器	呼吸の神経性調節	呼吸運動、換気-血液ガス系	小 坂
13	呼吸器	呼吸の化学調節	呼CO ₂ -換気量応答曲線	小 坂
14	呼吸器	肺循環	肺循環系の圧、肺血管抵抗、肺内血液分布	小 坂
15	環境と生体	総論	熱の生産と放散	小 坂
16	環境と生体	各論	行動性調節、自律性調節	小 坂
17	自律神経	中枢	呼CO ₂ -換気量応答曲線	小 坂
18	自律神経	末梢	肺循環系の圧、肺血管抵抗、肺内血液分布	小 坂
19	消化器	消化管の運動	消化管平滑筋の特徴と胃腸の運動	五十嵐
20	消化器	消化液の分泌	唾液と胃液	五十嵐
21	消化器	消化液の分泌	膵液と胆汁	五十嵐
22	消化器	消化と吸収	糖質、脂質、タンパク質、水と電解質	五十嵐
23	心血管系	心ポンプ機能	心臓の力学的特性とポンプ機能調節	五十嵐
24	心血管系	心臓電気生理	心筋膜電位とイオンチャンネルの働き	五十嵐
25	心血管系	心拍の調節	洞房結節と自律神経活動	五十嵐
26	心血管系	血管 (その1)	血管のコンプライアンスと抵抗とは?	五十嵐
27	心血管系	血管 (その2)	末梢循環調節機構とその臓器ごとの特徴	五十嵐
28	心血管系	循環生理 (まとめ)	心拍出量と血圧の統合的な調節	五十嵐
29	予備日			
30	予備日			

学習方法

生理学 (II) の内容は、患者の命を救うことにつながる重要なものが多い。よって、病気との関連をイメージしながらメカニズムを理解してゆくことが必要である。

評価方法

生理学 (II) の試験では、患者の命を救うために最低限知っておかなければならない常識的な知識を土台として、生命のメカニズムを問う。追試は毎年一回に限っている。極一部の人に限られますが、試験前に教室にこられても当然、試験問題は教えませんし、教室の業務に多大なる支障をきたすので、もっと大人になって良識を働かせて控えていただきたい。

教科書及び参考文献

BERNE&LEVY、 “PHYSIOLOGY”

Guyton、 “Medical Physiology”

Ganong、 “Review of Medical Physiology”

“標準生理学” 医学書院

“医科生理学展望” 丸善

主要研究テーマ

生体、細胞への酸素の供給によるエネルギー生成とそのため呼吸、循環、血液系をつかさどる臓器とその構成細胞について病態モデルも含めての研究

病気を治すことに協力したいという観点から、細胞内の蛋白の生理機能の低下に由来する病態の解明にも興味があり、やりたい人があれば、他科との協力のもとに立ち上げたい。

生 化 学

担当教員

教授	上 田 夏 生	非常勤講師
准教授	大 西 平	伊 藤 孝 司 (徳島大学教授)
助教	坪 井 一 人	佐々木 卓 也 (徳島大学教授)
助教	宇 山 徹	富 田 修 平 (徳島大学准教授)
		横 山 知永子 (台湾国家衛生研究院 客員教授)

授業概要

化学・物理学をふまえて生命現象を分子レベルで理解することが生化学のテーマである。生体は多種多様な物質から構成されている。生体機能を分子レベルで理解するには、まず、この多種多様な生体構成成分の構造と特性を理解する必要がある。次に、これらがどのような生理機能を担っているのかを、その化学的な特性をふまえて学ぶことになる。生体を構成している物質はけっして一定の状態にあるのではない。生合成、分解を繰り返す、常に代謝回転している。この連続した化学反応による動的平衡状態を理解することが必須である。多種多様な生体構成成分の代謝の異常が、それぞれ疾患と密接に結びついているため、医学部においては、人体の代謝の詳細を学習する必要がある。そのためには代謝における個々の化学反応やその反応を触媒する酵素タンパク質の理解が重要であることはいままでもない。

講義では、生体物質の構造と特性を理解するとともに、各物質が代謝回転のなかでどのような役割を果たしているのかを把握するように努める。また、生命にとってもっとも重要である、「生体が生きるために必要なエネルギーをいかにして獲得するのか」というテーマについても学ぶ。各論では、糖・脂質・アミノ酸・核酸等、生体物質ごとの代謝を詳細にみていき、代謝のまとめとして、ビタミン・補酵素について学習する。実習では、生化学実験で用いられる基本的な機器を実際に操作し、タンパク質の分析や酵素活性の測定等を行う。

一般目標

生体物質の代謝回転や病的状態での異常を理解するための基礎知識を習得する。

行動目標

- 1) 生体物質の名称、構造、化学的性質を説明する。
- 2) 生体物質の代謝上の役割を説明する。
- 3) 酵素の機能と触媒する化学反応を説明する。
- 4) 生体エネルギー産生機構を説明する。
- 5) 生体内の主要な代謝経路の相互関係と調節機構を説明する。
- 6) 主要な糖代謝経路を説明する。
- 7) 主要な脂質代謝経路を説明する。
- 8) 主要なアミノ酸代謝経路およびポルフィリン代謝経路を説明する。
- 9) 主要な核酸代謝経路を説明する。
- 10) ビタミンの構造、機能、欠乏症状を説明する。

- 1 1) フリーラジカル, 活性酸素, 脂質過酸化について説明する。
- 1 2) 実習において基本的な機器の操作に習熟する。
- 1 3) タンパク質の分析や酵素活性の測定の原理を理解し, 実験手技に慣れる。

実 習

- 1) タンパク質の定量
- 2) pH と緩衝作用
- 3) ヘモグロビンの分光吸収特性
- 4) タンパク質の電気泳動
- 5) 酵素活性の測定
- 6) 酵素の精製
- 7) 酵素反応動力学

評価方法

中間および学期末の筆記試験によって評価し可否を判定する。授業のはじめに行う小テストの結果を加味する。

実習については, 実習態度, 実習ノートと筆記試験によって評価する。

学習方法

主としてパワーポイントとプリントを用いて講義を行う。重要な項目に加えて教科書を読んでもわかりにくいところや, 全体像を頭の中に描きやすくすることに重点をおいて講義を行うので, 講義に出席してその場でできるだけ理解するよう努めるとともに, 日頃から教科書や代謝マップを繰り返し読んで自習する習慣を身に付けてほしい。生体内の多種多様な物質の名称・構造や代謝経路を丸暗記するのではなく, それぞれの生体物質や代謝経路の機能や相互関係, 疾患との関連を理解するように常に心がける。実習については, ただ単に決められた操作をすればよいのではなく, 実験方法の原理を理解し, 得られた実験結果を十分に考察することが重要である。

教科書及び参考文献

- 1) 多種類出版されている生化学の教科書のいずれか一冊を購入することを勧める。

以下の教科書はすべて訳本であるが, 意欲のある学生は英文の原著に挑戦してほしい。

例: ハロルド・アンソニーほか, イラストレイテッド Harper・生化学. 原書 28 版, 丸善, 2011

原書名: Harper's Illustrated Biochemistry, 28th.

Harper, Harold Anthony et al. Harper's illustrated biochemistry. 28th ed., McGraw-Hill, 2009.

Voet, Donald et al. ヴォート基礎生化学. 第 3 版 ed., 東京化学同人, 2010.

原タイトル: Fundamentals of biochemistry.

Voet, Donald et al. Fundamentals of biochemistry. 3rd ed., Wiley, 2008.

カラー生化学. カラー生化学. 西村書店, 2003. 原タイトル: Biochemistry.

- 2) 参考書

大島泰郎ほか, 生化学辞典. 第 4 版, 東京化学同人, 2007.

日本生化学会. 細胞機能と代謝マップ. 東京化学同人, (細胞機能と代謝マップ, 1-2).

オフィスアワー

上田 夏生 後期・火曜日 17時～18時 nueda@med.kagawa-u.ac.jp

大西 平 後期・火曜日 17時～18時 tohnishi@med.kagawa-u.ac.jp

授業内容

回	大項目	項目	内容	担当者
1	総論	生体物質	生体物質の種類、構造、機能（水、糖質、脂質、核酸、アミノ酸、たんぱく質、ビタミン、ミネラル）、細胞内小器官の機能	上田
2	総論			上田
3	総論			上田
4	総論			上田
5	総論			上田
6	総論	酵素	分類、補酵素とアポ酵素、酵素の触媒する化学反応、酵素の反応速度論	大西
7	総論			大西
8	総論			大西
9	総論			大西
10	総論	生体エネルギー論・	酸化還元電位、高エネルギーリン酸化合物、呼吸鎖、電子伝達系、ATP 産生機構、中間代謝（主要な代謝経路とその役割）	大西
11	総論	代謝概説		大西
12	総論			大西
13	各論	糖代謝	生体エネルギーと生体酸化、糖質の消化、解糖、クエン酸回路、ミトコンドリアの電子伝達系と酸化的リン酸化、グリコーゲンの合成と分解、糖新生、血糖の調節機構、五炭糖回路、ウロン酸回路、ガラクトース代謝、フルクトース代謝、複合糖質の構造と機能	上田
14	各論			上田
15	各論			上田
16	各論			上田
17	各論			上田
18	各論			上田
19	各論			上田
20	各論			上田
21	各論			上田
22	各論	脂質代謝 I	脂質の消化、脂肪酸酸化、ケトン体の合成と分解、脂肪酸合成、不飽和脂肪酸の合成と必須脂肪酸、アシルグリセロールとスフィンゴ脂質の代謝、糖脂質と代謝異常、生体膜の構造と機能、脂質メディエーターの分類・受容体・働き・生合成、エイコサノイド、リン脂質	上田
23	各論			上田
24	各論			上田
25	各論			上田
26	各論			上田
27	各論	脂質代謝 II	コレステロールの生合成と排出、ステロイドホルモンの生合成、胆汁酸の生合成、血漿リポタンパク質と脂質の体内動態	大西
28	各論			大西
29	各論			大西
30	各論			大西
31	各論	アミノ酸代謝	アミノ基転移反応と脱アミノ反応、尿素サイクル、アミノ酸側鎖の代謝、アミノ酸の合成と必須アミノ酸、アミノ酸由来の生理活性物質の生合成	大西
32	各論			大西
33	各論			大西
34	各論			大西
35	各論			大西
36	各論	ポルフィリン代謝	ポルフィリンの合成、ポルフィリンの分解とビリルビン	大西
37	各論	核酸代謝	プリン、ピリミジンの生合成と分解、サルベージ経路、ヌクレオチド補酵素	大西
38	各論			大西
39	各論			大西
40	各論	ビタミン	水溶性ビタミンの分類・構造・機能、補酵素による反応触媒機構、脂溶性ビタミンの分類・構造・機能、ビタミン関連物質の分類・構造・機能、ミネラルと微量元素	上田
41	各論			上田
42	各論			上田
43	各論			上田

44	各論	フリーラジカルと活性酸素	フリーラジカル, 活性酸素, 過酸化物質, 脂質過酸化	上田
45	各論	特別講義 I	糖タンパク質, 糖鎖, リソソーム酵素, リソソーム病	伊藤
46	各論	特別講義 II	アラキドン酸カスケード, シクロオキシゲナーゼと	横山
47	各論		非ステロイド系抗炎症剤, プロスタノイド	
48	各論	特別講義 III	低分子量 G タンパク質, 小胞輸送	佐々木
49	各論			
50	各論	特別講義 IV	シトクロム P450 の構造と機能	富田
51	各論			

英 語（全学共通科目）

授業科目名	英語コミュニケーションLR演習 I M (1) English(Listening & Reading) I	科目区分	外国語科目	授業コード	041701
講義題目		単位数	1	時間割	前期 金 1
教員名	長井 克己（大学教育開発センター）	対象年次及び学科	2年 医学部医学科		
授業の概要					
The course will start by concentrating on the rapid review of essential English grammar, consolidated through the translation of newspaper articles. The course will also provide an account of basic medical terms in English from a linguistics perspective.					
授業の目的・達成目標					
By the end of the course, students should be able to do the following: (a) analyze concepts involved in the study of linguistic structure of English today (b) use both medical and lay terms in English.					
授業及び学習の方法					
前半は教科書を用いてリスニングと発音の練習を行うと同時に、医療現場で用いられる基礎的な語彙を習得する。 後半は新聞記事を用いてリーディング練習を行い、科学分野では使えない曖昧な解釈や訳文をいかに排除するかを学ぶ。					
成績評価の方法と基準					
Assessment consists of an assignment/presentation (40%) and two exams, each weighted equally (30% + 30%).					
授業計画					
Wk 1 Introduction to the course					
Wk 2-7 Textbook work (one chapter/two weeks) + Newspaper exercise (one article/one week)					
Wk 8 Tutorial/Mid term exam					
Wk 9-14 Textbook work (one chapter/two weeks) + Newspaper exercise (one article/one week)					
Wk 15 Tutorial/Term exam					
教科書					
リーディング：新聞記事を1回目の授業で配布。 リスニング：伊藤&伊藤. 2008. 実践医療英会話. 中山書店. ISBN978-4-521-73041-7.					
参考書					
オフィスアワー					
By appointment (Nagai Lab in Saiwaicho-North campus, bldg#5)					
履修上の注意					
TOEFL や TOEIC を受験することは望ましいが、本講義の成績判定には関係しない。					

授業科目名	英語コミュニケーションLR演習 I M (2) English(Listening & Reading) I	科目区分	外国語科目	授業コード	041702
講義題目		単位数	1	時間割	前期 金1
教員名	長尾 明子 (大学教育開発センター)	対象年次及び学科	2年 医学部医学科		
授業の概要					
LR演習は、英語コミュニケーション能力のうち、特に受信能力を高めるための、リスニングおよびリーディング活動を中心とする演習科目です。聴解、速読、語彙・文法、総合、ニュース英語、検定演習、音声学習のいずれかをテーマに、要点把握力と速読・速聴力および語彙力の向上に努めながら、リスニングおよびリーディング演習を行います。					
授業の目的・達成目標					
テーマ (総合)					
(1)Students will be able to increase their ability to communicate in spoken English.					
(2)Students will be able to develop their ability to use communication strategies by listening and speaking.					
(3)Students will be able to increase their ability to evaluate their language to be autonomous learners.					
授業及び学習の方法					
This course aims to improve students' s communication skills with particular focus on listening and speaking. First, at the beginning of every class, students will listen and talk about familiar topics to warm-up. Then, students will have opportunities to express their opinion about the topics. Students communicate in English with a lecturer and 3 or 4 classmates.					
成績評価の方法と基準					
1. Attendance /participation in English 20%					
2. Writing assignment 20%					
3. Transcription or Scrapbook 30%					
4. Group Interview or Presentation Test 30%					
授業計画					
WK1: Self-introduction, Introduction and questioner					
WK2: Self-introduction and Why do you study English for?					
WK3~WK14: Topics: Family, Sports, Food, Part-time Jobs, My Past 等グループでのアクティビティを実施する。					
WK15: Summary for Group Interview or Presentation,					
WK16: Final Examination (Group/Pair interview or Presentation)					
教科書					
Kenny, T., & Woo, L. (2004). Nice Talking with You. Macmillan Language House. (こちらで準備します)					
参考書					
Kluge, D., & Taylor, M. (2011). In My Life. Macmillan Language House.					
オフィスアワー					
授業時に教員と相談の上、日時を決定して下さい。					
履修上の注意					
自分の英語力を高めようという強い意欲と意志を持って、諸活動に積極的に臨んで下さい。第1回目の授業で行われるガイダンスで、授業の進め方、予習・復習・宿題の方法等を、しっかり確認して下さい。なお、英語の授業では、単に椅子に座っているだけで活動に参加しない(不参加出席)学生を欠席扱いとすることになっているので、注意して下さい。4回以上の欠席回数場合は単位は与えられません。遅刻3回で欠席1回の扱いとします(遅刻は10分程度まで)。授業中の睡眠および携帯電話の使用は厳禁です。また、外国語自習室を有効利用しましょう。					

授業科目名	英語コミュニケーションSW演習 I M (1) English(Speaking & Writing) I	科目区分	外国語科目	授業コード	041703
講義題目	Discussion and Presentation	単位数	1	時間割	前期 金 1
教員名	ウィリアム・イアン・デビッド (大学教育開発センター)	対象年次及び学科	2年 医学部医学科		
授業の概要					
<p>The SW course focuses on productive English, and the course is divided into two themes: Presentation and Writing. The Presentation-themed course centers on English as a speech act. Students will receive instruction on how to prepare and deliver presentations in English, and will practice in groups and before the class. Instruction will focus on three aspects of presentations: the verbal message (pronunciation, intonation), the non-verbal message (eye-contact, posture, gestures, visual aids) and the rhetorical message (organization, logic, support). The Writing-themed course will focus on practical writing skills.</p>					
授業の目的・達成目標					
<p>This course aims to improve students' overall English communication skills. Focus will fall on two specific skills necessary for future medical professionals: Discussion and Presentation. Through this course, students will become enabled to communicate effectively in a variety of intercultural situations, including interviews, group discussions, and formal presentations.</p>					
授業及び学習の方法					
<p>During the first hour of class, activities will typically center on tasks in the textbook. Listening exercises, as well as pair and group interviews, role plays, and discussion, will form the core of class activities. How to type in English will also be presented, and students will regularly be assigned writing tasks that require the use of word processing software. This written homework will be used for in-class group work and presentations during the last half hour of class. The basics of delivering presentations in English (eye contact, voice, and the non-verbal message) will also be covered. All students will deliver a mid-term and final presentation.</p>					
成績評価の方法と基準					
<p>Students' grades will be based on the following: 20%: Participation (in-class effort) 40%: Written homework 40%: Presentations (Mid-term and Final)</p>					
授業計画					
(1) Introductions; Begin textbook work (2~4) Textbook work and presentation, discussion practice (5) Mid-term presentation assigned (6~7) Mid-term presentations (8~11) Textbook work and presentation, discussion practice (12) Final presentation assigned (13) Final presentation workshop (14~15) Final presentations; Wrap-up					
教科書					
Cusack, Barry. (2007). Improve Your IELTS Listening and Speaking: Study Skills Pack. Macmillan. ISBN: 978-0230009486					
参考書					
オフィスアワー					
Wednesdays 14:00~16:00 (Saiwai-cho campus). Students may also contact the instructor by e-mail : ianwill@cc.kagawa-u.ac.jp.					
履修上の注意					
4回以上の欠席回数の場合は単位を与られません。 Students who arrive more than 20 minutes late will be considered absent. Be sure to purchase your textbook and bring it to the first class!					

授業科目名	英語コミュニケーションSW演習 I M (2) English(Speaking & Writing) I	科目区分	外国語科目	授業コード	041704
講義題目	Presentation	単位数	1	時間割	前期 金 1
教員名	マクラーハン・ゼラーティン (大学教育開発センター)	対象年次及び学科	2年 医学部医学科		
授業の概要					
<p>The SW course focuses on productive English, and the course is divided into two themes: Presentation and Writing. The Presentation-themed course centers on English as a speech act. Students will receive instruction on how to prepare and deliver presentations in English, and will practise in groups and before the class. Instruction will focus on three aspects of presentations: the verbal message (pronunciation, intonation), the non-verbal message (eye-contact, posture, gestures, visual aids) and the rhetorical message (organization, logic, support). The Writing-themed course will focus on practical writing skills students may need after graduation, particularly business writing, letter and e-mail writing.</p>					
授業の目的・達成目標					
<p>In this Presentation-themed course, students will become able to give presentations in English. They will give presentations that focus on the communicative act between a speaker and an audience, and they will be prepared to deliver presentations before a variety of audiences. In addition, students will be able to use basic communication compenstory strategies.</p>					
授業及び学習の方法					
<p>Class work will center on presentation practise activities, and aspects of the speech act will be introduced as the semester unfolds (including the verbal message, non-verbal message and rhetorical message). Students will be given many opportunities in class to practice these skills. As a rule, Japanese will not be allowed in class.</p>					
成績評価の方法と基準					
<p>Students will be evaluated on: Communication skills strategies 20% Mid-term mini-presentation 40% Final presentation 40%</p>					
授業計画					
<p>(1) Introduction to course (2-7) Presentation skills practise (8) Mid-term presentations (9)-(14) Presentation skills practise (15) Final presentations (15) Final presentations/communicative strategies test</p>					
教科書					
<p>There is no required textbook for this class. Students will be given handouts as required.</p>					
参考書					
<p>Students should bring a bilingual dictionary to all classes.</p>					
オフィスアワー					
<p>Wednesday & Thursday 12:00-1:00pm</p>					
履修上の注意					
<p>4回以上の欠席回数の場合は単位を与えられません。</p>					

シラバス

3 年次生

児童精神医学Ⅰ

課題実習

ボランティア体験学習（休講）

医学英語

解剖学Ⅰ

内分泌学

病理学Ⅰ

病理学Ⅱ

免疫学

薬理学

微生物学

医動物学

神経系、運動器（筋骨格）系、精神系（unit1）

内分泌・栄養・代謝系（unit2）

消化器系（unit6）

臨床総論講義

上級英語（全学共通科目）

児童精神医学 I

担当教員

教 授 石 川 元 (児童・思春期医学講座／子どもと家族・こころの診療部)

授業概要

児童・思春期医学講座が担当する講義は、2004年10月からの附属病院における、精神神経科・小児科とは独立した「子どもと家族・こころの診療部」設立に伴い、発達障害を中心とした児童精神医学として開講されている。3年次は、その基礎段階を学習する、児童精神医学 I である。

昨今の臨床医学で、研究面でも臨床面でも、人口に膾炙する発展を遂げている分野のひとつは、児童精神医学である。脳研究の成果が、確実に臨床に還元されている類い稀な領域といえる。小児科学では昔から「子どもは小さな大人ではない」と言われているが、そのような視点からすれば、大人を対照とした精神医学と児童精神医学はまったく別物とみなすこともできる。また、文科省による特別支援教育の導入に呼応して、また少年凶悪事件が決して希有ではない世相を反映して、医学以外の領域からも、最近ではとみに衆目を集めているのが発達障害（特に知的障害を伴わない事例）である。発達と病理の二軸をもとに、ひとつの医学モデルを追求していく知的愉悦を味わっていただきたい。

内容の大略を以下に示す。

オリエンテーション

自閉症一般

高機能と低機能

アスペルガー症候群

学習障害 (LD)

注意欠如・多動性障害 (AD/HD)

反抗・挑戦性障害と非行

行為障害と少年事件

児童・思春期における適応障害と心身症

査定・診断

行動評価スケール・発達テスト

精神療法・家族療法／個人・家族カウンセリング／非言語的治療／感覚統合

一般目標

教科書の内容として定着する暇のない児童精神医学の知識を身につけるとともに、上記の二軸から、脳とこころをめぐる見方・考え方を身に付ける。

行動目標

適時求められる、講義内レポート・小テストでは、講義で学んだ知識の系統立てと定式化を図ること、知識として蓄積されていない部分を推論すること、独自の見解を表現することが最も重視され、その内容に教官の印象との相互作用を生じさせ、相互作用の成果が次の講義に反映されるよう配慮されたい。課題レポートとして英文文献が提示され、発表の形で説明することを求められる。臨床医学英文文献の内容把握に熟練し、その思考過程を模倣する機会としたい。

学習方法

講義内に課題を指示する。希望すれば附属病院子どもと家族・こころの診療部の活動を見学できる。

評価方法

出席点、学期末試験（国家試験形式による出題）、講義内レポート・小テスト・課題レポート（発表を含む）により総合的に評価。

教科書及び参考文献

石川元. こころの時限爆弾. 岩波書店, 1998.

石川元. 発達障害とパーソナリティ障害:新たな邂逅. ぎょうせい, 2011.

石川元. アスペルガー症候群歴史と現場から究める. 至文堂, 2007.

David Coghill et al. Child and adolescent psychiatry. Oxford University Press, 2009

Di Leo, Joseph H ほか. 絵にみる子どもの発達 : 分析と統合 . 誠信書房, 1999. 原タイトル: Child development : analysis and synthesis.

課 題 実 習

教育目標

過去の優れた研究者、医師を見ていると、学生時代から医学の研究の実際にふれた人が多いことが知られています。早期に研究現場を体験し、研究を始めることにより、医学及び学際領域に対する知識や洞察力が養われます。本科目は、目的意識を植え付け、課題探求能力の涵養を目的として開講されるものです。

授業概要

医学科全講座、およびその他の研究室にそれぞれ1～4名配属し、実習を中心とした学習を行ないます。また、徳島文理大学香川薬学部（3大学連携事業による）及び学外医療機関における実習も予定しています。

平成23年度は2月13日（月）～3月9日（金）に行ない、この期間中は他の授業はいつさいありません。

配属先はひとり1ヶ所で、3年次の学生代表が中心になって学生が自主的に決定します。同一講座、研究室に募集人数を越える配属希望者がいる場合は学生間で自主調整を行ないます。

授業内容

各講座、各研究室の授業内容については、別刷のガイドブックを参照してください。ガイダンスを9月30日（金）に行なう予定です。

評価方法

出席状況、実習態度、レポートなどにより総合的に判断する。

ボランティア体験学習

本年度休講

医学英語

担当教員

Ian Willey (大学教育開発センター講師)

Pat Scanlon (非常勤講師)

授業概要

This course will deepen students' knowledge of basic medical English vocabulary, and improve students' general English writing skills.

一般目標

This course has three objectives: 1) to build students' practical medical English vocabulary knowledge; 2) to help students to write about medical topics for a variety of audiences; and 3) to improve students' basic presentation skills.

行動目標および学習方法

There will be a vocabulary quiz at the beginning of each class. The majority of class time will then be devoted to activities in the textbook, *Easy Nursing English*. Vocabulary and expressions introduced in this book are relevant to doctors as well as nurses. The final one-third of class time will be spent on discussion and mini-presentation activities, usually related to the Notebook assignment. All students will be required to keep this Notebook for out-of-class and in-class writing assignments. These assignments will help students to write about medical topics for a variety of audiences, including children and lay people. The Notebook will be collected and checked twice during the semester. There will also be a final vocabulary and writing test.

評価方法

30%: Quizzes

40%: Notebook

30%: Final Test

授業内容

回	項 目	担当者
1	Introductions; Begin <i>Easy Nursing English</i> (ENE), Ch. 1	Ian Willey
2	ENE Ch. 2	
3	ENE Ch. 3	Pat Scanlon
4	ENE Ch. 4	
5	ENE Ch. 5	
6	ENE Ch. 9	
7	ENE Ch. 10; Notebook collection 1	
8	ENE Ch. 11	
9	ENE Ch. 12	
10	ENE Ch. 13	
11	ENE Ch. 14	
12	ENE Ch. 15	
13	ENE Ch. 16	
14	ENE Ch. 17; Notebook collection 2	
15	Final Test	

教科書及び参考文献

Easy Nursing English, by I. Willey, G. McCrohan & S. Shibata. 2009
Nanzando Publishers. ISBN: 978-4-525-02231-0

宮脇書店〔医学部三木町キャンパス〕で購入し、最初の授業に持参すること。
参考書：特になし。

オフィスアワー

At Saiwai-cho campus only. For inquiries: ianwill@cc.kagawa-u.ac.jp

履修上の注意

Remember these three rules: 1) come to class on time; 2) bring your textbook and homework; 3) participate in class activities from the beginning to the end of class.

解剖学 I (3年)

担当教員

教授	竹内 義喜	非常勤講師	吉子 裕二 (広島大学 准教授)
准教授	三木 崇範		
学内講師	割田 克彦 (研究休職)		
助教	太田 健一		

授業概要

解剖学は、人体の正常な構造を明らかにする学問である。そのために必要な分野として、肉眼解剖学、組織学、発生学がある。このうち解剖学 I では、末梢神経学、中枢神経学、発生学、筋学、脈管学、内臓学の各講義および、系統解剖学実習、脳実習を担当する。これらの実習は全て御遺体を用いて行うことになるので、医学生が大学に入学して最初に人体に接する機会ともなる。言うまでもなく、この御遺体は医学発展のために自らの意志によって本学に献体されたものであるから、学生はこれに応えるため、予習、復習を充分に行って実習に臨まなければならないし、また、実際にそれをやらないと実習についていけなくなる。系統解剖学実習に献体による御遺体が必要不可欠である理由は二つある。その一つは、医学生が人体解剖実習を行う時、人間一人一人の顔付や指紋が違っている様に、各個人の血管、神経、筋肉や内臓などの各器官、組織がそれぞれ微妙に異なっており、成書に記述されている通りではないことを知ると同時に、将来臨床医学を学ぶ時、患者さん一人一人に細心の注意を払って診察にあたる心がけの基礎が培われる。もう一つの理由は、医学生が将来立派な良い医者になって下さる様、全くの善意で自らの体を献体して下さった方々の無言の態度を解剖学実習室で目のあたりにした時、いかに医学生をして将来この方々の御意志に報いるよう、自分も立派な医者になろうと決意を新たにすることである。長い医学教育過程にあたって、自らの手で人体を解剖することのできるのはこの系統解剖学実習の時だけであるから、学生は十分この機会に献体に対する感謝の気持ちを持って人体構造の知識の習得にあたりるとともに、その期待に応えるよう努力しなければならない。

一般目標

人体の基本的構造を学習し、中枢・末梢神経系の機能や発生・発育過程および心血管系の循環機構を理解する能力を身につける。

将来臨床医学においてCT、MRI等の画像読解に必要な不可欠である人体の立体的構造解析の基礎知識を修得する。

行動目標

1. 大脳・小脳・脳幹・脊髄の構造と主な神経路および神経機能を説明できる。
2. 脳神経・脊髄神経・自律神経の走行、分布および機能を説明できる。
3. 人体の正常発生と奇形発生のメカニズムについて説明できる。
4. 心臓の構造と循環機構を説明できる。
5. 動脈・静脈(門脈)およびリンパ系の走行と分布を述べることができる。
6. 人体を構成する骨・筋・靭帯をはじめ消化器系、呼吸器系、泌尿器生殖器系、内分泌系等の諸器官の形態と機能を述べることができる。

授業内容

回	大項目	項目	内 容	担当者
1	発生学Ⅱ	各論(1)	胚子期, 胎児期	三 木
2		各論(2)	神経系の発生	三 木
3		各論(3)	消化器系の発生	三 木
4		各論(4)	心臓・血管系の発生	三 木
5		各論(5)	泌尿器の発生, 生殖器の発生	三 木
6		各論(6)	頭頸部・呼吸器の発生, 感覚器の発生	三 木
7		各論(7)	筋・骨格系, 体腔の発生	三 木
8		各論(8)	四肢の発生, 発生生物学の最近の知見	三 木
9		各論(9)	先天異常学	三 木
10		予 備		三 木
1	末梢神経学Ⅱ	脳 神 経(1)	I ~ IV	竹 内
2		脳 神 経(2)	V	竹 内
3		脳 神 経(3)	VI ~ VIII	竹 内
4		脳 神 経(4)	IX ~ X II	竹 内
5		予 備		竹 内
1	系統解剖 実習Ⅱ		§ 1 首・胸・腹部の体表観察と皮切り, § 2 広頸筋と乳腺, § 3 胸腹部の皮静脈と皮神経, § 4 大胸筋と外腹斜筋, § 5 頸神経叢の枝と胸鎖乳突筋, § 33 臍, § 53 下肢の皮静脈と皮神経	全 員
2			§ 8 首のやや深層, § 9 胸部の深層と腋窩, § 10 鎖骨下動脈とその枝, § 11 腕の皮切りと腕神経叢, § 12 上腕屈側の筋と神経, § 21 上肢の血管と神経のまとめ, § 38 § 72 首の深層, § 59 下腿前面と足背, § 62 膝の関節, § 75 甲状腺と気管	全 員
3			§ 6 背中の皮切り, § 7 背中の浅深筋, § 13 肩甲骨の前面の筋, § 14 上腕伸側と肩甲骨背面の筋, § 15 上肢の切り離し, § 16 前腕屈側の浅い層, § 22 肩の関節と周辺, § 23 肘の関節, § 55 大腿前面の深層, § 61 下腿の最深層, § 63 足の関節	全 員
4			§ 17 前腕の伸側と手背, § 18 手のひらの皮切りと手掌腱膜, § 19 § 20 手のひらの浅い層・深い層, § 24 手首の関節, § 25 手と指の関節	全 員
5			§ 26 胸腰筋膜と固有背筋, § 27 後頭下の筋, § 28 脊髄, § 30 単径部と側腹筋群, § 31 腹直筋鞘, § 32 横筋筋膜と腹膜, § 54 大腿筋膜と大殿筋, § 56 殿部深層, § 57 大腿後面の深層, § 58 膝窩と下腿後面, § 60 足底	全 員

6		§ 9 胸部の深層と腋窩, § 29 胸壁, § 35 胸腔を開く, § 36 胸膜と心膜, § 37 肺, § 39 縦隔, § 40 心臓の外景, § 72 首の深層, § 73 顔の浅層, § 74 咽頭, § 76 喉頭	全 員
7		§ 41 心臓の内景, § 42 縦隔の深部, § 75 甲状腺と気管, § 78 頭蓋の内面, § 79 頭の切半と口腔, § 80 鼻腔と咽頭鼻部, § 34 腹部内臓の原位置での観察	全 員
8		§ 43 腹部内臓の位置, § 44 腹膜と腹膜腔, § 45 腹部内臓に分布する血管と神経, § 46 空腸と回腸と結腸, § 47 胃, § 48 肝臓, § 81 咀嚼筋と下顎管, § 82 顎関節と側頭下窩, § 83 舌と口蓋	全 員
9		§ 48 肝臓(内部構造), § 49 十二指腸・膵臓・脾臓, § 84 副鼻腔と翼口蓋神経節, § 85 眼球を前から見る, § 86 眼窩の内容, § 87 眼球など	全 員
10		§ 50 腎臓と副腎, § 51 後胸壁と後腹壁, § 52 横隔膜と腰神経叢, 下半身切り離し, § 64 膀胱とその周辺, § 67 骨盤の切半, § 88 舌下神経管と頸静脈孔, § 91 翼突管と頸動脈管と耳神経節	全 員
11		§ 65m 男性の外陰部と精巣, § 65f 女性の外陰部, § 66m 男性の会陰, § 66f 女性の会陰, § 89 外耳と中耳, § 90 内耳	全 員
12		§ 68m § 70m 男性の骨盤内臓の位置, § 68f § 70f 女性の骨盤内臓の位置, § 69 骨盤の血管と神経, § 71 骨盤壁の筋と股関節 頭部総括	全 員
13		全総括	全 員
14		系統解剖実習Ⅱ試験	全 員

学習方法

解剖学は生理・生化学などとは異なり形態学であるので、系統解剖実習などを中心に授業が行われ、講義は総論のみである。それゆえ、学生は実習を行いながら自ら積極的に学習すべきである。発生学では一つの細胞が増殖、分化し、種々の臓器・組織が形成され、一個体となるまでを学習するが、この過程を十分に理解しておかなければ、正常人体の構造や将来臨床科目において種々の疾病を理解する際に余分の時間と労力を費やすことになる。発生学は実習がなく講義のみであるので、特に授業を大切に、自らも参考書、図譜を参照して十分に勉強すべきである。なお、系統解剖実習では、下記参考書のうち、解剖実習の手引き（南山堂）・ネッター解剖学アトラス（南江堂）が必須である。

評価方法

1. 発生学Ⅱ、末梢神経学Ⅱのペーパー試験を行なう。
2. 系統解剖実習（Ⅱ）試験を行なう。

教科書及び参考文献

辞書

1. Nomina Anatomica Japonica（日本解剖学会編）丸善
2. 図解解剖学辞典 医学書院
3. ドーランド図説医学大辞典 廣川書店
4. ステッドマン医学大辞典 メディカルビュー社

実習の手引き

1. 解剖実習の手引き 寺田春水, 藤田恒夫 南山堂

アトラス

1. ネットー解剖学アトラス Frank H. Netter (著), 相磯 貞和 (訳), 南江堂
2. ハインズ神経解剖学アトラス 山内昭雄, メディカル・サイエンス・インターナショナル
3. 図説中枢神経系, 水野・岩堀・中村 (訳), 医学書院
4. グラント解剖学図譜 山下 廣訳ら (訳), 医学書院
5. Atlas of Human Anatomy Vol. 1, 2, 3 (Sobotta&Becher) [図説人体解剖学1, 1, 3訳]
6. Color Atlas of Human Anatomy, R. M. H. McMinn&R. T. Hutchings 医学書院
7. Color Atlas of Anatomy, Rohen Yokochi, 医学書院
8. 解剖学アトラス 越智淳三 (訳), 文光堂

成書

1. 分担解剖学 (全3巻), 金原出版
2. 解剖学講義 伊藤 隆 (著), 南山堂
3. Core Text of Neuroanatomy, M. B. Carpenter, 廣川書店
4. ラングマン人体発生学, T. W. Sadler (著), 医学書院MYW
5. スネル臨床解剖学 RS. Snell (著), 山内 昭雄 (訳) メディカル・サイエンス・インターナショナル
6. Gray's Anatomy, I, II, III, 廣川書店
7. Textbook of Human Anatomy, Hamilton, Maruzen/MacMillan
8. Cunningham's Textbook of Anatomy, GJ. Romananes, Oxford University Press
9. Human Neuroanatomy, M. B. Carpenter, Williams&Wilkins
10. 日本人体解剖学 (全3巻) 金子 丑之助 (原著) 金子勝治, 穂田真澄 (改著), 南山堂
11. 神経解剖学 テキストとアトラス, 西村書店
12. カラースケッチ 解剖学 嶋井和世 (監訳), 廣川書店
13. Gray's Anatomy for students, Richard L. Drake, Elsevier
14. イラスト解剖学, 松村譲児 (著), 中外医学社
15. 臨床人体発生学, 岡本直正, 南江堂
16. 人体発生学, K. L. Moore, 医歯薬出版
17. スネル臨床発生学, R. S. Snell (著), 山内昭雄, メディカル・サイエンス・インターナショナル
18. ムーア臨床解剖学, 坂井建雄 (訳), メディカル・サイエンス・インターナショナル

オフィスアワー

当講座は必ず勤務時間内に教員がいるので随時受入可能。

内 分 泌 学

担当教員

教 授	中 村 隆 範	非常勤講師
准 教 授	西 望 (総合生命科学研究センター)	宮 本 薫 (福井大学 教授)
助 教	小 川 崇	東海林 博樹 (金沢医科大学 准教授)
助 教	野 中 康 宏	

授業概要

元来、ホルモンとは生体を調節、統御する生体内で生合成される微量成分であり、それぞれ特定の腺細胞から分泌され血流によって運ばれて、標的細胞の特異的な受容体と結合しその情報を細胞内に伝える有機物質と定義されていた（古典的ホルモン）。しかし、今日、古典的ホルモンに加えて細胞増殖因子、サイトカインなど必ずしも特定の分泌腺を作らない細胞から生合成されたり、血流を介さないで標的細胞に運ばれる多くの生理活性物質が、広義のホルモンとして扱われる様になってきた。こうした広義のホルモンの情報が外界から細胞内へ効率的に伝えられるために、標的細胞はその細胞膜（細胞表層）あるいは細胞内（核内）にホルモン分子を捕獲する受容体やその受容体を介して情報が細胞質の分子を通したり、直接核内の特定の遺伝子発現調節に関わるような細胞内情報伝達経路を備えている。その結果、ホルモンは標的細胞でのみ選択的に遺伝子発現、細胞膜の興奮、酵素活性などを調節しながら、自律神経系とともに生体の恒常性の維持に役立っている。近年の生化学や分子生物学の進歩は、数多くの微量ホルモンの精製純化を可能にし、その化学構造や遺伝子構造をも明らかにしている。また、免疫学の進歩とともに抗原抗体反応を利用した高感度ホルモン測定法が確立して、体液、組織内の微量ホルモン濃度の測定が可能になった。このような分析技術の進歩や知識の集積によって、ホルモンの生合成と分泌から血液中の存在状態および標的組織における生理作用まで、その全体像が分子レベルで明らかになりつつある。また、生物個体の発生や成長、生殖から恒常性の維持などに異常をもたらす疾患の多くが、ホルモン作用に関わる情報伝達分子の遺伝子異常（変異）によることが明らかにされている。これらの研究の成果は、糖尿病、バセドウ病などの内分泌疾患のみならず、心臓病、高血圧、癌など各種疾患の病態の理解やその診断、治療に応用されている。本授業では、生化学、細胞生物学、分子生物学などの基礎学問が内分泌学にどのように生かされてきたか概説しながら、現在確立されている内分泌学の基礎知識と今後の展望について講義する。

一般目標

内分泌疾患の多くが、各種ホルモン（生理活性物質）の生体内情報伝達系における異常や自己免疫疾患の結果として捉えられることから、各種ホルモンの生理機能や作用機序を理解すると共に、疾患発症の物質（分子）レベルでの理解と治療方針を理解するための基礎知識を習得する。

行動目標

1. 内分泌及びホルモンの概念を説明する。

2. 内分泌臓器とホルモンの名称を英語と日本語で正しく記述する。
3. ホルモンの生合成部位と化学構造, 生理作用を関連付けて説明する。
4. ホルモンの作用機序 (標的臓器, 受容体, 細胞内情報伝達, 効果の発現) を述べる。
5. 内分泌疾患とホルモンの遺伝子異常, 分泌調節, 代謝経路などを関連付けて説明する。
6. ホルモンの定量法を説明し, 定性, 定量的に測定する。
7. 一般的なタンパク質, 核酸を解析するとともに, ホルモン作用による遺伝子発現, タンパク質合成の調節機構の具体例を述べる。
8. 実習中は課題について充分グループ内で討論する。

授業内容

回	大項目	項目	内容	担当者
1	総論	序論・実習説明	ホルモンの定義と内分泌学の概念	中村
2, 3		ホルモンの分類	ペプチドホルモン, タンパク質ホルモン ステロイドホルモン, アミン, アミノ酸 エイコサノイド	中村
4, 5		ホルモンの生合成と分泌	各種ホルモンの生合成 ホルモン分泌細胞, 分泌腺の体内分布, ホルモン分泌	中村
6, 7		ホルモン受容体	細胞膜受容体(チロシンキナーゼ型受容体, Gタンパク質共役型受容体), 細胞増殖因子 核内受容体(ステロイド受容体, 非ステロイド受容体)	中村
8		ホルモンと受容体のキネ ティクス	リガンドと受容体 Michaelis-Menten の式	中村
9		ホルモンの定量法	ラジオイムノアッセイ(RIA) エンザイムイムノアッセイ(EIA, ELISA)	
10, 11, 12		各論	膵内分泌	インスリンの化学構造, 生合成, 分泌調節, 生理作用(生化学, 生理学) グルカゴンの生化学, 生理学 糖尿病の定義と分類 糖尿病の病態生化学 糖尿病と肥満 レプチンの生化学, 生理学
13, 14, 15	甲状腺・副甲状腺		甲状腺ホルモンの生化学, 生理学 TSH, TRH 甲状腺の病態生化学 カルシウム調節ホルモン 副甲状腺ホルモンの生化学, 生理学, カルシトニン(甲状腺), 活性型ビタミンD4(腎)の生化学, 生理学, 骨代謝	中村
16, 17	生殖腺		生殖腺(性腺)刺激ホルモン 睾丸: テストステロン 卵巣: 卵胞刺激ホルモン, 黄体ホルモン FSH, LH, CG, GnRH	中村

18, 19	副腎 (皮質 髄質)	グルココルチコイド, ミネラルコルチコイド, アンドロゲン アドレナリン(エピネフリン), ノルアドレナリン(ノルエピネフリン)	中 村
20	視床下部	TRH, CRH, GnRH, GRH ソマトスタチン, ドーパミン	中 村
21	下垂体	TSH, ACTH, FSH, LH, GH, PRL(前葉) オキシトシン, バソプレシン(後葉)	中 村
22	幹細胞分化と内分泌	遺伝子発現, ステロイド産生, 副腎細胞分化	宮 本
23	内分泌と分子異常	ホルモン受容体, 遺伝子変異	東海林

学習方法

1. 教科書は特に定めませんが、内分泌学の参考図書や、生化学・分子生物学・細胞生物学の基礎知識を踏まえて準備したプリントに沿って内分泌学の知識を理解出来るように努める。
2. 講義内容の理解を深めるため、講義の合間に小テストを実施するので十分に復習をしておく。
3. 非常勤講師を招き、内分泌学のホットな話題を紹介してもらうので積極的に質問して欲しい。

評価方法

1. 内分泌学講義については学期末に試験を実施する。
2. 実習はタンパク質化学、分子生物学的内容を中心に、実験動物を使用した生殖内分泌系の解析を行い、レポートを評価する。

参考図書等

Melmed, Shlomo ほか. Williams Textbook of Endocrinology . 12TH, W B Saunders Co, 2011.

DeGroot, Leslie J. ほか. Endocrinology. 6 HAR, W B Saunders Co, 2010.

寺本民生 ほか. 講義録内分泌・代謝学. メジカルビュー社, 2005.

井村裕夫 ほか. 内分泌・代謝病学. 第4版, 医学書院, 1997.

宮地幸隆 ほか. 病態で学ぶ内分泌学. 丸善, 1996. 原タイトル: Pathophysiology of disease .

中村桂子 ほか. 細胞の分子生物学 . 第5版, ニュートンプレス, 2010.

Donald Voet ほか. ヴォート 生化学〈上〉. 第3版, 東京化学同人, 2005.

Donald Voet ほか. ヴォート 生化学〈下〉. 第3版, 東京化学同人, 2005.

矢内原昇. 内分泌生理化学 . 南江堂, 1994.

オフィスアワー

授業日(月曜日)の16:30～18:00とするが、担当教員のいる日時内であれば随時対応します。

病 理 学 I

担当教員

教授	今井田 克 己	非常勤講師
学内講師	横 平 政 直	竿 尾 光 祐
助教	井 上 達 史	久 野 壽 也
		船 本 康 申

授業概要

教育目的と方針

病理学の教育は病理解剖学および病理組織学を基礎として、疾病の原因、病変の発現機序、それらの相互関係ないし因果関係を考察し、正しい疾病観と疾患の具体的概念を会得し、理論と同時に臨床医学への基礎作りも兼ねるものである。

疾患として機能異常があれば、構造異常として投影されるという考えに基づき、形態学的な面を主体として習熟することを目的としている。

実際には下記の要項によって実施する。

1) 総論講義

病因論と、臓器、組織を越えて共通して見られる病変を成立機序とその病因、種類、転帰など原則的な概括として把握する。疾病の形態学的所見だけでなく、実験病理学的裏付けによる理論も理解徹底することを目的とする。特別の分野については特別講義として学外講師による講義を予定している。

2) 各論および病理学実習（統合講義として実施する）

病理学総論で学んだ知識に基づき、統合講義の中で主要病変について顕微鏡実習を行う。病理組織標本を実習期間中貸与し、その標本に基づいた病理組織学解説書に沿い、実習時間の前半に詳細な解説を行う。

この標本の見取図的なスケッチと主病変について記述させるように工夫している。

3) 剖検見学

できるかぎり剖検を実際に見学させるため剖検実施を剖検燈で学生に通知している。随時自発的に剖検を見学することにより、実際の症例の観察から臨床と直結した実地の病理学を体得できるように配慮している。

4) 出席について

講義実習を通して、医学が尊い生命をもった人間を対象とする学問であり、絶えざる自己研修を要するという考えから出席を重視する。

授業内容

回	大項目	項目	内 容	担当者
1	病理学概論	序説	オリエンテーション（1） 病理学とは	今井田
2			オリエンテーション（2） 医学における病理学の位置づけ	今井田
3	病理学総論	細胞傷害、修復	反応と適応（1） 萎縮、肥大、過形成、化生	今井田
4			反応と適応（2） 細胞死、アポトーシス	今井田
5			再生、創傷治癒、変性	今井田
6		染色体異常と 遺伝子疾患	染色体異常と遺伝子疾患	今井田
7		腫瘍学	腫瘍学（1） 腫瘍の定義・腫瘍の名称 良性および悪性腫瘍の特徴	今井田
8			腫瘍学（2） 腫瘍の疫学、化学発がん等	今井田
9			腫瘍学（3） 腫瘍総論：がんの分子レベルの基礎	今井田
10			腫瘍学（4） 腫瘍総論：がんの分子レベルの基礎	今井田
11			腫瘍学（5） 腫瘍総論：がんの分子レベルの基礎	今井田
12			腫瘍学（6） 腫瘍組織学総論1：腫瘍の臨床的特徴 上皮性腫瘍と非上皮性腫瘍の相違について	今井田
13			腫瘍学（7） 腫瘍組織学総論2：上皮性腫瘍	今井田
14			腫瘍学（8） 腫瘍組織学総論3：非上皮性腫瘍、その他の腫瘍	今井田
15			診断病理学	竿尾
16	特別講義		化学発がん	久野
17	特別講義		細胞診	船本
18	試験			

評価方法

1. 総論については講義終了後筆記試験を行う。
2. 各論，実習については統合講義の評価法に準拠し、実習試験を重視する。
3. 1. 2. について出席を重視する

教科書及び参考文献

Basic Pathology, Robins & Angell, Saunders

Pathological Basis of Disease, Robins, Saunders

現代の病理学，金原出版

病理学総論・各論，南山堂

新病理学総論，南山堂

エッセンシャル病理学，医歯薬出版

病 理 学 II

担当教員

教授	阪本 晴彦	非常勤講師	
准教授	上野 正樹	佐藤 明	(高松平和病院 病理部)
助教	田中 澄子	村垣 泰光	(和歌山県立医科大学 病理学第1)
		小川 高史	(東京医科大学 人体病理学)
		池田 研二	

授業概要

病理学は疾病の実態を形態学的（マクロ、ミクロ）に把握し、その特徴を捉えてこれを分類し、診断することを大きな目的とし、病理解剖や外科病理診断が行われている。更に、病因の究明も病理学の使命であり組織化学や免疫組織学、分子生物学的手法、電顕などを使い、形態と機能の研究を組み合わせ、人体症例のみならずモデル疾患動物も研究の対象としている。

学生に対する講義は総論、各論（統合講義）に分けて行われる。総論では、全身各器官に共通した病態とその原理を学ぶ。統合抗議の中に組み込まれた病理学各論において各器官毎の疾病の定義と特徴および顕微鏡所見、病因論などを学ぶ。ミクロの特徴を知るために光学顕微鏡を使って病理組織の観察（実習）を行う。また病気の実像に触れ、肉眼的な特徴を知るために、病理解剖が行われている時はできるだけ見学することが望ましい。

一般目標

各種疾患の実態を肉眼的、顕微鏡的に把握しその特徴を理解するために各臓器・器官に共通した基本的な病態とそれを起こす機構 **pathogenesis** をこれまでに学んだ他の基礎医学の知識をもとに学ぶ（総論）。ついで、各論（統合講義）においてこの総論の知識をもとに各臓器・器官ごとの疾患について形態学的変化と **pathogenesis**、臨床症状等を学び理解する。

行動目標

総論

1. 各臓器・器官に共通の基本的病態を循環障害、炎症、免疫等の面から説明する。
2. 各臓器・器官に共通の基本的病態を起こす機構（**pathogenesis**）を説明する。
3. 各臓器・器官に共通の基本的病態を肉眼的及び顕微鏡的に観察する。

各論（統合講義）

4. 各臓器・器官毎にみられる疾患について定義、形態学的変化を説明する。
5. 各臓器・器官毎にみられる疾患について **pathogenesis** を説明する。
6. 各臓器・器官毎にみられる代表的な疾患について肉眼的及び顕微鏡的に観察する。

授業内容

回	大項目	項目	内 容	担当者
1	総論	序説	病理学とは	阪 本
2		循環障害(1)	浮腫、充血とうっ血	阪 本
3		循環障害(2)	出血、止血と血栓症	阪 本
4		循環障害(3)	塞栓症、梗塞	阪 本
5		循環障害(4)	ショック	阪 本
6		炎症(1)	急性炎症（炎症と血管，急性炎症における細胞動態）	阪 本
7		炎症(2)	急性炎症（炎症の化学伝達物質）	阪 本
8		炎症(3)	慢性炎症（肉芽腫性炎症，急性炎症と慢性炎症の形態像の比較，炎症の全身性徴候）	阪 本
9		炎症(4)	治癒と修復（再生，結合織による修復）	阪 本
10		免疫と疾患(1)	基礎免疫学	上 野
11		免疫と疾患(2)	免疫反応による組織障害	上 野
12		免疫と疾患(3)	移植片拒絶，自己免疫疾患（SLE他）	上 野
13		実習	肺の慢性鬱血，肝臓の慢性鬱血，下大静脈の血栓	阪 本、他
14		免疫と疾患(4)	免疫不全症候群，アミロイドーシス	阪 本
15		実習	DIC、脾梗塞、ショック腎	阪 本、他
16		環境と疾患	喫煙，飲酒，大気汚染，放射線，他	阪 本
17		実習	急性化膿性虫垂炎，結核，アミロイドーシス	阪 本、他
18		食物、栄養と疾患	ビタミン欠乏症，無機質，肥満と疾患，食物と癌	阪 本
19		実習	石綿肺、珪肺症	阪 本、他

学習方法

疾患の形態学的変化や原因をよりよく理解するためには病理学以外の基礎医学，特に解剖学（マクロ，ミクロ）や生化学の知識が必要である。さらに，病理学総論（病理学 I，病理学 II をあわせて）をよく理解しておくことは病理学各論だけでなく，すべての臨床科の疾患を理解する上で大きな助けとなる。従って，病理学総論をできるだけきっちりと勉強することが望まれる。また，病理解剖を見学し，診断を自ら行う（課題実習）ことで，疾患をより具体的に理解することができる。

評価方法

3年前期末 総論講義終了後，原則として筆答試験

3年後期～4年前期 統合講義の各ユニット毎に原則として筆答試験，実習ノート提出による評価も加える。

教科書及び参考文献

Robbins et al. : Pathologic basis of diseases, 8th ed., 2010. Saunders.

アンダーウッド病理学 西村書店

菊池浩吉他編：新病理学総論 南山堂

菊池浩吉他編：新病理学各論 南山堂

Sandritter : Color atlas and textbook of macropathology. Year Book Medical Publisher.

Sandritter : Color atlas and textbook of histopathology. Year Book Medical Publisher.

R. C. Curran : Color atlas of histopathology. Oxford University Press

影山圭三他：組織病理アトラス 文光堂

西山保一：マクロ病理アトラス 文光堂

山川光徳／横井豊治／吉野正監訳：カラーアトラスマクロ病理学 西村書店

赤城忠信／大舘祐治／松原修編：カラーアトラス病理組織の見方と鑑別診断第4版 医歯薬出版

免疫学

担当教員

教 授	平 島 光 臣 (免疫病理学)
学内講師	大 水 総 一 (免疫病理学)
助 教	仁 木 敏 朗 (免疫病理学)
助 教	有 川 智 博 (免疫病理学) (研究休職)

授業概要

免疫学は、ほぼ一世紀前、疫病から"免がれる (im-munitas)"こと、すなわち免疫操作による感染防御を目的として始まり、その意味において医学そのものを生みの親とする学問である。そして、予防接種や血清療法に附随する副作用からアレルギー学が誕生し、それが今日の免疫病理学の発端とみなされる。病原微生物は（先に見いだされていた）抗体に対応する抗原性の概念へと抽象され、抗原抗体反応の学問として血清学、さらに免疫化学へと深化することとなる。しかし、現代免疫学が驚異的な変革を遂げたのは近々四分の一世紀の出来事であり、細胞とくにリンパ球に基礎をおく免疫機構の研究が、個体・細胞および分子レベルでめざましい進展をみたことに基因する。ヒトが免疫を獲得するとき、免疫系にはどのような事が起こっているのか、免疫応答はどのような機構によって調節されるのか、自己と非自己の識別はいかにして行われるのか、という免疫学の中心的課題が、抗体産生細胞系と細胞性免疫系との二系統免疫論を軸として次々に新しい局面を展開させて来た。免疫学は益々多くの関連諸科学の方法論を導入し、内在する自らの問題の解決に専心する一方、それら諸科学と深くハイブリダイズすることにより多彩な学際領域へと拡がりつつある。免疫学は正に発展途上の学問であり、新事実の相次ぐ出現によって既成の事実や理論は挑戦を受け、変貌・改変、時には解体を余儀なくされ続けている。

このように揺れ止まない、柔構造の学問を学習の場に持ち込むとなると、教える側にも学ぶ側にも、他の堅牢な体系を持つ学問に対する時とは違った、柔軟な構えが必要となるであろう。まず、現代免疫学を構成する基本的事実や原理を、単純に理解し記憶するのではなく、それらの成立のルーツとなった実験系を方法論がらみで理解しておく必要があると思われる。事実や理論の成立条件の限定性やそれらを免疫現象へ適用する際のメリット・デメリットを理解しておくことは将来起こりうる理論の地殻変動に耐えうる思考力の錬成となり、さらには免疫学創造の歴史に参加する資質の養成に繋がるものと考えられる。

現代の免疫学は今や、医学の一分野として生体防御機構や疾病の病理発生機序の理解、病気の診断と治療などに不可欠だけでなく、免疫生物学としてより根源的に生物学の中心的課題を解明するための共通の広場を提供するに到っている。

一般目標

1. 免疫系各臓器の個体発生、構造、機能を理解し、さらに各免疫臓器間の相互関係を総合的に理解することに努めること。
2. 免疫グロブリンおよび免疫グロブリン遺伝子の構造と機能を理解する。
3. 主要組織適合抗原（MHC抗原）とその遺伝的特徴、およびMHC抗原の構造・機能、疾患との相関について学習する。これを基礎にして、T細胞による抗原認識機構や、同種移植片拒絶の機構（移植免疫学）の理解へと進む。
4. 免疫系を構成する細胞の種類と機能、細胞が産生する種々の因子（リンフォカイン、インターリュ

ーキンなどのサイトカイン) の作用を理解する。免疫学の働きは、これらの細胞や因子の相互作用にもとづく、いわゆる免疫調節系として営まれることをよく理解しておく必要がある。T、B細胞の各種分化段階や、免疫細胞系細胞のサブセットを特徴づける表面マーカー（表面分子）につき学習することも重要な課題である。

5. 臓器特異的および全身性自己免疫疾患の発症機序を理解するために、主として動物モデルで得られた成果から導かれた理論を足場として、ヒト疾患の機序を考察する。
6. 腫瘍抗原、腫瘍と宿主の免疫学的相互関係（腫瘍拒絶と腫瘍の免疫応答回避機構）を理解する。
7. 免疫不全症の種類とその特徴を学習する。患者の診断に必要な細胞性免疫や体液性免疫機能の測定法の原理は知っておく必要がある。

授業内容

回	大項目	項目	内 容	担当者
1	免疫生物学	免疫学序論	(ア) 免疫学とは (イ) 免疫学の歴史 (ウ) 自然免疫と獲得免疫	平 島
2		免疫系の構造	(ア) 免疫臓器 ①原発性 ②続発性 (イ) 免疫臓器の個体発生	平 島
3, 4		免疫系を構成する細胞	(ア) リンパ球 ①T細胞 ②B細胞 (イ) マクロファージ系細胞 (ウ) NK細胞 (エ) マスト細胞 (オ) 好中球、好酸球	平 島
5, 6		T細胞の抗原レセプターと遺伝子	T細胞分化 T細胞抗原レセプターの構造、遺伝子および抗原認識機構、T細胞のシグナル伝達機構	大 水
7		主要組織適合抗原系と遺伝子	組織適合抗原 主要組織適合遺伝子複合体 (MHC) MHC抗原系の構造と機能 スーパー抗原 移植片対宿主反応 (GVHR) HLAの遺伝的特徴 HLA抗原の typing HLAと疾患	大 水
8, 9		(予備)		平 島
10, 11		免疫グロブリンと免疫グロブリン遺伝子	B細胞分化 B細胞抗原レセプターの構造、遺伝子および抗原認識機構、B細胞のシグナル伝達機構 免疫グロブリンの基本的構造と生物学的機能 抗原構造 各クラスの特徴 免疫グロブリン遺伝子	大 水

12, 13	免疫応答	抗原抗体反応, 抗体産生細胞応答 体液性免疫応答 細胞性免疫応答 サイトカイン 細胞障害性Tリンパ球	大 水
14, 15	免疫における細胞間協同作用	抗原提示細胞 ヘルパー細胞 (Th1/Th2/Th17) 制御性T細胞	大 水
16	免疫不全症	(ア) 原発性免疫不全症 (イ) 続発性免疫不全症	平 島
17	移植免疫	移植免疫の原理 移植片拒絶反応 移植片生着の理論 臓器移植: 免疫抑制療法	平 島
18	(予備)		平 島
19	免疫寛容	免疫寛容の誘導 寛容に関与する細胞 寛容の機構 中枢性トレランス、末梢性トレランス	大 水
20	免疫細胞学序説	比重分離液による単核球の分離とTリンパ球・単球の同定 フローサイトメトリー	大 水
21, 22	実習	比重分離液による単核球の分離とTリンパ球・単球の同定	平 島 大 水 仁 木
23, 24	実習	フローサイトメトリー	平 島 大 水 仁 木
25, 26	自己免疫	自己免疫とそのモデル 臓器特異的自己免疫疾患 全身性自己免疫疾患	平 島
27	腫瘍免疫	(ア) 腫瘍の抗原性 (イ) 腫瘍特異抗原 (T S A) (ウ) 腫瘍の免疫学的回避機構 (エ) 腫瘍免疫療法の現状と将来	平 島
28	(予備)		平 島

評価方法

1. 全講義終了後に筆記試験を行う。
2. 各実習毎に実習レポートを提出してもらい、内容の理解度を評価する。

学習方法

常に躍進を続けている学問を学ぶことの楽しさと一緒に厳しさを味わっていただくことになる。講義は教材プリントに即して進行する。扱う内容は各項毎に初歩段階から始まり、できるだけ最近の進歩にまで及ぶことになるので、参考書に頼るよりも授業内容を中心に学習する方が遥かに効率

的である。参考書はいずれも一長一短であり、「この一冊」と推奨できるものがないが、REALLY ESSENTIAL MEDICAL IMMUNOLOGY (Rabson A, Roitt IM, Delves PJ 著)を教科書として選定し、プリントで補足しながら授業を進める。講義内容で理解が不十分な所があれば時間外の質問にもできるだけ応じたい。

教科書及び参考文献

1. Arthur Rabson. Really Essential Medical Immunology. 2nd, Blackwell,2004.
2. Richard M. Hyde. Immunology. 4th, Lippincott Williams & Wilkins, 2000. National Medical Series for Independent Study.
3. Delves, Peter J ほか. Roitt's Essential Immunology . 12TH, Blackwell, 2011.
4. Doan, Thao T., M.D.ほか. Concise Medical Immunology. Lippincott Williams & Wilkins, 2005.
5. 矢田純一. 医系免疫学. 改訂 11 版, 中外医学社, 2009.
6. 菊地浩吉ほか. 医科免疫学. 改訂第 6 版, 南江堂, 2008.
7. 木本雅夫ほか. 免疫学コア講義 . 改訂 2 版, 南山堂, 2007.

オフィスアワー

随時実施

薬 理 学

担当教員

教授	西山 成	非常勤講師
准教授	小堀 浩幸	安部 陽一 (香川大学名誉教授)
助教	人見 浩史	清元 秀泰 (東北大学准教授)
助教	中野 大介 (医学部長預かりポスト)	小坂 信二 (香川大学医学部附属病院薬剤部)
		小路 哲生 (香川労災病院医師)
		西堀 正洋 (岡山大学教授)
		福岡 憲泰 (香川大学医学部附属病院薬剤部)
		吉栖 正典 (奈良県立医科大学教授)

授業概要

薬理学は、薬と生体との相互作用の結果起こる現象を研究し、その機構を明らかにすることを目的とした科学である。生体は、特に細胞レベルでは未知の現象がきわめて多い。高等動物における生体の特徴は、恒常性を維持するために調節機構が発達していることであり、病態とはその調節機構の障害により引き起こされた状態といえよう。薬の多くは、生体に作用してこれらの調節機構をゆり動かすことができるので、乱れている調節機構を正常方向に動かすことも可能であるとともに、正常生体でも薬によるゆり動かしの結果、きわめて興味深い現象が引き起こされる。前者が、薬物療法の基礎となり、また後者は生体の調節機構を解明する有力な手段として利用されている。これらのことから解るように、薬理学の授業においては、化学物質としての薬の性質によりゆり動かされる生体の生理および病態生理機能を十分に理解しなければならない。医学部における薬理学授業の主目的は、正しい薬物療法を行うための基礎知識を修得することにある。しかし、ただ知識の修得のみでなく、両刃の剣である薬を人体に投与することからも、倫理的問題を常に考える努力が必要である。

具体的内容については次項に列記されているが、薬理学の授業は単に知識の修得だけでなく、人体と薬物の関係を自ら思考する訓練でもある。このために、講義・実習が有機的につながりを持って提供されている。講義では薬理学に必要な知識を修得し、実習では自ら実験し、講義、教科書で得た知識を実証することに努める。次いで、基礎知識、実験手技の修得後、これらを応用して新たに生じた疑問点の解明のための実験計画を立てる。これらの課程において、自主性、創造力を養うことに努める。

一般目標

より適切な薬物療法を行うために、人体の恒常性を維持するための各種調節機構（生理）、さらには疾病時の各種調節機構の異常（病態生理）を把握した上で、これら調節機構を修飾する各種薬物の性質を理解することによって薬物療法の基礎知識を習得する。

さらに、生命機構の解明の大きな武器である薬を生命科学の道具として使用する基礎能力を養うために、薬物によりゆり動かされる生体側の反応を正確に把握・比較・評価する方法を身につける。

行動目標

1. 各種薬物の化学物質としての性質とその起源について説明できる。
2. 各種薬物の作用様式と作用機序を説明できる。
3. 薬物の生体内動態(吸収・体内分布・代謝・排泄), 及び薬理作用と副作用の関係を説明できる。
4. 各種疾病の基本的な病態生理を考慮した上で, 薬理学的根拠に基づいた適切な治療薬物の選択ができる。
5. 薬の構造を修飾することにより生体の調節機構を制御する新しい薬物の開発(創薬)が可能であることを具体例を示して述べることができる。

授業内容

回	大項目	項目	内 容	担当者
1	薬理学総論	受容体と情報伝達 チャンネルと薬理	GTP結合蛋白, Caの役割, Na, K, Ca, Clチャンネルに働く薬物 到達目標:受容体の機能について説明できる。イオンチャンネル に働く薬物の分子レベルにおける作用機序を説明できる。	中野
2		薬の作用様式と 作用機序	アゴニスト, アンタゴニスト(競合, 非競合阻害) 到達目標: ・薬物・毒物の濃度反応曲線を描き, その決定因子を説明できる。 ・薬物の受容体結合と薬理作用との定量的関連性を理解し, 活性薬と拮抗薬を説明できる。	中野
3		薬理学とは	定義, 歴史 到達目標:薬理学についての概要を理解・説明できる。	西山
4	臨床薬理学総論	臨床薬理学の実際 到達目標:臨床薬理学についての概要を理解・説明できる。	西山	
5	オータコイド	レニン・アンジオテンシ ン・アルドステロン系	RAA系の生理作用 RA系の病態生理と遮断薬 到達目標:RAA系作用薬の薬理作用を説明できる。	小堀 小堀
6		抗炎症薬	ステロイドおよび非ステロイド系抗炎症薬 到達目標:ステロイド薬および非ステロイド系抗炎症薬の薬理 作用を説明できる。	小堀
7	中枢神経系の 薬理	麻薬性鎮痛薬・パー キンソン病治療薬	麻薬性鎮痛薬・パーキンソン病治療薬の作用・副作用 到達目標:麻薬性鎮痛薬・パーキンソン病治療薬の薬理作用 を説明できる。	中野
9	特別講義	薬物の用量と反応	ED50, LD50, 構造-活性相関 到達目標:薬物・毒物の用量反応曲線を描き, 有効量・中毒 量・致死量の関係を説明できる。	吉栖
10		薬物の体内動態	吸収, 分布, 代謝, 排泄 到達目標: ・薬物・毒物の吸収, 分布, 代謝と排泄を説明できる。 ・薬物の生体膜通過に影響する因子を説明できる。 ・薬物投与方法を列挙し, それぞれの薬物動態を説明できる。	吉栖
11	末梢神経系の 薬理	交感神経作動薬	ノルアドレナリン, アドレナリン, ドーパミン, イソプロテレノール 到達目標:自律神経作用薬(アドレナリン作用薬)の薬理作用 を説明できる。	人見
12		交感神経遮断薬	α , β -遮断薬, 神経遮断薬 到達目標:自律神経作用薬(抗アドレナリン作用薬)の薬理 作用を説明できる。	人見
13	特別講義	消化器薬理	消化器の薬理 到達目標:消化器作用薬の薬理作用を説明できる。	西堀
14		ヒスタミン	ヒスタミンの薬理 到達目標:ヒスタミン受容体作用薬の薬理作用を説明できる。	西堀
15	末梢神経系の 薬理	副交感神経作動薬	アセチルコリン, ムスカリン, コリンエステラーゼ阻害薬 到達目標:自律神経作用薬(コリン作用薬)の薬理作用を説明 できる(1)。	人見
16		副交感神経遮断薬	アトロピン, スコポラミン	人見

17		神経節遮断薬	到達目標:自律神経作用薬(抗コリン作用薬)の薬理作用を説明できる(2)。 ヘキサメトニウム(C6)	中野
18		神経筋接合部作用薬	クラールレ, サクシニルコリン 到達目標:神経筋接合部作用薬の薬理作用を説明できる。	中野
19	特別講義	抗腫瘍薬	抗腫瘍薬の作用・副作用	小坂
20			到達目標:抗腫瘍薬の薬理作用を説明できる。	福岡
21	特別講義	漢方医学	漢方医学総論レビュー(1)	小路
22			到達目標:漢方医学の概念を説明できる。 漢方医学総論レビュー(2)	小路
23	薬理学実習	腎クリアランス	薬理学実習	清元
24			到達目標:利尿薬の薬理作用を説明できる。	清元
25	中枢神経系の薬理	中枢神経作用薬	精神病薬	安部
26			到達目標:精神病薬の薬理作用を説明できる。 抗うつ薬、抗けいれん薬	安部
27	補講		到達目標:抗うつ薬・抗けいれん薬の薬理作用を説明できる。	
28	補講			
29	特別講義	漢方医学	漢方医学各論レビュー(1)	小路
30			到達目標:漢方医学の実際を説明できる。 漢方医学各論レビュー(2)	小路
			到達目標:漢方医学の実際を説明できる。	

学習方法

興味をもつことである。しかし、興味をもつためには薬理学の知識を得るため勉強しなければならない。知識が増すにつれて、思考の範囲が拡大し、興味が増加するはずである。

授業の進行をスムーズに運ぶため、プリント、スライド等が用いられるが、ただ講義ノート、プリントのみを学習の材料とするだけでなく、適当な教科書を選び、講義ノート、教科書を50:50の重みとみなし学習することが大切である。

評価方法

出席回数、小テスト、学期末試験などを併せて評価する。出席の不足するものは受験資格を与えない。

教科書及び参考文献

- (1) 田中千賀子, 加藤隆一編. 「NEW薬理学」 改訂第5版, 南江堂, 2007.
- (2) Brunton, Laurence L.; Chabner, Bruce A., eds. 「Goodman & Gillmans Pharmacological Basis of Therapeutics」 12th ed., McGraw-Hill Professional, 2010.
- (3) Bertram G. Katzung et al., eds. 「Basic & clinical pharmacology」 11th ed., McGraw-Hill Medical, 2009, (A Lange medical book).
- (4) 戸田昇, 安孫子保編. 「循環系治療薬の作用メカニズム」 南江堂, 1998.

オフィスアワー

一応、授業日 16:30 ~ 18:00 とするが、この時間以外でも自由に来室(~ 21:00 程度)を歓迎する。

微生物学

担当教員

教授	桑原 知巳	非常勤講師
助教	成谷 宏文	今大路 治之（徳島大学大学院助教）
助教	鈴木 基生	

授業概要

医学における微生物学の最も重要な領域は病原微生物学であり、これを通じて感染症を把握することが医学部学生の最終的な課題となる。感染症の臨床は臨床各科と分子微生物学が協力して統合講義で扱うが、微生物学はその前段階として基礎微生物学と一部の臨床微生物学を扱うことになる。3年次の微生物学の理解が十分でなければ、4年次の講義が難解になることに注意しなければならない。講義の進め方は、精選されたプリントに基づき、特に重要な項目を解説することを原則とする。講義を真剣に聞いて初めてプリントの意味が理解されるようになっているので、自らプリントやノートに書き加えることが必要となる。教科書・参考書は、理解の補助的な手段であり、有効に活用することを勧める。試験対策用のプリントや過去の問題の解答集の丸暗記などは全く意味がない。

一般目標

ヒトを初めとする高等生物と微生物との宿主寄生体関係にかかる生命現象を理解するため、微生物の形態、構築、遺伝、代謝などについて分子論的視点から習得する。加えて、細菌感染症、真菌感染症、ウイルス感染症を診断、予防するため、感染成立、発症を規定する寄生体側の要因、治療、予防の基本原則を理解する。各論においては、主要な病原微生物の特質を把握する。

行動目標

1. 細菌・真菌・ウイルスの相違点を列挙し、それらの主要な形態、遺伝、増殖の特徴について説明できる。
2. 感染症の予防（滅菌、消毒、ワクチン）の原理を具体的に述べ、抗菌薬の種類と作用機構、薬剤耐性の機構を説明できる。
3. 寄生体の病原因子について代表的なものを列挙し、それぞれの性質・作用機序について簡単に説明できる。
4. 代表的な病原微生物（細菌、真菌、ウイルス）を列挙し、それぞれの特徴、疾患と微生物との関係、発症機構、診断と治療の要点を具体的に述べることができる。
5. 病原微生物（P2レベル以下）の取り扱いができる。
6. 適切な滅菌、消毒を行うことができる。
7. 細菌の分離培養ができる。

実習項目

微生物学実習では以下の項目を扱う。

無菌操作法と滅菌消毒法

グラム染色

細菌の分離培養と同定

薬剤感受性試験

微生物の免疫学的診断法

ウイルス感染価の測定

真菌の培養と観察

授業内容

回	大項目	項目	内容	担当者	
1	細菌学総論	歴史・分類・形態	細菌学の歴史, 細菌の分類, 形態と構造	桑 原	
2		増殖, 代謝	細菌の増殖, 増殖に及ぼす因子, 呼吸と発酵	成 谷	
3		滅菌・消毒・ワクチン	滅菌・消毒の目的, 原理と方法, ワクチンの原理	桑 原	
4		化学療法(1)	抗菌薬の構造と作用機序	桑 原	
5		化学療法(2)	抗菌スペクトル	桑 原	
6		薬剤耐性	薬剤耐性の機序	桑 原	
7	細菌学各論	球菌(1)	ブドウ球菌, 化膿レンサ球菌	成 谷	
8		球菌(2)	腸球菌, ナイセリア	桑 原	
9		グラム陽性桿菌(1)	ジフテリア菌, 結核菌, 非結核性抗酸菌	桑 原	
10		グラム陽性桿菌(2)	破傷風菌, ボツリヌス菌, ガス壊疽菌群	桑 原	
11,12		実 習	滅菌と消毒, 細菌の形態(1)	桑原,成谷,鈴木,今大路	
13,14		実 習	細菌の形態(2)	桑原,成谷,鈴木,今大路	
15	細菌学各論	グラム陰性桿菌(1)	緑膿菌, 百日咳菌, レジオネラ菌, 腸内細菌	桑 原	
16		グラム陰性桿菌(2)	腸内細菌, ビブリオ菌, ヘリコバクター	桑 原	
17,18		実 習	細菌の分離培養 真菌の培養	桑原,成谷,鈴木,今大路	
19,20		実 習	細菌の同定法(1) 真菌の観察	桑原,成谷,鈴木	
21		らせん菌・偏性細胞内寄生細菌	ボレリア, トレポネーマ, レプトスピラ, クラミジア, リケッチア	桑 原	
22		ウイルス学総論	分類と一般性状	ウイルスの分類と特徴, 形態, 増殖様式	桑 原
23,24	実 習		細菌の同定法(2) 薬剤感受性試験(1)	桑原,成谷,鈴木,今大路	
25	ウイルス感染症の病理		感染経路, 経過, 診断と治療	桑 原	
26	実 習		薬剤感受性試験(2) ウイルス感染価の測定(1)	桑原,成谷,鈴木	
27	ウイルス学各論		DNA ウイルス(1)	ポックスウイルス, ヘルペスウイルス, アデノウイルス	桑 原
28			DNA ウイルス(2)	ポリオマウイルス, パピローマウイルス, パルボウイルス	桑 原
29,30		実 習	ウイルス感染価の測定(2)	桑原,成谷,鈴木	
31		RNA ウイルス(1)	オルトミクソウイルス, パラミクソウイルス	桑 原	
32		RNA ウイルス(2)	カリシウイルス, ラブドウイルス, フィロウイルス	桑 原	
33		RNA ウイルス(3)	アレナウイルス, トガウイルス, フラビウイルス	桑 原	
34	RNA ウイルス(4)	コロナウイルス, ピコルナウイルス, ライノウイルス	桑 原		
35	RNA ウイルス(5)	ブニヤウイルス, レオウイルス	桑 原		
36		レトロウイルス	HIV と AIDS, HTLV-1 と成人T細胞白血病	桑 原	

37		肝炎ウイルスとプリオン	種々の肝炎ウイルス、プリオンと疾病	桑原
38	真菌学総論	分類と一般性状	真菌の分類、形態、増殖、抗真菌薬	成谷
39	真菌学各論	表在性・深在性真菌	カンジダ、アスペルギルス、クリプトコッカス	桑原

学習方法

臨床微生物学が扱う微生物の種類は膨大な数に達する。重要なものについては、できるだけ情報量を増やす努力が必要である。しかし、並列的に記憶するのではなく、優先順位をつけて記憶することが重要である。重要性の低いものについては適宜取捨選別し、要点を理解して記憶することが必要である。重要性、必要性は講義から知り得るようになっており、講義に集中することが学習方法のポイントである。

評価方法

1. 3年次前期末に筆記試験を行い、理解度を評価する。
2. 小試験を行い、出席点とすることがある。
3. 実習中に試問、討議し、かつレポートをチェックし理解度を評価する。
4. 上記の評価を総合して3年次末に可否の判定を行う。

教科書及び参考文献

Jawetz, Melnick, Adelberg "Medical Microbiology" Lange/Marugen

横田, 川名編“標準微生物学”医学書院

高木・斎藤・金政・内海・栗村編“エッセンシャル微生物学”医歯薬出版

天児, 森編“戸田新細菌学”南山堂

笹川, 林編“医科細菌学”南江堂

渡辺, 高野編“ウイルス学”講談社

南嶋, 水口, 中山編“現代微生物学入門”南山堂

Wilson, Miles, Parker "Topley and Wilson's principles of Bacteriology, Virology and Immunity"

Edward Arnold vol. 1-4, 7th ed. 1984.

B. Lewin, 松原・小川編“遺伝子”上・下 東京化学同人

C. A. スミス著・甲野・水谷訳“-感染症-感染と免疫のしくみ-”講談社

猪狩 淳, 原案・監修“目で見える病気 感染症”医学映像教育センター

オフィスアワー

電子メール (microbio@kms.ac.jp) にて

医 動 物 学

担当教員

准教授 新 井 明 治

助 教 原 田 正 和

授業概要

医動物学は医学に関係のある動物を取り扱い、大きく寄生虫学と、衛生動物学により構成されている。前者は寄生生活を行うものを取り扱い、微生物学と共に病原体を扱う感染症の二大分野の一つである。この中には内部寄生を行う単細胞性の原虫類と多細胞性の蠕虫類（線虫、吸虫、条虫類）が主なものとして含まれるが、昆虫、ダニ類などの外部寄生を行うものもある。一方、後者の衛生動物学においては、病原体の伝播、吸血、刺咬、中間宿主、アレルギーなどの点において医学的に問題となる節足、軟体、脊椎動物などを取り扱う。

本科目においては個々の種につき分布、形態、生活史、感染、病理、症状、診断、治療、予防及び特異的な寄生現象等を中心に学習する。この中では、医動物の分類および生態（生物学）、宿主－寄生体関係における特異的代謝（生理・生化学）、駆虫薬の作用機序（薬理学）、免疫機構（免疫学）、病理学的変化（病理学）、さらに疫学（公衆衛生学）等のように他の基礎教科と関連深い事項や、さらに臨床科目における診断、治療等の実際及び基礎知識をも学習する。

最近、国内においては、旧来の回虫、鉤虫などの土壌媒介寄生虫は少なくなってきた反面、①外国における感染、②海外より国内への持ち込み（マラリアなど）、③食生活等の変化による寄生虫症、④AIDSにおけるニューモシスチス肺炎、トキソプラズマ症のような基礎疾患のうえに発症する寄生虫症等が増加の傾向にあり、旧来とは様相を異にしている。一方、WHOの熱帯病重点対策7項目のうち6項目が寄生虫性疾患である事からもわかるとおり、海外においては寄生虫症は非常に重要な疾患である。この様な国内及び国外での現状に沿うべく新しい内容についても学習する。

一般目標

- 1 寄生虫および衛生動物により引き起こされる疾病に対しての診療行為および予防のために、各種医動物に対する医学的知識を習得する。
- 2 寄生虫および衛生動物の生物学上の特殊性を理解するため、これらの特異的な生命現象について認識する。

行動目標

- 1 人体に関係のある各種医動物について、その種類及び分類学的位置が解る。
- 2 各種寄生虫の病理機序について論述でき、更にその具体的診断、治療及び予防法について論述できる。

- 3 医動物に特徴的な代謝、免疫機構について代表的なものを論述できる。
- 4 形態学および免疫学的検査を実施できる。
- 5 代表的医動物について、卵、幼虫、成虫の全体標本及び病理切片を同定できる。
- 6 代表的医動物の疫学的調査法ならびにその撲滅対策法について論述できる。

授業内容

回	大項目	項目	内 容	担当者
1	医動物学総論	総 論	医動物学総論	新 井
2	線虫類	総 論	線虫類総論	新 井
		各 論	線虫類(1)(回虫)	
3		各 論	線虫類(2)(イヌ回虫、ネコ回虫、アニサキス類)	新 井
4		各 論	線虫類(3)(蟯虫、鉤虫)	新 井
5		各 論	線虫類(4)(広東住血線虫、糞線虫、顎口虫)	新 井
6		各 論	線虫類(5)(糸状虫類)	新 井
7		各 論	線虫類(6)(鞭虫、フィリピン毛細虫、旋毛虫)	新 井
8	吸虫類	総 論	吸虫類総論	新 井
		各 論	吸虫類(1)(肝吸虫)	
9		各 論	吸虫類(2)	新 井
		各 論	(横川吸虫、有害異形吸虫、槍形吸虫、膝蛭、棘口吸虫、肝蛭)	
10		各 論	吸虫類(3)(肺吸虫類)	新 井
11		各 論	吸虫類(4)(住血吸虫類)	新 井
12	原虫類	総 論	原虫類総論	新 井
		各 論	原虫類(1): 根足虫類(赤痢アメーバ、自由生活アメーバ)	
13		各 論	原虫類(2): 鞭毛虫類①(ランブル鞭毛虫、トリコモナス類)、有毛虫類(大腸バランチジウム)	新 井
14		各 論	原虫類(3): 鞭毛虫類②(トリパノソーマ類、リーシュマニア類)	新 井
15		各 論	原虫類(4): 胞子虫類①(マラリア原虫とマラリア1)	新 井
16		各 論	原虫類(5): 胞子虫類①(マラリア原虫とマラリア2)	新 井
17		実 習	実習(1) 線虫類1	新井・原田
18		各 論	原虫類(6): 胞子虫類②(トキソプラズマ)	新 井
19		実 習	実習(2) 線虫類2	新井・原田
20		実 習	実習(3) 吸虫類1	新井・原田
21		実 習	実習(4) 吸虫類2	新井・原田
22	各 論	原虫類(7): 胞子虫類③(クリプトスポリジウム、イソスポーラ) ニューモシスチス肺炎	新 井	
23	実 習	実習(5) 原虫類1	新井・原田	

24	条虫類	総論	条虫類総論	新井
		各論	条虫類(1)(無鉤条虫、有鉤条虫)	
25		各論	条虫類(2)(裂頭条虫類、マンソン孤虫症、小型条虫、縮小条虫、瓜実条虫)	新井
26		実習	実習(6) 原虫類 2	新井・原田
27		各論	条虫類(3)(単包条虫、多包条虫)	新井
28	衛生動物	総論	衛生動物総論	新井
		各論	衛生動物各論(1)	
29		各論	衛生動物各論(2)	新井
30	診断と治療	各論	検査法と治療	新井
31		実習	実習(7) 条虫類・衛生動物	新井・原田
32	感染免疫	各論	寄生虫感染免疫	新井
33		実習	実習(8) 虫卵検査法	新井・原田

学習方法

- 1 試験直前になって膨大な内容に驚くことのないように、各回の講義について必ず復習を行い、内容の整理をしておくこと。
- 2 各種の動物について分布、形態、生活史、感染、病理、症状、診断、治療、予防などの各項目についてきちんと理解する。
- 3 上記項目についてそれぞれの種における特徴を他種のものと比較し、理解すること。

評価方法

- 1 実習時間における態度。
 - 2 毎回の実習において提出するレポート(スケッチと課題)で学習目標の達成度をみる。
 - 3 試験(記述+マークシート)の成績。
- 以上の各項目の総合点により評価する。尚、試験は再試験までとする。

教科書及び参考文献

教科書として以下の図書を指定する。

吉田幸雄ほか. 図説人体寄生虫学. 第7版, 南山堂, 2006.

オフィスアワー

新井 明治 授業実施日 9時～18時 marai@med.kagawa-u.ac.jp

担当教員

教授	竹内 義喜（神経機能形態学）	教授	田宮 隆（脳神経外科学）
准教授	三木 崇範（神経機能形態学）	准教授	河井 信行（脳神経外科学）
教授	徳田 雅明（細胞情報生理学）	学内講師	三宅 啓介（脳神経外科学）
准教授	山口 文徳（細胞情報生理学）	学内講師	川西 正彦（脳神経外科学）
教授	阪本 晴彦（炎症病理学）	助教	新堂 敦（脳神経外科学）
非常勤講師	村垣 泰光（炎症病理学）	助教	岡内 正信（脳神経外科学）
准教授	上野 正樹（炎症病理学）	助教	畠山 哲宗（脳神経外科学）
非常勤講師	池田 研二（炎症病理学）	教授	山本 哲司（整形外科）
教授	河野 雅和（循環器・腎臓・脳卒中内科）	病院准教授	有馬 信男（リハビリテーション部）
教授	峠 哲男（健康科学）	講師	真柴 賛（整形外科）
准教授	出口 一志（消化器・神経内科）	病院准教授	今泉 泰彦（整形外科）
講師	日下 隆（周産母子センター）	学内講師	加地 良雄（整形外科）
助教	難波 正則（小児科学）	学内講師	人羅 俊明（整形外科）
教授	中村 祐（精神神経医学、ディレクター）	学内講師	岩田 憲（整形外科）
准教授	新野 秀人（精神神経医学）	助教	小松原 悟史（整形外科）
准教授	外山 芳弘（放射線部）	助教	千頭 憲一郎（整形外科）
講師	山本 由佳（放射線科）		
助教	木村 成秀（放射線部）		

授業概要

第一ユニットは神経系、運動器（筋骨格）系および精神系を対象とした領域である。

このユニットにおいては形態・機能・薬理学等の基本的医学知識に基づき、それぞれの疾患の病理所見を中心として、疾患の病因を明らかにし臨床系授業の理解度を深め、統合講義としてより質の高いものを求めている。臨床講義は診断（画像解析等）と検査にはじまり、神経系では脳血管障害や変性疾患、頭部外傷、感染症、腫瘍、先天奇形、脊髄・脊椎疾患、末梢神経疾患およびミオパチー等を、精神系では統合失調症、気分障害、てんかん、薬物依存、精神療法等を、運動器系においては骨・関節疾患、外傷と骨折、上・下肢疾患、骨・軟部腫瘍等を扱い、疾患を系統的に教授し、従来になかった新しい統合的な講義を行うものである。さらに、これらの系統に関連した症候として、意識障害や頭痛などを取り入れ、広く神経系疾患の診断学の習得をも目指している。併せて、チュートリアル教育を取り入れ、自ら問題解決の方法を探る方法としての自主学習を通して、第一ユニットで扱う内容に対する総合的知識を得ることを目標としている。

一般目標

神経系、運動器（筋骨格）系の正常構造と機能を基礎医学的立場から複合的に理解する。更にこれを基礎として、各種疾患の成り立ちを病態学的に理論的に説明できる知識を身につける。更に疾患の治療法から予後・予防に至るまでを、医学的根拠に基づいて考察できる知識を習得する。

従来の講義で見られる縦割りの講義スタイルではなく、一つの疾患に関わる講座がそれぞれ異なった視点で疾患にアプローチすることによって、より柔軟にかつ詳細に疾患の理解を深めるものである。

行動目標

- (1) 中枢・末梢神経系，運動器（筋・骨格）系の構成要素と機能を解剖学的・生理学的に説明できる。
- (2) 中枢神経系・末梢神経系の障害時の症状を述べ，神経学的所見とそれに適した検査法についての説明ができる。さらに，部位・局在診断ができる。
- (3) 各種疾患についての画像診断（X線写真，CT，MRI，血管造影など）と補助診断（脳波，筋電図など）の適応と所見が説明できる。
- (4) 疾患における病理学的所見の特徴について説明できる。
- (5) 神経疾患，運動器系疾患それぞれについて説明することができる。
- (6) 医学における精神神経医学の位置と役割を理解し，個々の精神疾患について説明することができる。

授業内容

回	項目	内容	担当者
1	自主学习		
2	神経系の構造と機能(総論)	1) 臨床医学に必要な神経系の構造を機能と結びつけて説明することができる。 2) 臨床医学での画像(CT、MRI、血管造影等)の読影に必要な正常構造を立体的に理解する。	神経機能形態学
3	脳の血管	1) 脳及び脊髄に分布する血管の解剖学的特徴を、支配領域の機能と脳血管障害時の症状と結びつけて説明することができる。 2) 脳血管の走行を立体的にイメージできる。	神経機能形態学
4	神経系の一般特性 脳内神経伝達物質と作用	主な脳内神経伝達物質とその作用を説明できる。	細胞情報生理学
5	診断と検査の基本	運動器の診断法と基本的検査法を概説できる。	整形外科
6	診断と検査の基本 画像診断	1) 神経系の各種画像診断法を説明できる。 2) 神経系の画像診断法の長所と短所を説明できる。	放射線医学
7	診断と検査の基本 画像診断	神経系の正常画像解剖を画像から説明できる。	放射線医学
8	診断と検査の基本 画像診断	1) 代表的な神経系疾患の異常画像所見を指摘できる。 2) 代表的な神経系疾患を画像所見から診断できる。	放射線医学
9	診断と検査の基本 画像診断	中枢神経の核医学について説明できる。	放射線医学
10	筋・骨格系の画像解析総論	1) 運動器系の各種画像診断法を説明できる。 2) 運動器系の画像診断法の長所と短所を説明できる。 3) 運動器系の正常画像解剖を画像から説明できる。 4) 代表的な運動器系疾患の異常画像所見を指摘できる。 5) 代表的な運動器系疾患を画像所見から診断できる。	放射線医学
11	診断と検査の基本	脳、脊髄の機能と神経学的検査方法との関係を説明できる。	脳神経外科学
12	脳・脊髄・末梢神経の構造	1) 脳・脊髄・末梢神経の組織構築を説明することができる。	神経機能形態学
13	脊髄・末梢神経の機能	1) 脊髄の構造、機能局在と伝導路を説明できる。 2) 脊髄反射(伸張反射、屈筋反射)と筋の相反神経支配を説明できる。	細胞情報生理学
14	中枢神経系の病理学(講義)	1) 種々の脳内の細胞の違いを区別し、病的状態における変化を理解できる。 2) ヘルニア、水頭症などの通常の病態生理学的合併症を説明できる。 3) 奇形、周産期脳障害を理解できる。血管性脳障害の病理を説明できる。	炎症病理学
15	中枢神経系の病理学(講義)		炎症病理学

16	診断と検査の基本	1) 神経・筋疾患診断における3段階診断法が説明できる。 2) 意識障害の判定と、脳神経、深部腱反射、運動および小脳機能、感覚系の診察ができる。 3) 髄膜刺激所見のとりかたを説明できる。 4) 神経画像検査、生理学的検査で得られる情報について説明できる。	消化器・神経内科
17	頭蓋内圧亢進症、脳ヘルニア	頭蓋内圧亢進による症状、診断、治療を説明できる。	脳神経外科学
18	自主学習		
19	自主学習		
20	自主学習		
21	自主学習		
22	自主学習		
23	自主学習		
24	自習学習		
25	チュートリアル		
26	特別講義		炎症病理学
27	中枢神経系の病理学(講義)	1) 変性疾患、なかでも認知症を呈する疾患とパーキンソニズムを呈する疾患を区別し、それぞれを説明できる。 2) プリオン病を理解し、孤発性と変異型との違いを説明できる。 3) 脱髄疾患を理解し、特徴を説明できる。	炎症病理学
28	中枢神経系の病理学(講義)		炎症病理学
29	中枢神経系の病理学(実習)	脳梗塞及びクロイツフェルト-ヤコブ病及びアルツハイマー病の切片を見て、病理学的に説明できる。	炎症病理学
30	脳血管障害(総論)	虚血性脳血管障害の病態生理を理解できる。	循環器・腎臓・脳卒中内科
31	脳血管障害(各論)	虚血性脳血管障害の局在とそれに関連した症状を理解し、説明できる。	循環器・腎臓・脳卒中内科
32	神経症候学	1) 脳神経障害の症状が説明できる。 2) 嚥下障害、運動麻痺・筋力低下、歩行障害、言語障害、感覚障害について、病態にもとづいて分類できる。	消化器・神経内科
33	統合失調症(急性期)	統合失調症の診断基準(とくに急性期症状)と治療・管理法を説明できる。	精神神経医学
34	統合失調症(慢性期)	統合失調症の経過や慢性期症状とリハビリテーション治療が述べられる。	精神神経医学
35	自主学習		
36	自主学習		
37	自主学習		
38	中枢神経系の病理学(講義)	1) 中枢神経内で起きうる感染症を区別し、説明できる。 2) 運動神経疾患を理解し、その症状を挙げ、そして、それに対する系統的障害部位を指摘できる。 3) 中枢神経系の先天性代謝異常疾患を理解できる。	炎症病理学
39	中枢神経系の病理学(講義)		炎症病理学
40	チュートリアル		
41	精神医学的症状と状態像	基本的な精神症状が系統的に挙げられ、状態像として類型化できる。	精神神経医学
42	神経心理学的症候・脳の局在症状	基本的な神経心理学的症候を脳の局在機能との関連で述べられる。	精神神経医学
43	精神科面接・診断分類法	1) 精神医学的面接法の要点を説明できる。 2) 精神疾患のICDやDSMなど診断体系が述べられる。	精神神経医学
44	自主学習		
45	チュートリアル発表会		

46	自主学習		
47	自主学習		
48	自主学習		
49	自主学習		
50	気分障害 うつ病の症候と診断	うつ病の症候と診断や治療法を説明できる。	精神神経医学
51	気分障害 双極性障害の症候と診断	双極性障害の症候と診断や治療法を説明できる。	精神神経医学
52	中枢神経系の病理学(講義)	神経系腫瘍を区別してあげられ、その特徴を説明できる。	炎症病理学
53	中枢神経系の病理学(実習)	神経系腫瘍の切片を見て、説明できる。	炎症病理学
54	中枢神経系の病理学(実習)		炎症病理学
55	脱髄疾患	多発性硬化症、急性脱髄性脳脊髄炎の病態、症状と診断、治療法について説明できる。	消化器・神経内科
56	変性疾患および認知症①	1)パーキンソン病とその類縁疾患の病態、症候と診断を説明できる。 2)認知症の原因を列挙できる。 3)認知症を来たす主な疾患(アルツハイマー病と脳血管性認知症)の症候と診断を説明できる。 4)脊髄小脳変性症、多系統萎縮症、運動ニューロン病について概説できる。	消化器・神経内科
57	てんかん(成人)	てんかんを発作症状や成因との関連で分類し、診断と治療法について述べられる。	精神神経医学
58	認知症	認知症の種類や症状と診断が述べられる。	精神神経医学
59	肩関節疾患	肩関節の主要な疾患の病態と治療について説明できる。	整形外科学
60	運動失調と不随意運動	1)小脳性・前庭性・感覚性運動失調の鑑別について説明できる。 2)振戦および他の不随意運動について概説できる。	消化器・神経内科
61	自主学習		
62	自主学習		
63	高次神経機能	1)大脳の構造を説明できる。	細胞情報生理学
64	高次神経機能	2)大脳皮質の機能局在(運動野・感覚野・言語野・運動野)を説明できる。	細胞情報生理学
65	高次神経機能	3)高次神経機能のトピックスを理解できる。	細胞情報生理学
66	変性疾患および認知症②	1)パーキンソン病とその類縁疾患の病態、症候と診断を説明できる。 2)認知症の原因を列挙できる。 3)認知症を来たす主な疾患(アルツハイマー病と脳血管性認知症)の症候と診断を説明できる。 4)脊髄小脳変性症、多系統萎縮症、運動ニューロン病について概説できる。	消化器・神経内科
67	脳血管障害1 脳出血	脳出血の臨床的特徴を説明できる。	脳神経外科学
68	脳血管障害2 くも膜下出血	くも膜下出血の診断・治療を理解できる。	脳神経外科学
69	先天性奇形	周生期に起こる脳障害について、病態生理学的に説明できる。	小児科学
70	脳血管障害3 脳梗塞(外科的治療)	脳梗塞の外科的治療を理解できる。	脳神経外科学
71	脳血管障害4 AVM.AVF.IVR	AVM・AVF及び脳血管内手術によって治療できる疾患の臨床的特徴を理解できる。	脳神経外科学
72	神経感染症・中毒	代表的な神経感染症・中毒疾患を挙げられ、診断と特徴が述べられる。	精神神経医学
73	精神科医療の法と倫理	精神保健福祉法(とくに強制入院)と倫理的問題について述べられる。	精神神経医学

74	症状精神病の概念と診断	症状精神病を呈する代表的な疾患を挙げ、それらの特徴を述べられる。	精神神経医学
75	変性疾患および認知症③	1) パーキンソン病とその類縁疾患の病態、症候と診断を説明できる。 2) 認知症の原因を列挙できる。 3) 認知症を来たす主な疾患(アルツハイマー病と脳血管性認知症)の症候と診断を説明できる。 4) 脊髄小脳変性症、多系統萎縮症、運動ニューロン病について概説できる。	消化器・神経内科
76	脊髄・脊椎疾患(1)	1) 脊椎、脊髄の解剖と神経支配を説明できる。 2) 麻痺の高位を判断できる	整形外科学
77	チュートリアル		
78	自主学習		
79	自主学習		
80	運動器の病理学(講義)	1) 筋肉に見られる疾患の種類を説明できる。 2) 筋肉に見られる重要な疾患について、病因を説明できる。	炎症病理学
81	運動器の病理学(講義)	筋肉に見られる重要な疾患について、形態学的変化を説明できる。	炎症病理学
82	運動器の病理学(実習)		炎症病理学
83	児童精神医学	小児期の発達障害と神経症の症候や診断について説明できる。	精神神経医学
84	心身症(摂食障害含む)	心身症の特徴と種類が挙げられ、心身相関について説明できる。	精神神経医学
85	関節疾患総論	1) 関節の解剖、生理について概説できる。 2) 関節症の病態について説明できる。	整形外科学
86	リウマチ性疾患	リウマチ性疾患の病態と治療について説明できる。	整形外科学
87	スポーツ外傷・骨折	靭帯損傷、骨折の治療と合併症について説明できる。	整形外科学
88	膝・足関節疾患	膝、足の主要な外傷、疾患の病態と治療について説明できる。	整形外科学
89	自主学習		
90	チュートリアル		
91	自主学習		
92	自主学習		
93	頭部外傷(急性期)	急性期における頭部外傷の診断・治療を説明できる。	脳神経外科学
94	頭部外傷(慢性期)	慢性期における頭部外傷の診断・治療を説明できる。	脳神経外科学
95	チュートリアル発表会		
96	ミオパチー①	1) 重症筋無力症の病態、症候、診断を説明できる。 2) 進行性筋ジストロフィー症の原因、分類、症候、診断を説明できる。 3) 周期性四肢麻痺、多発性筋炎、ミトコンドリア脳筋症を概説できる。	消化器・神経内科
97	自主学習		
98	精神療法・認知行動療法	代表的な精神療法を挙げられ、特徴を述べることができる。	精神神経医学
99	アルコール・薬物依存の病態と診断	依存性薬物の種類や特徴を挙げ、離脱症状の診断と治療を説明できる。	精神神経医学
100	自主学習		
101	自主学習		
102	運動器の病理学(講義)	1) 関節に見られる疾患の種類を説明できる。 2) 関節に見られる重要な疾患について、病因を説明できる。	炎症病理学
103	運動器の病理学(講義)	関節に見られる重要な疾患について、形態学的変化を説明できる。	炎症病理学
104	運動器の病理学(実習)		炎症病理学

105	自主学習		
106	脊髄・脊椎疾患(2)	脊髄、脊髄の主要な疾患の病態と治療を概説できる。	整形外科学
107	不安性障害・解離性障害	不安性障害・解離性障害・ストレス関連障害の症候や診断について説明できる。	精神神経医学
108	コンサルテーション・リエゾン 精神医学	精神医学と他科との連携について説明できる。	精神神経医学
109	てんかん(小児)	小児期に発症する代表的なてんかんおよびその他の神経疾患について、その病態生理・臨床像を通し、正しく理解し、説明できる。	小児科学
110	脊髄・脊椎疾患	脊髄空洞症、亜急性連合性脊髄変性症、神経梅毒、脊髄血管障害について概説できる。	消化器・神経内科
111	自主学習		
112	骨・軟部腫瘍(1)	骨、軟部の良性腫瘍の診断と治療について説明できる。	整形外科学
113	変性疾患 (機能的脳神経外科)	変性疾患(機能的脳神経外科)について診断・治療を説明できる。	脳神経外科学
114	先天奇形	先天奇形の分類・診断・治療・予後について説明できる。	脳神経外科学
115	特別講義 脳の不思議とその理由	21世紀は心の時代と言われていますが、自然科学の立場からは、心が脳の中にあるのは自明の理と思えます。しかし、脳の働きには余りにも不思議なことが多く、ヒト脳機能の解明は人類の脳自身が挑戦する果てしないテーマだと言えます。	脳神経外科学
116	神経感染症・中毒①	1) 髄膜炎・脳炎の原因、症候と診断を説明できる。 2) 髄液検査の目的、適応と異常所見を説明し、結果を解釈できる。 3) プリオン感染症、レトロウイルス感染症、遅発性ウイルス感染症について概説できる。	消化器・神経内科
117	神経感染症・中毒②	1) 髄膜炎・脳炎の原因、症候と診断を説明できる。 2) 髄液検査の目的、適応と異常所見を説明し、結果を解釈できる。 3) プリオン感染症、レトロウイルス感染症、遅発性ウイルス感染症について概説できる。	消化器・神経内科
118	周産期脳障害①	発達過程の神経系の変化を神経科学的に説明できる。	小児科学
119	周産期脳障害②	1) 脳の発達時期に基づいたエネルギー代謝の特性について説明できる。 2) 周産期における脳障害の特徴について説明することができる。	小児科学
120	自主学習		
121	自主学習		
122	自主学習		
123	運動器の病理学(講義)	1) 骨に見られる疾患の種類を説明できる。 2) 骨に見られる重要な疾患について、病因を説明できる。	炎症病理学
124	運動器の病理学(講義)	骨に見られる重要な疾患について、形態学的変化を説明できる。	炎症病理学
125	運動器の病理学(実習)		炎症病理学
126	末梢神経疾患	1) 末梢神経の解剖と主要な疾患、外傷の治療について説明できる。 2) 神経学的診察が理解できる	整形外科学
127	上肢疾患	上肢の主要な疾患の病態と治療について説明できる。	整形外科学
128	先天性代謝障害	糖質、脂質、アミノ酸、銅などの代謝異常による神経疾患について、特徴的な疾患について概説できる。	消化器・神経内科
129	骨・軟部腫瘍(2)	骨、軟部の悪性腫瘍の診断と治療について説明できる。	整形外科学
130	末梢神経障害①	1) ニューロパチーの原因(栄養障害、中毒、遺伝性、免疫性)と病態を分	消化器・神経内科

		類できる。 2)ギランハレー症候群、ビタミン欠乏性ニューロパチー、アミロイドニューロパチー、ペル麻痺の症候、診断を説明できる。	
131	末梢神経障害②	1)ニューロパチーの原因(栄養障害、中毒、遺伝性、免疫性)と病態を分類できる。 2)ギランハレー症候群、ビタミン欠乏性ニューロパチー、アミロイドニューロパチー、ペル麻痺の症候、診断を説明できる。	消化器・神経内科
132	脳腫瘍1 脳腫瘍の分類グリオーマ	脳腫瘍の分類及びグリオーマの診断・治療について説明できる。	脳神経外科学
133	脳腫瘍2 鞍上部・松果体腫瘍	鞍上部、松果体部腫瘍について診断・治療を説明できる。	脳神経外科学
134	自主学習		
135	股関節疾患	股関節の主要な疾患の病態と治療について説明できる。	整形外科
136	骨代謝性疾患	代謝性骨疾患の病態と治療について説明できる。	整形外科
137	脊髄・脊椎疾患	脊髄・脊椎疾患の臨床的特徴を説明できる。	脳神経外科学
138	脳腫瘍3 後頭蓋窩腫瘍	後頭蓋窩腫瘍について診断・治療を説明できる。	脳神経外科学
139	脳腫瘍4 髄膜腫	髄膜腫について診断・治療を説明できる。	脳神経外科学
140	小児神経疾患(1)	小児期に発症する代表的な神経疾患について、その病態生理・臨床像を通して説明出来る。	小児科学
141	小児神経疾患(2)	小児期に発症する代表的な神経疾患について、その病態生理・臨床像を通して説明出来る。	小児科学
142	頭痛	1)頭痛の原因と病態を説明できる。 2)頭痛診断の要点と鑑別について説明できる。	消化器・神経内科
143	ミオパチー②	1)重症筋無力症の病態、症候、診断を説明できる。 2)進行性筋ジストロフィー症の原因、分類、症候、診断を説明できる。 3)周期性四肢麻痺、多発性筋炎、ミトコンドリア脳筋症を概説できる。	消化器・神経内科
144	ミオパチー③	1)重症筋無力症の病態、症候、診断を説明できる。 2)進行性筋ジストロフィー症の原因、分類、症候、診断を説明できる。 3)周期性四肢麻痺、多発性筋炎、ミトコンドリア脳筋症を概説できる。	消化器・神経内科
145	ミオパチー④	1)重症筋無力症の病態、症候、診断を説明できる。 2)進行性筋ジストロフィー症の原因、分類、症候、診断を説明できる。 3)周期性四肢麻痺、多発性筋炎、ミトコンドリア脳筋症を概説できる。	消化器・神経内科
146 ～ 153	自主学習		
155	統合講義試験		
156	統合講義試験		
157 ～ 166	自主学習		

評価方法

チュートリアル課題レポートと講義の最後に行う筆記試験を併せて総合評価する。ただし、チュートリアル課題レポートが未提出あるいは、評価が否である場合には、筆記試験の受験資格は与えられない。病理学(等)実習の終了の認定を受けていない場合、筆記試験の受験資格は与えられない。

教科書及び参考文献

神経機能形態学

臨床のための神経機能解剖学 後藤・天野著、中外医学社

Correlative Neuroanatomy Jack deGroot 著、Appleton & Lange

ネッター解剖学図譜 相磯訳、丸善株式会社

図説中枢神経系、水野・岩堀・中村訳、医学書院

細胞情報生理学

標準生理学、本郷他、医学書院

Physiology Berne & Levy Mosby

新生理学、小幡、文光堂

新生理学、関田・内藤編、医学書院

現代の生理学、古河・太田、金原出版

Review of Medical Physiology, Ganong, 丸善出版

ガイトン臨床生理学 Arthur C.Guyton John E.Hall 医学書院

脳の分子生物学、Zach W, Hall、メディカル・サイエンス・インターナショナル

薬理学

田中、加藤編 「NEW薬理学」 南江堂

Goodman and Gilman's The Pharmacological Basis of Therapeutics, Macmillan Publishing Co.

Basic and Clinical Pharmacology」 ed. B. G. Katzung; a Lange Medical Book

炎症病理学

Robbins Pathologic Basis of Disease, (eds) Cotran, Kumar and Collins, Saunders

Greenfield's Neuropathology, (eds) DI Graham and PL Lantos, Oxford Univ. Press

Neuropathology, (eds) D Ellison and S Love, Mosby

整形外科病理学図説、阿部光俊編著、南光堂

Orthopedic Pathology, Peter G. Bullough, Mosby-Wolfe

Orthopedic Surgical Pathology, M. Forest 他、Churchill Livingstone

循環器・腎臓・脳卒中内科

脳卒中学 山口、内山ら編 医学書院

ブレインアタック超急性期の脳卒中診療 藤井、岡田編 中山書店

消化器・神経内科

ベッドサイドの神経の診かた、田崎義昭・斎藤佳雄 著、南山堂.

神経内科ハンドブック 鑑別診断と治療、第4版、水野美邦 編集、医学書院.

新・病態生理でできた内科学7 神経疾患、村川裕二 監修、医学教育出版.

脳神経疾患ビジュアルブック、落合滋之 監修、学研.

神経内科の外来診療、北野邦孝 著、医学書院.

Merritt's textbook of Neurology, twelfth edition, edited by Lewis P. Rowland, Lea & Febiger.

小児科学

Neurology of the newborn, Fourth edition, Volpe, Saunders

Neonatology Pathophysiology and Manegement of the newborn, Fifth edition, Avery, Fletcher,

MacDonald, Lippincott.

てんかん症候群 清野昌一・大田原俊輔著、医学書院

臨床脳波学、大熊輝雄著、医学書院

精神神経医学講座

STEP 精神科、高橋茂樹（著）、岸本年史、海馬書房

放射線医学講座

標準放射線医学：高島 力、佐々木康人 監修、医学書院

脳神経外科学

STEP 外科① 外科総論・脳神経外科：小林士朗、小田行一郎 監修、海馬書房

CHART 13 脳神経外科：伊藤洋 編集、医学評論社

脳神経外科学必須講義：松谷雅生(著)、メジカルビュー社

標準脳神経外科学：山浦昌、児玉南海雄、田中隆一 編、医学書院

脳神経外科学：太田富雄 編、金芳堂

整形外科学

標準整形外科学 鳥巢岳彦ら編集 医学書院

整形外科診断学 辻陽雄、高橋栄明 金原出版

担当教員

教授 中村 隆 範（分子細胞機能学）	准教授 大西 平（生化学）
教授 上田 夏 生（生化学）	准教授 上野 正樹（炎症病理学）
教授 中村 祐（精神神経医学）	准教授 紺谷 桂一（呼吸器・乳腺内分泌外科学）
教授 伊藤 進（小児科学）	准教授 杉元 幹史（泌尿器・副腎・腎移植外科学）
教授 阪本 晴 彦（炎症病理学）	准教授 西 望（総合生命科学研究センター）
教授 徳田 雅 明（細胞情報生理学）	講師 井町 仁美（内分泌代謝・血液・免疫・呼吸器内科学）
教授 筧 善 行（泌尿器・副腎・腎移植外科学）	助教 村岡 都美江（内分泌代謝・血液・免疫・呼吸器内科学）
教授 村尾 孝 児（先端医療・臨床検査医学）	

授業概要

第2ユニットは内分泌系と栄養・代謝系を対象領域として前半は内分泌系、後半は栄養・代謝系の授業から構成されている。内分泌系ではホルモンを構造から分類し、それぞれの分泌調節機構とそれらの標的期間での受容体とその情報伝達機構を学習して、それぞれの作用が説明できることが必要である。各内分泌器官の位置を図示し、そこから分泌されるホルモンを列挙でき、それらの相互関係が説明できて、フィードバック調節を理解する。各種ホルモンの分泌異常（過剰あるいは欠乏）にもとづく病態の変化が理解でき、その是正方略が説明できることが必要である。代謝・栄養系では、生体の恒常性維持の重要性とその調節機序が理解できて、生体機能や体内環境のリズム性変化を説明できる。生体物質（糖、脂質、タンパク質、アミノ酸、核酸など）の代謝動態を、酵素やホルモン作用の面から学習する。糖尿病、脂質代謝異常症を独立した疾患ではなくて、生活習慣にもとづく症候群の一部として理解できることが必要である。主な症候・病態の原因・分類・診断・治療の概要を性別・発達、成長、加齢ならびに生活習慣と遺伝子の関連から理解できることが重要である。

一般目標

内分泌系と栄養・代謝系の構造と生理機能を理解し、主な疾患の病態生理、原因、症候、診断と治療を学ぶ。

行動目標

各授業にそれぞれ到達すべき身区表を設定している。これらは医学教育モデル・コアカリキュラムに掲げられている内分泌・栄養・代謝系で学習すべき到達目標が含まれている。内分泌・栄養・代謝

系に関連する症候については、医学教育モデル・コアカリキュラムの項 (WEB シラバス) を参照する。

授業内容

回	大項目	項目	内容	担当者
1		内分泌細胞の解剖	内分泌細胞の解剖 1) 視床下部、下垂体、副腎の構造と分布する神経・血管を説明できる。 2) 副甲状腺・甲状腺の構造分布する神経・血管説明できる。 3) 膵臓と消化管内分泌細胞の構造と分布する神経・血管を説明できる。 4) 各組織の内分泌細胞間の神経構造とネットワークが説明できる。 5) ホルモンをその構造から分類し作用機序を説明できる。	炎症病理学・ 内分泌代謝・血液・免疫・呼吸器内科
2		内分泌細胞の機能	内分泌細胞の機能 1) ホルモン分泌の調節機構を説明できる。 2) ホルモン受容体の構造と情報伝達、ならびに作用を説明できる。	分子細胞機能学
3				
4				
5		診断と検査・疾患	視床下部、下垂体のホルモン異常の病態と診断 1) クッシング病の病態と診断を説明できる。 2) 末端肥大症を概説できる。 3) 汎下垂体機能低下症を概説できる。 4) 尿崩症を概説できる。 5) ADH 不適切分泌症候群を概説できる。	内分泌代謝・血液・免疫・呼吸器内科・先端医療・臨床検査
6				
7				
8				
9		診断と検査・疾患	小児と成長ホルモン	小児科
10		診断と検査・疾患	小児の下垂体疾患	小児科
11		肥満とやせ	肥満とやせ 1) 肥満とやせを定義し、それぞれの原因を列挙できる。 2) 肥満とやせを呈する患者の診断と治療の要点を説明できる。	内分泌代謝・血液・免疫・呼吸器内科・精神神経科
12				
13		診断と検査・疾患	甲状腺・副甲状腺のホルモン異常の病態と診断 1) 甲状腺腫を分類し、その特徴と疾患を列挙できる。 2) 甲状腺機能亢進症の病態・診断と治療を説明できる。 3) 甲状腺炎を概説できる。 4) 甲状腺機能低下症の症候・診断と治療を説明できる。 5) 副甲状腺をカルシウム代謝異常と関連づけて説明できる。 6) 副甲状腺機能亢進症と機能低下症の原因・病態・症候と診断を説明できる。 7) 偽性副甲状腺機能低下症を概説できる。 8) 甲状腺疾患の外科的治療の適応と合併症を説明できる。	内分泌代謝・血液・免疫・呼吸器内科・呼吸器・乳腺外科・先端医療・臨床検査
14				
15				
16		病理	内分泌病理講義および実習	炎症病理学
17				
18				
19		個体の機能	個体の機能 1) 情報伝達の種類と機能を説明できる。 2) 受容体細胞内シグナル伝達課程を説明できる。 3) 生体内におけるカルシウムイオンの多彩な役割を説明できる。 4) 生体の恒常性維持と適応を説明できる。 5) 恒常性維持のための調節機構を説明できる。	細胞情報生理学

20 21 22	代謝の調節	代謝の調節 1) 酵素の機能と調節について説明できる。 2) 糖の経路と調節機構を説明できる。 3) クエン酸回路を説明できる。 4) 電子伝達系と酸化的リン酸化を説明できる。 5) 糖新生経路と調節機構を説明できる。 6) グリコーゲンの合成と分解の経路が説明できる。 7) 五炭糖リン酸回路の意義を説明できる。 8) 脂質の合成と分解を説明できる。 9) タンパク質の合成と分解を説明できる。 10) アミノ酸の異化と尿素合成の経路を説明できる。 11) ビタミンの種類と機能を説明できる。	生化学
23 24 25 25	疾患 糖代謝	1) 糖尿病の原因・病態生理・症候・診断を説明できる。 2) 糖尿病の急性・慢性合併症を説明できる。 3) 糖尿病の治療を概説できる。 4) 低血糖を概説できる。	内分泌代謝・血液・免疫・呼吸器内科・先端医療・臨床検査
26 27 28	疾患 脂質代謝	脂質代謝 1) 高脂血症の分類・原因と病態を説明できる。 2) 高脂血症の予防と治療を説明できる。	内分泌代謝・血液・免疫・呼吸器内科・先端医療・臨床検査
29	疾患	意識障害をきたす代謝疾患 1) 代謝異常による意識障害の病態・原因・診断と治療が説明できる。	内分泌代謝・血液・免疫・呼吸器内科
30	疾患	急性腹症をきたす代謝疾患 1) 代謝異常による急性腹症の病態・原因・診断と治療が説明できる。	内分泌代謝・血液・免疫・呼吸器内科
31	診断と検査	副腎 1) 副腎皮質ホルモンの構造と代謝を説明できる。 2) 副腎髄質ホルモンの代謝を説明できる。	生化学
32 33	疾患	副腎 1) クッシング症候群の病態・症候と診断・治療を説明できる。 2) アルドステロン過剰症を概説できる。 3) 褐色細胞腫を概説できる。	内分泌代謝・血液・免疫・呼吸器内科・先端医療・臨床検査・泌尿器・副腎・腎移植外科学
34 35	疾患	動脈硬化症 1) 動脈硬化の原因・病態生理・診断と治療を説明できる。 2) 生活習慣病を概説できる。 3) 血栓症を概説できる。	内分泌代謝・血液・免疫・呼吸器内科・先端医療・臨床検査
36 37 38	疾患	骨代謝 1) 骨代謝の調節機構をホルモンとの関連で説明できる。 2) 骨粗鬆症の原因・病態生理・症候・診断と治療を説明できる。 3) 二次性骨粗鬆症の原因・病態生理・症候・診断と治療を説明できる。 4) その他の骨代謝異常症の原因・病態生理・症候・診断と治療を説明できる。	内分泌代謝・血液・免疫・呼吸器内科
39 40	疾患	先天性代謝疾患 1) 主な先天性代謝疾患(フェニルケトン尿症、ガラクトース血症、ホモシステイン尿症)を概説できる。 2) ヘモクロマトーシスを概説できる。 3) ウイルソン病を概説できる。 4) ポルフィリン代謝異常症を概説できる。 5) ビタミン欠乏症と過剰症を説明できる。 6) グリコーゲン代謝異常疾患を概説できる。	小児科学
41	疾患	小児の内分泌疾患、糖代謝	小児科

42	疾患	小児の内分泌疾患、Ca、P	小児科
43	疾患	小児の内分泌疾患、甲状腺	小児科
44	疾患	小児の内分泌疾患、副腎・性腺疾患	小児科
45	疾患	多発性内分泌腺腫症	内分泌代謝・血液・免疫・呼吸器内科
46	構造と機能	消化管ホルモン	分子細胞機能学
47	疾患	消化管ホルモン 1) ガストリン分泌機構を説明できる。 2) ゴリンジャーエリソン症候群を概説できる。 3) 消化管ホルモン過剰症による下痢の原因。病態生理・症候・診断と治療を説明できる。 4) 耐糖能異常をきたす消化管ホルモン分泌異常を説明できる。	内分泌代謝・血液・免疫・呼吸器内科
	治療	東洋医学総論	内分泌代謝・血液・免疫・呼吸器内科
48	Tutorial		
49			
50			
51			
52	発表会		
53			
54	試験	統合試験	
55			

学習方法

系統講義に於いては講義前に少なくとも教科書を読み授業前に疑問点をはっきりさせる。自分で学習しそれを解決していく態度が必要である。チュートリアルを全ての系統講義が始まる前に予定しているのも自学自習の態度を実践するためである。

評価方法

チュートリアル課題レポートと本ユニット最終日に行う統合試験成績をあわせて評価する。ただし、チュートリアル課題に関してレポートが未提出、あるいは評価が否であるものは、統合試験受験資格は与えられない。また「病理学の実習の終了の認定を受けていない場合、統合試験の受験資格は与えられない。」

教科書及び参考文献

内分泌・栄養・代謝学：Textbook of Endocrinology;Williams; Endocrinology and Metabolism, Frohman; Joslin's Diabetes Mellitus, Marblet al.;

内科学：Textbook of Medicine, Cecil; Principles of Internal Medicine, Harrison; Internal Medicine, Stein; The Principles and Practice of Medicine, Harvey;

小兒科 : Nelson Textbook of Pediatrics, Behrman: Pediatrics 20th ed. Rudolph;

外科学 : Textbook of Surgery, Davis-Christopher; Principles of Surgery, Schwartz; Hardy's
Textbook of Surgery, James Hardy;

担当教員

教授 正 木 勉（消化器・神経内科）	教授 荒 木 伸 一（組織細胞生物学）
教授 鈴 木 康 之（消化器外科学）	准教授 野 田 卓 男（小児外科学）
教授 伊 藤 進（小児科学）	准教授 新 井 明 治（国際医動物学）
教授 今井田 克 己（腫瘍病理学）	助 教 内ノ村 聡（放射線医学）
教授 西 山 成（薬理学）	

授業概要

消化器系では臓器によって解剖、生理が異なる。消化器の各臓器により好発する疾患があり、その発生部位にも特徴がある。その中には救急医療に含まれる疾患から慢性に経過するものがあり、良性疾患、悪性疾患、先天性疾患、機能異常、感染症あるいはそれらの合併しているものなど多種多様なものが含まれている。好発する年令の異なる疾患もあり、発生学を含む幅広い知識が必要になる。

消化器以外の疾患や薬剤によっても消化器疾患が引き起こされることもあり、基礎医学、病理学、放射線医学の知識に基づき、消化器疾患を理解するにはあらゆる疾患に精通する必要がある。的確に診断をくだし、病態を把握するためには論理的かつ筋道の通った消化器病に対する考え方を理解すると共に病歴の取り方、診察の方法、及び必要で的確な検査方法を熟知して選択しなければならない。また、同一の疾患であっても病期や病態により、また QOL を保つためにいろいろな治療法があり、実践されている。第六ユニットではこのように消化器系について解剖、画像、病理から各疾患の病態・治療まで幅広く学ぶ。

一般目標

消化器系の解剖とともに肝臓、膵臓、胆道系、脾臓、食道、胃、小腸、大腸疾患の病態生理を学び、各種疾患の疫学、診断学、治療法を講義、チュートリアル、自己学習により習得する。

行動目標

1. 消化器諸臓器の解剖、生理、病理学的な基本的事項について説明できる。
2. 肝疾患、膵疾患、胆道疾患の診察のしかたについて修得すると共に理学所見や血液生化学的検査、画像所見などにより診断法を説明できる。
3. 消化器疾患の予防法、手術適応を含む治療法、周術期の管理の要点等の説明ができる。
4. 食道、胃、小腸、大腸疾患についてはX線検査や内視鏡検査など診断に至る諸検査法を説明できる。
5. 消化器病理の基礎的事項について理解する。
6. 消化器疾患の救急医療、例えば急性腹症、吐・下血や肝性昏睡等のプライマリケアの要点についても列挙できる。
7. 各々の疾患に対して、各臓器の解剖、機能的役割を考慮して治療法を決定しようとする。

授業内容

回	項目	内容	担当
1	消化器外科総論	1) 外科療法を必要とする疾患の概要を理解できる。 2) 各臓器の解剖と機能、および手術による機能の欠落について理解できる。 3) 実質臓器の機能評価、管腔臓器の機能の再建について理解できる。	消化器外科
2	新生児の外科的消化器疾患	1) 新生児腸閉塞症の病態・症候につき、成人腸閉塞症との違いを説明できる。 2) 腹部単純X線像の所見による鑑別診断を説明できる。 3) 腸閉鎖の成因を説明できる。	小児外科
3	消化管の解剖	1) 消化管の位置、形態と血管分布。 2) 腹膜と臓器の関係。 3) 消化管の基本構造と部位による違い。	組織細胞生物
4	胃炎、消化性潰瘍	原因、症候、分類、診断と治療を概説できる。	消化器・神経内科
5	消化器外科における術前術後管理	1) 消化器外科疾患における術前のリスクを正しく評価できる。 2) 消化器外科疾患において、術後の時間経過に即した患者管理を説明できる。	消化器外科
6	新生児消化器疾患	胎児から新生児への消化器の適応に関する知識を概説できる。	小児科
7	肝胆膵の解剖	肝・胆・膵の構造と位置関係	組織細胞生物
8	消化管の病理 I	消化管の病理 I	腫瘍病理
9	病理実習 (I)	病理実習 (I)	腫瘍病理
10	病理実習 (II)	病理実習 (II)	腫瘍病理
11	食道疾患の外科治療	1) 手術を必要とする食道疾患の病態が生理的、解剖学的に理解できる。 2) 食道良性疾患の外科的治療法が理解出来る。 3) 食道癌の臨床病理学的分類が理解できる。 4) 食道癌の外科治療の要点が理解できる。	消化器外科
12	胃疾患の外科治療	1) 胃十二指腸潰瘍の外科的治療方針、手術術式を説明できる。 2) 胃悪性リンパ腫、GIST の診断、治療を説明できる。 3) 胃癌の治療方針、治療法を説明できる。 4) 胃の手術術式と胃切除後症候群を説明できる。	消化器外科
13	食道炎、食道アカラシア	症候、原因、診断と治療を概説できる。	消化器・神経内科
14	過敏性腸症候群、大腸憩室	過敏性腸症候群の概念について説明できる。 憩室症について説明できる。便秘、下痢の病態。	消化器・神経内科
15	胃良性腫瘍、胃悪性腫瘍	分類、診断と治療を概説できる。	消化器・神経内科
16	食道静脈瘤、食道悪性腫瘍	分類、診断と治療を概説できる。	消化器・神経内科
17	消化管内視鏡治療	1) 適応と禁忌について説明できる。 2) 内視鏡的止血術、内視鏡的硬化療法、粘膜切除術、偶発症とその予防について説明できる。	消化器・神経内科
18	消化器内視鏡学	1) 適応と禁忌について説明できる。 2) 代表的疾患の内視鏡的特徴について説明できる。 3) 色素内視鏡、生検について説明できる。	消化器・神経内科
19	大腸の外科治療	1) 結腸、直腸の解剖を正しく説明できる。 2) 大腸の外科疾患とその術式について概説出来る。	消化器外科
20	小腸、虫垂、肛門病変の外科治療	1) 小腸の外科疾患とその術式について説明できる。 2) 虫垂炎の診断法と術式について説明できる。 3) 痔疾患の分類と外科治療について概説できる。	消化器外科
21	急性腹症、腸閉塞	1) 急性腹症・腸閉塞の原因となる疾患を説明できる。 2) 急性腹症・腸閉塞の症状と理学的所見について説明できる。 3) 急性腹症・腸閉塞の画像所見について説明できる。 4) 急性腹症・腸閉塞の治療について理解できる。 5) 腸閉塞の病態生理について理解できる。 6) 腹膜炎の成因、症候、診断と治療を説明できる。	消化器外科
22	腹壁、横隔膜疾患	1) 腹壁・横隔膜の解剖を理解できる。 2) 腹壁・横隔膜疾患の原因を説明できる。	消化器外科

		3) 腹壁・横隔膜の診断法を説明できる。 4) 腹壁・横隔膜の治療法を説明できる。 5) ヘルニアの概念(滑脱、嵌頓、絞扼性)と好発部位を説明できる。 6) 鼠径ヘルニアの成因、診断と治療を説明できる。	
23	小腸疾患	症候、分類、診断と治療を概説できる。	消化器・神経内科
24	潰瘍性大腸炎、クローン病	疾患概念、診断基準、臨床像、治療を概説できる。	消化器・神経内科
25	小児の消化管疾患	小児外科的疾患を除いた小児特有な消化器疾患を概説できる。	小児科
26	大腸ポリープ	分類、診断と治療を概説できる。	消化器・神経内科
27	大腸の炎症性疾患	原因、症候、分類、診断と治療を概説できる。	消化器・神経内科
28	チュートリアル		消化器・神経内科
29	小児消化器疾患症候論	胎生期から小児期を通じた消化器の生理的発達変化を理解し、その疾患を説明できる。	小児科
30	消化器作用薬	消化器作用薬(潰瘍治療薬・消化管運動作用薬)の薬理作用を説明できる。	薬理
31	低侵襲下外科治療	1) 腹腔鏡下手術の対象となる疾患を理解できる。 2) 腹腔鏡装置およびその挿入方法を理解できる。 3) 腹腔鏡下手術の方法を理解できる。 4) 腹腔鏡下手術によって生ずる可能性のある合併症とその対策を説明できる。	消化器外科
32	自主学习		
33	大腸癌	分類、診断法、内視鏡所見、治療について説明できる。	消化器・神経内科
34	肝疾患総論	肝の構造と生理、および肝機能検査を説明できる。	消化器・神経内科
35	肝硬変	肝硬変の臨床像を説明できる。	消化器・神経内科
36	症候 II (腹痛、吐血、下血、悪心、嘔吐)	腹部疾患の症候について理解でき、それぞれの症状を発生する代表的な疾患について説明できる。	消化器・神経内科
37	自主学习		
38	消化管の病理 II	消化管の病理 II	腫瘍病理
39	消化管の病理 III	消化管の病理 III	腫瘍病理
40	病理実習 (III)	病理実習 (III)	腫瘍病理
41	消化器系における寄生虫症 I	消化器における寄生虫症の診断と治療を概説できる。	国際医動物
42	消化器系における寄生虫症 II	消化器における寄生虫症の診断と治療を概説できる。	国際医動物
43	消化器系における寄生虫症 III	消化器における寄生虫症の診断と治療を概説できる。	国際医動物
44	肝胆膵の超音波検査	腹部臓器の解剖学的位置関係を超音波画像で理解でき、それぞれの臓器の代表的な疾患を理解できる。	消化器・神経内科
45	ウイルス性肝炎 I	各種ウイルス性肝炎の病態を説明できる。	消化器・神経内科
46	急性肝炎、慢性肝炎	急性肝炎と慢性肝炎の相違を説明できる。	消化器・神経内科
47	自己免疫性肝炎、原発性胆汁性肝硬変	自己免疫性肝炎と原発性胆汁性肝硬変の診断、治療、病態について理解する。	消化器・神経内科
48	症候 I (黄疸、腹部膨隆、腹部腫瘤)	黄疸の発生原因について理解でき、腹部の腫瘍性、非腫瘍性疾患について説明できる。	消化器・神経内科
49	チュートリアル		
50	劇症肝炎	劇症肝炎の成因および病態を説明できる。	消化器・神経内科
51	肝、脾、門脈の外科治療	1) 肝、脾を中心に上腹部の解剖を説明できる(肝区域など)。 2) 主な動脈の走行を説明できる。 3) 外科治療となる疾患について説明できる。	消化器外科
52	肝移植と膵移植	肝移植と膵移植の現状を概説できる。移植の外科手術手技を概説できる。	消化器外科
53	ウイルス性肝炎 II	各種ウイルス性肝炎の病態を説明できる。	消化器・神経内科
54	小児の外科的上部消化管疾患	1) 消化管の解剖について小児期の特徴が説明できる。 2) 胃食道逆流症の病態生理、診断、治療が説明できる。 3) 肥厚性幽門狭窄症の成因、診断、治療が説明できる。	小児外科

55	小児の外科的下部消化管疾患	<ol style="list-style-type: none"> 腸重積症の臨床的特徴、診断、治療を説明できる。 メッケル憩室の成因を理解でき、診断、治療を概説できる。 小児の腸管ポリープ、ポリポシスの特徴を説明できる。 急性虫垂炎の病態、診断を説明できる。 	小児外科
56	自主学习		
57	原発性肝癌	原発性肝癌の成因、病態および治療を説明できる。	消化器・神経内科
58	その他の肝疾患(アルコール性肝障害、薬剤性肝障害、脂肪肝)	病態の概念、診断、治療について説明できる。	消化器・神経内科
59	消化管造影検査	<p>消化管の造影検査</p> <ol style="list-style-type: none"> 消化管の造影検査法の手技を説明できる。 正常例の消化管造影検査所見を説明できる。 代表的な消化管疾患の造影検査所見を説明できる。 	放射線科
60	消化器疾患の血管造影(治療を含む)	<ol style="list-style-type: none"> 腹部血管造影の手技、正常画像を説明できる。 消化器疾患の血管造影所見を説明できる。 Interventional Radiology(IVR)について概説できる。 	放射線科
61	消化器のCTおよびMR検査	<ol style="list-style-type: none"> 消化器疾患の画像診断におけるCT、MR検査の役割とそれぞれの特徴を説明することができる。 消化器疾患におけるCT、MR検査所見を述べることができ、典型的症例の画像診断ができる。 CT、MR検査による消化器腫瘍の病期診断につき概説ができる。 	放射線科
62	消化器疾患に対する放射線治療	放射線治療の適応と効果を説明できる。	放射線科
63	小児の肝胆膵疾患	小児の感染性、代謝性や医原性などの肝胆膵疾患を概説できる。	小児科
64	膵・胆道疾患の外科治療I	膵、胆道の外科解剖を概説できる。	消化器外科
65	膵・胆道疾患の外科治療II	<ol style="list-style-type: none"> 膵、胆道の良性疾患の症状・診断・病態などを説明できる。 膵、胆道の良性疾患の外科治療・予後について説明できる。 	消化器外科
66	肝胆膵の病理	肝胆膵の病理	腫瘍病理
67	病理実習(IV)	病理実習(IV)	腫瘍病理
68	病理実習(V)	病理実習(V)	腫瘍病理
69	急性膵炎、慢性膵炎	<ol style="list-style-type: none"> 急性膵炎の発生機序が説明できる。 急性膵炎の診断、治療が説明できる。 重症膵炎の診断、治療が説明できる。 慢性膵炎の診断、治療が説明できる。 	消化器・神経内科
70	膵腫瘍	<ol style="list-style-type: none"> 膵(管)癌の診断、治療が説明できる。 膵内分泌腫瘍(特にインスリノーマ、ガストリノーマ)の診断、治療が説明できる。 嚢胞性膵腫瘍の分類と診断が説明できる。 	消化器・神経内科
71	自主学习		
72	チュートリアル発表		
73	自主学习		
74	膵・胆道疾患の外科治療III	膵、胆道の悪性疾患の症状・診断・病態・進展などを説明できる。	消化器外科
75	膵・胆道疾患の外科治療IV	膵、胆道の悪性疾患の外科治療・予後について説明できる。	消化器外科
76	自主学习		
77	胆道腫瘍	<ol style="list-style-type: none"> 胆嚢ポリープの診断について説明できる。 胆嚢癌、肝外胆道腫瘍、胆管細胞癌、乳頭部腫瘍について診断、治療が説明できる。 	消化器・神経内科
78	胆道感染症	<ol style="list-style-type: none"> 胆石の分類と生成機序が説明できる。 胆嚢炎、胆管炎、肝膿瘍の診断、治療が説明できる。 	消化器・神経内科
79	小児の外科的肝胆膵疾患	<ol style="list-style-type: none"> 胆道閉鎖症の病態を概説でき、診断、治療を説明できる。 先天性胆道拡張症の病態を概説でき、診断、治療を説明できる。 外傷性膵炎、膵仮性嚢胞の病態を概説でき、診断、治療を説明で 	小児外科

80	小児消化器系の先天異常	きる。 1) 先天性食道閉鎖症の病型分類・診断・治療を説明できる。 2) 直腸肛門奇形の病型分類・診断・治療を説明できる。	小児外科
81	胆膵その他	1) 治療的 ERCP について概説ができる。 2) 原発性硬化性胆管炎の診断、治療が説明できる。 3) 胆道ジスキネジーの概説ができる。	消化器・神経内科
82	自主学习		
83	自主学习		
84	自主学习		
85	自主学习		
86	自主学习		
87	自主学习		
88	自主学习		
89	自主学习		
90	自主学习		
91	自主学习		
92	病理学実習試験	病理学実習試験	腫瘍病理
93	病理学実習試験	病理学実習試験	腫瘍病理
94	自主学习		
95	自主学习		
96	自主学习		
97	自主学习		
98	自主学习		
99	自主学习		
100	自主学习		
101	自主学习		
102	試験	ユニット6試験	消化器・神経内科
103	試験	ユニット6試験	消化器・神経内科

学習方法

広範な分野を扱うため、講義によりその骨子を理解した上で、実習や、チュートリアル、各種文献による自己学習によって要点を身につけていくことが望まれる。

評価方法

試験と、チュートリアルの出席、レポート及び実習について評価する。ただし、病理組織実習の終了認定を受けていないものは（総合）試験受験の資格を与えられない。

教科書及び参考文献

● 消化器・神経内科学

Sherlock DS, et al : Diseases of the liver and biliary system. Blackwall Science. 10th Edition 1997.

Kuriyama S, et al : New Perspectives in Cancer Research and Therapy. Research Signpost 2005.

石井裕正、他：肝疾患診療マニュアル 日本医師会 1999

杉本恒明、他：内科学第8版 朝倉書店 2003

飯野四郎、他：慢性肝炎診療マニュアル 医学書院 2001

芳野純治、他：内視鏡所見のよみ方と鑑別診断－上部消化管 医学書院 2001

渡辺精四郎：消化器内科診療の要点・臨床技法のスキルアップ-金倉出版 2002

高久史磨、他：新臨床内科学 第8版 医学書院 2002

戸田剛太郎、他：肝・胆・膵疾患の最新医療 先端医学技術研究所 2003

● 消化器外科学

- 鈴木康之、他：癌治療に役立つ最新データ 医学書院 2002
武藤輝一、田辺達三 編：標準外科学（第8版） 医学書院
佐藤寿雄他 編：医学生のための外科学 南山堂
出月康夫、古瀬彰、杉町圭蔵 編：NEW 外科学（第2版） 南江堂
浅野献一、他 編：外科学 朝倉書店
玉熊正悦、佐藤英昭 著：消化器外科の術前術後管理（改訂版） 中外医学社
Schwartz, S.I. et. al. : Principles of Surgery McGraw-Hill
Davis-Christopher : Textbook of Surgery Sabiston
James D. Hardy : Hardy's Textbook of Surgery J.B.Lippincott

● 放射線医学

- 高島力、佐々木康人 監修：標準放射線医学 医学書院
高橋睦正：必須放射線医学 南江堂

● 小児科学

- S.M.Altshuler,C.A.Liacouras : Clinical Pediatric Gastroenterology Churchill Livingstone
C.C.Roy,A.S.Lverman,D.Alagolle : Pediatric Clinical Gastroenterology fourth edition Mosby
F.J.Suchy : Liver disease in Children Mosby
白木和夫：小児消化器疾患 永井書店

● 腫瘍病理学

- Robbins et al. : Pathologic basis of diseases 7th ed. 2004. Saunders
影山圭三他：組織病理アトラス 分光堂
WHO classification of tumours, pathology and genetics of tumours of the digestive system. 2000.
IARC press .
AFIP 3rd series, vol 18 and 27.

● 小児外科学

- 鈴木宏志、横山穰太郎監修：標準小児外科学 第4版 医学書院
日本小児外科学会ホームページ <http://www.jsps.gr.jp/>

● 国際医動物学

- 吉田幸雄・有菌直樹 著：図説人体寄生虫学 第7版 南山堂

● 薬理学

- 田中千賀子・加藤隆一 編：New 薬理学 改訂第4版、南江堂

● 組織細胞生物学

- 坂井建雄、河原克雅：人体の正常構造と機能 III 消化管/IV 肝胆膵 日本医事新報社

オフィスアワー

木曜日の17時～18時
tmasaki@med.kagawa-u.ac.jp

臨床総論講義

担当教員

千田 彰一（教授：コーディネーター）
白神 豪太郎（教授：副コーディネーター）
西山 佳宏（教授：副コーディネーター）
総論関連各講座・部局教員

授業概要

近年の医学の進歩、知識或いはエビデンスの指数関数的蓄積により、医学の各領域は細分化され、臓器別専門診療の充実は時代の要請でもある。本学においてもカリキュラムの大幅な改変により臓器別診療を睨んだ講義、所謂統合講義が実践されているが、臓器・機能別の講義を十分理解するためには、その共通項としての総論的知識の習得・理解は不可欠であり、これは一方では医師が医師たるに必要な最低限の基本事項でもある。臨床総論講義では、各専門診療科の協力を得て、所謂「コア・カリキュラム」の概念にのっとり、医師として不可欠な総論的知識を習得し、臓器別講義の十分な理解を深める手助けとすることをその目的とする。したがって臨床医学一般に関わる総論的事項、基本的診療知識、技能が主体となり、放射線医学、救急災害医学、麻酔学、小児外科学、形成外科学、総合診療医学、医療情報学、および臨床腫瘍学の総論部分が含まれる。なお、「モデル・コア・カリキュラム」の改訂を受け、本カリキュラムも随時最新のものに対応して編成されている。

一般目標

良き医師となるために、各科共通且つ不可欠の医学総論的知識を習得する。

行動目標

1. コア・カリキュラム(A, B(一部), D(一部), E(一部), F)に示された行動目標を実践する。
2. 臓器・機能別ユニット講義内に包含されない、医師として必要な知識を列挙する。
3. 臓器・機能別ユニット講義の際に、関連した総論知識を述べる。

授業内容

回	大項目	項目	内容	担当者
1	医学一般	医の原則・医療における安全性確保	1.医の原則 (1)医の倫理と生命倫理、(2)患者の権利、(3)医師の義務と裁量権、(4)インフォームド・コンセント	総合診療部

2	医学一般	医の原則・医療における安全性確保	2.医療における安全性確保 (1)安全性の確保、(2)危機管理	総合診療部
3	医学一般	コミュニケーションとチーム医療	3.コミュニケーションとチーム医療 (1)コミュニケーション、(2)患者と医師の関係、(3)チーム医療	総合診療部
4	医学一般	課題探求・解決と学習の在り方	4.課題探求・解決と論理的思考 (1)課題探求・解決能力、(2)論理的思考と表現能力、(3)生涯学習への準備、(4)医療の評価	総合診療部
5	医学一般	病因と病態	病因と病態 (2)細胞障害・変成と細胞死	消化器・神経内科学
6	医学一般	病因と病態	病因と病態 (3)代謝障害	代謝・血液・免疫・呼吸器内科
7	医学一般	病因と病態	病因と病態 (4)循環障害	循環器・腎臓・脳卒中内科
8	医学一般	病因と病態	病因と病態 (1)遺伝子異常と疾患・発生発達異常	小児科学
9	医学一般	病因と病態	Evidence-based Pediatrics	小児科学
10	医学一般	病因と病態	外科学総論 外科学概論	消化器外科学
11	医学一般	病因と病態	病因と病態 (5)炎症と創傷治癒、創傷治癒(正常と異常)- 瘢痕とケロイド	形成外科学
12	医学一般	基本的診療知識	臨床診断学	総合診療部
13	医学・医療と社会	診療情報	医療情報とは・医療情報の扱い方	医療情報部
14	医学・医療と社会	診療情報	遠隔診断システム・医療情報ネットワーク	医療情報部
15	医学・医療と社会	医学・医療と社会	医学・医療と社会 (1)社会・環境と健康、(2)疫学と予防医学、(4)保健、医療、福祉と介護の制度、(3)生活習慣と疾病、(5)診療情報、(6)臨床研究と医療	総合診療部
16	診療の基本	基本的診療知識	基本的診療知識(2) 臨床検査(1)	臨床検査医学
17	診療の基本	基本的診療知識	基本的診療知識(2) 臨床検査(2)	臨床検査医学
18	診療の基本	基本的診療知識	基本的診療知識(2) 臨床検査(3) 値の意義、重み	臨床検査医学
19	診療の基本	基本的診療知識	基本的診療知識(外科系) (3)外科的治療と周術期	消化器外科学
20	診療の基本	基本的診療知識	診断病理学:病理組織診断学	病理部
21	診療の基本	基本的診療知識	診断病理学:細胞診断学	病理部
22	診療の基本	基本的診療知識	基本的診療知識 (5)輸液療法	総合診療部
23	診療の基本	基本的診療知識	基本的診療知識 (5)食事(療法)	総合診療部
24	診療の基本	基本的診療知識	基本的診療知識 (6)医用機器と人工臓器	心臓血管外科学
25	診療の基本	基本的診療知識	麻酔学総論(含:基本的診療知識 (4)麻酔	麻酔学
26	診療の基本	基本的診療知識	麻酔と呼吸・循環管理	麻酔学
27	診療の基本	基本的診療知識	基本的診療知識 (8)内視鏡を用いる診断と治療	総合診療部
28	診療の基本	基本的診療知識	基本的診療知識 (8)内視鏡を用いる診断と治療	消化器外科学
29	診療の基本	基本的診療知識	基本的診療知識(総合・内科系) (9)超音波を用いる診断と治療(基礎)	総合診療部

30	診療の基本	基本的診療知識	基本的診療知識(総合・内科系) (9)超音波を用いる診断と治療(臨床)	総合診療部
31	診療の基本	基本的診療知識	基本的診療知識(総合・内科系) (9)超音波を用いる診断と治療	周産期学婦人科学
32	診療の基本	基本的診療知識	基本的診療知識(10)輸血と移植 輸血	輸血部
33	診療の基本	基本的診療知識	基本的診療知識(外科系)(10)輸血と移植 移植	泌尿器科学
34	診療の基本	基本的診療知識	基本的診療知識 (12)介護と在宅医療	総合診療部
35	診療の基本	基本的診療知識	基本的診療知識 (13)緩和医療	総合診療部
36	診療の基本	基本的診療知識	基本的診療知識(総合・内科系) (1)薬物療法の基本原理	薬剤部
37	診療の基本	基本的診療知識	基本的診療知識 東洋医学漢方医学総論(1)	非常勤講師
38	診療の基本	基本的診療知識	基本的診療知識 東洋医学漢方医学総論(2)	非常勤講師
39	医学一般	基本的診療技能	基本的診療技能(総合) (1)問題志向型システム、(2)医療面接、(3)診療記録、(4)臨床判断	総合診療部
40	診療の基本	基本的診療技能	基本的診療技能(内科系) (5)身体診察 ①全身状態とバイタルサイン ③胸部(循環器系)	総合診療部
41	診療の基本	基本的診療技能	基本的診療技能(内科系) (5)身体診察②頭頸部	耳鼻咽喉科学
42	診療の基本	基本的診療技能	基本的診療技能(内科系) (5)身体診察②頭頸部(歯・顎・唾液腺)	歯科口腔外科学
43	診療の基本	基本的診療技能	基本的診療技能(内科系) (5)身体診察 ③胸部(呼吸器系)	代謝・血液・免疫・呼吸器内科
44	診療の基本	基本的診療技能	基本的診療技能(内科系) (5)身体診察 ④腹部	消化器・神経内科学
45	診療の基本	基本的診療技能	基本的診療技能(内科系) (5)身体診察 ⑤神経	消化器・神経内科学
46	診療の基本	基本的診療技能	基本的診療技能(内科系) (5)身体診察 ④泌尿生殖器(男性)	泌尿器科学
47	診療の基本	基本的診療技能	基本的診療技能(内科系) (5)身体診察 ④泌尿生殖器(女性)	周産期学婦人科学
48	診療の基本	基本的診療技能	基本的診療技能(内科系) (5)身体診察 ⑥四肢と脊柱	整形外科
49	診療の基本	基本的診療知識	外傷学総論	整形外科
50	診療の基本	基本的診療知識	基本的診療知識(11)リハビリテーション	理学療法部
51	診療の基本	基本的診療知識	基本的診療知識(11)リハビリテーション	理学療法部
52	診療の基本	基本的診療技能	基本的診療技能 (5)基本的診療技能⑦小児の診察	小児科学
53	診療の基本	基本的診療知識	小児外科学総論	小児外科学
54	診療の基本	基本的診療技能	基本的診療技能(内科系) (5)身体診察 ⑦小児の診察:小児固形腫瘍	小児外科学
55	診療の基本	基本的診療技能	基本的診療技能(内科系)	小児外科学

			(5)身体診察 ⑦小児の診察:胸壁/腹壁疾患	
56	診療の基本	基本的診療技能	基本的外科診断法②(呼吸器・乳腺甲状腺)	呼吸器・乳腺 内分泌外科学
57	診療の基本	基本的診療技能	基本的診療技能(外科系) (6)基本的臨床手技 外科手技①(消毒・清潔、直腸診察)	消化器外科学
58	診療の基本	基本的診療技能	形成外科の基本手技・美容外科	形成外科学
59	診療の基本	基本的診療知識	四肢・体幹部その他の形成外科	形成外科学
60	診療の基本	基本的診療知識	皮膚腫瘍・母斑の形成外科的治療、頭頸部その他悪性腫瘍 切除後の再建手術	形成外科学
61	診療の基本	基本的診療知識	顔面の先天異常・顔面外傷・顔面骨折	形成外科学
62	診療の基本	基本的診療知識	放射線を用いる治療 1	放射線医学
63	診療の基本	基本的診療知識	放射線を用いる診断 1	放射線医学
64	診療の基本	基本的診療知識	放射線を用いる診断 5	放射線医学
65	診療の基本	基本的診療知識	放射線を用いる診断の基礎 1	放射線医学
66	診療の基本	基本的診療知識	放射線を用いる診断 2	放射線医学
67	診療の基本	基本的診療知識	放射線を用いる診断 3	放射線医学
68	診療の基本	基本的診療知識	放射線を用いる診断 4	放射線医学
69	全身に及ぶ生理的変化、病態、診断、治療		腫瘍 疫学、病理・病態、発生病因、予防	総合診療部
70	全身に及ぶ生理的変化、病態、診断、治療		腫瘍 症候および診断	消化器・神経内科学
71	全身に及ぶ生理的変化、病態、診断、治療		腫瘍 治療 化学療法および生物学的治療	呼吸器・乳腺 内分泌外科学
72	全身に及ぶ生理的変化、病態、診断、治療		腫瘍 治療 手術療法および集学的治療	消化器外科学
73	全身に及ぶ生理的変化、病態、診断、治療		放射線を用いる治療 2	放射線医学
74	全身に及ぶ生理的変化、病態、診断、治療		腫瘍 治療 支持療法および緩和療法	総合診療部
75	全身に及ぶ生理的変化、病態、診断、治療		腫瘍 チーム医療とバイオエッセンス	総合診療部
76	診療の基本	基本的診療知識	救急災害医学総論	救急災害医学
77	診療の基本	基本的診療技能	心停止・心肺脳蘇生	救急災害医学
78	診療の基本	基本的診療知識	熱傷の病態と治療	救急災害医学
79	診療の基本	基本的診療知識	脳神経外科救急疾患	救急災害医学
80	診療の基本	基本的診療知識	多発外傷	救急災害医学
81	診療の基本	基本的診療知識	中毒	救急災害医学
82	診療の基本	基本的診療知識	集中治療総論・院内感染症	麻酔学
83	診療の基本	基本的診療知識	静脈麻酔薬・筋弛緩薬	麻酔学
84	診療の基本	基本的診療知識	局所麻酔	麻酔学
85	診療の基本	基本的診療知識	小児麻酔・高齢者麻酔・特殊麻酔	麻酔学
86	診療の基本	基本的診療知識	多臓器不全・重症患者管理概論	麻酔学

87	診療の基本	基本的診療知識	ペインクリニック	麻酔学
88	診療の基本	基本的診療知識	災害医療	救急災害医学
89	診療の基本	基本的診療知識	口腔の構造・機能・生理 (1)	歯科口腔外科学
90	診療の基本	基本的診療知識	口腔の構造・機能・生理 (2)	歯科口腔外科学
91	診療の基本	基本的診療知識	薬物体内動態、therapeutic drug monitoring	薬剤部
92	診療の基本	基本的診療知識	麻薬の取り扱い	薬剤部
93	診療の基本	基本的診療知識・技能	漢方の実際(1)	非常勤講師
94	診療の基本	基本的診療知識・技能	漢方の実際(2)	非常勤講師
95	全身に及ぶ生理的变化、病態、診断、治療		物理・化学的因子による疾患	法医学
96	全身に及ぶ生理的变化、病態、診断、治療		人の死・死と法	法医学

学習方法

関連各講座によって分担される講義。

評価方法

出席及び客観試験(各講義担当講座より提出された試験問題で構成される Multiple Choice Question 試験)

教科書及び参考文献

関連各講座によって指定された教科書。

オフィスアワー

各担当教員参照

上 級 英 語

授業科目名	上級英語 I (2) English(Advanced English) I	科目区分	外国語科目	授業コード	050402
講義題目	Formal Presentation	単位数	2	時間割	前期 月 5
教 員 名	ウイラー・イアン・デビッド(大学教育開発センター)	対象年次及び学科	3～4年 全学部		
授業の概要					
This course is for students who wish to sharpen their formal English communication skills. Students will have many opportunities to discuss and debate topics with classmates in English, as well as give presentations. Students aiming for advanced level English skills are welcome to join this class.					
授業の目的・達成目標					
Through this course, students will become able to: 1) speak actively in English in group and class discussions; 2) prepare and deliver multi-media presentations in English					
授業及び学習の方法					
In the first few weeks, effective techniques in presentation and discussion will be covered. During class we will discuss and debate readings and other materials (for example, newspaper articles and films) and engage in group work and short presentation activities. Useful techniques and practice for English interview tests, such as TOEFL and IELTS, will form a regular part of class. Students will give at least three formal presentations during the semester: a personal presentation, an informative presentation, and a persuasive presentation.					
成績評価の方法と基準					
Students' grades will be based on the following: 30%: Participation (in-class effort) 30%: Homework 40%: Presentations					
授業計画					
<ol style="list-style-type: none"> (1) Introductions (2) Discussion skills (3) Presentation skills (4) Presentation skills (5) Presentation 1: Show and Tell (6) PowerPoint: Dos and Don'ts (7) Film (8) Film part 2 and discussion (9) Presentation 2: An ethical issue (10) Presentation 2: An ethical issue (part 2) (11) Topics and discussion (12) Presentation workshop (13) Presentation 3: Persuasive presentations (14) Presentation 3: Persuasive presentations (part 2) (15) Wrap-up 					
教科書					
A textbook is not required for this course. Readings will be provided by the instructor, and students will regularly be asked to find readings on their own.					
参考書					
オフィスアワー					
Wednesdays, 14:00～16:00, at Saiwai-cho campus only. Students may contact the instructor via this e-mail address :ianwill@cc.kagawa-u.ac.jp.					
履修上の注意					
4回以上の欠席回数の場合は単位を与えられません。					

授業科目名	上級英語Ⅱ(2) English(Advanced English)Ⅱ	科目区分	外国語科目	授業コード	050405
講義題目	Formal Writing	単位数	2	時間割	後期 月5
教員名	ウイラー・イアン・デビット(大学教育開発センター)	対象年次及び学科	3～4年 全学部		
授業の概要					
This course focuses on formal English writing, including e-mail writing and formal academic writing.					
授業の目的・達成目標					
Through this course, students will become able to:					
1. send and reply to e-mail messages;					
2. prepare a research bibliography;					
3. effectively participate in discussion, debate, and other group activities					
授業及び学習の方法					
The instructor will typically begin class by addressing an aspect of writing (e-mail requests, summaries, etc.). Writing will be done in class and as homework. All assignments should be typed, and often sent to the instructor (or other students) in e-mail format or as file attachments. The last 30 minutes of class will usually be devoted to discussion, group work, or other communicative tasks. TOEFL or IELTS writing and speaking tasks will form a regular part of class work.					
成績評価の方法と基準					
Students' grades will be based on the following:					
30%: Participation (in-class effort)					
70%: Written homework (6-7 assignments)					
授業計画					
(1) Introductions					
(2) Typing review: Paragraph format					
(3) Writing requests					
(4) Writing refusals					
(5) Commenting on others' writing					
(6) Commenting on others' writing (2)					
(7) Paraphrasing					
(8) Paraphrasing (2)					
(9) Summaries and abstracts					
(10) Film (1)					
(11) Film (2)					
(12) Gathering a bibliography					
(13) Examining a research paper					
(14) Examining a research paper (2)					
(15) Reflections and wrap-up					
教科書					
There will be no textbook for this course. Handouts will be provided by the instructor, and students will regularly be expected to find readings (for example, English abstracts or articles) using on-line resources.					
参考書					
オフィスアワー					
Wednesdays 14:00~16:00, at Saiwai-cho campus only. Students can contact the instructor via this e-mail address: ianwill@cc.kagawa-u.ac.jp					
履修上の注意					
4回以上の欠席回数の場合は単位を与えられません。					

シラバス

4 年次生

臨床英語

衛生学

公衆衛生学

法医学

循環器系、腎・尿路系 (unit3)

感染症、血液・造血器・リンパ系、免疫・アレルギー疾患 (unit4)

呼吸器系 (unit5)

生殖機能、妊娠と分娩、乳房、成長と発達 (unit7)

皮膚系、眼・視覚系、耳鼻・咽喉・口腔系 (unit8)

臨床総論講義

臨 床 英 語

担当教員

Ian Willey (大学教育開発センター講師)

授業概要

This course will introduce students to the English medical interview. Students' overall English skills (listening, speaking, reading, and writing) will also be developed.

一般目標

Specifically, this course aims to develop students': 1) spoken communication skills; 2) non-verbal communication skills; 3) active listening skills; 4) voice-management skills; and 5) cultural awareness. Through this practice, students' knowledge of medical English vocabulary and expressions will also be developed.

行動目標

Most in-class work will center on activities in the textbook, *Good Practice*, and include listening tasks, writing and reading tasks, and discussion tasks. A CD and DVD will be used for listening and video-viewing tasks. Homework in the textbook will regularly be assigned. There will be no quizzes, but at the end of the semester there will be a final test that covers the communication skills taught in class.

授業内容・学習方法

- (1) Introductions; Begin *Good Practice* (GP)
- (2~13) GP
- (14) GP; Final test discussion
- (15) Final test

評価方法

30%: Participation

70%: Final test

教科書及び参考文献

Good Practice: Communication Skills in English for the Medical Practitioner, by M. McCullagh & R. Wright, Cambridge University Press, 2008

ISBN: 978-0-521-75590-0

宮脇書店〔医学部三木町キャンパス〕で購入し、最初の授業に持参すること。

参考書：特になし。

オフィスアワー

At Saiwai-cho campus only. For inquiries: ianwill@cc.kagawa-u.ac.jp

履修上の注意

Remember these three rules: 1) come to class on time; 2) bring your textbook and homework; 3) participate in class activities from the beginning to the end of class.

衛 生 学

担当教員

准教授	宮 武 伸 行	非常勤講師	
助 教	坂 野 紀 子	氏 家 睦 夫 (日本労働衛生コンサルタント会理事)	
		浅 川 富美雪 (倉敷芸術科学大学)	
教 授	平尾 智広 (公衆衛生学)	須 那 滋 (香川県立保健医療大学)	
准教授	鈴江 毅 (公衆衛生学)	菅 沼 成 文 (高知大学)	
助 教	依田 健志 (公衆衛生学)	高 尾 総 司 (岡山大学)	
		河 島 昌 典 (広島市民病院)	
		吉 岡 哲 (公衆衛生学研究員)	

授業概要

衛生学は、人間が健康である状態（「生」＝生命および生活の健全な保持）を守る（「衛る」＝疾病予防、健康増進）ための知識と技術の体系です。19世紀後半、ドイツの M. von Pettenkofer らによって確立された医学の重要な一分野である「Hygiene」を明治の先人達が「荘子」を引用して衛生学と訳したものです。したがって、衛生学には生理学などの基礎医学の分野である自然科学的な面と人文社会科学的な面が含まれ、両者を統合したものとして学問体系が作られています。同様な学問的意義を有する「公衆衛生学」とは、有機的に連携し、役割分担されているので、両者を学ぶことで、学習の目的が達せられます。

衛生学では、集団および個人の健康と疾病（事故を含む）について、基礎医学および臨床医学や社会科学などの知識と技術を応用し、宿主要因 (host) および病因 (agent), 環境要因 (environment) の3方面から総合的に理解し、健康の保持・増進と疾病・異常の成立過程を明らかにし、疾病の防止対策を実践できるための基礎的知識と技術を修得します。

そのために集団および個人を取り巻く自然環境（物理、化学、生物学的）および生活環境（住居、食生活など）や社会環境（地域、産業など）の各種環境が及ぼす身体的・精神的影響について、その基礎的知識を修得します。

また、集団における健康水準と疾病異常を測定する基礎的知識と技術を修得するとともに疾病予防対策の立案、評価に必要な基礎的知識と技術を疫学 (epidemiology) として学習します。

健康福祉及び生活環境に関連する学外機関・施設の見学・体験学習をすることにより、健全な社会生活の維持に果たすこれら機関・施設の衛生的意義と役割についても学習します。

一般目標

医師として、全ての国民が健康である状態を守るために、以下のことを理解していただきます。

- 1 自然環境および生活環境や社会環境とヒトとのかかわりあいや、これらの環境の人体に及ぼす影響について
- 2 環境因子による人体影響や疾病異常の対策および環境因子の制御に関する基礎的知識
- 3 各種環境要因の基礎的測定および評価法
- 4 疫学概念とその応用

5 集団の健康水準と疾病異常の基礎的測定および評価法

行動目標

- 1 各種環境要因とヒトとのかかわりについて論述する。
- 2 各種環境要因の人体影響について論述する。
- 3 働く人の健康管理について論述する。
- 4 疫学的手法を用いて、集団の健康水準や疾病異常を測定・評価する。
- 6 健康増進や疾病予防の方策を立案し、評価する。

授業内容

回	大項目	項目	内容	担当者
1	疫学	衛生学オリエンテーション、疫学(1)	疫学の概念、事例から学ぶ疫学の基礎	宮 武
2		疫学(2)	疫学理論(1) 率と比、スクリーニング、感受度、特異度、相対頻度、罹患率、有病率、死亡率、致命率、人年法、標準化死亡比、年齢調整死亡率など	宮 武
3		疫学(3)	疫学理論(2) 疫学調査、サンプリング、記述疫学、生態学的研究、Case-control study など	宮 武
4		疫学(4)	疫学理論(3) Cohort study, RCT (Randomized Controlled Trial), メタアナリシス、統計法など	宮 武
5		疫学演習(1)	疫学(1-4)を基に演習	宮 武 坂 野
6		疫学演習(2)	疫学(1-4)を基に演習	宮 武 坂 野
7	保健統計	人口・保健統計	人口、人口の現状と動き、国勢調査、人口静態統計調査、人口動態統計調査出生、死産、死亡、合計特殊出生率、人口再生産、生命表、生命関数と平均余命、国民生活基礎調査、患者調査、国際疾病分類(ICD)など	宮 武
8	食品保健	栄養・食品保健	健康増進法、国民栄養、栄養所要量、特定保健用食品、食品衛生法、食品衛生行政と自主管理、食中毒、食中毒の動向と関連事項、食中毒原因調査と対策、食品の安全性、食品添加物、輸入食品、遺伝子組換え食品	須 那
9	環境保健	環境保健(1)	概論、生態系の成り立ち、地球環境問題と健康影響、環境基本法など	坂 野
10		環境保健(2)	化学的環境要因、廃棄物、ダイオキシン類、騒音・振動・放射線の健康影響と対策など	坂 野
11		環境保健(3)	公害、環境汚染(大気、水)、環境基準と環境影響評価、生活環境と健康(シックハウス症候群)など	浅 川
12	産業保健	産業保健(1)	産業保健概論	宮 武
13		産業保健(2)	産業医の役割と活動の実際、THPの実際	氏 家
14		産業保健(3)	じん肺、アスベスト	菅 沼
15		産業保健(4)	職場のメンタルヘルス	高 尾
16	特 論	衛生学特論	外務省からみた日本の医療	河 島
17 18	社会医学 活動の実際	ケース・メソッド(4)	予め用意したケースと設問を用いて、グループ内でディスカッション、検討を行います。	宮 武 坂 野

19 20 21	社会医学活動の 実際	実地見学	香川県環境保健研究センターを訪問し、環境保健を中心に見学し、理解を深める。	宮 武 坂 野
22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33	社会医学実習	実習	グループごとに、保健、医療、福祉に関するテーマを選択し、文献学習、情報収集、実地訪問調査等を行い、それぞれのテーマについて理解を深める(グループワーク)。	全 員
34 35 36 37 38		実習発表会	グループごとに行った学習内容、調査研究成果を発表し、ディスカッションを行う(全体発表会)。	
34 35 36 37 38		希望者特別実習	地域の医療機関で、往診、デイケア、学校医活動、保健指導等の実際を体験する。	坂 野
39		衛生学試験		宮 武 坂 野

学習方法

大学全体のカリキュラム編成上、衛生学が分担できる授業時間は多くありません。しかしながら、講義、実習は、衛生学を学習するにあたっての「基礎」であり、「出発点」です。講義、実習では基本的な「事柄」と「考え方」を学習し、各人で応用していただくことが必要となります。講義された内容と考え方だけが、総てではありませんので、講義項目のより深い理解には図書館等に準備されている関連書籍などによる自主的学習を適宜行ってください。出席せずに、単位認定試験目的で他人のノートを複写するというような態度は厳に慎んでください。

衛生学は人間を集団として扱うことが多い学問領域ですが、将来基礎研究や臨床を行っていく上で必ず必要となります。また、そういう視点でも学習していくことが必要です。

評価方法

1 評価方法

試験、学習態度(出席等)、レポート等を総合して評価します。

2 試験

講義、実習の最後に実施します。

教科書及び参考文献

- 1 教科書：とくに指定しません。
- 2 参考書：厚生統計協会. 国民衛生の動向. 厚生統計協会, 2010. 厚生 の 指標 増 刊 号.
- 3 講義は教員の作成したスライド、プリントに基づいて行います。

オフィスアワー

適宜、衛生学事務室に連絡をとってください。Email: eisei@med.kagawa-u.ac.jp

公衆衛生学

担当教員

教授	平尾智広	非常勤講師	
准教授	鈴江毅	江草安彦	(川崎医療福祉大学名誉学長)
助教	依田健志	實成文彦	(香川大学名誉教授)
准教授	宮武伸行(衛生学)	星川洋一	(香川県健康福祉総務課)
助教	坂野紀子(衛生学)	万波俊文	(麻田総合病院)
		住友正幸	(徳島県立中央病院)
		吉岡哲	(香川大学医学部研究員)

授業概要

公衆衛生学は人々の健康生活を守り増進することを目的とした、包括的、学際的かつ集学的な学問体系です。医師法には、医師の責務として「医療および保健指導を掌ることによって、公衆衛生の向上および増進に寄与し、もって国民の健康な生活を確保する」ことが明記されており、医師は公衆衛生活動の中核を担うことが期待されています。このため、公衆衛生学においては、多要因から成る健康の成り立ちを理解し、健康的な生活の保持増進と疾病の予防のために、広い視野に立って考え行動することができるように、知識と技術および方法論を修得します。なお、衛生学とは同様の学問的意義を有するために完全に連携し、役割分担しており、両者を修得することによって学習目的が達成されます。

授業は講義、グループワークを中心に行い、知識や理論の学習、ケースに基づいたディスカッション、学外での体験学習・訪問調査を組み合わせ理解を深めます。

まず「社会医学総論」として、健康の概念、健康及び病気と社会との関係、わが国の保健医療制度、社会保障、関係する行政と法規、社会医学・医療の倫理などの基本的事項について学習します。さらに「社会医学各論」として、母子保健、学校保健、高齢者保健・福祉、精神保健、地域保健、「疾病対策」として、がん、循環器疾患、感染症の対策、「特論」として、国際保健、健康危機管理、地域医療について学習します。

実習は学外での体験学習を重視し、施設等の見学訪問により実際の活動に接するとともに、スモールグループ・ディスカッションを行い理解を深めます。また、希望者には行政機関、医療機関等における保健活動の実際を体験する機会を提供します。

一般目標

医師として、広い視野に立って、人々の健康的な生活の保持増進と疾病予防のために考え行動することができるように、以下のことを修得します。

- 1) 健康事象を人と社会・環境の相互作用として捉え、疫学および生態学的に理解する。

- 2) 人間集団の観察技術を身につけ、社会集団や地域における健康問題を分析し、考察する。
- 3) 広い社会的視野を持ち、社会変動と健康の関係を洞察し、病者、住民および社会のニーズを的確に判断し、適切に対応する。

行動目標

- 1) 健康事象の成り立ちを疫学および生態学的な観点より分析し述べる。
- 2) 社会変動と健康の関係について具体的事例を挙げて述べる。
- 3) 社会医学のプロセスについて具体的事例を挙げて説明する。
- 4) わが国の医療制度について述べる。
- 5) 社会保障の概念とわが国の状況について述べる。
- 6) 各論的事項（母子保健・学校保健・高齢者保健・高齢者福祉・精神保健・地域保健・国際保健等）について要点を説明する。
- 7) 疾病対策について要点を説明する。
- 8) 公衆衛生活動の現状を述べ、これらの是非について論じる。
- 9) 病者、住民および社会のニーズを的確に判断し、解決策を考える。

授業内容

回	大項目	項目	内容	担当者
1	社会医学総論	オリエンテーション 社会医学概説	講義・実習の位置づけ、学習上の留意事項 実習オリエンテーション 社会医学の位置づけ	平尾
2		健康と施策	健康の定義、歴史、医学・医療の社会的適用、健康及び病気と社会との関係、ライフステージと健康問題、集団へのアプローチ、ヘルスプロモーションの概念	平尾
3		医療制度	わが国の医療制度、医療需要、供給体制、地域医療再生	平尾
4		社会保障	社会保障の概念と機能、わが国の社会保障	平尾
5		医療保障	医療ファイナンス、医療保険制度、国民医療費、診療報酬・薬価、包括評価	平尾
6		医療関連法規	医師の法的責任、医師法、医療法、その他保健衛生関係法規	平尾
7		医療と倫理	医療と倫理、医師の職業倫理、社会医学と倫理、生物医学研究における倫理、インフォームド・コンセント、患者の権利	平尾
8	母子・若年者の保健と福祉	母子保健・福祉	母子の健康管理、主な健康問題とその要因、母子保健統計、制度・施策、労働と母性保護、先天異常、障害児	鈴江
9		学校保健・福祉	学校保健の意義と仕組み、学校医の職務、学齢期好発疾患と健康管理、体力・体格・発育、発達障害、健康診断、健康相談、学校安全教育、学校給食、学校伝染病	鈴江

10	高齢者の保健と福祉	高齢者保健・福祉	高齢者の特徴、ねたきり、認知症、ADL、介護保険、介護施設、在宅介護、介護予防、地域における高齢者保健・福祉の展開	鈴江	
11		医療と社会福祉	医療と福祉の連携、障害者、ノーマライゼーション	江草	
12	精神保健・福祉	精神保健・福祉	精神保健の意義と仕組み、精神保健福祉法、精神障害者の医療、社会復帰と社会参加、精神保健福祉センター、自殺予防、メンタルヘルス対策	鈴江	
13	地域保健・福祉	地域保健・福祉	地域保健の意義と仕組み、地域保健法、保健所、保健センター、健康づくり対策、NPO、難病	平尾	
14	疾病対策	がん対策	がんの疫学、がん予防、がん対策基本法、がん検診、がん診療拠点病院	平尾	
15		循環器の疫学	心疾患、脳血管疾患の疫学、リスクファクター、予防対策	万波	
16		感染症対策	感染症予防法、検疫、届出義務、予防接種、感染症サーベイランス、結核対策、HIV対策、ウイルス肝炎対策	依田	
17	社会医学特論	国際保健	国家・社会間の健康格差、プライマリーヘルスケア、国際社会の対応、わが国の国際保健医療協力、新興・再興感染症、健康転換、難民・人道援助・災害救援	依田	
18		健康危機管理	健康危機と安全、健康に対するハザード要因、アウトブレイク、大規模災害、NBCテロ	星川	
19		地域医療	地域医療の現状と課題、医療の質の確保、医療連携	住友	
20	社会医学活動の実際	ケースメソッド(1)	ケースと設問を用いて、講義内容の理解を深める。	平尾	
21		ケースメソッド(2)	ケースと設問を用いて、講義内容の理解を深める。	平尾	
22		ケースメソッド(3)	ケースと設問を用いて、講義内容の理解を深める。	鈴江	
23		実地見学		主に香川県内の市町を訪問し、地域における保健・医療・福祉の展開について見学し理解を深める。	全員
24					
25					
26					
27	社会医学実習	実習	グループごとに、保健・医療・福祉に関するテーマを選択し、文献学習、情報収集、実地訪問調査等を行い、それぞれのテーマについて理解を深める。(グループワーク)	全員	
29					
30					
31		実習発表会	グループごとに行なった学習内容、調査研究成果を発表し、ディスカッションを行なう。(全体発表会)	全員	
32					
33					
34					
35	希望者特別実習	行政機関(例:香川県健康福祉部、高松市保健所)や地域の医療機関で、保健医療施策や保健活動(保健指導、健康診断等)の実際を体験する。(希望する者)	全員		
36					
37					
38					
39	公衆衛生学試験			全員	
40					
41					
42					
43					
44					

学習方法

講義内容、配布資料を中心に授業を進めますが、これまでに習得した臨床医学や基礎医学の知識、経験を活用し、医療の現場で役に立つ知識や思考法を身につけてください。受講にあたっては推薦参考書やインターネット、新聞を利用した予習、復習が望まれます。

ポイント

- 1) 臨床医学を支える基礎理論として基礎医学と社会医学があり、良き臨床を行うためには社会医学（公衆衛生学、衛生学）の知識と実践が必要不可欠です。
- 2) 基礎医学は主に生物学的医学で、人体を細分化しミクロの方向へ探求するのに対し、社会医学では人を集団として捉え、主に人体の外部、すなわち自然環境や社会環境との関係性を探求します。「社会」は具体的に手に取って見ることはできませんが、蓋然と存在しています。本科目の履修の過程でその捉え方、考え方を習得してください。
- 3) 実習では実社会の問題を取り上げます。実社会の問題は机上の理論とは異なり、単純に正解は導かれません。考えられるベストの解決を図るには、多くの情報を統合し人知を結集する必要があります。実習の成果をあげるためには、各人の熱意と積極的な行動が期待されます。また学生間、教員等とのディスカッションは、社会医学のダイナミックな理解の上で大変有意義です。大いに行ってください。
- 4) インターネット、新聞、テレビの活用は社会の動きを知り、社会医学のダイナミックな理解の上で大変有用です。最近の例としては、新型インフルエンザ、自殺、メタボリック・シンドローム対策、医療崩壊、少子化対策、環境問題等があげられます。

評価方法

1. 授業参加の程度
2. 講義、実習時のレポート
3. 筆記試験
4. 上記を総合して合否の判定を行います。

教科書及び参考文献

(1) 教科書： とくに指定しません。

(2) 参考書： 国民衛生の動向 厚生統計協会

→厚生統計協会. 国民衛生の動向. 厚生統計協会, 2010. 厚生 の 指標 増刊.

国民の福祉の動向 同上

→厚生統計協会. 国民の福祉の動向. 厚生統計協会, 2010. 厚生 の 指標 増刊.

保険と年金の動向 同上

→厚生統計協会. 保険と年金の動向. 厚生統計協会, 2010. 厚生 の 指標 増刊.

総合的な衛生学・公衆衛生学書、分野別図書等多数あるので、用途に応じて用いてください。

オフィスアワー

随 時 公衆衛生学事務室、または教員に連絡をとってください。

法 医 学

担当教員

教授 木下博之
准教授 飴野清
助教 Mostofa Jamal

非常勤講師
近藤稔和（和歌山県立医科大学 教授）
西村明儒（徳島大学大学院 教授）
山本光昭（環境省 大気環境課長）
関口和正（科学警察研究所 生物第四研究室長）
高橋玄倫（神戸大学大学院 講師）

授業概要

法律を運用するうえで、医学的判断を必要とする諸問題を学際的に解決する医学が法医学である。法医学の領域は自然科学から社会学まで含み多種多様であり、医学においても基礎医学だけでなく臨床医学の知識を十分に修得したうえで、はじめて理解し得る。

医師は患者の診療や死体の検査（死体検案）に際し、司法や行政機関などから種々の医学的判断を求められることがある。これらに対し的確に対処するためには法医学的知識が必要である。また、医師は独自の判断で自由に（裁量）治療を行ったり、書類（各種診断書）を作成することが出来るが、場合により法的あるいは道徳的規制を受けることがあることを知る必要がある。

医師の診療を受けずに死亡した人や事故、自殺、他殺により死亡した人（これらを異状死体という）の大部分は、一部の地域を除き臨床医により検案が行われているのが現状である。正しい死亡時刻や死因を判断し、隠された犯罪死体や中毒死体を見逃さぬためには、死後に起こる種々の変化や各種損傷死の詳細な観察法を身につけ、疾病についての十分な知識を駆使して検案できる能力を修得する必要がある。

患者の診療においても、各種損傷についての知識は正確な診断治療につながり、後日患者側との紛争（医事紛争）の防止となることを銘記する必要がある。中毒物質の生体に対する毒性や症状についての的確な認識は早期治療につながることで、さらに血液型については、ABO式やRh式血液型以外の多数の血液型の存在を知り、それらの検査法、遺伝形式及び臨床上問題となる点を理解し、今日めざましい進歩をとげているDNAによる個人識別の現状を理解する。

講義中に呈示される多くの例から、診断や治療を行うにあたり、医学的知識の修得だけでなく、幅広い教養の必要性を感じ取り、医の倫理を身につけることの重要性を認識する。

一般目標

法律に関わる医学的諸問題を広く取り扱い、これらに対し医学的に公平な判断を下すため、人の死にかかわる重要事項を認識し、さらには医療に関連する法律を把握した上で、個人の基本的人権を擁護し、社会の安全に寄与できる基礎的知識を習得する。

さらに、外傷の患者や薬毒物中毒の患者についての的確で迅速な治療を行うため、損傷の性状を十分に把握し、また薬毒物に対する生体側の反応を正確に評価する方法を身につける。

行動目標

1. 死体現象から死後の経過時間と特異な死因を判断する。
2. 創傷の性状とその成因を具体的に述べる。
3. 中毒物質の毒作用について説明する。
4. 血液型の遺伝形式，亜型，各種検査法の原理を述べる。
5. 窒息の種類を列記し，それらの特徴的所見を指摘する。
6. 医療に関連した法律を理解し，違法の場合を討議する。
7. 医療にかかわる紛争の原因を知り，その防止法を示す。
8. 実習における実験結果をグループ内でまとめ，その内容について図表を用いて発表・討議する。

授業内容

回	大項目	項目	内 容	担当者	
1	法医学総論	総 論	法医学とは、解剖、死体検案、死の判定	木 下	
2	法医学各論	死体現象	早期死体現象	木 下	
3			晚期死体現象，特殊な死体現象	木 下	
4		損 傷	総論，創傷の観察，	木 下	
5			鋭器損傷，銃器損傷	木 下	
6			鈍器損傷	木 下	
7			交通事故損傷	木 下	
8			頭部外傷の法医学	西 村	
9			頭部外傷の法医学	西 村	
10			トピックス	分子病態法医学	近 藤
11				分子病態法医学	近 藤
12	窒 息	総論，縊死	木 下		
13		絞死，扼死，溺死，その他	木 下		
14	血液型	A B O型，R h式，	飴 野		
15		その他の血液型	飴 野		
16	法生物学	DNA型とは，	関 口		
17		物体検査，個人識別	関 口		
18	中 毒	総論	飴 野		
19		医薬品	飴 野		
20		アルコール	飴 野		

21		有機溶剤	飴野
22		農薬	飴野
23		CO中毒, その他	飴野
24	異常環境	温度異常	木下
25		感電, 熱中症, 他	木下
26	小児の法医学	嬰兒殺, battered child	木下
27	トピックス	循環器疾患の法医学	高橋
28		循環器疾患の法医学	高橋
29	法医学と社会	わが国の保健医療の動向と医師に期待される役割	山本
30		薬物乱用	木下
31		薬物乱用	木下
32		検案の実際	木下
33	医と法	医療関連法規, 医事紛争	木下
34	演習	死亡診断書(死体検案書)作成演習1	木下
35		死亡診断書(死体検案書)作成演習2	木下
36-38	実習	血液型学(新鮮血の血液型検査)	全員
39-41		中毒学 その1(アルコール, 催眠薬など)	全員
42-44		中毒学 その2(CO, シンナー, パラコート)	全員

学習方法

法医学の範囲は広く、これを短期間にすべて網羅することは不可能である。従って講義内容は医師として知っておいてもらいたい項目について重点的に行うので、講義中にしっかりと覚える習慣を身につけることを要望する。また法医学の用語は他の学科で学習しないものが多く、言葉の説明のみでは理解出来ないものが多いので、講義ではできるだけ多くの写真や図を使用して説明する。また解剖見学をおおいに歓迎しているので、実際に目で見て理解する学習方法を望む。

評価方法

- 1 実習期間中に実習レポートを提出し、時間内に試問、討論するなど理解度を評価する。
- 2 実習中の取り組み方、実習態度を評価する。
- 3 講義の出席状況、受講態度も評価の対象とする。
- 4 講義、実習終了後筆記試験を行う。
- 5 上記の評価を総合して合否の判定を行う。

教科書及び参考文献

- | | | | |
|---|--|-----------------|-------|
| 1 | 福島弘文編 | 法医学（改訂2版） | 南山堂 |
| 2 | 高取健彦編 | エッセンシャル法医学（第3版） | 医歯薬出版 |
| 3 | 石津日出雄、高津光洋編 | 標準法医学・医事法（第6版） | 医学書院 |
| 4 | 勾坂 馨編 | 法医学小辞典 | 南山堂 |
| 5 | P. J. Saukko, B. Knight, Knight's Forensic Pathology (3 rd ed), Hodder Arnold | | |

オフィスアワー

解剖等で曜日，時間の設定はできないが，在室時は随時対応する。

循環器系

統合講義（ユニット 3 A）

担当教員

教授 竹内 義喜（神経機能形態学）	非常勤講師 福岡 憲泰（薬理学）
教授 小坂 博昭（自律機能生理学）	教授 伊藤 進（小児科学）
教授 阪本 晴彦（炎症病理学）	教授 黒田 泰弘（救急災害医学）
教授 村尾 孝児（先端医療・臨床検査医学）	教授 秦 利之（周産期学婦人科学）
教授 西山 佳宏（放射線医学）	教授 中村 祐（精神神経医学）
教授 西山 成（薬理学）	教授 河野 雅和（循環器・腎臓・脳卒中内科学） （ディレクター）
教授 堀井 泰浩（心臓血管外科学）	准教授 大森 浩二（循環器・腎臓・脳卒中内科学） （サブディレクター）

担当講座のその他の教員

授業概要

ユニット3 Aでは、まず心臓について学習する。第1週目は、心臓のマクロ・ミクロの構造と体肺循環・心機能・心臓興奮伝導系などの解剖・生理学から始まり、つづいて臨床系担当科による画像診断・心電図診断の解説にリレーされる。心電図・心臓聴診・心エコーについてはスモールグループの実習により体験できるように計画されている。さらに、心疾患の主要病態である心不全の病態・治療について学習した後、その原因疾患としての先天性心疾患、心筋膜疾患、弁膜症、虚血性心疾患、不整脈のそれぞれについて、病態生理・原因・診断と治療を病理学的・内科的・外科的に系統的に学習する。さらに、第4週目には、虚血性疾患の背景となる動脈硬化を始め、血管・リンパ管疾患についても学習する。血管系の分布・構造のみならず毛細血管における物質・水分交換のメカニズムなど生体基礎生理について学習した後、脈管疾患各論が展開される。特に、深部静脈血栓と、それに続発することの多い肺塞栓症についての講義を計画している。第6週目には高血圧を学習する。これらの間に、循環器領域で重要な症候論として、動悸、チアノーゼ、ショックを取り上げ、それぞれについて複数の専門家が異なる視点から解説する。

本ユニットでは、重要な症候の一つである胸痛を課題としたチュートリアルを予定している。課題から派生した事象について自ら積極的に探求して問題解決する能力を身につけることが極めて重要であり、その過程で得られた知識を包括的に関連づけることにより、理解が深まるよう計画されている。

一般目標

循環器系の構造と機能を理解し、主な疾患の病態生理、原因、症候、診断と治療を理解する。

行動目標

次に示すように、各授業にそれぞれ到達すべき目標を設定している。これらには、医学教育モデル・コアカリキュラムに掲げられた循環器系で学習すべき到達目標が含まれている。症候については、医学教育モデル・コアカリキュラムより循環器系に関するものを取りあげた。

授業内容

回	大項目	項目	内容	担当者
1		補講		
2	循環器系	心臓の解剖	心臓の解剖 1) 心臓の構造と分布する血管・神経を説明できる。 2) 心筋細胞の微細構造と機能を説明できる。 3) 体循環、肺循環と胎児循環を説明できる。	神経機能形態
3		血管の解剖	血管の解剖 1) 大動脈の枝を図示し、分布域を概説できる。 2) 頭頸部と四肢の主な動脈を図示し、分布域を概説できる。 3) 主な静脈を図示し、門脈系と大静脈系の吻合部を説明できる。 4) 胸管を経由するリンパの流れを概説できる。	神経機能形態
4 5		心・循環器系の生理	心・循環器系の生理 1) 心周期にともなう血行動態を説明できる。 2) 心機能曲線と心拍出量の調節機序を説明できる。 3) 主な臓器(脳、心、肺)の循環調節を概説できる。 4) 血圧調節の機序を説明できる。	自律機能生理
6		補講		
7 8		心臓電気生理	心臓電気生理 1) 心筋細胞の電気現象と心臓の興奮(刺激)伝導系を説明できる。 2) 興奮収縮連関を概説できる。	自律機能生理
9 10		心電図	心電図 心電図検査の目的、適応と異常所見を説明し、結果を解釈できる。	循環器腎臓 脳卒中内科
11		心カテーテル検査	心カテーテル検査 心カテーテル検査(心内圧、心機能評価、シャント率の測定)と結果を説明し、解釈できる。	循環器腎臓 脳卒中内科
12		循環器超音波検査	心臓・血管超音波検査 断層心エコー図から心臓・大血管の画像診断を説明できる。	循環器腎臓 脳卒中内科
13 14 15		診断と検査	スモールグループ実習 心臓聴診・心電図・心エコー検査を体験する。	循環器腎臓脳卒 中内科・検査部 他
16		Tutorial-1	胸痛(Tutorial-1~4を通じて) 1) 胸痛の原因と病態を説明できる。 2) 胸痛患者の診断の要点を説明できる。 3) 胸痛患者に対する初期治療を説明できる。	循環器腎臓脳卒 中内科・心臓血 管外科学・薬理・ 自律機能生理
17 18		心不全	心不全 1) 心不全の定義と重症度分類を説明できる。 2) 心不全の原因疾患と病態生理を説明できる。 3) 左心不全と右心不全の診断を説明し、治療を概説できる。 4) 急性心不全と慢性心不全の診断を説明し、治療を概説できる。	循環器腎臓 脳卒中内科
19		薬物治療	心不全治療薬 強心薬の薬理作用を説明できる。	薬理
20		補講		
21 22		疾患 先天性心疾患	先天性心疾患 主な先天性心疾患(心房中隔欠損、心室中隔欠損、動脈管開存、ファロー四徴)の病態生理、症候と診断を説明し、治療を概説できる。	小児
23		疾患 成人先天性心疾患	先天性心疾患 成人にみられる先天性心疾患の病態生理、症候と診断を説明し、治療を概説できる。	循環器腎臓 脳卒中内科
24 25		疾患 心筋・心膜疾患	心筋・心膜疾患 1) 心筋症と特定心筋疾患の定義・概念と病態生理を説明できる。 2) 心筋炎の原因と症候を説明できる。 3) 急性心膜炎の症候を説明できる。	循環器腎臓 脳卒中内科
26 27		疾患 弁膜症	弁膜症 主な弁膜症(僧帽弁疾患、大動脈弁疾患)の原因、病態生理、症候と診断を説明し、治療を概説できる。	循環器腎臓 脳卒中内科

28		感染性心内膜炎	感染性心内膜炎・リウマチ熱 感染性心内膜炎・リウマチ熱の原因、症候と診断を説明し、治療を概説できる。	循環器腎臓 脳卒中内科学
29		疾患	弁膜症	心臓血管外科学
30		弁膜症	主な弁膜症の外科治療について概説できる。	
31		病理診断	心疾患の病理	炎症病理
32			1) 狭心症、心筋梗塞等の病因論、形態学的変化について説明できる。 2) 心不全患者の全身的变化について説明できる。	
33		病理診断	急性心筋梗塞、陳旧性心筋梗塞について組織像を観察し、違いを説明できる。	炎症病理
34		Tutorial-2	胸痛(Tutorial-1~4を通じて) 1) 胸痛の原因と病態を説明できる。 2) 胸痛患者の診断の要点を説明できる。 3) 胸痛患者に対する初期治療を説明できる。	循環器腎臓脳卒 中内科学・心臓血 管外科学・薬理・ 自律機能生理
35		グループ学習	課題についてのグループ学習	
36		診断と検査	1) 循環器疾患の血液生化学検査項目を列挙し、目的、適応と異常所見を説明し、結果を解釈できる。 2) 動脈血ガス分析の目的、適応と異常所見を説明し、結果を解釈できる。	循環器腎臓 脳卒中内科学
37		疾患	虚血性心疾患	循環器腎臓 脳卒中内科学
38		虚血性心疾患	1) 安定狭心症(労作性、冠攣縮性)の病態生理、症候と診断を説明し、治療を概説できる。 2) 不安定狭心症の病態生理、症候と診断を説明し、治療を概説できる。 3) 急性心筋梗塞の病態生理、症候、診断と合併症を説明し、治療を概説できる。	
39				
40		疾患	川崎病	小児
		川崎病	川崎病の病態生理、症候、診断と治療を概説できる。	
41		薬物治療	狭心症薬・抗血栓薬の薬理作用を説明できる。	薬理
42				
43	循環器系	虚血性心疾患外科治療	虚血性心疾患の外科治療を概説できる。	心臓血管外科学
44		循環器外科総論	循環器外科の特徴を概説できる。	心臓血管外科学
45		疾患	先天性心疾患	心臓血管外科学
		先天性心疾患	先天性心疾患の外科治療の概略を説明できる。	
46		疾患	心筋・心膜疾患	心臓血管外科学
			心タンポナーデの原因と診断を説明し、治療を概説できる。	
47		症候論 1-1	チアノーゼ	小児科
			1) チアノーゼの原因と病態を説明できる。	
48		症候論 1-2	2) チアノーゼを呈する患者の診断の要点を説明できる。	代謝血液免疫呼吸器
49		病理診断	心疾患の病理	炎症病理
50			心内膜炎、心筋炎、心筋症の病因論、形態学的変化について説明できる。	
51		病理診断	1) 心筋症の肉眼的組織像を観察し異常を説明できる。 2) ウィルス性心筋炎の組織像を観察し異常を説明できる。	炎症病理
52				
53				
54		Tutorial-3	胸痛(Tutorial-1~4を通じて) 1) 胸痛の原因と病態を説明できる。 2) 胸痛患者の診断の要点を説明できる。 3) 胸痛患者に対する初期治療を説明できる。	循環器腎臓脳卒 中内科学・心臓血 管外科学・薬理・ 自律機能生理
55		グループワーク	発表会の準備	
56		疾患	不整脈	循環器腎臓 脳卒中内科学
57		不整脈	1) 主な頻脈性不整脈(期外収縮、WPW 症候群、発作性頻拍)の、心電図上の特徴を説明できる。 2) 主な徐脈性不整脈(洞不全症候群、房室ブロック)の心電図上の特徴を説明できる。 3) 致死的不整脈の心電図上の特徴を説明できる。 4) 不整脈の治療(抗不整脈薬、電気的除細動、ペースメーカー療法)を概説できる。	

58		薬物治療	抗不整脈薬の薬理作用を説明できる。	薬理
59		診断と検査	心臓核医学	放射線医学
60			心臓核医学検査の意義、方法、代表的疾患の所見を概説できる。	
61		症候論 2-1	動悸	精神神経科
62		症候論 2-2	1) 動悸の原因を列挙し、その病態を説明できる。 2) 動悸を訴える患者の診断の要点を説明できる。	循環器腎臓 脳卒中内科
63		診断と検査	胸部単純 X 線写真・CT 1) 胸部単純 X 線写真、胸部 CT の読影の原理が説明できる。 2) 代表的心・大血管疾患の胸部単純 X 線写真所見が説明できる。 3) 代表的心・大血管疾患の CT 像が説明できる。	放射線医学
64		疾患 動脈疾患・外傷	動脈疾患・外傷 1) 動脈硬化症の危険因子、病態生理と合併症を説明できる。 2) 大動脈解離と大動脈瘤を概説できる。 3) 閉塞性動脈硬化症とバージャー病を概説できる。 4) 大動脈炎症候群を概説できる。	心臓血管外 科学
65		補講		
66		疾患 静脈・リンパ管疾患	静脈・リンパ管疾患 1) 深部静脈血栓症の原因と症候を説明できる。 2) 上大静脈症候群の原因と症候を説明できる。 3) 下肢静脈瘤を概説できる。 4) リンパ浮腫の原因を列挙できる。	循環器腎臓 脳卒中内科
67		疾患 静脈・リンパ管疾患	静脈・リンパ管疾患 1) 深部静脈血栓症の治療を概説できる。 2) 下肢静脈瘤の治療を概説できる。	心臓血管外 科学
68		肺塞栓症	肺塞栓症の成因、病態、症候を説明でき、治療を概説できる。	循環器腎臓脳卒中 内科
69	循環器系	病理診断	血管の病理 1) 粥状硬化の病因論、形態学的変化について説明できる。 2) 細動脈硬化症について説明できる。 3) 血管の腫瘍を分類し説明できる。	炎症病理
70		病理診断	1) 大動脈の粥状硬化を組織学的に観察し異常を説明する。 2) 腎動脈硬化症の腎臓の組織像を観察し異常を説明する。 3) 数々血管腫瘍の組織像を観察する。	炎症病理
71		補講		
72		補講		
74		Tutorial-4 (発表フィードバック)	胸痛(Tutorial-1~4を通じて) 1) 胸痛の原因と病態を説明できる。 2) 胸痛患者の診断の要点を説明できる。 3) 胸痛患者に対する初期治療を説明できる。	循環器腎臓脳卒 中内科・心臓血 管外科学・薬理・ 自律機能生理
75				
76		症候論 3-1	ショック	救急災害医学
77		症候論 3-2	1) ショックの定義、原因と病態を説明できる。 2) ショック患者の診断の要点を列挙できる。	循環器腎臓脳 卒中内科
78		症候論 3-3	3) ショックの治療を概説できる。	産科学婦人科
79~ 83		補講		
84		疾患 高血圧症	本態性高血圧症 本態性高血圧症の疫学、診断、合併症と予後を説明し、治療を概説できる。	循環器腎臓 脳卒中内科
85		疾患 二次性高血圧症	二次性高血圧症 二次性高血圧症の原因を列挙し、診断を説明し、治療を概説できる。	循環器腎臓 脳卒中内科
86		疾患 高血圧と心臓	高血圧性心疾患など 高血圧合併症としての心疾患の病態を説明できる。	循環器腎臓 脳卒中内科
87		薬物治療	降圧薬の薬理作用を説明できる	薬理
88		補講		
89~ 93		循環器系試験		

学習方法

循環器系の恒常性を保つための正常構造・機能および調節機構を先ず完全に理解するよう努める。それは、病態あるいは疾患、すなわち、生体の恒常性が破綻した状態についての理解を促進するからである。統合講義では、講義の内容を、概ね、正常解剖、生理、病理、疾患各論の順に配した。したがって、各講義毎に設定された行動目標を、聴講と自主学習により達成していくことで、ユニットの一般目標に効率的に到達できる。一方、症候から原因疾患を予想し、諸検査を行い、これを鑑別し、治療方針を決定し、治療するという臨床的な手順を疑似体験できるチュートリアル授業を用意した。症状レベル、検査レベル、治療方針決定の各レベルにおいて、それぞれ問題を整理し、自主的に情報収集してこれを解決するプロセスの体験を通して、関連知識が拡充され、理解が深まるとともに、問題解決能力が向上するものと期待される。情報収集手段としては、講義、講義での配付資料、教科書、論文検索、インターネット、さらにはチュートリアルのリソースパーソンを十分に活用されたい。

評価方法

チュートリアル課題レポート（グループレポート、個人レポート共に）とペーパー試験の成績をあわせて評価する。試験は、5月10日（火）に行う。チュートリアル課題レポートは期限内に受理されなければならない。レポート未提出、あるいはその評定が否であるもの、病理学などの実習の修了の認定を受けていないものには、ペーパー試験の受験資格を与えない。

教科書及び参考文献

辞書

1. Nomina Anatomica Japonica（日本解剖学会編）丸善
2. 図解解剖学辞典 医学書院
3. ドーランド図説医学大辞典 廣川書店
4. ステッドマン医学大辞典 メディカルビュー社

アトラス

1. Atlas of Human Anatomy Vol. 1, 2, 3 (Sbotta&Becher) [図説人体解剖学1, 1, 3訳]
2. Grant's Atlas of Anatomy, J. E. Anderson [グランド解剖学図譜訳] 医学書院
3. Color Atlas of Human Anatomy, R. M. H. McMinn&R. T. Hutchings 医学書院
4. Color Atlas of Anatomy, Rohen, Yokochi, 医学書院
5. 図説中枢神経系, 水野・岩堀・中村訳, 医学書院
6. 解剖学アトラス 越智淳三訳 文光堂

成書

1. Gray's Anatomy, 廣川書店
2. Textbook of Human Anatomy, Hamilton, Maruzen/MacMillan
3. Cunningham's Textbook of Anatomy, GJ. Romanes, Oxford University Press
4. Human Neuroanatomy, M. B. Carpenter, Williams&Wilkins
5. Core Text of Neuroanatomy, M. B. Carpenter, 廣川書店
6. 解剖学（全3巻）金原出版
7. 日本人体解剖学（全3巻）南山堂
8. 神経解剖学, Martinez, 南江堂
9. 臨床人体発生学, 岡本直正, 南江堂
10. 人体発生学, K. L. Moore, 医歯薬出版
11. スネル臨床発生学, スネル, メディカル・サイエンス・インターナショナル
12. Braunwald's Heart Disease 8th edition, Braunwald E, Zipes DP, Libby P, 他 W. B. Saunders Company

腎・尿路系

統合講義（ユニット3B）

担当教員

教授 笥 善行他（泌尿器科学）	教授 白神豪太郎（麻醉学）
教授 小坂博昭（自律機能生理学）	講師 田中宏和（周産期学婦人科学）
学内講師 海部久美子（循環器・腎臓・脳卒中内科学）	教授 芳地 一（薬剤部）
教授 伊藤 進他（小児科学）	教授 徳田雅明（細胞情報生理学）
講師 中野 覚（放射線部）	教授 西山 成他（薬理学）（サブディレクター）
教授 今井田克己他（腫瘍病理学）	教授 河野雅和他（循環器・腎臓・脳卒中内科学） （ディレクター）

担当講座のその他の教員

授業概要

ユニット3Bでは、腎・尿路系について学ぶ。

腎・尿路系は、尿生成の場である腎臓から尿管、膀胱、尿道への尿排泄経路をカバーするが、最初に諸臓器組織の機能、構造について解説する。続いて臨床系授業では、腎臓に関連して、発生異常に始まり、糸球体疾患、尿細管機能異常、間質性腎疾患、腫瘍および糖尿病、膠原病など全身性疾患による腎障害に言及し、最後に腎不全治療として血液浄化法と腎移植をとり上げている。また尿路疾患については、尿路の腫瘍・外傷、炎症疾患、結石、神経因性膀胱などが解説される。さらに、腎臓は水・電解質の交換の場であることから、体液・電解質バランスの調節機構も重要な学習課題である。症候論としては、検尿異常、肉眼的血尿、尿量・排尿異常を取り上げ、内科的、泌尿器科的観点からの講義が予定されている。

本ユニットでもチュートリアルは症候を中心に課題を設けている。それぞれの領域において課題から派生した事象について自ら積極的に探求して問題解決することが極めて重要であり、それによって得られた知識を包括的に関連づけることにより、理解が深まるよう計画されている。

また本ユニット期間中には生理・薬理実習が含まれている。これは、生命現象に関わる基礎的な実習項目をとりあげており、腎尿路系に限られたものではない。基礎医学総論など今までに学習したことをもとに、測定したデータを解析し、生体内で何が起きているのか興味を持って自ら考え、発表できる能力を身につけることを目標とする。平成23年度の生理・薬理実習の履修には、動物実験に関わる者として教育訓練を受講していることが必要となる。

一般目標

腎臓・尿路系の構造と機能を理解し、主な疾患の病態生理、原因、症候、診断と治療を学ぶ。

行動目標

各授業にそれぞれ到達すべき目標を設定している。これらには、医学教育モデル・コアカリキュラムに掲げられた腎・尿路系で学習すべき到達目標に加えて独自の目標が設定されている。

授業内容

回	大項目	項目	内容	担当者
1		生理学・薬理学実習	説明会	薬理学
2		症候論 1-1	血尿・蛋白尿(検尿異常) 1) タンパク尿の原因と病態を説明できる。 2) タンパク尿を呈する患者の診断の要点を説明できる。 3) 血尿の原因を列挙できる。 4) 血尿を来たした患者の診断の要点を説明できる。	循環器・腎臓・ 脳卒中内科学
3		症候論 1-2	肉眼的血尿 1) 肉眼的血尿の原因を列挙できる。 2) 肉眼的血尿を来たした患者の診断の要点を説明できる。	泌尿器科学
4		腎臓の生理	腎臓の生理 1) 腎の機能の全体像やネフロン各部の構造と機能を概説できる。 2) 腎糸球体における濾過の機序を説明できる。 3) 尿細管各部における再吸収・分泌機構と尿の濃縮機序を説明できる。 4) 水電解質・酸塩基平衡の調節機構を概説できる。 5) 腎に作用するホルモン・血管作働性物質の作用を説明できる。 6) 蓄排尿の機構について説明できる。	自律神経生理学
5				
7				
8				
9				
10				
6		高血圧と腎臓	高血圧と腎臓病の発症・進展機序について要点を説明できる。	薬理学
11		腎臓病態論	腎臓病の病態について要点を説明できる。	薬剤部
12		Tutorial-1	血尿(1-4を通じて) 1) 血尿の原因と病態を説明できる。 2) 血尿を来たした患者の診断と治療の要点を説明できる。	循環器腎臓脳 卒中内科学・ 泌尿器科学他
13		疾患	電解質代謝異常 1) 水電解質の調節機構を概説できる。 2) 高・低ナトリウム血症を概説できる。 3) 高・低カリウム血症を概説できる。 4) 高・低カルシウム血症を概説できる。 5) 高・低リン血症と高・低クロール血症を概説できる。	循環器・腎臓・ 脳卒中内科学
14		水・電解質代謝異常		
15	腎・尿路系	生理学・薬理学実習	I - 1	
16				
17				
18		疾患	全身性疾患による腎障害 1) 糖尿病性腎症の症候、診断と治療を説明できる。 2) ループス腎炎の症候、診断と治療を説明できる。 3) アミロイド腎の症候、診断と治療を説明できる。 4) 膠原病類縁疾患(血管炎症候群、グッドパスチャー症候群)の腎病変を説明できる。 5) 紫斑病性腎炎を概説できる。	循環器・腎臓・ 脳卒中内科学
19				
20		疾患 先天異常	先天異常 腎尿路の成長および発達的变化を理解し、主な先天異常(多発性嚢胞腎、膀胱尿管逆流症)を概説できる。	小児科学
21		生理学・薬理学実習	I - 2	
22				
23				
24		病理診断	腎・尿路系の病理 腎癌、膀胱癌の組織分類とその代表的組織型及び各々の補助的診断法について説明できる。	腫瘍病理学
25				
26				
27	病理診断	腎・尿路系の病理 糖尿病性腎症、ループス腎炎などの二次性腎病変の病因及び組織学的特徴を説明できる。	腫瘍病理学	
28				
29	疾患	原発性糸球体疾患 1) 急性糸球体腎炎症候群の原因、症候、診断と治療を説明できる。 2) 慢性糸球体腎炎(IgA腎症を含む)の症候、診断と治療を説明できる。 3) 急速進行性腎炎症候群を概説できる。 4) 腎生検の適応と禁忌を説明できる。	循環器・腎臓・ 脳卒中内科学	
30	原発性糸球体疾患			
31	疾患	学校検尿 1) 体液の量と組成・浸透圧を小児と成人を区別して説明できる。 2) 学校検尿で見出される小児の腎疾患について概説できる。	小児科学	

32 33 34		生理学・薬理学実習	I - 3	
35		Tutorial-2	血尿(1-4を通じて) 1) 血尿の原因と病態を説明できる。 2) 血尿を来たした患者の診断と治療の要点を説明できる。	循環器腎臓脳 卒中内科学・ 泌尿器科学他
36 37		診断と検査	腎・尿路系の画像診断を概説できる。	放射線部
38 39 40		生理学・薬理学実習	II - 1	
41		疾患 排尿障害	排尿障害 排尿障害の原因、症候、診断と治療を説明できる。	泌尿器科学
42		疾患 尿細管機能異常	尿細管機能異常 1) 尿細管性アシドーシスの分類、病態生理、診断と治療を説明できる。 2) 尿細管障害を呈する疾患について、症候と診断を説明できる。	循環器・腎臓・ 脳卒中内科学
43		疾患 外傷	外傷 腎外傷の症候、診断と治療を説明できる。	泌尿器科学
44 45 46		生理学・薬理学実習	II - 2	
47 48 49		病理診断	腎・尿路系病理実習 慢性糸球体腎炎、腎盂腎炎及び萎縮腎の組織像を観察し、それぞれの特徴を説明できる。	腫瘍病理学
50 51	腎・尿路系	病理診断	腎・尿路系の病理 1) 原発性糸球体疾患の形態学的分類とその特徴について説明できる。 2) 腎盂腎炎や腎不全等の原因とそれに伴う形態学的変化について説明できる。	腫瘍病理学
52		疾患 尿路結石	尿路結石 尿路結石の成因、症候、診断と治療を説明できる。	泌尿器科学
53		疾患	尿路疾患 1) 神経因性膀胱を概説できる。 2) 尿流動態検査を説明できる。	泌尿器科学
54		疾患 腎移植	慢性腎不全 慢性腎不全の治療(腎移植)を説明できる。	泌尿器科学
55 56 57		生理学・薬理学実習	II - 3	
58		Tutorial-3	血尿(1-4を通じて) 1) 血尿の原因と病態を説明できる。 2) 血尿を来たした患者の診断と治療の要点を説明できる。	循環器腎臓脳 卒中内科学・ 泌尿器科学他
59		疾患 ネフローゼ症候群	ネフローゼ症候群 ネフローゼ症候群の分類、症候、診断と治療を説明できる。	循環器・腎臓・ 脳卒中内科学
60		疾患	全身疾患と腎(産婦人科) 妊娠高血圧症候群による腎障害を概説できる。	周産期学婦人 科学
61 62 63		生理学・薬理学実習	III - 1	
64		グループワーク	Tutorial 課題発表会の準備	
65 66		疾患 腫瘍	腫瘍 腎癌・膀胱癌の症候、診断と治療を説明できる。	泌尿器科学
67 68 69		生理学・薬理学実習	III - 2	
70 71 72		病理診断	腎・尿路系病理実習 糖尿病性腎症、ループス腎炎の組織像を観察し、各々の特徴を説明できる。	腫瘍病理学
73 74		疾患 酸塩基平衡・電 解質代謝異常	アシドーシス・アルカローシス 1) 酸・塩基平衡の調節機構を概説できる。 2) アシドーシス・アルカローシスの定義、病態生理と診断を説明できる。 3) アシドーシス・アルカローシスの治療を概説できる。	麻酔学

75	腎・尿路系	疾患 腎不全	急性・慢性腎不全 急性・慢性腎不全の原因、症候、診断と治療を説明できる。	循環器・腎臓・ 脳卒中内科学
76		疾患	血液浄化法 慢性腎不全の治療(透析)を説明できる。	循環器・腎臓・ 脳卒中内科学
77		症候論 2-1	尿量・排尿の異常 尿量・排尿の異常を来した患者の診断の要点を説明できる。	泌尿器科学
78 79 80		生理学・薬理学実習	Ⅲ - 3	
81 82 83		Tutorial-4 (発表会、フイードバック)	血尿(1-4を通じて) 1) 血尿の原因と病態を説明できる。 2) 血尿を来した患者の診断と治療の要点を説明できる。	循環器腎臓脳 卒中内科学・ 泌尿器科学他
84 85		病理実習試験		腫瘍病理学
86 ~ 95		補講		
96 ~ 100		腎・尿路系試験		

学習方法

腎・尿路系の恒常性を保つための正常構造・機能および調節機構を先ず完全に理解するよう努める。それは、病態あるいは疾患、すなわち、生体の恒常性が破綻した状態についての理解を促進するからである。統合講義では、講義の内容を、概ね、正常解剖、生理、病理、疾患各論の順に配した。したがって、各講義毎に設定された行動目標を、聴講と自主学習により達成していくことで、ユニットの一般目標に効率的に到達できる。一方、症候から原因疾患を予想し、諸検査を行い、これを鑑別し、治療方針を決定し、治療するという臨床的な手順を疑似体験できるチュートリアル授業を用意した。症状レベル、検査レベル、治療方針決定の各レベルにおいて、それぞれ問題を整理し、自主的に情報収集してこれを解決するプロセスの体験を通して、関連知識が拡充され、理解が深まるとともに、問題解決能力が向上するものと期待される。情報収集手段としては、講義、講義での配付資料、教科書、論文検索、インターネット、さらには各回のリソースパーソンを十分に活用されたい。

評価方法

チュートリアル課題レポートと試験成績をあわせて評価する。試験は、6月9日に行う。チュートリアル課題レポートは期限内に全て受理されなければならない。レポート未提出、あるいはその評価が否であるもの、病理学などの実習の修了の認定を受けていないものには、総合試験受験の資格を与えられない。

教科書及び参考文献

辞書

1. ドーランド図説医学大辞典 廣川書店
2. ステッドマン医学大辞典 メディカルビュー社

成書

1. 一目でわかる 水電解質(第二版) 飯野 靖彦 メディカル・サイエンス・インターナショナル
2. 腎疾患治療のエビデンス. 黒川清監修、吉村吾志夫、南学正臣編集、文光堂

統合講義（ユニット 4）

担当教員

教授	桑原 知巳 (分子微生物学)	教授	伊藤 進 (小児科学)
講師	岡田 仁 (小児科学)	学内講師	岩瀬 孝志 (小児科学)
助教	西庄 佐恵 (小児科学)	助教	伊地知 園子 (小児科学)
助教	中村 信嗣 (小児科学)	教授	平島 光臣 (免疫病理学)
助教	大水 総一 (免疫病理学)	教授	阪本 晴彦 (炎症病理学)
准教授	上野 正樹 (炎症病理学)	教授	秦 利之 (周産期学・産婦人科学)
准教授	塩田 敦子 (母子総合周産期母子医療センター)	教授	松永 卓也 (内分泌代謝・血液・免疫・呼吸器内科学)
病室准教授	大西 宏明 (内分泌代謝・血液・免疫・呼吸器内科学)	講師	坂東 修二 (内分泌代謝・血液・免疫・呼吸器内科学)
講師	土橋 浩章 (内分泌代謝・血液・免疫・呼吸器内科学)	助教	洲崎 賢太郎 (内分泌代謝・血液・免疫・呼吸器内科学)
助教	石井 知也 (内分泌代謝・血液・免疫・呼吸器内科学)	病院助教	亀田 智弘 (内分泌代謝・血液・免疫・呼吸器内科学)
准教授	藤田 準 (先端医療・臨床検査医学)	学内講師	北中 明 (先端医療・臨床検査医学)
講師	窪田 良次 (輸血部)	准教授	新井 明治 (国際医動物学)
非常勤講師	中村 洋之 (内分泌代謝・血液・免疫・呼吸器内科学)	非常勤講師	川上 公宏 (内分泌代謝・血液・免疫・呼吸器内科学)
非常勤講師	小坂 信二 (薬理学)		

授業概要

第4ユニットは全身性疾患としての感染症、免疫・アレルギー・膠原病、血液・造血器・リンパ系を対象領域とし、この3つの領域を同時に進行する。

感染症では、生態防御が発症、治療、予防に大きく関係しており、感染症を理解する上で重要である。次に病原体側の要因よりも、むしろ宿主側の要因がより重要となる日和見感染、菌交代症、下痢症、敗血症を横断的に理解すること、また感染症の原因微生物の検査と診断方法、化学療法、ワクチンなどについて総括的に理解することが必要であり、これらを最初に扱う。総論の後に、発疹性疾患、垂直感染、性感染症、院内感染、主要感染症（統合講義で扱うべき）について病原体、疾患の特徴について基礎と臨床の両面から解説する。一部は、学生のグループ学習と発表会の形式を採用する。

アレルギー・免疫疾患については、最初リンパ球を中心とする免疫機構を学習し、過敏反応としてアレルギー性疾患を理解できるようにする。その後、自己免疫疾患を概説し、全身的自己免疫疾患としての各種膠原病について、その疫学・病態・病理・診断法・治療法について学習する。小児膠原病については成人との対比の上で、その特徴を理解する。

血液・造血器・リンパ系については、最初に造血幹細胞を中心とする正常造血の成熟・分化機構を学習し、その生理・機能異常としての造血器疾患を理解できるようにする。各論としては、貧血、造血器腫瘍、止血・凝固異常のうち代表的疾患について、その疫学・病態・病理・診断法・治療法について学習する。小児疾患・遺伝性疾患については成人との対比の上で、その特徴を理解する。最後に実際の症例を呈示し、鑑別診断も含め、検査・治療法を立案できるようにする。なお、造血幹細胞移植については、別途医療総合講義にて詳説する。

本ユニットのチュートリアルでは免疫・アレルギー疾患と血液・造血器疾患から1課題を設ける。

症候に関する課題とするが、構造・機能を含め、疫学、病態生理、診断と治療など幅広く探究し、かつそれらの知識を関連づけ、体系的に理解することが需要である。そのような学習習慣の重要性を自らの行動により体得することが本ユニットのチュートリアル目標であることを念頭に取り組んでもらいたい。

一般目標

生態防御、免疫・アレルギーの構成と機能、ならびに血液・造血器・リンパ系の構造と機能を理解し、主要な感染症、アレルギー疾患、免疫、血液・造血器・リンパ系の疾患の病態生理、症候、診断と治療を学ぶ。

行動目標

各授業にそれぞれ到達すべき目標を設定している。これらの多くは、医学教育モデル・コアカリキュラムに掲げられた全身におよぶ生理的变化、病態、診断、治療（感染症、免疫・アレルギー疾患）と人体各器官の正常構造と機能、病態、診断、治療（血液・造血器・リンパ系）に掲げられた到達目標を含むものである。

授業内容

回	大項目	項目	内容	担当者
1	感染症	生体防御・自然免疫	病原体に対する生体の反応(自然免疫)を説明できる。	分子微生物
2	感染症	菌交代症・日和見感染症	菌交代現象・菌交代症、日和見感染症を説明できる。新興・再興感染症を列挙できる。	分子微生物
3	免疫	アレルギー疾患概要	アレルギー疾患の特徴とその発症を概説できる。	免疫病理
4	免疫	アナフィラキシー・薬物アレルギー	アナフィラキシーの症候、診断と治療を説明できる。薬物アレルギーを概説できる。	免疫病理
5	予備			
6	血液	血液疾患概論	骨髄の構造、造血幹細胞から各血球への分化と成熟の過程を説明できる。	代謝血液免疫呼吸器
7	血液	造血システム・貧血の鑑別診断	赤血球の構造と機能について説明でき、貧血の原因と鑑別診断法を列挙できる。	代謝血液免疫呼吸器
8	血液	再生不良性貧血	再生不良性貧血の原因・病態・治療法について説明できる。	代謝血液免疫呼吸器
9	免疫	自己免疫疾患概論	全身のおよび臓器特異的自己免疫疾患を概説できる。	免疫病理
10	予備			
11	免疫・アレルギー疾患	自己抗体	自己抗体の種類と臨床的意義を説明できる。	代謝血液免疫呼吸器
12	免疫・アレルギー疾患	自己免疫疾患概論	膠原病と自己免疫疾患を概説し、その種類を列挙できる。関節炎をきたす疾患をきたす疾患、レイノー症状の説明と原因疾患を列挙できる。	代謝血液免疫呼吸器
13	血液	溶血性貧血・巨赤芽球性貧血	溶血性貧血・巨赤芽球性貧血の原因・病態について説明できる。	代謝血液免疫呼吸器
14	血液	鉄欠乏性貧血	鉄欠乏性貧血の原因・病態・治療法について説明できる。	代謝血液免疫呼吸器
15	感染症	感染症の臨床検査	細菌学的診断、血清学的診断、感染症のDNA診断を概説できる。	臨床検査医学
16	感染症	下痢症・食中毒	下痢症、食中毒を来す病原体を列挙し、診断と治療の基本を説明できる。	分子微生物
17	感染症	下痢症・食中毒	下痢症、食中毒を来す病原体を列挙し、診断と治療の基本を説明できる。	分子微生物
18	薬理	抗菌薬(1)	抗菌薬の薬理について	薬理学
19	小児感染症	小児発疹性疾患(1)	インフルエンザ、麻疹、風疹、水痘・帯状ヘルペス、ウイルス性皮膚疾患(単純ヘルペス、伝染性紅斑、手足口病、	小児科

			ウイルス性ゆうぜい)、突発性発疹の症候と診断を説明できる。	
20	小児感染症	小児発疹性疾患(2)	インフルエンザ、麻疹、風疹、水痘・帯状ヘルペス、ウイルス性皮膚疾患(単純ヘルペス、伝染性紅斑、手足口病、ウイルス性ゆうぜい)、突発性発疹の症候と診断を説明できる。	小児科
21	感染症	結核・百日咳・破傷風	結核と百日咳の病態、診断、治療、予防を説明できる(グループ学習と発表会形式の講義を行う)。	分子微生物
22	感染症	伝染性単核症・プリオン感染症	伝染性単核症、プリオン感染症の症候と診断を説明できる。	分子微生物
23	免疫	感染免疫(1)	細菌感染に対する免疫応答を説明できる。	免疫病理
24	免疫	感染免疫(2)	ウイルス感染に対する免疫応答を説明できる。	免疫病理
25	感染症	院内感染	院内感染の主な原因となる病原体を列挙し、対策を説明できる。MRSA の特徴、病院内での対応の方法を説明できる。	臨床検査
26	血液	骨髄異形成症候群	骨髄形成症候群の病態・診断・治療法について説明できる。	代謝血液免疫呼吸器
27	血液	急性白血病	白血球の種類と機能を説明できる。急性白血病の病態・治療法について説明できる。急性白血病のWHO分類およびFAB分類について概説できる。	代謝血液免疫呼吸器
28	感染症	敗血症・SIRS	敗血症の症候、診断、治療の基本、SIRSを説明できる。	分子微生物
29	婦人科領域のSTD	婦人科領域のSTD	性行為感染症、クラミジア感染症を概説できる。	周産期学 婦人科学
30	感染症	泌尿器科領域のSTD	泌尿器科領域のSTDについて概説できる。	泌尿器科
31	免疫・アレルギー疾患	SLE病態・症候	全身性エリテマトーデスの病態、症候、症状と合併症(中枢神経ループス、ループス腎炎)を説明できる。	代謝血液免疫呼吸器
32	免疫・アレルギー疾患	SLE治療・抗リン脂質抗体症候群	全身性エリテマトーデスの治療を説明できる。抗リン脂質抗体症候群の病態生理、症候、診断と治療を説明できる。	代謝血液免疫呼吸器
33	感染症	ウイルス呼吸器感染症	主要な呼吸器ウイルス感染症の診断と治療を概説できる。	代謝血液免疫呼吸器
34	感染症	血流感染症・SIRS	血流感染症・SIRSについて概説できる。	代謝血液免疫呼吸器
35	チュートリアル(1)			
36	薬理	抗菌薬(2)	抗菌薬の薬理と感染症への適応について	薬理学
37	感染症・寄生虫疾患	消化器系以外の寄生虫症(1)	消化器系以外の寄生虫感染症を説明できる。	国際医動物
38	感染症・寄生虫疾患	消化器系以外の寄生虫症(2)	消化器系以外の寄生虫感染症を説明できる。	国際医動物
39	小児感染症	その他の小児感染症	小児科領域に於ける主要な細菌性感染症の診断と治療を概説できる。	小児科
40	予備			
41	血液	急性白血病の臨床	白血病の症例の治療・合併症について概説できる。	代謝血液免疫呼吸器
42	血液	症候学:リンパ節腫脹	リンパ節腫脹をきたす疾患の病態と疾患を列挙できる。	代謝血液免疫呼吸器
43	血液	リンパ系腫瘍概論	リンパ系腫瘍の分類、疫学について説明できる。	代謝血液免疫呼吸器
44	小児感染症	予防接種	予防接種の適応と異議を説明できる。	小児科
45	予備			
46	免疫・アレルギー疾患	強皮症	強皮症の病態生理、症候、診断、臓器病変(特に肺・腎)と治療を説明できる。	代謝血液免疫呼吸器
47	免疫・アレルギー疾患	多発筋炎・皮膚筋炎	皮膚筋炎・多発性筋炎の症候、診断と治療を説明できる。	代謝血液免疫呼吸器
48	血液	特殊な悪性リンパ腫	特殊な悪性リンパ腫の病因・病態・治療法について説明できる。	代謝血液免疫呼吸器
49	感染症	尿路感染症		泌尿器科
50	チュートリアル(2)		血液系もしくは免疫系	

51	感染症	エイズ	エイズの疫学・病因・病態・治療法について説明できる。	輸血部
52	免疫	腫傷免疫(1)		免疫病理学
53	免疫	腫傷免疫(2)		免疫病理学
54	小児免疫・アレルギー疾患	小児皮膚筋炎・若年性関節リウマチ	小児皮膚筋炎の症候・診断・治療を説明できる。若年性関節リウマチの特徴を説明できる。	小児科
55	予備			
56	予備			代謝血液免疫呼吸器
57		特別講義	感染制御特論(実践的感染制御)	代謝血液免疫呼吸器
58		特別講義	感染制御特論(実践的感染制御)	代謝血液免疫呼吸器
59		特別講義	血液疾患特論(香川県の血液内科医療)	代謝血液免疫呼吸器
60		特別講義	血液疾患特論(香川県の血液内科医療)	代謝血液免疫呼吸器
61	血液	多発性骨髄腫	多発性骨髄腫及び類縁疾患の病因・病態・治療法について説明できる。	代謝血液免疫呼吸器
62	血液	骨髄増殖性腫瘍	真性多血症、骨髄線維症の病態・診断・治療法について説明できる。	代謝血液免疫呼吸器
63	血液	慢性骨髄性白血病	慢性骨髄性白血病の病態・診断・治療法について説明できる。	代謝血液免疫呼吸器
64	免疫・アレルギー疾患	症候学:関節痛	関節痛・関節腫脹を機構と鑑別診断が説明できる。	代謝血液免疫呼吸器
65	免疫・アレルギー疾患	自己炎症症候群		代謝血液免疫呼吸器
66	免疫	関節リウマチ病態・症候	関節リウマチの病態生理、症候、診断と治療を説明できる。	代謝血液免疫呼吸器
67	免疫	関節リウマチ薬物治療	関節リウマチの薬物療法を説明できる。	代謝血液免疫呼吸器
68	免疫	症候学:不明熱	不明熱の鑑別について説明できる。	代謝血液免疫呼吸器
69	感染症	ブドウ球菌・溶連菌感染症	病原大腸菌感染症と破傷風の特徴、診断、治療、予防を説明できる(グループ学習と発表会形式の講義を行う)。	代謝血液免疫呼吸器
70	チュートリアル(3)			
71	血液	遺伝性血液疾患:血友病など	血友病及び類縁疾患の病態・症候・診断・治療法と遺伝形式について説明できる。	小児科
72	小児血液	小児造血器腫瘍	小児の造血器腫瘍の病態・治療法について説明できる。	小児科
73	血液病理	リンパ節炎の病理	リンパ節炎の病理像について説明できる。	炎症病理
74	小児感染症	垂直感染症	風疹、サイトメガロウイルス感染症の症候、診断と治療を説明できる。新生児B群レンサ球菌感染症を概説できる。	小児科
75	予備			
76	予備			
77	予備			
78	予備			
79	チュートリアル 発表会			
80	チュートリアル 発表会			
81	血液	白血病・悪性リンパ腫の病理(1)	悪性リンパ腫の病理分類について説明でき、その特徴を概説できる。	炎症病理
82	血液	白血病・悪性リンパ腫の病理(2)	悪性リンパ腫の病理分類について説明でき、その特徴を概説できる。	炎症病理
83	血液	悪性リンパ腫	悪性リンパ腫の病因・病態・治療法について説明できる。	代謝血液免疫呼吸器
84	免疫	悪性関節リウマチ・成人スティル病	関節リウマチの関節外症状、悪性関節リウマチの症状、診断と治療を説明できる。成人スティル病を概説できる。	代謝血液免疫呼吸器
85	免疫・アレルギー疾患	血管炎症候群(1)	血管炎症候群の症候・診断と治療を説明できる。	代謝血液免疫呼吸器
86	血液病理	白血病・悪性リンパ腫の病理(3)	悪性リンパ腫の病理分類について説明でき、その特徴を概説できる。	炎症病理

87	血液病理	白血病・悪性リンパ腫の病理(4)	リンパ腫細胞および白血病細胞の特徴・動態について説明できる。	炎症病理
88	血液	癌化学療法	癌化学療法の種類と作用機序・副作用について説明できる。	代謝血液免疫呼吸器
89	予備			
90	予備			
91	免疫・アレルギー疾患	血管炎症候群(2)	血管炎症候群の症候・診断と治療を説明できる。	代謝血液免疫呼吸器
92	免疫・アレルギー疾患	混合性結合組織病・シェーグレン症候群	混合性結合組織病の病態生理、症候、診断と治療を説明できる。シェーグレン症候群、ベーチェット病を概説できる。	代謝血液免疫呼吸器
93	予備			
94	病理学実習	血液病理学実習	造血器腫瘍の病理	炎症病理
95	病理学実習	血液病理学実習	造血器腫瘍の病理	炎症病理
96	血液	症候学:出血	出血傾向をきたす疾患の鑑別について説明できる。	代謝血液免疫呼吸器
97	血液	止血・凝固(1)	特発性血小板減少性紫斑病及び類縁疾患の病因・病態・治療法について説明できる。	代謝血液免疫呼吸器
98	血液	止血・凝固(2)	汎播種性血管内凝固症候群の病態・治療法について説明できる。	代謝血液免疫呼吸器
99	補講			
100	補講			
101	補講			
102	小児免疫・アレルギー疾患	先天性免疫不全症候群	小児の血管炎(川崎病)、先天性免疫不全症候群の病態、診断と治療を説明できる。	小児科
103	補講			
104	補講			
105	補講			
106	補講			
107	試験	試験	総合試験	
108	試験	試験	総合試験	
109	補講		試験の解説	
110	補講		試験の解説	

評価方法

チュートリアル課題レポートと最終回に行うユニット本試験の成績をあわせて評価する。ただしチュートリアル課題に関するレポートが未提出あるいは評価が否であるものは、本試験受験資格は与えられない。また、病理組織実習の終了認定を受けていないものは、本試験受験資格は与えられない。本試験、再試験、及び判定は次のとおり行う。

- 1) 単位認定はユニット本試験の成績を主体とする（正答率60%以上を合格）。
- 2) ユニット試験を受験するには、実習およびチュートリアル出席率が2/3以上を満たさなければならない。
- 3) 出題は、感染症、血液、免疫の3分野から各々30問程度出題され、各科の配分は実習も含めた講義コマ数によって決まり、実習内容も試験範囲に含まれる。
- 4) 再試験は各分野10問ずつとし、受験者は本試験における分野別の正答率が60%未満の分野についてのみ受験すればよい。
- 5) 再試験でも正答率60%未満の分野については、該当分野の責任教官との面接を行った後にレポート提出を課し、さらに口頭試問によって理解度を確認する。また、最終的な合否判定は年度末の進級会議に掛けられる。

学習方法

本期間中には、講義以外に、参考図書の中から自分に適した成書を選び、コアカリキュラムに含まれる領域については、少なくとも1回どおり通読し理解を深める。また、同期間中に本領域に関する主な症候（敗血症、SIRS、レイノー症状、関節痛、発熱、リンパ節腫脹、脾腫など）については、診断学の教科書を通読し、他領域との関連についても学習する。

教科書及び参考文献

感染症

辞書

1. 微生物学用語集英和・和英（日本細菌学会用語委員会編）南山堂
2. 免疫学用語辞典3版（多田富雄他編）最新医学社

アトラス

1. A color atlas of infectious diseases 2nd Ed. (ed. by Emond & Rowland) Wolfe Year Book

成書

1. Medical Microbiology 2nd Ed. (ed by Mims, Playfair, Roitt, Walkelin, Williams) Mosby
2. 一目でわかる微生物学と感染症（Gillespie & Bamford 著，山本直樹訳）MEDSI 社
3. 知っておきたい現代感染症事情 1, 2（中山宏明，多田 功，南嶋洋一編）医歯薬出版
4. 一目でわかる免疫学3版（Playfair & Chain 著，麻生芳郎訳）MEDSI 社
5. 免疫学イラストレイテッド5版（Roitt, Brostoff, Male 著，多田富雄訳）南江堂

免疫・アレルギー

1. 最新膠原病・リウマチ学（宮坂信之，朝倉書店）
2. 膠原病・リウマチ診療～Evidence based medicine を活かす～（鎌谷直之，メジカルビュー社）
3. NIM Lectures 「免疫・アレルギー・膠原病学」（柏崎禎夫，狩野庄吾，医学書院）
4. Textbook of Rheumatology（Kelley, Harris, Ruddy, Sledge, et.al ed., Saunders, New York）

血液・造血器・リンパ系

アトラス

1. 血液病アトラス（八幡義人著，東京，南江堂）
2. 血液細胞アトラス（三輪史朗，渡辺陽之輔，共著，第4版，文光堂）

成書

1. 標準血液病学（池田康夫，押味和夫，編集，医学書院）
2. 三輪血液病学 第3版（浅野茂隆，池田康夫，内山 卓，文光堂）
3. WHO 分類第4版による白血病・リンパ系腫瘍の病態学（押味和夫 監修中外医学社）
4. Hematology（William J. Williams et.al ed., McGRAW-Hill, New York）
5. Leukemia (Henderson ES & Lister TA ed. Saunders, Philadelphia)
6. WHO Classification: Tumours of the Haematopoietic and Lymphoid Tissues 4th ed. 2008 (WHO Press / Swerdlow).

呼 吸 器 系

統合講義（ユニット 5）

担当教員（代表）

教授	荒木 伸一（組織細胞生物学）	教授	伊藤 進（小児科学）
准教授	羽場 礼次（病理部）	助教	別宮 小由理（麻酔学）
教授	今井田 克己（腫瘍病理学）	講師	山本 由佳（放射線科）
教授	平島 光臣（免疫病理学）	講師	坂東 修二（内分泌代謝・血液・免疫・呼吸器内科学）
教授	（ ）（分子微生物学）	教授	横見瀬 裕保（呼吸器・乳腺内分泌外科学）
教授	小林 良二（生体情報分子学）	准教授	野田 卓男（小児外科学）
教授	西山 成（薬理学）		
MSW	川口 郁代（地域連携室）	理学療法士	森田 伸（リハビリテーション部）

授業概要

第五ユニットは呼吸器疾患を対象とする。呼吸器の解剖、生理を理解し、疾患の症候、画像診断、検査法、組織病理を理解する。呼吸生理、血液ガス分析、細胞診、組織病理の実習を行う。病態、診断、治療について各講座、診療科（部）の視点から呼吸器疾患の総合的な理解のための講義を行う。疾患は腫瘍、感染、アレルギー、職業性、血管性、先天性、外傷など多岐にわたる。系統講義と並行して自学自習のために2題のチュートリアル課題に取り組んでいただく。

一般目標

呼吸器の構造と機能を理解し、疾患の病態生理、原因、症候、診断、治療を学ぶ。自分の力で課題を発見し、自己学習によってそれを解決するための能力を身につける。情報を重要性と必要性にしたがって取捨選択し、その要点を論理的に整理し、分かりやすく表現する能力を身につける。

行動目標

各回の授業にはそれぞれ医学教育モデル・コアカリキュラムに準じた到達すべき目標を設定している。必要な課題を自ら発見し、重要性・必要性に照らして順位づけする。課題を解決する具体的な方法を発見し、他の学習者や教員と協力してよりよい解決方法を見出しながら課題を解決する。適切な自己評価ができ、改善のための具体的方策を立てる。

授業内容

回	項目	内 容	担当者
1	呼吸生理 (スパイロメーター・人工呼吸器)	<ul style="list-style-type: none"> 呼吸機能検査の目的、適応と異常所見を説明し、結果を解釈できる。 呼吸生理の基礎を理解できる。 肺胞におけるガス交換と血流の関係を説明できる。 肺気量と肺・胸郭系の圧・容量関係(コンプライアンス)を説明できる。 人工呼吸器の種類、適応、モード、合併症について理解できる。 	呼吸器・乳腺内分泌外科
2	呼吸器の構造	<ul style="list-style-type: none"> 気道について概説できる。 肺の構造を説明できる。 呼吸に関与する筋肉と神経支配を説明できる。 胸膜の概念を説明できる。 気道と肺の防御機構(免疫学的・非免疫学的)と代謝機能を説明できる。 	組織細胞生物学
3	実習(呼吸生理・血液ガス分析)	<ul style="list-style-type: none"> 肺機能検査の実際的な解釈について理解できる。 血液ガス分析の実際的な解釈について理解できる。 呼吸中枢を介する呼吸調節の機序を説明できる。 	代謝血液免疫呼吸器内科
4-5	自習		
6	呼吸器作動薬	<ul style="list-style-type: none"> 呼吸器作用薬(気管支拡張薬)の薬理作用を説明できる。 主な薬物の副作用を概説できる。 	薬理学
7	チュートリアルレポート・発表の方法 チュートリアル課題1	<ul style="list-style-type: none"> チュートリアルグループ発表、チュートリアルレポートの方法、採点基準と禁忌の説明 	代謝血液免疫呼吸器内科
8	呼吸生理 (酸塩基平衡理論)	<ul style="list-style-type: none"> 肺の換気と(換気血流比)が血液ガスにおよぼす影響を説明できる。 呼吸中枢を介する呼吸調節の機序を説明できる。 血液による酸素と二酸化炭素の運搬の仕組みを説明できる。 	生体情報分子学
9-10	呼吸器画像診断	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な解剖学の理解。画像上の病変の成り立ち方が理解できる。 	放射線科
11	小児呼吸器疾患	<ul style="list-style-type: none"> 新生児期における呼吸障害、IRDSを起こす疾患について理解する 	
11	小児呼吸器疾患	<ul style="list-style-type: none"> ● 新生児期における呼吸障害、IRDSを起こす疾患について理解する 	
8	呼吸生理 (酸塩基平衡理論)	<ul style="list-style-type: none"> 肺の換気と(換気血流比)が血液ガスにおよぼす影響を説明できる。 呼吸中枢を介する呼吸調節の機序を説明できる。 血液による酸素と二酸化炭素の運搬の仕組みを説明できる。 	生体情報分子学
9-10	呼吸器画像診断		放射線科
11	小児呼吸器疾患	<ul style="list-style-type: none"> 新生児期における呼吸障害、IRDSを起こす疾患について理解する 	小児科
12	喘息アレルギー(1)	<ul style="list-style-type: none"> 気管支喘息、過敏性肺臓炎、サルコイドーシス、好酸球性肺疾患の病態、診断、および治療について理解できる。 	代謝血液免疫呼吸器内科
13	喘息アレルギー(2)		
14	喘息アレルギー(3)	<ul style="list-style-type: none"> 小児における喘息の特徴、治療について理解する。 	小児科
15	自習		
16	肺感染症の外科	<ul style="list-style-type: none"> 肺化膿症と膿胸を概説できる。 肺結核・非結核性抗酸菌症の外科的治療を説明できる。 膿胸、肺化膿症、気管支拡張症の外科的治療を説明できる。 	呼吸器・乳腺内分泌外科
17			
18	小児呼吸器感染症	<ul style="list-style-type: none"> 各疾患での特徴、病態生理、臨床経過、治療について理解できる。小児呼吸器感染症について説明できる。 	小児科
19	自習		
20	気管支鏡・胸腔鏡・ステント・レーザー	<ul style="list-style-type: none"> 呼吸器疾患で使用する内視鏡の原理と診断と治療の基本を学ぶ。 気管支鏡検査の意義を説明できる。 気管支鏡の手技、所見が理解できる。 胸腔鏡の意義について説明でき、種類、適応、合併症を理解できる。 ステント療法について説明でき、種類、適応、合併症を理解できる。 レーザー療法について説明でき、種類、適応、合併症を理解できる。 	呼吸器・乳腺内分泌外科
21	呼吸器感染症	<ul style="list-style-type: none"> 各疾患での特徴、病態生理、臨床経過、治療について理解できる。呼吸器感染症について説明できる。 	代謝血液免疫呼吸器内科
22			
23	喀痰細菌検査	<ul style="list-style-type: none"> 試料採取・処理、喀痰染色、細菌培養、薬剤感受性、DNA 診断の基本と利用について説明できる。 	分子微生物学講座
24			
25	喀痰病理検査	<ul style="list-style-type: none"> 喀痰の検査目的に応じた細胞診標本の作製法を理解する。 炎症性疾患における喀痰所見を理解する。 悪性腫瘍の細胞所見を理解する。 以上を通じて適切な喀痰材料を提出し、腫瘍非腫瘍を問わず喀痰から得られた所見を的確に理解し、診療に役立てることが出来る事を目標とする基本的な解剖学の理解。画像上の病変の成り立ち方が理解できる。 	病理部
26	チュートリアル課題2		代謝血液免疫呼

			吸器内科
27 28	呼吸器画像診断	<ul style="list-style-type: none"> 代表的な呼吸器疾患の画像が理解できる。 肺癌を含むより臨床的な胸部画像診断の基礎を学ぶ 	放射線科
29	胸膜疾患	<ul style="list-style-type: none"> 縦隔と胸膜腔の構造を説明できる。 胸膜炎の原因、症候、診断と治療を説明できる。 気胸の原因、症候、診断と治療を説明できる。 胸膜中皮腫を概説できる。 胸水の原因と病態を説明でき胸水を呈する疾患の要点を説明できる。 	呼吸器・乳腺内分泌外科
30	縦隔疾患	<ul style="list-style-type: none"> 縦隔疾患について説明できる 	呼吸器・乳腺内分泌外科
31	異常呼吸	<ul style="list-style-type: none"> 異常呼吸の病態、および治療方法を理解できる。また睡眠時無呼吸症候群、過換気症候群の診断、および治療方法について理解できる。 	代謝血液免疫呼吸器内科
32	呼吸不全(1)	<ul style="list-style-type: none"> 呼吸不全の病態、および病型について理解できる。また病型に応じた治療方法に関して理解できる。 	代謝血液免疫呼吸器内科
33	呼吸理学療法	<ul style="list-style-type: none"> 呼吸障害に対する理学療法・リハビリテーションの概念と適応を説明できる。 リハビリテーションチームの構成を理解し、医師の役割を説明できる。 障害を機能障害、能力低下、社会的不利に分けて説明できる。 	リハビリテーション部
34	呼吸器感染症の病理	<ul style="list-style-type: none"> 肺の感染症とその鑑別疾患が理解できる。 	腫瘍病理学
35	実習(呼吸器感染症)	<ul style="list-style-type: none"> 代表的感染症の病理形態学的特徴が理解できる。 	腫瘍病理学
36	チュートリアル	<ul style="list-style-type: none"> チューターなし(自習) 	
37 38	自習	<ul style="list-style-type: none"> 	
39	胸部外傷	<ul style="list-style-type: none"> 胸部外傷の治療法について説明できる。 	呼吸器・乳腺内分泌外科
40	肺癌 外科療法	<ul style="list-style-type: none"> 呼吸器外科的治療と周術期管理の基本を学ぶ。 組織、病期別に肺癌の治療法を説明できる。 主な呼吸器術後合併症を列挙し、その予防の基本を説明できる。 	呼吸器・乳腺内分泌外科
41	肺癌 内科療法	<ul style="list-style-type: none"> 肺癌の化学療法を小細胞癌、および非小細胞癌に分けて理解できる。 肺癌の分子標的療法の考え方について理解できる。肺癌化学療法について学ぶ。 	代謝血液免疫呼吸器内科
42	肺癌 放射線療法	<ul style="list-style-type: none"> 放射線治療の原理を説明し、主な放射線治療法を列挙できる。 肺癌の放射線治療の方法、成績や放射線肺臓炎について説明できる。 	放射線科
43	閉塞性拘束性疾患(1)	<ul style="list-style-type: none"> 閉塞性拘束性疾患の病理について説明できる。 	腫瘍病理学
44 45	実習 (閉塞性拘束性疾患)	<ul style="list-style-type: none"> 各々の換気障害の病理形態学的特徴の理解 	腫瘍病理学
46 47	チュートリアル	<ul style="list-style-type: none"> チューターなし(自習) 	
48	肺癌の病理	<ul style="list-style-type: none"> 肺癌の分類と代表的組織型の病理 	腫瘍病理学
49 50	実習(肺癌))	<ul style="list-style-type: none"> 肺癌の形態学的表現型の理解 	腫瘍病理学
51	呼吸循環器障害	<ul style="list-style-type: none"> 肺血管系の疾患について説明できる。肺性心、肺梗塞の病態、診断、および治療方法について理解できる。呼吸循環器障害について説明できる。 	代謝血液免疫呼吸器内科
52 53	呼吸不全(2) 呼吸不全(3)	<ul style="list-style-type: none"> 呼吸不全発生の機序を分類し、そのメカニズムを理解する。 呼吸不全,ARDS に対する人工呼吸療法の実際を理解する。 	麻酔学
54 55	チュートリアル発表	<ul style="list-style-type: none"> 	代謝血液免疫呼吸器内科
56 57	塵肺	<ul style="list-style-type: none"> もっとも頻度の高い塵肺である珪肺について、その病態、画像診断、肺機能検査、および治療方法などが理解できる。 アスベストの吸入によって惹起される石綿肺の病態、画像所見、および治療方法が理解できる。また急増しつつある中皮腫の臨床像についても理解できる。 	代謝血液免疫呼吸器内科
58	呼吸器疾患における社会保障論	<ul style="list-style-type: none"> 地域保健と医師の役割を説明できる。 病診連携と病病連携を説明できる。 医療保険と公費医療や介護保険を説明できる。 日本における社会保障制度を説明できる。 医療資源と医療サービスの価格形成を説明できる。 	医療ソーシャルワーカー
59	喘息アレルギー(4)	<ul style="list-style-type: none"> 喘息を主としたアレルギー性呼吸器疾患の病理学的・免疫学的機序の現状の理解と、それらを利用した治療応用の現状および可能性や問題点についての理解。 	免疫病理学
60	呼吸器核医学	<ul style="list-style-type: none"> 呼吸器疾患の核医学診断について説明できる 	放射線科
61	閉塞性拘束性疾患(2)	<ul style="list-style-type: none"> 肺気腫、および慢性気管支炎などの閉塞性肺疾患の病態生理、診断、および 	呼吸器・乳腺内分泌外科

62	閉塞性拘束性疾患(3)	び治療方法について理解できる。 ▪ 間質性肺炎やびまん性汎細気管支炎などの拘束性肺疾患の病態生理、 診断、および治療方法について理解できる。	泌外科
63	小児肺疾患外科療法	▪ 外科療法を要する小児の肺疾患を説明できる。	小児外科
64-68	自習	▪	
69 70	実習試験		腫瘍病理学
71-78	自習		
79 80	試験		呼吸器・乳腺内分泌外科

学習方法

系統講義に於いては講義前に教科書を読み疑問点をはっきりさせてから授業に臨むこと。自分で学習しそれを解決していく態度が必要である。

評価方法

総合試験の成績、病理実習評価、チュートリアル課題スライド発表とレポート評価をあわせて評価する。病理組織実習の修了認定を受けていないものまたはチュートリアル出席不足またはチュートリアルレポート未提出であるものは総合試験を受けることができない。

教科書及び参考文献

ユニット全体

呼吸器病学総合講座 メディカルビュー社

腫瘍病理学

1. エッセンシャル病理学第5版 医歯薬出版
2. 感染症病理アトラス 文光堂
3. 肺癌取扱規約 金原出版
4. 腫瘍鑑別診断アトラス 文光堂
5. 外科病理学 文光堂
6. Pathologic Basis of Disease, Ribbins, W. B Saunders Company
Atlas of tumor pathology (vol.13, vol.21), AFIP

分子微生物学

1. 戸田新細菌学 (改訂32版), 吉田眞一・柳 雄介, 南山堂

小児科学

1. Behrman, Kliegman, Jenson: Nelson Textbook of Pediatrics, WB Saunders Co, 2000.
2. Avery, Fletcher, McDonald: Neonatology Pathophysiology and management of the newborn, JB Lippincoff Co, 1994.
3. Feigin& Cherry: Textbook of Pediatric Infectious Disease. WB Saunders Co, 1998.
4. Chernick V & Kending EL: Kending's Disorders of the respiratory tract in children. WB Saunders Co, 1990.
5. 白木和夫、前川喜平：小児科学, 医学書院, 2002.
6. 小川雄之介, 多田裕, 中村肇, 仁志田博司：新生児学, メディカ出版, 2000.

麻酔学

1. 「集中治療医学」/日本集中治療医学会編集/秀潤社
2. 新版図説 ICU 呼吸管理編/沼田克雄編著/真興交易医書出版部

放射線科

1. 胸部単純X線診断 (秀潤社)
2. 胸部CT (秀潤社)
3. 胸部疾患のCT診断 (最新医学社)

呼吸器・乳腺内分泌外科学

1. 出月康夫：new 外科学, 南光堂
2. 人見滋樹：呼吸器外科手術の手技と方法, 金芳堂
3. 臨床呼吸器外科 第二版 医学書院
4. 呼吸器外科の実際 130の手術症例に学ぶ 金芳堂
5. 気管支鏡 臨床医のためのテクニックと画像診断 医学書院
6. 呼吸器外科学 南山堂

担当教員

教授 笥 善 行（泌尿器科学）	教授 横見瀬 裕 保（呼吸器・乳腺内分泌外科学）
教授 竹 内 義 喜（神経機能形態学）	教授 秦 利 之（周産期学婦人科学）
教授 阪 本 晴 彦（炎症病理学）	教授 伊 藤 進（小児科学 ディレクター）
教授 荒 木 伸 一（組織細胞生物学）	その他担当講座教員、 非常勤講師

授業概要

第7ユニットは生殖器（男性生殖器、乳房も含めた女性生殖器）系を対象領域とし、同時に妊娠と分娩、および胎児、新生児の成長と発達といった生理機構も含めた授業から構成されている。生殖器系は性分化にかかわる発生から始まり、マクロ、ミクロの構造と機能について充分理解したうえで先天異常を含め、男性、女性生殖器の各疾患の学習を進めていく。男性生殖器系では、精巣・精巣上体・前立腺・精嚢腺疾患等の病態生理、診断および治療について、また造精機能障害や勃起機能障害など男性不妊に関わる項目について機能面からも診断、治療について学習する。女性生殖器系では、臨床的な診察法、性器出血や無月経などの症候からの原因、病態生理、診断についての理解から始まり、子宮頸部、子宮体部、卵巣と女性生殖器全般の良性、悪性疾患を中心に病態生理、診断および治療について学習する。また不妊症についても原因、治療に加え最新の生殖医療技術についても学習する。また、女性生殖器には乳腺も含まれ、乳腺に関する疾患についても理解を進める。後半は妊娠、分娩の生理機構について正常妊娠経過、分娩経過について理解し、妊娠中の異常や様々な疾患の合併妊娠、分娩時異常について病態生理、管理について理解する。胎児、新生児の発達の項では、胎児期より、新生児期、乳児期、学童期、思春期へと成長・発達し成人となるヒトにおいて、常に成長・発達している小児期の疾患の病態生理や治療を理解するため、正常の成長・発達について十分な知識を必要とする。このことを踏まえ、正常の成長・発達、それを支える栄養や小児保健について授業を進める。本ユニットは男性、女性における生殖系の形態学、生理機構や病理について、また妊娠、出産といった特別な生体機構や胎児から新生児、小児の発達に至るまで幅広く理解を進めることが重要な学習課題である。これらの中からチュートリアルでも1つか2つの課題を設けていく予定であり、つねに積極的な姿勢で問題に取り組み、より理解を進めてもらいたい。

一般目標

1. 生殖系の構造と機能を理解し、生殖器疾患の診断と治療に関する知識を学ぶ。
2. 妊娠、分娩と産褥期の管理に必要な基礎知識とともに、母性保健、生殖医療のあり方を学ぶ。
3. 乳房の構造と内分泌依存性の機能を理解し、乳房疾患の診断と治療に関する知識を学ぶ
4. 胎児・新生児・乳幼児・学童期から思春期にかけての生理的成長・発達とその異常、特徴を学ぶ。また小児保健をはじめ社会的な問題について学ぶ。

行動目標

各授業で設定されている到達目標を参照する。

授業内容

回	項目	内容	担当者
1	構造と機能① 胎児・新生児	1) 生殖器の構造と機能について説明できる。 2) 胎児の発生・先天異常について説明できる。 3) 胎児循環、呼吸の生理的特徴と出生時の変化について説明できる。	神経機能形態学
2	胎児・新生児	用語の定義・適応生理 SG A 児などの在胎期間や出生体重等計測等の用語を説明できる。	小児科学
3		診察法 新生児の診察とその特徴的所見について説明できる。	
4		新生児仮死 新生児仮死の原因と病態について説明できる。	
5	小児期	小児の成長の特徴を説明できる。	
6	自主学習		
7	自主学習		
8	症候	女性生殖器 不正性器出血、乳汁漏出、膣分泌物異常、性交障害をきたす疾患について説明できる。	周産期学婦人科学
9	診断と検査	産婦人科の問診及び診察法 1) 女性患者の問診 2) 婦人科領域の診察法 3) 婦人科領域の検査法	周産期学婦人科学
10	自主学習		
11	診断と検査	婦人科疾患の診断	周産期学婦人科学
12		1) 子宮頸部・内膜の細胞診と組織診野所見が概説できる。 2) 腫瘍マーカーの測定値の意味を説明できる。 3) 骨盤内臓器、腫瘍の画像所見を概説できる。	
13	構造と機能②	1) 女性生殖器の発生・性分化、分化と解剖について説明できる。 2) 性周期発現と排卵の機序について説明できる。 3) 内外生殖器の先天異常を説明できる。	
14		1) 男性生殖器の発生、性分化と解剖について説明できる。 2) 内外生殖器の先天異常を説明できる。	組織細胞生物学
15	自主学習		
16	疾患	女性生殖器疾患	周産期学婦人科学
17		女性生殖器の悪性疾患の症候、診断と治療が概説できる。	
18		1)子宮頸部腫瘍	
19		2)子宮体部腫瘍 3)卵巣腫瘍 4)絨毛性疾患	
20	疾患	女性生殖器疾患 外陰部・膣疾患、膣と骨盤内感染症の症候、診断と治療が概説できる。	周産期学婦人科学
21	疾患	主な女性生殖器(子宮、卵巣)疾患の病因論と形態学について概説できる。	炎症病理学
22		講義・実習	
23			
24	診断と検査	1) 乳房腫瘍の画像診断(乳房撮影、超音波検査、CT)を概説できる。 2) 乳房腫瘍に対する細胞・組織診断法を概説できる。	呼吸器・乳腺内分泌外科学

25	疾患	1) 良性乳腺疾患の種類を列挙し診断・治療法を説明できる。 2) 乳癌の危険因子、症候、診断、治療と予後を説明できる。	呼吸器・乳腺内分泌外科学
26	疾患	女性生殖器(乳腺)疾患の病因論と形態学について概説できる。講義 男性生殖器疾患(陰茎、精巣)の病理について概説できる。講義・実習	炎症病理学
27			
28			
29	Tutorial	課題1	
30			
31	疾患	女性生殖器(乳腺)疾患の病因論と形態学について概説できる。講義 男性生殖器疾患(陰茎、精巣)の病理について概説できる。 講義・実習	炎症病理学
32			
33			
34			
35	胎児・新生児	新生児黄疸の鑑別と治療について説明できる。	小児科学
36	自主学習		
37	自主学習		
38	自主学習		
39	自主学習		
40	自主学習		
41	胎児・新生児	新生児呼吸障害の原因を列挙し説明できる。	小児科学
42	乳児	染色体異常症と先天奇形について説明できる。	
43		母子相互作用について説明できる。	
44	小児期	母乳と人工乳の違いを説明できる。	
45	更年期	更年期障害の機序と診療を説明できる。	周産期学婦人科学
46	疾患	主な男性生殖器(前立腺)疾患の病因論と形態学について概説できる。 講義・実習	炎症病理学
47			
48	小児期	新生児マススクリーニング法及び簡単な小児保健統計について説明できる。	小児科学
49	Tutorial	課題2	
50			
51	症候	男性生殖器 1) 造精機能障害、人工受精機能を理解する。 2) 勃起障害を概説できる。	泌尿器科学
52	自主学習		
53	小児期	乳幼児健診・育児相談について概説できる。	小児科学
54	疾患	男性生殖器 1) 精巣腫瘍の診断法・治療法を説明できる。 2) 陰嚢内腫瘤性病変の鑑別診断、停留精巣の診断法・治療法を説明できる。	泌尿器科学
55			
56	正常妊娠・ 分娩・産褥	1) 正常妊娠の診断、生理、経過について説明できる。 2) 胎児・胎盤系の機能、形態、検査法について説明できる。 3) 胎児出生前診断(超音波検査法)所見について概説できる。 4) 正常分娩の経過について概説できる。 5) 正常産褥経過について概説できる。	周産期学婦人科学
57			
58			
59	乳児発達	1) 乳幼児の生理機能の発達の特徴を説明できる。 2) 乳児の精神運動発達の異常を説明できる。 3) 乳幼児の保育・栄養法の基本を概説できる。	小児科学

60	小児期	小児の成長発達障害について説明できる。	小児科学
61	疾患	異常妊娠	周産期学婦人科学
62		1) 妊娠初期の異常の診断・治療を説明できる。	
63		2) 妊娠中・後期の異常の診断・治療を説明できる。 3) 多胎妊娠の診断・管理について説明できる。 4) 血液型不適合妊娠の診断・管理について説明できる。	
64	発表会		
65			
66	疾患	異常妊娠・産褥	周産期学婦人科学
67		1) 主な合併症妊娠の病態、管理および治療を説明できる。 2) 妊娠高血圧症候群の診断・管理を説明できる。 3) 産科感染症の診断と治療について説明できる。 4) 主な異常産褥の病態を説明できる。	
68	小児期	小児心身症の概説ができる。	小児科学
69	症候	男性生殖器	泌尿器科学
70		1)前立腺悪性疾患の診断法・治療法を説明できる。	
71	自主学習		
72	胎児・新生児	循環 新生児循環の特徴について説明できる。	小児科学
73	小児治療学	小児の治療法における薬理学的特徴を概説できる。	
74	疾患	不妊症の病態および治療について説明できる。	周産期学婦人科学
75			
76	疾患	異常分娩・産褥	周産期学婦人科学
77		1) 異常分娩の管理と処置について説明できる。	
78		2) 胎児機能不全の診断と処置について説明できる。	
79		3) 主な産科手術について概説できる。 4) 産科救急(ショック・DIC)の病態と治療を説明できる。	
80	自主学習		
81	自主学習		
82	自主学習		
83	自主学習		
84	自主学習		
85	自主学習		
86	自主学習		
87	自主学習		
88	自主学習		
89	自主学習		
90	自主学習		
91	自主学習		
92	自主学習		
93	自主学習		
94	試験	総合試験	
95			

評価方法

病理学等の実習の終了の認定を受けていない場合、総合試験受験資格はない。

チュートリアル課題レポートと本ユニット最終日に行う試験成績をあわせて評価する。

学習方法

各到達目標を理解するうえで効率良い方法を取る。授業および実習を中心に行う。

教科書及び参考文献

神経機能形態学

1. ラングマン人体発生学 トマス・W・サドラー著、安田峯生 訳, 医学書院
2. ムーア 臨床解剖学 第2版. 坂井健雄 訳, メディカルサイエンスインターナショナル

泌尿器科学

1. バットサイド泌尿器科学 診断・治療編 南江堂
2. NEW 泌尿器科学 南江堂
3. 標準泌尿器科学 医学書院
4. 日常診察のための泌尿器科診断学 インターメディカ炎症病理
5. コアカリ対応よくわかる病態生理 11 泌尿器疾患 日本医事新報社
6. EBM 泌尿器疾患の治療 中外医学社

炎症病理学

1. Pathologic basis of disease 8th ed. Robbins et al. Saunders
2. Color atlas and textbook of macropathology. Year Book Medical Publisher.
3. Color atlas and textbook of histopathology. Year Book Medical Publisher.
4. 新病理学総論 菊池浩吉編 南山堂
5. 新病理学各論 菊池浩吉編 南山堂

呼吸器・乳腺内分泌外科学

1. 乳癌手術アトラス 霞 富士雄 医学書院

小児科学

1. 小児科学 大関、近藤総編集、第3版 医学書院
2. 新生児学 小川、多田ら編集 メディカ出版
3. ネルソン小児科学 衛藤監修 原著第17版 エルゼビア・ジャパン

周産期学婦人科学

1. Novs' s Gynecology 13th ed. Beferk Lippincott williams and wilkins
2. Williams Obstetrics 21st ed. McgrawHill Medical Publising Division
3. 最新産科学 正常編、異常編 荒木勤 文光堂

統合講義（ユニット 8）

担当教員

教授	竹内 義喜	(神経機能形態学)	准教授	三木 崇範	(神経機能形態学)
教授	徳田 雅明	(細胞情報生理学)	准教授	山口 文徳	(細胞情報生理学)
教授	今井田 克己	(腫瘍病理学)	学内講師	横平 政直	(腫瘍病理学)
教授	窪田 泰夫	(皮膚科学)	准教授	米田 耕造	(皮膚科学)
助教	森上 純子	(皮膚科学)	助教	森上 徹也	(皮膚科学)
教授	田中 嘉雄	(形成外科学)	講師	宗内 巖	(形成外科学)
助教	小田 敦司	(形成外科学)	助教	木暮 鉄邦	(形成外科学)
助教	濱本 有祐	(形成外科学)			
教授	白神 史雄	(眼科学：ディレクター)	准教授	馬場 哲也	(眼科学)
講師	廣岡 一行	(眼科学)	学内講師	白神 千恵子	(眼科学)
助教	福田 恒輝	(眼科学)	助教	山下 彩奈	(眼科学)
教授	森 望	(耳鼻咽喉科学)	准教授	星川 広史	(耳鼻咽喉科学)
講師	唐木 将行	(耳鼻咽喉科学)	助教	大崎 康宏	(耳鼻咽喉科学)
助教	印藤 加奈子	(耳鼻咽喉科学)	助教	岸野 毅日人	(耳鼻咽喉科学)
助教	秋山 貢佐	(耳鼻咽喉科学)			
教授	松井 義郎	(歯科口腔外科学)	准教授	三宅 実	(歯科口腔外科学)
学内講師	大林 由美子	(歯科口腔外科学)	助教	小川 尊明	(歯科口腔外科学)
助教	岩崎 昭憲	(歯科口腔外科学)			
准教授	外山 芳弘	(放射線部)			

授業概要

第8ユニットでは、感覚器系に関連のある解剖学、生理学、病理学、皮膚科学、形成外科学、眼科学、耳鼻咽喉科学、口腔外科学などを統合して学習することにより、感覚系の正常と異常とを効率よく理解することを目標とする。感覚系の基礎として、感覚系の発生や構造、生理機能発現機構を系統的に理解する。皮膚科関連領域では、皮膚が内外環境の様々な刺激や感染を常に受け、また身体内部の機能異常が反映する臓器であることから、主要な皮膚疾患の病因と病態、検査と診断、治療ならびに内臓病変との関連を理解することが重要となる。形成外科学関連領域では、人体発生や解剖生理の知識を基礎に、身体表面に現れた先天的・後天的変形により生じる不利益を理解し、形態的・機能的回復を図るための治療方法について学習する。眼科関連領域では、一般の医師として必要な眼科学の知識と技能を修得することにある。眼はきわめて微細な構造をして精密な機能を有する器官であることを認識し、眼科固有の疾患および他臓器と関連する眼疾患を理解する。耳鼻咽喉科関連領域では、耳科学・鼻科学・咽喉頭科学および頭頸部外科学に関して、初期医療に必要な基礎的な知識の習得や診療技術を獲得することにある。歯科口腔外科関連領域では、食物摂取、咀嚼、味覚、発音など多くの機能に関与する口腔の構造および機能の把握により健康保持増進のための口腔の役割を理解したうえで主要疾患について学習する。

一般目標

皮膚系、眼・視覚系、耳鼻・咽喉・口腔系の構造と機能を理解し、主な疾患の病態生理、原因、症候、診断および治療について学ぶ。

行動目標

各授業にそれぞれ到達すべき目標を設定している。これらには、医学教育モデル・コアカリキュラムに掲げられた皮膚系、眼・視覚系、耳鼻・咽喉・口腔系で学習すべき到達目標が含まれている。皮膚系、眼・視覚系、耳鼻・咽喉・口腔系に関連する症候については医学教育モデル・コアカリキュラムの項（WEB シラバス）を参照する。

授業内容

回数	項目	達成目標	担当者
1	オリエンテーション	第8ユニットの統合講義の主旨を理解してもらう。	ディレクター
2	感覚系の構造と機能1	1) 感覚器の構造を、機能と結びつけて解剖学的に説明できる。 2) 感覚器の正常発生について説明できる。	神経機能形態学 (三木)
3	感覚系の構造と機能2	1) 刺激に対する感覚受容の種類と機序を説明できる。 2) 表在感覚と深部感覚の受容機序と伝導路を説明できる。 3) 痛覚のしくみを説明できる。	細胞情報生理学 (徳田)
4	皮膚の構造と機能	1) 皮膚の組織構造を図示して説明できる。 2) 皮膚の細胞動態と角化、メラニン形成の機構を説明できる。 3) 皮膚の免疫防御能を説明できる。 4) 皮脂分泌・発汗・経皮吸収を説明できる。	皮膚科(米田)
5	発疹学と皮膚科検査	1) 発疹の性状を診断し、記載する。原発疹と続発疹を区別する。 2) 皮膚検査法(硝子圧法、皮膚描記法、ニコルスキー現象、ツアング試験、皮脂測定法、生検法など)を概説できる。 3) 皮膚アレルギー検査法(ブリックテスト、皮内反応、パッチテスト)を説明できる。 4) 微生物検査法(検体採取法、苛性カリ検鏡法、細菌・真菌培養法)を概説できる。	皮膚科(窪田)
6	湿疹・皮膚炎群、薬疹・蕁麻疹	1) 湿疹反応を説明できる。 2) 湿疹・皮膚炎群の疾患(接触皮膚炎、アトピー性皮膚炎、脂漏性皮膚炎、貨幣状皮膚炎、皮脂欠乏性湿疹)を列挙し、概説できる。 3) 薬疹や薬物障害の発生機序、症候と治療を説明できる。 4) 蕁麻疹の病態、診断と治療を説明できる。	皮膚科(窪田)
7	乾癬と角化症	1) 尋常性乾癬、扁平苔癬とジベルばら色ひ糠疹の病態、症候と治療を説明できる。 2) 角化症の病態、症候と治療を説明できる。	皮膚科(米田)
8	紫斑と血管炎	1) 皮膚血流障害と紫斑、血管炎の原因、症候と病態を説明できる。	皮膚科(窪田)
9	水疱症と膿疱症	1) 自己免疫性水疱症の原因、病態と分類を説明できる。 2) 膿疱症の種類と病態を説明できる。 3) 水疱症鑑別のための検査法を説明できる。 4) 先天性表皮水疱症の種類と病態を説明できる。	皮膚科(米田)
10	皮膚癌とメラノーマ	1) 皮膚癌ならびに悪性黒色腫の病態、症候と治療法を説明できる。	皮膚科(沼原)
11	母斑、良性腫瘍と色素異常	1) 母斑・母斑症の種類を列挙できる。 2) 尋常性白斑の種類と病態を説明できる。 3) 皮膚良性腫瘍、前癌状態の種類と見分け方を説明できる。 4) 皮膚悪性リンパ腫、血管肉腫と組織球症を説明できる。	皮膚科(森上徹)
13	皮膚感染症(1)	1) 皮膚表在性と深在性真菌症の症候と病型、治療法を説明できる。 2) 皮膚ウイルス感染症の症候と病型、治療法を説明できる。	皮膚科(森上純)
13	皮膚感染症(2)	1) 皮膚細菌感染症(伝染性膿痂疹、せつ、よう、毛囊炎、丹毒、ぶどう球菌性熱傷様皮膚症候群)を列挙し、概説できる。 2) 皮膚結核、ハンセン病の症候、病型と原因菌を説明できる。 3) 梅毒の症候、病期と合併症を説明できる。	皮膚科(窪田)
14	皮膚附属器疾患と	1) 皮膚附属器疾患(脱毛症、ざ瘡)の病態、症候と治療法を説明できる。	皮膚科(白髭)

	肉芽腫	2) 肉芽腫性疾患の病態、症候を説明できる。	
15	膠原病／全身と皮膚	1) 皮膚所見からみた膠原病の診断と治療について説明できる。 2) 内科疾患と皮膚病変(デルマトローム)について説明できる。	皮膚科(窪田)
16	形成外科 基本的手技	1) 植皮について説明できる。 2) 皮弁について説明できる。 3) マイクロサージャリーについて説明できる。 4) その他形成外科の基本的手技について理解する。	形成外科(田中)
17	顔面の発生・顔面の先天異常	1) 鰓弓・鰓嚢の分化と頭・頸部と顔面・口腔の形成過程を概説できる。 2) 顔面の先天性疾患を列挙できる。 3) 形成外科で扱う主な顔面の先天性疾患を説明できる。	形成外科(小田)
18	組織の再生・創傷治癒	1) 組織の再生の機序を説明できる。 2) 組織の再生と創傷治癒について理解する。	形成外科(三好)
19	熱傷・瘢痕とケロイド	1) 熱傷面積(9の法則)と深達度から熱傷の重傷度を説明できる。 2) 熱傷の治療方針を概説できる。 3) 熱傷、瘢痕とケロイドについて理解する。	形成外科(木暮)
20	皮膚腫瘍・母斑・血管腫・頭頸部腫瘍切除後再建	1) 形成外科で扱う代表的な皮膚腫瘍の症候、診断と治療を説明できる。 2) 形成外科的再建法について概説できる。	形成外科(濱本)
21	顔面外傷・顔面骨折	1) 顔面外傷、顔面骨折の症候、診断と治療法を説明できる。	形成外科(田中)
22	四肢・体幹部・その他の形成外科	1) 四肢・体幹部における形成外科的疾患を列挙できる。 2) 形成外科で扱う主な四肢・体幹部疾患を説明できる。 3) その他形成外科的疾患について理解する。	形成外科(宗内)
23	美容外科	1) 美容外科について理解する。 2) 主な美容外科手技について概説できる。	形成外科(山本)
24	形成外科 PBL/Tu (課題1)		形成外科
25	自主学習		
26	感覚系の構造と機能3	1) 刺激に対する感覚受容の種類と機序を説明できる。 2) 視覚、聴覚・平衡覚、嗅覚、味覚の受容機序と伝導路を概説できる。	細胞情報生理学(徳田)
27	感覚系の構造と機能4	1) 刺激に対する感覚受容の種類と機序を説明できる。 2) 視覚、聴覚・平衡覚、嗅覚、味覚の受容機序と伝導路を概説できる。	細胞情報生理学(徳田)
28	眼科総論1	眼球と付属器の構造と機能を説明できる。	眼科(馬場)
29	形成外科 PBL/Tu (課題1)		形成外科
30	自主学習		
31	眼科総論2	眼球と付属器の構造と機能を説明できる。	眼科(馬場)
32	眼科総論3	対光反射、輻輳反射、角膜反射の機能について説明できる。	眼科(馬場)
33	眼科各論1	網膜疾患、黄斑疾患の症候、診断、治療ができる。	眼科(白神史)
34	皮膚の病理(実習)	1) 皮膚の組織構造を図示して説明できる。 2) 皮膚病理学的用語を列挙し、説明できる。	腫瘍病理(今井田・他)
35	皮膚の病理(実習)	3) 皮膚の母斑および腫瘍の代表的疾患を列挙し、その組織学的特徴を説明できる。	腫瘍病理(今井田・他)
36	皮膚の病理(実習)	1) 皮膚の組織構造を図示して説明できる。 2) 皮膚病理学的用語を列挙し、説明できる。	腫瘍病理(今井田・他)
37	皮膚の病理(実習)	1) 皮膚の組織構造を図示して説明できる。 2) 皮膚病理学的用語を列挙し、説明できる。	腫瘍病理(今井田・他)
38	皮膚の病理(実習)	3) 皮膚の母斑および腫瘍の代表的疾患を列挙し、その組織学的特徴を説明できる。	腫瘍病理(今井田・他)
39	皮膚の病理(実習)	3) 皮膚の母斑および腫瘍の代表的疾患を列挙し、その組織学的特徴を説明できる。	腫瘍病理(今井田・他)
40	皮膚の病理(実習)	3) 皮膚の母斑および腫瘍の代表的疾患を列挙し、その組織学的特徴を説明できる。	腫瘍病理(今井田・他)
41	皮膚の病理試験		腫瘍病理
42~43	自主学習		
44~	総括(課題1) 形成		

45	外科		
46	眼科各論2	糖尿病網膜症の症候、診断、治療ができる。	眼科(白神史)
47	眼科各論3	化学外傷の症候と救急処置を説明できる。	眼科(廣岡)
48	眼科各論4	全身疾患に合併する眼異常を列挙できる。	眼科(白神千)
49	眼科各論5	白内障の成因、症候、診断と治療を説明できる。	眼科(福田)
50	眼科各論6	緑内障の成因を列挙し、それらの発生機序、症候と治療を説明できる。	眼科(馬場)
51~ 55	自主学習		
56	皮膚科・形成外科試験		皮膚科・形成外科
57	眼科各論7	伝染性結膜疾患、角膜炎の症候、診断、治療を説明できる。	眼科(山下)
58	眼科各論8	ぶどう膜炎の原因疾患を列挙できる。	眼科(福田)
59	耳科領域 (機能と検査)1	1) 外耳・中耳・内耳の構造を図示できる。 2) 聴覚・平衡覚の受容のしくみと伝導路を説明できる。	耳鼻咽喉科(森)
60	耳科領域 (機能と検査)2	聴力検査を説明できる。	耳鼻咽喉科(森)
61	耳科領域 (機能と検査)3	平衡機能検査を説明できる。	耳鼻咽喉科(森)
62	中耳疾患 (診断と治療)	滲出性中耳炎、急性中耳炎と慢性中耳炎の原因、診断と治療を説明できる。	耳鼻咽喉科(森)
63	内耳疾患1 (診断と治療)	伝音難聴と感音難聴、迷路性と中枢性難聴を病態から鑑別し、治療を説明できる。	耳鼻咽喉科 (大崎)
64	内耳疾患2 (診断と治療)	末梢性顔面神経麻痺の原因、診断と治療を説明できる。	耳鼻咽喉科 (大崎)
65	鼻科領域 (機能と検査)	1) 鼻腔・副鼻腔の構造を図示できる。 2) 嗅覚の受容のしくみと伝導路を説明できる。 3) 嗅覚検査を説明できる。	耳鼻咽喉科 (唐木)
66	鼻・副鼻腔疾患 (診断と治療)	1) 鼻出血の好発部位と止血法を説明できる。 2) 副鼻腔炎の病態と治療を説明できる。	耳鼻咽喉科 (唐木)
67	咽喉頭領域 (形態・機能と検査)	1) 口腔・咽頭・喉頭の構造を図示できる。 2) 喉頭の機能と神経支配を説明できる。 3) 味覚の受容のしくみと伝導路を説明できる。	耳鼻咽喉科 (印藤)
68	咽喉頭疾患 (診断と治療)	1) 扁桃の炎症性疾患の病態と治療を説明できる。 2) 気管切開の適応を説明できる。	耳鼻咽喉科 (秋山)
69	頭頸部領域 (形態・機能と検査)	喉頭癌の症候、診断と治療を説明できる。	耳鼻咽喉科 (岸野)
70	免疫アレルギー疾患	1) アレルギー性鼻炎の発症機構を説明できる。	耳鼻咽喉科 (非常勤講師)
71	耳鼻科 PBL/Tu (課題2)		耳鼻咽喉科
72	自主学習		耳鼻咽喉科
73	頭頸部腫瘍1 (診断と治療)	鼻腔・副鼻腔、口腔の悪性腫瘍の症候、診断と治療を説明できる。	耳鼻咽喉科 (星川)
74	頭頸部腫瘍2 (診断と治療)	1) 咽頭の悪性腫瘍の症候、診断と治療を説明できる。 2) 唾液腺疾患を列挙できる。	耳鼻咽喉科 (星川)
75	言語障害・構音障害	1) 言語障害と構音障害の違いを説明できる。 2) 障害に対する訓練や治療法を説明できる。	耳鼻咽喉科 (印藤)
76	耳鼻科 PBL/Tu (課題2)		耳鼻咽喉科
77	自主学習		
78	頭頸部の診察	1) 耳(外耳道、鼓膜、聴力)の診察ができる。 2) 口腔、鼻腔の診察ができる。 3) 甲状腺を含めた頸部の診察ができる。	耳鼻咽喉科 (森・星川)
79	頭頸部の画像診断1	1) 頭頸部領域の画像診断法を説明できる。 2) 眼窩・外耳・中耳・内耳・口腔・鼻腔・咽頭・喉頭の構造を図示できる。	放射線科(外山)

80	頭頸部の画像診断2	1) 外耳・中耳・内耳の構造を図示できる。 2) 口腔・鼻腔・咽頭・喉頭の構造を図示できる。 3) 画像から解剖学的構造物の説明ができる。	耳鼻咽喉科(森)
81~ 83	自主学習		
84~ 85	総括(課題2)		
86	頭頸部腫瘍の病理(講義)	1) 頭頸部領域に発生する腫瘍を列記できる。	腫瘍病理(今井田・他)
87	頭頸部腫瘍の病理(講義)	2) 部位別に特徴ある腫瘍を説明できる。	腫瘍病理(今井田・他)
88	頭頸部腫瘍の病理(実習)	1) 聴器及び鼻咽腔に発生する腫瘍を列記できる。 2) 部位別に特徴ある腫瘍を説明できる。 3) 臨床的な特徴と病理学的な特徴を併せて説明できる。	腫瘍病理(今井田・他)
89	頭頸部腫瘍の病理(実習)	1) 視器及び口腔領域に発生する腫瘍を列記できる。 2) 部位別に特徴ある腫瘍を説明できる。 3) 臨床的な特徴と病理学的な特徴を併せて説明できる。	腫瘍病理(今井田・他)、
90	自主学習		
91	頭頸部の病理試験		腫瘍病理
92	自主学習		
93	歯学概論・歯の発生・う蝕症	1) 医学における歯科医学の関連を説明できる。 2) 歯の発生、歯の発育異常、硬組織疾患について概説できる。	歯科口腔外科(松井)
94	咀嚼障害・嚥下障害1	1) 咀嚼障害や嚥下障害の成因を説明できる。 2) 歯科口腔外科領域の咀嚼障害や嚥下障害を説明できる。	歯科口腔外科(小川)
95	咀嚼障害・嚥下障害2	1) 耳鼻科領域の咀嚼障害や嚥下障害を説明できる。	耳鼻咽喉科(印藤)
96	歯周疾患と口腔清掃	歯周疾患の原因と治療について概説できる。	歯科口腔外科(大林)
97	良性腫瘍	歯源性腫瘍および非歯源性腫瘍について発生、分類、治療法の概要を説明できる。	歯科口腔外科(松井、三宅)
98	外傷・顎関節・顎変形症	歯の外傷・顎骨骨折、顎関節症を説明できる。歯列不正・顎骨の発育異常について説明できる。	歯科口腔外科(松井)
99	口腔内診査	口腔内の諸器官、歯列について診査を行い、その状態や異常を把握できる。	歯科口腔外科(小川、岩崎)
100	病院歯科における口腔外科臨床	地域の病院における口腔外科的疾患の治療の役割と現状を説明できる。	歯科口腔外科(非常勤講師)
101	歯性炎症	歯性炎症の経過を説明できる。顎骨骨膜炎と顎骨骨髓炎を鑑別し、治療法を説明できる。	歯科口腔外科(大林)
102	神経疾患・唾液腺疾患・嚢胞	顔面神経麻痺・三叉神経痛の特徴を説明できる。唾液腺疾患、歯源性嚢胞の種類を説明できる。	歯科口腔外科(三宅・大林)
103	粘膜疾患・悪性腫瘍	口腔粘膜疾患についてその特徴や頻度、治療の概要が説明できる。口腔悪性腫瘍の発生や組織型、治療法を説明できる。	歯科口腔外科(松井、三宅)
104~ 116	自主学習		
117~ 118	総合評価試験		耳鼻咽喉科/歯科口腔外科/眼科/神経機能形態学/細胞情報生理学/放射線科

学習方法

各科の講義において配布するプリントや症例等の提示、マルチメディアによる情報提示等により学習をする。実習においてはこの他に実技実習やプレパラート観察等での学習を行う。特に皮膚科ではスライドによる皮膚疾患の臨床像の提示が多いので注目してほしい。多くの疾患が限られた時間に紹介される。各科とも予習が重要である。

評価方法

チュートリアルにおいては、発表会を重視する。ただしチュートリアル課題に関して、レポートが未提出あるいは評定が否である者、病理組織実習の修了認定を受けていない者は総合試験受験資格を与えられない。総合試験は、(1) 皮膚科／形成外科、(2) 眼科／耳鼻咽喉科／歯科口腔外科／神経機能形態学／細胞情報生理学、(3) 腫瘍病理学（実習）に分けて行う。再試験は全科で実施する。各科目および全体を通じて3分の2の出席が必要である。

教科書及び参考文献

【神経機能形態学】

1. ムアー臨床解剖学 第2版 坂井建雄訳 メディカル・サイエンス・インターナショナル
2. 解剖学講義 伊藤 隆著 南山堂
3. Human Embryology & Teratology, O'rahilly R and Muller F, Wiley-Liss

【細胞情報生理学】

1. 標準生理学 本郷他編 医学書院
2. Physiology Berne & Levy Mosby
3. 新生理学 関田, 内藤編 医学書院
4. Molecular Biology of the Cell Alberts et al. Garland
5. Review of Medical Physiology Ganong 丸善出版
6. 脳の分子生物学 Zach W. Hall メディカル・サイエンス・インターナショナル

【腫瘍病理学】

1. ロビンス基礎病理学 廣川書店
2. 標準病理学 医学書院
3. Lever's Histopathology of the Skin (8th edition)

【皮膚科】

1. 池田重雄 他 編集 標準皮膚科学 医学書院 (6版)
2. Rook, Wilkinson & Ebling Textbook of Dermatology (sixth edition)
3. Fitzpatrick, et al Dermatology in General Medicine (third edition)
4. Elder, et al "Lever's Histopathology of the Skin" (eighth edition)

【形成外科】

1. 形成外科学教科書 藤野豊美, 波利井清紀, 田嶋定夫編著 南山堂
2. 形成外科手術書 鬼塚卓弥著 南山堂
3. 標準形成外科 鬼塚卓弥, 福田修編著 医学書院
4. Plastic Surgery William C. Grabb, James W. Smith Little, Brown and Comp.
5. TEXT 形成外科学 第2版 南山堂

【眼科】

1. 現代の眼科 所敬・金井淳編集 金原出版
2. 標準眼科 大野重昭・澤充・木下茂編集 医学書院

【耳鼻咽喉科】

1. 切替一郎他. 新耳鼻咽喉科学. 第10版, 東京, 南山堂, 2004年, 764ページ, 978-4-525-37020-6
2. 喜多村健、森山寛. NEW 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学. 改訂第2版, 東京, 南江堂, 2007年, 326ページ, 978-4-524-23999-3
3. 森満保. イラスト耳鼻咽喉科. 第3版, 東京, 文光堂, 2004年, 978-4-8306-3327-0
4. 八木聡明他. 新図説耳鼻咽喉科・頭頸部外科講座. 第1巻～第5巻, 東京, メディカル・ビュー社, 2000年～2001年, 978-4-89553-848-0 他
5. 洲崎春海他. SUCCESS 耳鼻咽喉科. 第1版, 東京, 金原出版, 2007年, 232ページ, 978-4-307-37085-1
6. Kerr, Alan G. Scott-Brown's Otolaryngology. Sixth Edition, Butterworth Heinemann Medical, 9780750619356

【歯科口腔外科】

1. 簡明口腔外科学、内田安信編、医歯薬出版、東京
2. 臨床口腔外科学 鈴木貢、浜田驍編、金原出版、京都
3. 標準口腔外科学、高橋庄二郎、他編、医学書院、東京
4. 口腔外科学 [小教科書シリーズ]、小野尊睦著、金芳堂
5. Textbook of Oral and Maxillofacial Surgery 、Kruger, G.O., Mosby Co.

【放射線医学】

1. 頭頸部のCT、MR 多田・黒崎編 メディカル・サイエンス・インターナショナル
2. 頭頸部臨床画像診断学 尾尻博也著 南江堂

オフィスアワー

【神経機能形態学】 三木崇範：あらかじめメール等でアポイントを取ればいつでも対応

mikit@med.kagawa-u.ac.jp

【細胞情報生理学】 徳田雅明：あらかじめメール等でアポイントを取ればいつでも対応

tokuda@med.kagawa-u.ac.jp

【腫瘍病理学】 あらかじめメール等でアポイントを取ればいつでも対応

ichibyou@med.kagawa-u.ac.jp

【皮膚科】 あらかじめ担当各教員にアポイントをとれば、ユニット期間以外でもいつでも対応は可能

(内線2665)

【形成外科学】 相談のある学生は各教員にアポイントを取って、日時を決定 (内線2811)

【眼科】 広岡一行：全学期月曜日(17:00~18:00)

【耳鼻咽喉科】 相談のある学生は各教員にアポイントを取って、日時を決定

【歯科口腔外科】三宅 実:dentmm@med.kagawa-u.ac.jp 大林由美子:yumiko@med.kagawa-u.ac.jp

(メールでアポイントをお願いします。いつでも対応可能です。)

【放射線科】 相談のある学生は各教員にアポイントを取って、日時を決定

臨床總論講義

3年次生 III - 52 参照

シラバス

5 年 次 生

児童精神医学Ⅱ ー 家族療法・薬物療法を中心に

臨床病理検討会

医療管理学・診断学

児童精神医学Ⅱ－家族療法・薬物療法を中心に

担当教員

教 授 石 川 元 (児童・思春期医学講座/子どもと家族・こころの診療部)

授業概要

児童・思春期医学講座が担当する講義は、2004年10月からの附属病院における、精神神経科・小児科とは独立した「子どもと家族・こころの診療部」設立に伴い、児童精神医学Ⅰ・Ⅱとして開講され、5年次は実際の臨床での応用段階を学習する、児童精神医学Ⅱである。

一般目標

個人に施行される心理・行動測定(WISCⅢ知能テスト・各種行動評価スケール、が中心)や家族全体を対象とした家族システム医学の見方・考え方に加え、脳・行動精神薬理学の進歩や外資系製薬会社の参入により、近年富に重視されている子ども特に発達障害を抱える児童・生徒への薬物療法のハウツーを修得する。

行動目標

講座や演習(ビデオ再生、実演化)によって用語や概念を体験として理解した上で、適時投与される、講義内レポートと小テストによって知識を整理する。レポートでは、オリジナルな表現に溢れた論の展開を要求される。

学習方法

講義内にすべてを終わらせるという姿勢でともかく出席すること。

評価方法

出席および提出されたレポートにみられる理解度と独創性、講義内小テストの点数で評価する。

教科書及び参考文献

石川元. 家族と治療する. 未来社, 1990

石川元. ADHD薬物療法の新時代. 至文堂, 2010, (現代のエスプリ, 513).

Cheng, Keith et al. Child and adolescent psychiatry. 2nd ed., Lippincott Williams & Wilkins, 2011.

臨床病理検討会

担当教員

病理学講座

教授	今井田 克己	学内講師	横 平 政 直
教授	阪 本 晴 彦	助 教	井 上 達 史
教授	平 島 光 臣	准教授	上 野 正 樹
准教授	羽 場 礼 次 (病理部)	助 教	田 中 澄 子

臨床講座

教授	松 永 卓 也	学内講師	大 川 総 一
		助 教	仁 木 敏 朗
		講 師	串 田 吉 生 (病理部)
		助 教	林 俊 哲 (病理部)
		非常勤講師	竿 尾 光 祐

授業概要

主として6年生（一部で5・6年合同）を対象として必修科目として設けられている授業科目である。

医学部全体の講義としての性格を有するものであるが、学生の臨床教育とともに病理解剖診断が最終結論として提示される関係上、病理が主体となって実施する。

剖検症例を中心にして前もって臨床経過、検査結果等を含む資料を学生に配布しておき、当日は病理担当医、主治医、特別助言者等よりなる教官と約10人の当番を中心とした学生とが質疑応答を行う。臨床面ではカルテの記述理解、検査成績の分析、診断に至る思考過程、鑑別診断等について学生の習熟を図る。病理側からは剖検時の肉眼所見、病変の組織学的所見および最終的な病理解剖診断を提示する。これらを踏まえて生前の診断推定が正しかったかどうか、治療の適否と効果、副作用、気付かなかった病変の有無等を討論し検討する。

一般目標

各種の疾患の実態を病理解剖された症例について臨床所見、解剖所見を通じて学び、疾患を総合的に把握する。

行動目標

1. 臨床所見より考えられる診断を列挙する。
2. 臨床所見、考えられる診断より当該症例における疑問点を説明する。

3. 病理解剖所見を説明する。
4. 病理解剖所見より、臨床上の疑問点に解答をする。

授業内容

回	大項目	項目	内容	担当者
1			剖検症例の検討	腫瘍病理学
2			〃	炎症病理学
3			〃	病理部
4			〃	腫瘍病理学
5			〃	炎症病理学
6			〃	免疫病理学
7			〃	腫瘍病理学
8			〃	炎症病理学
9			〃	病理部
10			〃	腫瘍病理学
11			〃	炎症病理学
12			〃	免疫病理学

評価方法

2 / 3以上の出席を必要とし、必要に応じてペーパーテストを実施する。

オフィスアワー

随 時

医療管理学・診断学

担当教員

教授	平尾智広	(公衆衛生学)
教授	千田彰一	(総合診療部)
教授	横井英人	(医療情報部)
教授	村尾孝児	(先端医療・臨床検査医学)
教授	岡田宏基	(医学教育学)
准教授	藤田準	(先端医療・臨床検査医学)
病院准教授	舛形尚	(総合診療部)
講師	樋本尚志	(総合診療部)
非常勤講師	中島弘	(大阪府立成人病センター特別研究員)

授業概要

<電子カルテ使用方法の習得>

学生用電子カルテの使用方法について概説し、以後の実習において、各自がそれを利用できるように準備をします。

<医療管理学>

医療管理学は、医療システムとそのマネジメントに関する応用科学で、臨床医学、社会医学、政策工学、経営学などを含んだ学際的領域を形成しています。21世紀初頭から続く国家的構造変革のなか、限られた資源で最高の医療が求められており、国民の多くが何らかの慢性疾病を抱える高齢社会では、従来のシステムではうまく機能しなくなっています。また臨床の現場では、医療の質に対する国民的関心に答えるべく様々な活動やシステム変革が展開されており、個々の医療従事者が身につけるべきコンピテンシー（患者中心の医療サービスの提供、EBMに準拠した診療、質改善技術、情報関連技術、他職種とチームとして協働）の重要性が指摘されています。本講ではこのような問題に対応するための理論と具体的方法論について学習を行います。

授業は講義を中心に行い、グループワークを織り交ぜる予定です。その内容は、EBMの考え方や実践、医療安全対策、院内感染対策、慢性疾患管理、および医療倫理、からなり、将来医師になる者に必要な知識、技術、態度を習得します。

<診断学>

4年生までの総まとめとしてCBTを受験し、それに合格すると5年次に進級できることとなりますが、その時点では、それまでに身につけた医学的知識はまだ断片的で、主訴から医療面接を経て鑑別診断に至る過程が十分にトレーニングされているとは言えません。統合講義では、チュートリアルとして、ユニット内の課題については診断トレーニングを行います。複数のユニットにまたがるような課題には対応できていません。そこで、診断学としては、特にユニット横断的な愁訴に焦点を合わせた診断実習を行う予定です。診断学実習は、臨床実習の2週目に隔週に行い、実習での小グループ単位が各回代表として担当教員とPBL形式でやりとりして診断に至る演習を行う予定です。

一般目標

<医療管理学>

良質の医療を実践するために、患者安全、医療の標準化の方法を理解し、適切な問題対応能力の基礎を身につける。

<診断学>

患者の愁訴に応じて、適切な医療面接ができ、必要な検査を選択し、それらを総合して正しい診断に至る能力を習得する。

行動目標

- (1) 学生用電子カルテを使うことができる。
- (2) EBMに準拠した思考・行動ができる。
- (3) 患者安全の基礎と実際について説明できる
- (4) 院内感染対策について説明できる。
- (5) 特に生活習慣病における患者管理の方法について説明できる。
- (6) 現代の医療に求められている医療倫理について概説し、それに対して自分の考えを述べる
ことができる。
- (7) 愁訴から適切な診断過程を構築し、正しい診断に至ることができる。

授業内容

回	大項目	項目	内容	担当者
1	電子カルテ説明		学生用電子カルテについての概説	横井
2	医療管理学	問題対応能力	EBMの考え方、問題の定式化、情報収集	平尾
3		同上	EBM実習	平尾
4		医療安全	医療安全概説	平尾
5		同上	医療安全実習	平尾
6		院内感染対策	院内感染対策の実際	藤田
7		慢性疾患管理1	患者管理とは、循環器系・消化器系疾患の管理	岡田、舩形、樋本
9	慢性疾患管理2	代謝・内分泌疾患の管理	村尾	
8	医療倫理	現代医療に求められる医療倫理；具体例を通じて	中島	
10	診断学	診断学総論	診断学についての基本的考え方、学び方	千田・岡田
11		臨床推論入門	臨床推論とは何か、診断にどう活かすか	岡田・舩形
12～22		診断学実習1～11	症例に基づいた診断学実習（学生代表によるPBL形式）	担当教員

評価方法

1. 授業参加の程度
2. 講義、実習時のレポート
3. PBL への参加状況
4. 上記を総合して可否の判定を行います。

学習方法

講義内容、配布資料を中心に学習を行います。これまでに習得した臨床医学や社会医学の知識、経験を活用し、医療の現場で役に立つ知識や手法を身につけてください。また受講にあたっては推薦参考書やインターネットを利用した予習、復習が強く望まれます。

教科書及び参考文献

人は誰でも間違える 日本評論社 米国医療の質委員会 他著
医療の質—谷間を越えて21世紀システムへ 日本評論社 米国医療の質委員会著
医療事故—なぜ起こるのか、どうすれば防げるのか 朝日新聞社 山内桂子・山内隆久著
EBMの道具箱 EBMライブラリー 中山書店 ダグラス・バデノック著
内科診断学 金芳堂 吉利 和、黒川 清ら編著
内科診断学 医学書院 福井次矢著

オフィスアワー

随 時

シラバス

6 年 次 生

臨床病理検討会（5年次生シラバス参照）

医療総合講義

医 療 総 合 講 義

担当教員

本学教員，特別講演講師，非常勤講師

授業概要

臨床医学における各専門分野の進歩に伴い，専門領域が分化する一方で，臨床各科にまたがる学際的領域の統合，集学的治療の必要性が指摘されている。また，新しい技術開発，新たな疾患の発見等により登場する臨床各科に関連する課題に対しても，医学教育は迅速に対応する必要がある。

専門分化により生ずる医学教育上の谷間を埋め，再統合による疾患に対する総合的視野を広めるとともに，up - to - date なトピックスへも十分に対応できる授業科目として，医療総合講義を実施する。

授業内容

[1学期]

月 日(曜日)	時限	講 義 項 目	テ ー マ	責任講座	協力講座
7月5日(火)	I	人工臓器	人工関節	整形外科学	眼科学、耳鼻咽喉科学、心臓血管外科学
7月5日(火)	II	人工臓器	人工関節	整形外科学	眼科学、耳鼻咽喉科学、心臓血管外科学
7月6日(水)	II	免疫と肝疾患	自己免疫性肝炎およびその周辺疾患	消化器・神経内科	
7月7日(木)	I	頭部画像診断	中枢神経系におけるPET検査の役割	脳神経外科学	医用物理学
7月7日(木)	II	臓器移植	心臓移植・肺移植	呼吸器・乳腺内分泌外科学	心臓血管外科学
7月7日(木)	III	画像診断	婦人科腫瘍の画像診断	周産期学婦人科学	
7月8日(金)	I	心不全の治療	1)急性心不全の治療 2)重症心不全の内科治療 3)重症心不全の外科治療	循環器・腎臓・脳卒中内科学	麻酔学、心臓血管外科学
7月8日(金)	II	俊英を育てる卒後研修とは	エール・千葉大・東大・故郷山梨 40年の経験から	消化器・神経内科学	
7月11日(月)	I	血液製剤の使い方	血液製剤の適正使用と安全管理	輸血部	
7月11日(月)	II	組織移植	マイクロサージャリー	形成外科学	整形外科学
7月12日(火)	I	臓器移植	造血幹細胞移植	内分泌代謝・血液・免疫・呼吸器内科学	小児科、輸血部
7月12日(火)	II	ショックと肝の治療	急性肝不全	消化器・神経内科学	消化器外科学
7月12日(火)	III	糖尿病	生活習慣病の臨床	先端医療・臨床検査医学	内分泌代謝・血液・免疫・呼吸器内科学、呼吸器・乳腺内分泌外科学
7月13日(水)	II	救急医療実習	病院前外傷対応シミュレーション	救急災害医学	
7月14日(木)	I	臨床薬理学	総論 薬物投与設計	小児科学	
7月14日(木)	II	Interventional Radiology	IVR の実際	放射線医学	
7月15日(金)	I	臨床薬理学	小児への薬物投与	小児科学	
7月15日(金)	II	医事紛争	医師になる前に知っておくべき法律问题	歯科口腔外科学	

[2学期]

月 日 (曜日)	時限	講義項目	テーマ	責任講座	協力講座
8月30日(火)	I		ネットワークシステムによって地域医療はこう変わる	医療情報部	
8月31日(水)	II	臓器移植	肝臓移植・膵臓移植	消化器外科学	
9月1日(木)	II	救急治療処置	熱傷治療	形成外科学	
9月2日(金)	I	放射線診断核医学	分子イメージング	放射線医学(特別講義)	
9月2日(金)	II	臓器移植	腎移植と臓器提供	泌尿器科学	循環器・腎臓・脳卒中内科学
9月7日(水)	I	呼吸器・胸壁	肺癌の遺伝子・診断治療	呼吸器・乳腺内分泌外科学	内分泌代謝・血液・免疫・呼吸器内科学、放射線科
9月7日(水)	II	災害医療実習	災害机上トリアージシミュレーション	救急災害医学	
9月8日(木)	I		グリア細胞の多様性とその産生機序の解明	消化器・神経内科学	
9月8日(木)	II	感染対策	院内感染・外科的感染症	手術部	検査部
9月9日(金)	I	臨床薬理学	女性と漢方	周産期学婦人科学	
9月9日(金)	II	血液浄化療法	血液浄化療法	循環器・腎臓・脳卒中内科学	麻酔学、泌尿器科学
9月9日(金)	III	医療とは？	消化器内科の医の現場から	消化器・神経内科学	
9月12日(月)	II	新生児外科	新生児の手術と管理	小児外科学	兵庫県立こども病院外科
9月13日(火)	III	甲状腺	甲状腺疾患の臨床	先端医療・臨床検査医学	呼吸器・乳腺内分泌外科学
9月14日(水)	II	安全管理(1)	手術室をめぐる安全管理	手術部	
9月15日(木)	I	消化管・腸壁・腹膜	消化管出血	消化器・神経内科学	手術部(消化器外科)
9月15日(木)	II	安全管理(2)	医療機器と安全管理	手術部	MEセンター
9月16日(金)	I	病理診断学	細胞診断の有用性	病理部	
9月16日(金)	II	病理診断学	術中迅速診断の有用性	病理部	
9月16日(金)	III	理学療法とリハビリテーション	リハビリテーションの実際	内分泌代謝・血液・免疫・呼吸器内科学	整形外科

評価方法

講義出席状況および6年次2学期末に実施する卒業試験による。

企画・運営

学務委員会 臨床系部会世話人

臨床病理検討会

5年次生 V - 2 参照

講義・実習時間割表

平成23年度 講義・実習時間割 1年次生

1学期

	I	II	III	IV	V
	8:50~10:20	10:30~12:00	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
4月6日 水	9:00~9:50 情報が「イガ」イグンス(看護棟2Fマルチ「イ7実習室) 9:50~10:00 教養ゼミナル用紙回収 10:30~11:00 医学部分館が「イグンス(大A)			定期健康診断	
4月13日 水	教養ゼミナル 大D,小D,小E,研7,301,303	医学概論 I 大D 医の倫理 (阪本晴彦 医学部長)	早期体験学習 附属病院見学 集合大D 救急救命蘇生法体験 集合大D(看護学科棟603地域・精神看護学実習室)		
4月20日 水	教養ゼミナル 大D,小D,小E,研7,301,303	医学概論 I 臨2 チーム医療 (千田彰一 病院長)	早期体験学習 附属病院見学 集合大D 救急救命蘇生法体験 集合大D(看護学科棟603地域・精神看護学実習室)		
4月27日 水	教養ゼミナル 大D,小D,小E,研7,301,303	医学概論 I 臨2 医療従事者に求められるもの (阪井真利子 看護部長)	早期体験学習 予備		
5月4日 水	みどりの日				
5月11日 水	教養ゼミナル 大D,小D,小E,研7,301,303	医学概論 I 臨2 乱用薬物の基礎知識 (芳地一 薬剤部長)	早期体験学習(臨床入門)1 大D 肺が今、危険にさらされている (呼吸器・乳腺内分泌外科学 石川真也)	チュートリアル チュートリアル オリエンテーション	医学概論 II プレゼンテーション の方法
5月18日 水	教養ゼミナル 大D,小D,小E,研7,301,303	医学概論 I 臨2 医学部生に対する感染防止対策 (久郷敏明 保健管理センター分室准教授)	早期体験学習(臨床入門)2 大D 心臓手術 (心臓血管外科学 堀井泰浩)	チュートリアル 課題1-1	チュートリアル室1~14
5月25日 水	教養ゼミナル 大D,小D,小E,研7,301,303	医学概論 I 大D 医学思想史から見た死生学 (波多江種宣(非常勤講師))	早期体験学習(臨床入門)3 大D 災害と救急 (救急災害医学 黒田泰弘)	チュートリアル 課題1-2	チュートリアル室1~14
6月1日 水	教養ゼミナル 大D,小D,小E,研7,301,303	医学概論 I 大D 国際化する医学教育 - 香川大学の現状と展開 (徳田雅明 細胞情報学教授)	早期体験学習(臨床入門)4 大D 新しい外科医たちへ (消化器外科学 岡野圭一)	チュートリアル 課題1-3	チュートリアル室1~14
6月8日 水	教養ゼミナル 大D,小D,小E,研7,301,303	医学概論 I 大D 医師としての生涯設計 (松原修司 卒後研修センター講師)	早期体験学習(臨床入門)5 大D 手術で治る脳の病気 (脳神経外科学 田宮隆)	チュートリアル 自主学習	チュートリアル室1~14
6月15日 水	教養ゼミナル 大D,小D,小E,研7,301,303	医学概論 I 大D ITと医療 (横井英人 医療情報部長)	早期体験学習(臨床入門)6 大D 患者さんの体にやさしい泌尿器科手術 (泌尿器科学 加藤琢磨)	チュートリアル 課題1 発表会	大D
6月22日 水	教養ゼミナル 大D,小D,小E,研7,301,303	早期体験学習(臨床入門)7 大D 難聴とめまい (耳鼻咽喉科学 森望)	医学概論 I 大D 医療と地域社会 (岩井敏恭(非常勤講師))	チュートリアル 課題2-1	チュートリアル室1~14
6月29日 水	教養ゼミナル 大D,小D,小E,研7,301,303	医学概論 II 大D インフォームドコンセント[前半10:30~] (消化器外科学 鈴木康之教授) 薬害[後半11:15~] (芳地一 薬剤部長)	早期体験学習(臨床入門)8 大D 未熟児・新生児医療の最前線 (小児科学 磯部健一)	チュートリアル 課題2-2	チュートリアル室1~14
7月6日 水	教養ゼミナル 大D,小D,小E,研7,301,303	医学概論 II 大D 安楽死と尊厳死[前半10:30~] (法医学 木下博之教授) 院内感染[後半11:15~] (内分泌・血液・免疫・呼吸器内科学 大西安明講師)	早期体験学習(臨床入門)9 大D 手術で治すこどもの病気 (小児外科学 野田卓男)	チュートリアル 課題2-3	チュートリアル室1~14
7月13日 水	教養ゼミナル 大D,小D,小E,研7,301,303	医学概論 II 大D 脳死と臓器移植 [前半10:30~] (呼吸器・乳腺内分泌外科学 横見瀬裕保教授) 重篤な疾患を持つ新生児の医療 [後半11:15~] (小児科学 伊藤進教授)	早期体験学習(臨床入門)10 大D 骨折 (整形外科 山上佳樹)	チュートリアル 自主学習	チュートリアル室1~14
7月20日 水	教養ゼミナル 大D,小D,小E,研7,301,303	医学概論 II 大D 遺伝子治療[前半10:30~] (泌尿器科学 寛善行教授) 院内暴力[後半11:15~] (基礎看護学 名越民江教授)	早期体験学習(臨床入門)11 大D 予備	チュートリアル 課題2 発表会	大D
7月27日 水	教養ゼミナル 大D,小D,小E,研7,301,303	医学概論 II 大D 医療事故[前半10:30~] (循環器・腎臓・脳卒中内科学 河野雅和教授) 再生医療[後半11:15~] (皮膚科学 窪田泰夫教授)	早期体験学習(臨床入門)12 大D 予備		

2 学期

	I	II	III	IV	V
	8:50~10:20	10:30~12:00	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
10月5日 水	21世紀の社会・環境と医学・医療 オリエンテーション 岡田	医学・医療 身体を知らう1 住谷	医用統計学 統計学 確率分布	情報科学実習 情報科学概説	
10月12日 水	21世紀の社会・環境と医学・医療 病気を知らう1 岡田	医学・医療 身体を知らう2 住谷	医用統計学 統計学 確率分布	情報科学実習 パソコンの基本操作	
10月19日 水	21世紀の社会・環境と医学・医療 病気を知らう2 岡田	医学・医療 希少糖と医療 徳田	医用統計学 統計学 確率分布	情報科学実習 ウェブ	
10月26日 水	21世紀の社会・環境と保健医療福祉 小児医療 磯部	情報科学実習 メール	医用統計学 統計学 確率分布	21世紀の社会・環境と保健医療福祉 自然界の生物と病気との関わり 村主	
11月2日 水	21世紀の社会・環境と医学・医療 高齢者医療 山神	医学・医療 緩和ケア 合田	医用統計学 統計学 確率分布	情報科学実習 文書作成	
11月9日 水	21世紀の社会・環境と医学・医療 法医学から見た孤独死 木下	香川大学医学部での国際交流 徳田	医用統計学 推測統計学 推定	情報科学実習 表計算(1)	
11月16日 水	21世紀の社会・環境と医学・医療 運動と健康づくり 阿部	ワーク・ライフ・バランス 泉川	医用統計学 推測統計学 推定と検定	情報科学実習 表計算(2)	
11月23日 水	勤労感謝の日				
11月30日 水	21世紀の社会・環境と医学・医療 在宅医療の現場から・患者会からのメッセージ 三宅		医用統計学 推測統計学 推定と検定	情報科学実習 プレゼンテーション	
12月7日 水	21世紀の社会・環境と医学・医療 リハビリテーション概論 乗松	スポーツ医学 花房	医用統計学 推測統計学 推定と検定	情報科学実習 情報倫理とセキュリティ(1)	
12月14日 水	21世紀の社会・環境と医学・医療 ネットワーク医療 岡田	山間部の高齢者医療 菅原	医用統計学 推測統計学 推定と検定	情報科学実習 情報倫理とセキュリティ(2)	
12月21日 水	金曜日授業振替日				
1月11日 水	21世紀の社会・環境と医学・医療 補完医療としての鍼灸 大麻	笑いと医療 中井	医用統計学 推測統計学 推定と検定	情報科学実習 情報倫理とセキュリティ(3)	
1月18日 水	21世紀の社会・環境と医学・医療 臨床科からのメッセージ1	臨床科からのメッセージ2	医用統計学 推測統計学 推定と検定	情報科学実習 情報検索・文献検索	
1月25日 水	21世紀の社会・環境と医学・医療 臨床科からのメッセージ3	臨床科からのメッセージ4	医用統計学 推測統計学 推定と検定	情報科学実習 コンピュータの基礎知識	
2月1日 水	21世紀の社会・環境と医学・医療 臨床科からのメッセージ5	臨床科からのメッセージ6	医用統計学 推測統計学 推定と検定	情報科学実習 ネットワークの基礎知識	
2月8日 水	21世紀の社会・環境と医学・医療 補講	補講	医用統計学 推測統計学 推定と検定	情報科学実習	
2月15日 水	学年末試験期間				
2月22日 水					

平成23年度 講義・実習時間割 2年次生

第1学期

第1週

I	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
4月4日 月	生命有機化学 細胞内情報伝達因子1 徳光	授業ガイダンス	自然科学実習 実習説明会（物理）		久富
4月5日 火	全学共通科目 （幸町キャンパス）		医用物理学 はじめに 久富	情報科学実習 情報科学概説	
4月6日 水	分子生物学 アミノ酸とタンパク質の一次構造 神鳥	保健医療福祉看護・介護論／保健指導・カンセリング・チーム医療の基礎 オリエンテーション 岡田	保健指導概説 久郷	予備	
4月7日 木	神経生物学 ガイダンス 中村	応用生物科学 細胞の形態 板野	自然科学実習 実習説明会（化学）		小林
4月8日 金	（全学共通科目） 英語	医用物理学 一般力学 久富	生命物質化学 細胞信号の科学 小林	分子遺伝学 遺伝情報伝達のしくみ 竹崎	

第2週

2	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
4月11日 月	生命有機化学 細胞内情報伝達因子2 徳光	医用統計学 統計学 確率分布	自然科学実習 実習説明会（生物）		板野
4月12日 火	全学共通科目 （幸町キャンパス）		医用物理学 一般力学 久富	情報科学実習 ユーザー・インターフェース	
4月13日 水	分子生物学 タンパク質の三次元構造 神鳥	保健指導・カンセリング・ チーム医療の基礎 カウセリングの概要 竹森	定期健康診断（午後休講）		
4月14日 木	神経生物学 神経系一般 中村	応用生物科学 細胞の機能 板野	自然科学実習 物理A、生物B 1回目		久富、板野
4月15日 金	（全学共通科目） 英語	医用物理学 一般力学 久富	生命物質化学 受容体 小林	分子遺伝学 ヒトの染色体 竹崎	

第3週

3	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
4月18日 月	生命有機化学 細胞膜 徳光	医用統計学 統計学 確率分布	自然科学実習 化学A、物理B 1回目		小林、久富
4月19日 火	全学共通科目 （幸町キャンパス）		医用物理学 剛体の運動 久富	情報科学実習 電子メール	
4月20日 水	分子生物学 核酸の構造 神鳥	保健医療福祉看護・介護論／保健指導・カンセリング・チーム医療の基礎 健康教育概説 鈴江	行動療法概説 宮前		
4月21日 木	神経生物学 脳幹と脳神経 中村	応用生物科学 細胞の機能 板野	自然科学実習 生物A、化学B 1回目		板野、小林
4月22日 金	（全学共通科目） 英語	医用物理学 固体の変形 久富	生命物質化学 Gタンパク質 小林	分子遺伝学 集団内の遺伝的変異 竹崎	

第4週

4	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
4月25日 月	生命有機化学 高エネルギー化合物 徳光	医用統計学 統計学 確率分布	自然科学実習 物理A、生物B 2回目	久富、板野	
4月26日 火	全学共通科目 (幸町キャンパス)		医用物理学 流体力学 久富	情報科学実習 インターネット	
4月27日 水	分子生物学 タンパク質の機能 神鳥	保健医療福祉看護・介護論／保健指導・カウンセリング・チーム医療の基礎 予備日	予備日		
4月28日 木	神経生物学 大脳と高次機能 中村	応用生物科学 酵素概要 板野	自然科学実習 化学A、物理B 2回目	小林、久富	
4月29日 金	昭和の日				

第5週

5	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
5月2日 月	生命有機化学 各種スペクトル1 獅々堀	医用統計学 統計学 確率分布	自然科学実習 生物A、化学B 2回目	板野、小林	
5月3日 火	憲法記念日				
5月4日 水	みどりの日				
5月5日 木	こどもの日				
5月6日 金	(全学共通科目) 英語	医用物理学 流体力学 久富	生命物質化学 細胞内受容体 小林	分子遺伝学 対立遺伝子頻度の変化 竹崎	

第6週

6	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
5月9日 月	生命有機化学 各種スペクトル2 獅々堀	医用統計学 推測統計学 推定	自然科学実習 物理A、生物B 3回目	久富、板野	
5月10日 火	全学共通科目 (幸町キャンパス)		医用物理学 流体力学 久富	情報科学実習 画像の処理(1)	
5月11日 水	分子生物学 単糖と多糖 神鳥	保健医療福祉看護・介護論／保健指導・カウンセリング・チーム医療の基礎 生活習慣病の保健指導 村尾	認知療法とカウンセリング 井上		
5月12日 木	神経生物学 運動系 中村	応用生物科学 ATP産生系 板野	自然科学実習 化学A、物理B 3回目	小林、久富	
5月13日 金	(全学共通科目) 英語	医用物理学 振動と波動 久富	生命物質化学 タンパク質リン酸化反応 小林	分子遺伝学 遺伝的多様性 竹崎	

第7週

7	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
5月16日 月	生命有機化学 各種スペクトル3 獅々堀	医用統計学 推測統計学 推定と検定	自然科学実習 生物A、化学B 3回目	板野、小林	
5月17日 火	全学共通科目 (幸町キャンパス)		医用物理学 振動と波動 久富	情報科学実習 画像の処理(2)	
5月18日 水	分子生物学 脂質と生体膜・膜輸送 神鳥	保健医療福祉看護・介護論 看護・介護の基礎 松井	保健指導・カウンセリング・チーム医療の基礎 心理テストと心理カウンセリング	高橋	
5月19日 木	神経生物学 感覚系 中村	応用生物学 細胞分裂と細胞周期 板野	自然科学実習 物理A、生物B 4回目	久富、板野	
5月20日 金	(全学共通科目) 英語	医用物理学 振動と波動 久富	生命物質化学 タンパク質リン酸化反応 小林	分子遺伝学 長期的進化 竹崎	

第8週

8	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
5月23日 月	生命有機化学 前期まとめ 徳光	医用統計学 推測統計学 推定と検定	自然科学実習 化学A、物理B 4回目	小林、久富	
5月24日 火	全学共通科目 (幸町キャンパス)		医用物理学 振動と波動 久富	情報科学実習 ワードプロセッサ・表計算(1)	
5月25日 水	分子生物学 酵素触媒 神鳥	保健医療福祉看護・介護論 病院オリエンテーション1 病院職員	健康教育の実際1	藤川、筒井	
5月26日 木	神経生物学 自律神経系 中村	応用生物学 遺伝のしくみ 板野	自然科学実習 生物A、化学B 4回目	板野、小林	
5月27日 金	(全学共通科目) 英語	医用物理学 振動と波動 久富	生命物質化学 筋収縮メカニズム 小林	分子遺伝学 ヒトの進化 竹崎	

第9週

9	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
5月30日 月	生命有機化学 タンパク質の化学 構造と機能 徳光	医用統計学 推測統計学 推定と検定	自然科学実習 アドバンスドコース説明会(物理)	久富	
5月31日 火	全学共通科目 (幸町キャンパス)		医用物理学 振動と波動 久富	情報科学実習 表計算(2)	
6月1日 水	分子生物学 DNA:複製、修復、組換え(1) 吉田	保健医療福祉看護・介護論 病院オリエンテーション2 病院職員	健康教育の実際2 松岡	予備日	
6月2日 木	神経生物学 ヒトの生物学系統講義1 血液と体液 中村	応用生物学 遺伝子系と表現型 板野	自然科学実習 アドバンスドコース説明会(化学)	小林	
6月3日 金	(全学共通科目) 英語	医用物理学 振動と波動 久富	生命物質化学 カルシウム受容タンパク質I 小林	分子遺伝学 中間テスト 竹崎	

第10週

10	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
6月6日 月	生命有機化学 酵素の化学 徳光	医用統計学 推測統計学 推定と検定	自然科学実習 アドバンスドコース説明会（生物） 板野		
6月7日 火	全学共通科目 （幸町キャンパス）		医用物理学 熱と熱力学 久富	情報科学実習 表計算（3）	
6月8日 水	分子生物学 DNA：複製，修復，組換え（2） 吉田	保健医療福祉看護・介護論／保健指導・カウンセリング・チーム医療の基礎 健康教育グループワーク クオリエンテーション 鈴江、住谷	県立保健医療大学にてチーム医療の講義・実習 新見		
6月9日 木	神経生物学 ヒトの生物学系統講義 2 循環器系 中村	応用生物学 性染色体 板野	自然科学実習 アドバンスドコース 1回目	小林、板野、久富	
6月10日 金	（全学共通科目） 英語	医用物理学 熱と熱力学 久富	生命物質化学 カルシウム受容体タンパク質Ⅱ 小林	分子遺伝学 連鎖解析の基礎	岩間

第11週

11	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
6月13日 月	生命有機化学 酵素阻害剤 徳光	医用統計学 推測統計学 推定と検定	自然科学実習 アドバンスドコース 2回目	小林、板野、久富	
6月14日 火	全学共通科目 （幸町キャンパス）		医用物理学 電磁気学 久富	情報科学実習 発表スライドの作成	
6月15日 水	分子生物学 転写と翻訳（1） 吉田	保健医療福祉看護・介護論／保健指導・カウンセリング・チーム医療の基礎 病院オリエンテーション3 病院職員 鈴江、岡田、住谷	健康教育グループワーク		
6月16日 木	神経生物学 ヒトの生物学系統講義 3 ガス交換系 中村	応用生物学 核酸とタンパク質合成 板野	自然科学実習 アドバンスドコース 3回目	小林、板野、久富	
6月17日 金	（全学共通科目） 英語	医用物理学 電磁気学 久富	生命物質化学 テーマ学習 小林	分子遺伝学 連鎖解析の応用	岩間

第12週

12	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
6月20日 月	生命有機化学 情報伝達機構 徳光	医用統計学 推測統計学 推定と検定	自然科学実習 アドバンスドコース 4回目	小林、板野、久富	
6月21日 火	全学共通科目 （幸町キャンパス）		医用物理学 電磁気学 久富	情報科学実習 データベース（1）	
6月22日 水	分子生物学 転写と翻訳（2） 吉田	保健医療福祉看護・介護論／保健指導・カウンセリング・チーム医療の基礎 病院オリエンテーション4 病院職員 二宮	徳島文理大学香川薬学部にて講義・実習		
6月23日 木	神経生物学 ヒトの生物学系統講義 4 消化と吸収（1） 中村	応用生物学 核酸とタンパク質合成 板野	自然科学実習 アドバンスドコース 5回目	小林、板野、久富	
6月24日 金	（全学共通科目） 英語	医用物理学 電磁気学 久富	生命物質化学 テーマ学習 小林	分子遺伝学 量的形質座位（QTL）	岩間

第13週

13	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
6月27日 月	生命有機化学 核酸の化学 構造と機能 徳光	医用統計学 推測統計学 推定と検定	自然科学実習 アドバンスドコース 6回目 小林、板野、久富		
6月28日 火	全学共通科目 (幸町キャンパス)		医用物理学 原子 久富	情報科学実習 データベース(2)	
6月29日 水	保健医療福祉看護・介護論 病院見学1		保健指導・カンセリング・チーム医療の基礎 健康教育実習発表会		
	病院看護部		岡田、鈴江、住谷		
6月30日 木	神経生物学 ヒトの生物学系統講義 5 消化と吸収(2) 中村	応用生物科学 セカンドメッセンジャー 板野	自然科学実習 アドバンスドコース 7回目 小林、板野、久富		
7月1日 金	(全学共通科目) 英語	医用物理学 原子 久富	生命物質化学 テーマ学習 小林	分子遺伝学 多因子疾患 岩間	

第14週

14	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
7月4日 月	生命有機化学 遺伝子発現機構 徳光	医用統計学 推測統計学 推定と検定	自然科学実習 アドバンスドコース 合同結果発表会 小林、板野、久富		
7月5日 火	全学共通科目 (幸町キャンパス)		医用物理学 原子 久富	情報科学実習 プログラミング	
7月6日 水	保健医療福祉看護・介護論 病院見学2		分子生物学 中間テスト		
	病院看護部		神鳥 神鳥		
7月7日 木	神経生物学 ヒトの生物学系統講義 6 内分泌系 中村	応用生物科学 セカンドメッセンジャー 板野	自然科学実習 実習予備日 小林、板野、久富		
7月8日 金	(全学共通科目) 英語	医用物理学 原子 久富	生命物質化学 発表/討論 I 小林	分子遺伝学 ハプロタイプと連鎖不平衡 岩間	

第15週

15	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
7月11日 月	生命有機化学 遺伝子工学 徳光	医用統計学 推測統計学 推定と検定	自然科学実習 実習予備日 小林、板野、久富		
7月12日 火	全学共通科目 (幸町キャンパス)		医用物理学 原子 久富	情報科学実習 電子カルテ概論	
7月13日 水	分子生物学 転写と翻訳(3) 吉田	分子生物学 遺伝子発現の調節(1) 吉田	保健医療福祉看護・介護論 病院見学発表会		
	神経生物学 演習1 中村	応用生物科学 タンパク質リン酸化反応 板野	自然科学実習 実習予備日 小林、板野、久富		
7月15日 金	(全学共通科目) 英語	医用物理学 予備 久富	生命物質化学 発表/討論 II 小林	分子遺伝学 一塩基多型(SNP) 岩間	

第16週

16	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
9月5日 月	生命有機化学 徳光	医用統計学 補講	自然科学実習 実習予備日 小林、板野、久富		
9月6日 火	全学共通科目 (幸町キャンパス)		医用物理学	情報科学実習	
9月7日 水	分子生物学 遺伝子発現の調節(2) 吉田	保健医療福祉看護・介護論/保健指導・カンセリング・チーム医療の基礎 チーム医療の実際 講義と実習 中田			
9月8日 木	神経生物学 演習2 中村	応用生物科学 漢方医学の基礎 久加	自然科学実習 実習予備日 小林、板野、久富		
9月9日 金	(全学共通科目) 英語	医用物理学	生命物質化学 予備(補講) 小林	分子遺伝学 ゲノムワイドな解析 岩間	

第17週

17	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
9月12日 月	前期定期試験				
9月13日 火					
9月14日 水					
9月15日 木					
9月16日 金					

第18週

18	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
9月19日 月	敬老の日				
9月20日 火					
9月21日 水					
9月22日 木					
9月23日 金	秋分の日				

第19週

19	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
9月26日 月					
9月27日 火					
9月28日 水					
9月29日 木					
9月30日 金	授業ガイダンス				

第2学期

第1週

1	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
10月3日 月	補 講	解剖学Ⅱ 解剖学総論講義 荒木	解剖学Ⅱ 骨学講義 椎骨・胸郭 荒木	解剖学Ⅱ 骨学実習 椎骨・胸郭 荒木他	
10月4日 火	生理学Ⅱ 生理学序論、血液 小坂、五十嵐	生理学Ⅱ 血液 小坂	生化学 生体物質(1) 上田	生化学 生体物質(2) 上田	
10月5日 水	生理学Ⅰ 神経系総論Ⅰ 神経の特性 徳田	解剖学Ⅰ 中枢神経学 神経細胞・グリア細胞 竹内	解剖学Ⅰ 中枢神経学 大脳表皮 竹内	解剖学Ⅰ 脳実習(1) 竹内 他	
10月6日 木	生理学Ⅰ 神経系総論Ⅱ 神経の特性 徳田	解剖学Ⅱ 骨学講義 上肢帯 荒木	解剖学Ⅱ 骨学講義・実習 上肢骨 荒木他		
10月7日 金	生化学 生体物質(3) 上田	解剖学Ⅱ 組織学講義 組織学総論序・細胞① 荒木	医学部祭(午後) 休講		

第2週

2	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
10月10日 月	体育の日				
10月11日 火	生理学Ⅱ 血液 小坂	生理学Ⅱ 血液 小坂	生化学 生体物質(4) 上田	生化学 生体物質(5) 上田	
10月12日 水	生理学Ⅰ 神経系総論Ⅲ 神経の情報伝達 徳田	解剖学Ⅰ 中枢神経学 大脳皮質 竹内	解剖学Ⅰ 中枢神経学 大脳辺縁系 竹内	解剖学Ⅰ 脳実習(2) 竹内 他	
10月13日 木	生理学Ⅰ 神経系総論Ⅳ 神経伝達物質 徳田	解剖学Ⅱ 骨学講義 下肢帯 荒木	解剖学Ⅱ 骨学講義・実習 下肢骨 荒木他		
10月14日 金	生化学 酵素(1) 大西	解剖学Ⅱ 組織学講義 細胞② 荒木	解剖学Ⅱ 組織学講義 細胞③ 荒木	解剖学Ⅱ 組織学実習 顕微鏡実習 荒木他	

第3週

3	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
10月17日 月	生化学 確認テスト	解剖学Ⅱ 骨学講義 頭蓋① 荒木	解剖学Ⅱ 骨学講義・実習 頭蓋② 荒木他		
10月18日 火	生理学Ⅱ 循環 小坂	生理学Ⅱ 循環 小坂	生化学 酵素(2) 大西	生化学 酵素(3) 大西	
10月19日 水	生理学Ⅰ 大脳皮質の区分と構造 徳田	解剖学Ⅰ 中枢神経学 大脳の内部構造 竹内	解剖学Ⅰ 中枢神経学 大脳の内部構造 竹内	解剖学Ⅰ 脳実習(3) 竹内 他	
10月20日 木	生理学Ⅰ 大脳連合野、優位半球 徳田	解剖学Ⅱ 骨学講義 頭蓋③ 荒木	解剖学Ⅱ 骨学講義・実習 頭蓋④ 荒木他		
10月21日 金	生化学 酵素(4) 大西	解剖学Ⅱ 組織学講義 上皮組織 江上	解剖学Ⅱ 組織学講義・実習 上皮組織 江上他		

第4週

4	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
10月24日 月	補 講	解剖学Ⅱ 骨学実習 骨学復習 荒木他	解剖学Ⅱ 骨学実習 骨学復習 荒木他		
10月25日 火	生理学Ⅱ 循環 小坂	生理学Ⅱ 循環 小坂	生化学 生体エネルギー・ 代謝概説(1) 大西	生化学 生体エネルギー・ 代謝概説(2) 大西	
10月26日 水	生理学Ⅰ 視床の区分と働き 徳田	解剖学Ⅰ 脳実習(4) 竹内 他	慰霊祭		
10月27日 木	生理学Ⅰ 自律神経系の働き 徳田	解剖学Ⅱ 組織学講義・実習 結合組織① 藤井他			
10月28日 金	生化学 生体エネルギー・ 代謝概説(3) 大西	解剖学Ⅱ 組織学講義・実習 結合組織② 藤井他			

第5週

5	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
10月31日 月		解剖学Ⅱ	解剖学Ⅱ 骨学実習試験 担当教員全員		
11月1日 火	生理学Ⅱ 体液 小坂	生理学Ⅱ 体液 小坂	生化学 糖代謝(1) 上田	生化学 糖代謝(2) 上田	
11月2日 水	生理学Ⅰ 視床下部の働きⅠ 徳田	解剖学Ⅰ 中枢神経学 脳幹 竹内	解剖学Ⅰ 中枢神経学 小脳 竹内	解剖学Ⅰ 脳実習(5)	
11月3日 木	文化の日				
11月4日 金	生化学 糖代謝(3) 上田	解剖学Ⅱ 組織学講義・実習 軟骨組織 三宅他			

第6週

6	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
11月7日 月	補 講	生理学Ⅰ 研究トピックス 内耳研究 董	解剖学Ⅰ 中枢神経学 脊髓 竹内	解剖学Ⅰ 中枢神経学 予備 竹内	
11月8日 火	生理学Ⅱ 呼吸器 小坂	生理学Ⅱ 呼吸器 小坂	生化学 糖代謝(4) 上田	生化学 糖代謝(5) 上田	
11月9日 水	生理学Ⅰ 視床下部の働きⅡ 徳田	解剖学Ⅰ 中枢神経学・脳実習試験			竹内 他
11月10日 木	生理学Ⅰ 大脳辺縁系の働き 徳田	解剖学Ⅱ 組織学講義・実習 骨組織 三宅他			
11月11日 金	生化学 糖代謝(6) 上田	解剖学Ⅱ 組織学講義・実習 筋組織 荒木他			

第7週

7	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
11月14日 月	補 講	生理学Ⅰ 研究トピックス 細胞周期研究 神鳥	解剖学Ⅰ 末梢神経学Ⅰ 総論 太田	解剖学Ⅰ 脈管学 総論 竹内	
11月15日 火	生理学Ⅱ 呼吸器 小坂	生理学Ⅱ 呼吸器 小坂	生化学 糖代謝(7) 上田	生化学 糖代謝(8) 上田	
11月16日 水	生理学Ⅰ 高次神経活動Ⅰ 脳波と睡眠 徳田	解剖学Ⅰ 発生学Ⅰ 総論(1) 三木	解剖学Ⅰ 系統解剖実習Ⅰ(1)		竹内 他
11月17日 木	生理学Ⅰ 高次神経活動Ⅱ 学習と記憶Ⅰ 徳田	解剖学Ⅱ 組織学講義・実習 神経組織 荒木他			
11月18日 金	生化学 糖代謝(9) 上田	解剖学Ⅱ 組織学講義・実習 血液 三宅他			

第8週

8	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
11月21日 月	補 講	解剖学Ⅱ 組織学総論試験 担当教員全員	解剖学Ⅰ 末梢神経学Ⅰ 脊髓神経 太田	解剖学Ⅰ 脈管学 心臓の構造 竹内	
11月22日 火	生理学Ⅱ 環境と生体 小坂	生理学Ⅱ 環境と生体 小坂	生化学 脂質代謝(1) 上田	生化学 脂質代謝(2) 上田	
11月23日 水	勤労感謝の日				
11月24日 木	生理学Ⅰ 高次神経活動Ⅲ 学習と記憶Ⅱ 徳田	解剖学Ⅱ 組織学講義・実習 骨髄 三宅他			
11月25日 金	生化学 脂質代謝(3) 上田	解剖学Ⅱ 予備日	推薦入試準備		

第9週

9	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
11月28日 月	補 講	解剖学 I 特別講義 伊藤	解剖学 I 末梢神経学 I 脊髄神経 太田	解剖学 I 脈管学 刺激伝導系 竹内	
11月29日 火	生理学 II 自律神経 小坂	生理学 II 自律神経 小坂	生化学 脂質代謝 (4) 上田	生化学 脂質代謝 (5) 上田	
11月30日 水	生理学 I 感覚生理総論 山口	解剖学 I 発生学 I 総論 (2) 三木	解剖学 I 系統解剖実習 I (2)	竹内 他	
12月1日 木	生理学 I 神経系特論 神経系の発達・分化 田辺	解剖学 II 組織学講義・実習 脈管 三宅他			
12月2日 金	生化学 脂質代謝 (6) 大西	解剖学 II 組織学講義・実習 防御系 三宅他			

第10週

10	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
12月5日 月	補 講	解剖学 I 末梢神経学 I 自律神経 太田	解剖学 I 脈管学 頭頸部の脈管 竹内	解剖学 I 特別講義	
12月6日 火	生理学 II 消化器 五十嵐	生理学 II 消化器 五十嵐	生化学 脂質代謝 (7) 大西	生化学 脂質代謝 (8) 大西	
12月7日 水	生理学 I 神経系特論 神経系の発達・分化 田辺	解剖学 I 発生学 I 総論 (3) 三木	解剖学 I 系統解剖実習 I (3)	竹内 他	
12月8日 木	生理学 I 感覚生理各論 I 視覚の生理 山口	解剖学 II 組織学講義・実習 消化器系① 荒木他			
12月9日 金	生化学 脂質代謝 (9) 大西	解剖学 II 組織学講義・実習 消化器系② 荒木他			

第11週

11	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
12月12日 月	補 講	解剖学 I 脈管学 胸腹部の脈管 竹内	解剖学 I 脈管学 上・下肢の脈管 竹内	解剖学 I 発生学 I 総論 (4) 三木	
12月13日 火	生理学 II 消化器 五十嵐	生理学 II 消化器 五十嵐	生化学 特別講義 (1) 佐々木	生化学 特別講義 (2) 佐々木	
12月14日 水	生理学 I 感覚生理各論 II 聴覚と平衡覚の生理 山口	解剖学 I 内臓学 循環器系 三木	解剖学 I 系統解剖実習 I (4)	竹内 他	
12月15日 木	生理学 I 感覚生理各論 III 嗅覚と味覚の生理 山口	解剖学 II 組織学講義・実習 消化器系③ 荒木他			
12月16日 金	生化学 特別講義 (3) 伊藤	解剖学 II 組織学講義・実習 消化器系④ 荒木他			

第12週

12	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
12月19日 月	補 講		解剖学 I 脈管学 リンパ系 竹内	解剖学 I 内臓学 呼吸器系 三木	
12月20日 火	生理学 II 心血管系 五十嵐	生理学 II 心血管系 五十嵐	生化学 特別講義 (4) 横山	生化学 特別講義 (5) 横山	
12月21日 水	生理学 I 感覚生理各論 IV 体性感覚の生理 山口	解剖学 I 内臓学 消化器系 (1) 三木	解剖学 I 系統解剖実習 I (5) 竹内 他		
12月22日 木	生理学 I 脊髄の運動機能と反射 徳田	解剖学 II 組織学講義・実習 呼吸器系 三宅他			
12月23日 金	天皇誕生日				

(第3学期)

第1週

1	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
1月2日 月	冬季休業				
1月3日 火	冬季休業				
1月4日 水	生理学 I 脳幹の運動機能 徳田	解剖学 I 内臓学 消化器系 (2) 三木	解剖学 I 系統解剖実習 I (6) 竹内 他		
1月5日 木	生理学 II 予備日	解剖学 II 組織学講義・実習 泌尿器系① 荒木他			
1月6日 金	生化学 アミノ酸代謝 (1) 大西	解剖学 II 組織学講義・実習 泌尿器系② 荒木他			

第2週

2	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
1月9日 月	成人の日				
1月10日 火	生化学 中間試験	生化学 中間試験	生化学 実習 (1)		
1月11日 水	生理学 I 大脳運動野の働き 徳田	解剖学 I 内臓学 尿路系 三木	解剖学 I 系統解剖実習 I (7) 竹内 他		
1月12日 木	生理学 II 心血管系 五十嵐	解剖学 II 組織学講義・実習 内分泌系① 三宅他			
1月13日 金	生化学 アミノ酸代謝 (2) 大西	解剖学 II 組織学講義 内分泌系② 三宅	センター試験準備		

第3週

3	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
1月16日 月	補 講	生化学 実習(2)			
1月17日 火	生化学 アミノ酸代謝(3) 大西	生化学 実習(3)			
1月18日 水	生理学 I 大脳基底核の働き 徳田	解剖学 I 内臓学 生殖器系 三木	解剖学 I 系統解剖実習 I (8) 竹内 他		
1月19日 木	生理学 II 心血管系 五十嵐	解剖学 II 組織学講義・実習 生殖器系① 江上他			
1月20日 金	生化学 アミノ酸代謝(4) 大西	解剖学 II 組織学講義・実習 生殖器系② 江上他			

第4週

4	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
1月23日 月	補 講	生化学 実習(4)			
1月24日 火	生化学 アミノ酸代謝(5) 大西	生化学 実習(5)			
1月25日 水	生理学 I 小脳の働き I 徳田	解剖学 I 内臓学 内分泌系 三木	解剖学 I 系統解剖実習 I (9) 竹内 他		
1月26日 木	生理学 II 心血管系 五十嵐	解剖学 II 組織学講義・実習 生殖器系③ 江上他			
1月27日 金	生化学 ポルフィリン代謝 大西	解剖学 II 組織学講義・実習 生殖器系④ 江上他			

第5週

5	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
1月30日 月	補 講	生化学 実習(6)			
1月31日 火	生化学 核酸代謝(1) 大西	生化学 実習(7)			
2月1日 水	生理学 I 小脳の働き II 徳田	解剖学 I 内臓学 神経系 三木	解剖学 I 系統解剖実習 I (10) 竹内 他		
2月2日 木	生理学 II 心血管系 五十嵐	解剖学 II 組織学講義・実習 皮膚 荒木他			
2月3日 金	生化学 核酸代謝(2) 大西	解剖学 II 組織学講義・実習 感覚器① 荒木他			

第6週

6	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
2月6日 月	補 講	生化学 実習(8)			
2月7日 火	生化学 核酸代謝(3) 大西	生化学 ビタミン(1) 上田	生化学 ビタミン(2) 上田	生化学 ビタミン(3) 上田	
2月8日 水	生理学 I 筋肉生理学 I 徳田	解剖学 I 系統解剖実習 I 試験 竹内 他			
2月9日 木	生理学 II 予備日	解剖学 II 組織学講義・実習 感覚器② 荒木他			
2月10日 金	生化学 ビタミン(4) 上田	解剖学 II 組織学実習 組織学復習 荒木他			

第7週

7	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
2月13日 月	補 講	生化学 フリーラジカルと 活性酵素 上田	生化学 特別講義(6) 富田	生化学 特別講義(7) 富田	
2月14日 火	生化学 演習問題及び解説				
2月15日 水	後期試験期間				
2月16日 木					
2月17日 金					

第8週

8	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
2月20日 月					
2月21日 火					
2月22日 水					
2月23日 木					
2月24日 金	個別学力試験準備				

第9週

9	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
2月27日 月	補講	補講	補講	補講	補講
2月28日 火	補講	補講	補講	補講	補講
2月29日 水	補講	補講	補講	補講	補講
3月1日 木	補講	補講	補講	補講	補講
3月2日 金	補講	補講	補講	補講	補講

第10週

10	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
3月5日 月	補講	補講	補講	補講	補講
3月6日 火	補講	補講	補講	補講	補講
3月7日 水	補講	補講	補講	補講	補講
3月8日 木	補講	補講	補講	補講	補講
3月9日 金	個別学力試験（準備）				

第11週

11	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
3月12日 月	個別学力試験（後期）				
3月13日 火	個別学力試験（後期）				
3月14日 水					
3月15日 木					
3月16日 金					

平成23年度 講義・実習時間割 3年次生

第1学期

第1週

1	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
4月4日 月	授業ガイダンス	免疫学 1 免疫学序論 平島	内分泌学 序論・実習説明 中村・西	微生物学 細菌学総論 歴史・分類・形態 桑原	
4月5日 火	児童精神医学 I 序論 石川	微生物学 細菌学総論 増殖・代謝 成谷	免疫学 2 免疫系の構造 平島	医動物学 医動物学総論 新井	
4月6日 水	医学英語 Introductions ENE Ch. 1 Willey, Scanlon	解剖学 I 発生学 II 各論(1) 三木	解剖学 I 実習 系統解剖実習 II (1) 竹内 他		
4月7日 木	病理学 II 病理学総論・序説 阪本	医動物学 線虫類総論、 線虫類(1)(回虫) 新井	* 実習 内分泌学実習 1 中村・西・小川・野中		
4月8日 金	薬理学 受容体と情報伝達 チャンネルと薬理 中野	薬理学 薬の作用様式と 作用機序 中野	* 実習 内分泌学実習 2 中村・西・小川・野中		

第2週

2	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
4月11日 月	病理学 I 病理学概論 (序説) 今井田	免疫学 3 免疫系を構成する細胞 平島	内分泌学 ホルモンの分類 1 中村	微生物学 細菌学総論 滅菌・消毒・ワクチン 桑原	上級英語 I Willey
4月12日 火	児童精神医学 I 自閉症一般 石川	微生物学 細菌学総論 化学療法(1) 桑原	免疫学 4 免疫系を構成する細胞 平島	医動物学 線虫類(2)(イヌ回虫、 ネコ回虫、アニサキス類) 新井	
4月13日 水	医学英語 ENE Ch. 2 Willey, Scanlon	解剖学 I 発生学 II 各論(2) 三木	解剖学 I 実習 系統解剖実習 II (2) 竹内 他		
4月14日 木	病理学 II 病理学総論 ・循環障害(1) 阪本	医動物学 線虫類(3) (蟯虫、鉤虫) 新井	* 実習 内分泌学実習 3 中村・西・小川・野中		
4月15日 金	薬理学 薬理学とは 西山	薬理学 臨床薬理学総論 西山	定期健康診断(午後休講)		

第3週

3	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
4月18日 月	病理学 I 病理学概論 (序説) 今井田	免疫学 5 T細胞の抗原レセプ ターと遺伝子 大水	内分泌学 ホルモンの分類 2 中村	微生物学 細菌学総論 化学療法(2) 桑原	上級英語 1 Willey
4月19日 火	児童精神医学 I 高機能と低機能 石川	微生物学 細菌学総論 薬剤耐性 桑原	免疫学 6 T細胞の抗原レセプ ターと遺伝子 大水	医動物学 線虫類(4) (広東住血線虫、糞線虫、 顎口虫) 新井	
4月20日 水	医学英語 ENE Ch. 3 Willey, Scanlon	解剖学 I 発生学 II 各論(3) 三木	解剖学 I 実習 系統解剖実習 II (3) 竹内 他		
4月21日 木	病理学 II 病理学総論 ・循環障害(2) 阪本	医動物学 線虫類(5) (糸状虫類) 新井	* 実習 内分泌学実習 4 中村・西・小川・野中		
4月22日 金	薬理学 レニン・アンジオテン ・アルドステロン系 小堀	薬理学 レニン・アンジオテン ・アルドステロン系 小堀	* 実習 内分泌学実習 5 中村・西・小川・野中		

第4週

4	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
4月25日 月	病理学Ⅰ 病理学概論 (細胞傷害、修復) 今井田	免疫学 7 主要組織適合抗原 系と遺伝子 大水	内分泌学 ホルモンの 生合成と分泌 1 中村	微生物学 細菌学各論 球菌(1) 成谷	上級英語 1 Willey
4月26日 火	児童精神医学Ⅰ AD/HD(1) 石川	微生物学 細菌学各論 球菌(2) 桑原	免疫学 8 (予備) 平島	医動物学 線虫類(6)(鞭虫、 フィリピン毛細虫、 旋毛虫) 新井	
4月27日 水	医学英語 ENE Ch. 4 Willey, Scanlon	解剖学Ⅰ 発生学Ⅱ 各論(4) 三木	解剖学Ⅰ実習 系統解剖実習Ⅱ(4) 竹内 他		
4月28日 木	病理学Ⅱ 病理学総論 ・循環障害(3) 阪本	医動物学 吸虫類総論、 吸虫類(1)(肝吸虫) 新井	* 実習 内分泌学実習 6 中村・西・小川・野中		
4月29日 金	昭和の日				

第5週

5	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
5月2日 月	病理学Ⅰ 病理学概論 (細胞傷害、修復) 今井田	免疫学 9 (予備) 平島	内分泌学 ホルモンの 生合成と分泌 2 中村	微生物学 細菌学各論 グラム陽性桿菌(1) 桑原	上級英語 1 Willey
5月3日 火	憲法記念日				
5月4日 水	みどりの日				
5月5日 木	こどもの日				
5月6日 金	薬理学 抗炎症薬 小堀	薬理学 麻薬性鎮痛剤・パー キンソン病治療薬 中野	* 実習 内分泌学実習 7 中村・西・小川・野中		

第6週

6	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
5月9日 月	病理学Ⅰ 病理学概論 (細胞傷害、修復) 今井田	免疫学 10 免疫グロブリンと 免疫グロブリン遺伝子 大水	内分泌学 ホルモン受容体 1 中村	微生物学 細菌学各論 グラム陽性桿菌(2) 桑原	上級英語 1 Willey
5月10日 火	児童精神医学Ⅰ AD/HD(2) 石川	微生物学 予備	免疫学 11 免疫グロブリンと 免疫グロブリン遺伝子 大水	医動物学 吸虫類(2)(横川吸虫、 有害異形吸虫、捲形吸虫、蹄蛭、 棘口吸虫、肝蛭) 新井	
5月11日 水	医学英語 ENE Ch. 5 Willey, Scanlon	解剖学Ⅰ 発生学Ⅱ 各論(5) 三木	解剖学Ⅰ実習 系統解剖実習Ⅱ(5) 竹内 他		
5月12日 木	病理学Ⅱ 病理学総論 ・循環障害(4) 阪本	医動物学 吸虫類(3) (肺吸虫類) 新井	微生物学実習 滅菌と消毒 細菌の形態(1) 桑原、成谷、鈴木、今大路		
5月13日 金	薬理学 薬物の用量と反応 吉栖	薬理学 薬物の体内動態 吉栖	微生物学実習 細菌の形態(2) 桑原、成谷、鈴木、今大路		

第7週

/	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
5月16日 月	病理学 I 病理学概論 (染色体異常、遺伝子疾患) 今井田	免疫学 12 免疫応答 大水	内分泌学 ホルモン受容体 2 中村	微生物学 細菌学各論 グラム陰性桿菌 (1) 桑原	上級英語 1 Willey
5月17日 火	児童精神医学 I AD/HDと7歳児 脳 症候群 (1) 石川	微生物学 細菌学各論 グラム陰性桿菌 (2) 桑原	免疫学 13 免疫応答 大水	医動物学 吸虫類 (4) (住血吸虫類) 新井	
5月18日 水	医学英語 ENE Ch. 6 Willey, Scanlon	解剖学 I 発生学 II 各論 (6) 三木	解剖学 I 実習 系統解剖実習 II (6) 竹内 他		
5月19日 木	病理学 II 病理学総論 ・炎症 (1) 阪本	医動物学 原虫類総論、原虫類 (1): 根足虫類 (赤痢アメーバ、 自由生活アメーバ) 新井	微生物学実習 細菌の分離培養 真菌の培養 桑原、成谷、鈴木、今大路		
5月20日 金	薬理学 交感神経作動薬 人見	薬理学 交感神経遮断薬 人見	微生物学実習 細菌の同定法 (1) 真菌の観察 桑原、成谷、鈴木		

第8週

8	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
5月23日 月	病理学 I 病理学総論 (腫瘍学) 今井田	免疫学 14 免疫における細胞 間協同作用 大水	内分泌学 ホルモンと受容体の キネティクス 中村	微生物学 細菌学各論 らせん菌・偏性細胞内寄生菌 桑原	上級英語 1 Willey
5月24日 火	児童精神医学 I AD/HDと7歳児 脳 症候群 (2) 石川	微生物学 ウイルス学総論 分類と一般性状 桑原	免疫学 15 免疫における細胞 間協同作用 大水	医動物学 原虫類 (2): 鞭毛虫類①(ランブル 鞭毛虫、トリコモナス類)、有毛虫類 (大腸バランテジウム) 新井	
5月25日 水	医学英語 ENE Ch. 7 Notebook collection1 Willey, Scanlon	解剖学 I 発生学 II 各論 (7) 三木	解剖学 I 実習 系統解剖実習 II (7) 竹内 他		
5月26日 木	病理学 II 病理学総論 ・炎症 (2) 阪本	医動物学 原虫類 (3): 鞭毛虫類② (トリパノソーマ類、 リーシュマニア類) 新井	微生物学実習 細菌の同定法 (2) 薬剤感受性試験 (1) 桑原、成谷、鈴木、今大路		
5月27日 金	薬理学 消化器薬理 西堀	薬理学 ヒスタミン 西堀	微生物学 ウイルス学総論 ウイルス感染症の病理 桑原	微生物学実習 薬剤感受性試験 (2) ウイルス感染価の測定 (1) 桑原、成谷、鈴木	

第9週

9	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
5月30日 月	病理学 I 病理学総論 (腫瘍学) 今井田	免疫学 16 免疫不全症 平島	内分泌学 ホルモンの定量法 中村	微生物学 ウイルス学各論 DNAウイルス (1) 桑原	上級英語 1 Willey
5月31日 火	児童精神医学 I AD/HDと7歳児 脳 症候群 (3) 石川	微生物学 ウイルス学各論 DNAウイルス (2) 桑原	免疫学 17 移植免疫 平島	医動物学 原虫類 (4): 胞子虫類① (マラリア原虫とマラリア1) 新井	
6月1日 水	医学英語 ENE Ch. 8 Willey, Scanlon	解剖学 I 発生学 II 各論 (8) 三木	解剖学 I 実習 系統解剖実習 II (8) 竹内 他		
6月2日 木	病理学 II 病理学総論 ・炎症 (3) 阪本	医動物学 原虫類 (5): 胞子虫類① (マラリア原虫とマラリア2) 新井	微生物学実習 ウイルス感染価の測定 (2) 桑原、成谷、鈴木		
6月3日 金	薬理学 副交感神経作動薬 人見	薬理学 副交感神経遮断薬 人見	微生物学 ウイルス学各論 RNAウイルス (1) 桑原	微生物学 ウイルス学各論 RNAウイルス (2) 桑原	

第10週

10	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
6月6日 月	病理学Ⅰ 病理学総論 (腫瘍学) 今井田	免疫学 18 (予備) 平島	内分泌学 膵内分泌 1 西	内分泌学 膵内分泌 2 西	上級英語 1 Willey
6月7日 火	児童精神医学Ⅰ 学習障害(LD) 石川	微生物学 ウイルス学各論 RNAウイルス(3) 桑原	* 医動物学実習 1 線虫類 1 新井、原田		
6月8日 水	医学英語 ENE Ch. 9 Willey, Scanlon	解剖学Ⅰ 発生学Ⅱ 各論(9) 三木	解剖学Ⅰ実習 系統解剖実習Ⅱ(9) 竹内 他		
6月9日 木	病理学Ⅱ 病理学総論 ・炎症(4) 阪本	医動物学 原虫類(6): 胞子虫類② (トキソプラズマ) 新井	* 医動物学実習 2 線虫類 2 新井、原田		
6月10日 金	薬理学 神経節遮断薬 中野	薬理学 神経筋接合部作用薬 中野	* 医動物学実習 3 吸虫類 1 新井、原田		

第11週

11	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
6月13日 月	病理学Ⅰ 病理学総論 (腫瘍学) 今井田	免疫学 19 免疫寛容 大水	内分泌学 膵内分泌 3 西	内分泌学 甲状腺 1 中村	上級英語 1 Willey
6月14日 火	児童精神医学Ⅰ 反抗挑戦障害と非行 石川	微生物学 ウイルス学各論 RNAウイルス(4) 桑原	* 医動物学実習 4 吸虫類 2 新井、原田		
6月15日 水	医学英語 ENE Ch. 10 Willey, Scanlon	解剖学Ⅰ 末梢神経学Ⅱ 脳神経(1) 竹内	解剖学Ⅰ実習 系統解剖実習Ⅱ(10) 竹内 他		
6月16日 木	病理学Ⅱ 病理学総論 ・免疫と疾患(1) 上野	医動物学 原虫類(7): 胞子虫類③ (クリプトスポリジウム、イソスポーラ)、 ニューモシスチス肺炎 新井	* 医動物学実習 5 原虫類 1 新井、原田		
6月17日 金	薬理学 抗腫瘍薬 小坂	薬理学 抗腫瘍薬 福岡	医動物学 条虫類総論、条虫類(1) (無鉤条虫、有鉤条虫) 新井	医動物学 条虫類(2) (裂頭条虫類、 マンソン孤虫症、小型条虫、 縮小条虫、瓜実条虫) 新井	

第12週

12	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
6月20日 月	病理学Ⅰ 病理学総論 (腫瘍学) 今井田	免疫学 20 免疫細胞学序説 大水	内分泌学 甲状腺 2 中村	内分泌学 副甲状腺 中村	上級英語 1 Willey
6月21日 火	児童精神医学Ⅰ 行為障害と事件 石川	微生物学 ウイルス学各論 RNAウイルス(5) 桑原	* 医動物学実習 6 原虫類 2 新井、原田		
6月22日 水	医学英語 ENE Ch. 11 Willey, Scanlon	解剖学Ⅰ 末梢神経学Ⅱ 脳神経(2) 竹内	解剖学Ⅰ実習 系統解剖実習Ⅱ(11) 竹内 他		
6月23日 木	病理学Ⅱ 病理学総論 ・免疫と疾患(2) 上野	医動物学 条虫類(3) (単包条虫、多包条虫) 新井	* 免疫学実習 21.22 比重分離液による単核球の分離と Tリンパ球・単球の同定 平島、大水、仁木		
6月24日 金	薬理学 漢方医学総論 レビュー① 小路	薬理学 漢方医学総論 レビュー② 小路	* 免疫学実習 23.24 フローサイトメトリー 平島、大水、仁木		

第13週

13	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
6月27日 月	病理学Ⅰ 病理学総論 (腫瘍学) 今井田	免疫学 25 自己免疫 平島	内分泌学 生殖腺 1 中村	内分泌学 生殖腺 2 中村	上級英語 1 Willey
6月28日 火	児童精神医学Ⅰ 適応障害と心身症 石川	微生物学 ウイルス学各論 レトロウイルス 桑原	医動物学 衛生動物総論、 衛生動物各論(1) 新井	医動物学 衛生動物各論(2) 新井	
6月29日 水	医学英語 ENE Ch. 12 Willey, Scanlon	解剖学Ⅰ 末梢神経学Ⅱ 脳神経(3) 竹内	解剖学Ⅰ実習 系統解剖実習Ⅱ(12) 竹内 他		
6月30日 木	病理学Ⅱ 病理学総論 ・免疫と疾患(3) 上野	医動物学 検査法と治療 新井	* 医動物学実習 7 条虫類・衛生動物 新井、原田		
7月1日 金	薬理学 腎クリアランス 清元	薬理学 腎クリアランス 清元	* 実習 病理学Ⅱ実習		

第14週

14	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
7月4日 月	病理学Ⅰ 病理学総論 (腫瘍学) 今井田	免疫学 26 自己免疫 平島	内分泌学 副腎 1 中村	内分泌学 副腎 1 中村	上級英語 1 Willey
7月5日 火	児童精神医学Ⅰ 査定・診断 石川	微生物学 ウイルス学各論 肝炎ウイルスとプリオン 桑原	病理学Ⅰ 特別講義 久野		
7月6日 水	医学英語 ENE Ch. 13 Willey, Scanlon	解剖学Ⅰ 末梢神経学Ⅱ 脳神経(4) 竹内	解剖学Ⅰ実習 系統解剖実習Ⅱ(13) 竹内 他		
7月7日 木	病理学Ⅱ 病理学総論 ・免疫と疾患(4) 上野	医動物学 寄生虫感染免疫 新井	* 医動物学実習 8 虫卵検査法 新井、原田		
7月8日 金	薬理学 精神病薬 安部	薬理学 抗うつ薬 ・抗けいれん薬 安部	* 実習 病理学Ⅱ実習		

第15週

15	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
7月11日 月	病理学Ⅰ 病理学総論 (腫瘍学) 今井田	免疫学 27 腫瘍免疫 平島	内分泌学 視床下部 中村	内分泌学 下垂体 中村	上級英語 1 Willey
7月12日 火	児童精神医学Ⅰ 行動スケール・発達テスト 石川	微生物学 真菌学総論 分類と一般性状 成谷	病理学Ⅰ 特別講義 船本		
7月13日 水	医学英語 ENE Ch. 14 Notebook collection2 Willey, Scanlon	解剖学Ⅰ 系統解剖実習Ⅱ試験	解剖学Ⅰ実習 竹内 他		
7月14日 木	病理学Ⅱ 病理学総論 ・環境と疾患 上野	医動物学 予備	* 実習 病理学Ⅱ実習		
7月15日 金	薬理学 補講	薬理学 補講	* 実習		

第16週

16	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
9月5日 月	病理学 I 病理学総論 (腫瘍学) 今井田	免疫学 28 (予備) 平島	内分泌学 幹細胞分化と内分泌 宮本	内分泌学 内分泌と分子異常 東海林	上級英語 1 Willey
9月6日 火	児童精神医学 I 精神療法 他 石川	微生物学 真菌学各論 表在性・深在性真菌 桑原	病理学 I 試験		
9月7日 水	医学英語 Final exam review Willey, Scanlon	解剖学 I 発生学 II 予備	解剖学 I 末梢神経学 II 予備	解剖学 I 特別講義	
9月8日 木	病理学 II 病理学総論 ・食物、栄養と疾患 上野	医動物学 予備	* 実習 病理学 II 実習		
9月9日 金	薬理学 漢方医学各論 レビュー① 小路	薬理学 漢方医学各論 レビュー② 小路	* 実習		

第17週

17	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
9月12日 月	前期定期試験 9/12~9/30				
9月13日 火					
9月14日 水					
9月15日 木					
9月16日 金					

第18週

18	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
9月19日 月	敬老の日				
9月20日 火					
9月21日 水					
9月22日 木					
9月23日 金	秋分の日				

第2学期

1 1	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
9月26日 月						
9月27日 火						
9月28日 水						
9月29日 木						
9月30日 金	前期定期試験終了			授業ガイダンス		

(第一ユニット 第1週)

2 1	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
10月3日 月	第一ユニット1 自主学習	第一ユニット2 神経系の機能と構造 (総論) 神経機能形態学	第一ユニット3 脳の血管 神経機能形態学	第一ユニット4 神経系の一般特性 脳内神経伝達物質と作用 細胞情報生理学	第一ユニット5 診断と検査の基本 整形外科学	上級英語2 16:20~17:50
10月4日 火	第一ユニット6 診断と検査の基本 画像診断 放射線医学	第一ユニット7 診断と検査の基本 画像診断 放射線医学	第一ユニット8 診断と検査の基本 画像診断 放射線医学	第一ユニット9 診断と検査の基本 画像診断 放射線医学	第一ユニット10 筋・骨格系の画像診断 画像解析総論 放射線医学	
10月5日 水	第一ユニット11 診断と検査の基本 脳神経外科学	第一ユニット12 脳・脊髄・末梢神経の構造 神経機能形態学	第一ユニット13 脊髄・末梢神経の機能 細胞情報生理学	第一ユニット14 病理学講義 中枢神経系の病理学 炎症病理学	第一ユニット15 病理学講義 中枢神経系の病理学 炎症病理学	第一ユニット16 診断と検査の基本 消化器・神経内科学
10月6日 木	第一ユニット17 頭蓋内圧亢進症・脳ヘルニア 脳神経外科学	第一ユニット18 自主学習	第一ユニット19 自主学習	第一ユニット20 自主学習	第一ユニット21 自主学習	
10月7日 金	第一ユニット22 自主学習	第一ユニット23 自主学習	第一ユニット24 自主学習	医学部祭 (午後休講)		

(第一ユニット 第2週)

3 2	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
10月10日 月	体育の日					
10月11日 火	第一ユニット25 チュートリアル	第一ユニット26 特別講義 炎症病理学	第一ユニット27 病理学講義 中枢神経系の病理学 炎症病理学	第一ユニット28 病理学講義 中枢神経系の病理学 炎症病理学	第一ユニット29 病理学実習 中枢神経系の病理学 炎症病理学	
10月12日 水	第一ユニット30 脳血管障害 (総論) 循環器・腎臓・脳卒中内科学	第一ユニット31 脳血管障害 (各論) 循環器・腎臓・脳卒中内科学	第一ユニット32 神経症候学 消化器・神経内科学	第一ユニット33 統合失調症 (急性期) 精神神経医学	第一ユニット34 統合失調症 (慢性期) 精神神経医学	
10月13日 木	第一ユニット35 自主学習	第一ユニット36 自主学習	第一ユニット37 自主学習	第一ユニット38 病理学講義 中枢神経系の病理学 炎症病理学	第一ユニット39 病理学講義 中枢神経系の病理学 炎症病理学	
10月14日 金	第一ユニット40 チュートリアル	第一ユニット41 精神医学的症状と状態像 精神神経医学	第一ユニット42 神経心理学的症候・ 脳の局在症状 精神神経医学	第一ユニット43 精神科面接・診断分類法 精神神経医学	第一ユニット44 自主学習	

(第一ユニット 第3週)

4 3	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
10月17日 月	第一ユニット 45 チュートリアル発表会	第一ユニット 46 自主学習	第一ユニット 47 自主学習	第一ユニット 48 自主学習	第一ユニット 49 自主学習	上級英語 2 16:20~17:50
10月18日 火	第一ユニット 50 気分障害 うつ病の症候と診断 精神神経医学	第一ユニット 51 気分障害 双極性の症候と診断 精神神経医学	第一ユニット 52 病理学講義 中枢神経系の病理学 炎症病理学	第一ユニット 53 病理学実習 中枢神経系の病理学 炎症病理学	第一ユニット 54 病理学実習 中枢神経系の病理学 炎症病理学	
10月19日 水	第一ユニット 55 脱髄疾患 消化器・神経内科学	第一ユニット 56 変性疾患および認知症① 消化器・神経内科学	第一ユニット 57 てんかん(成人) 精神神経医学	第一ユニット 58 認知症 精神神経医学	第一ユニット 59 肩関節疾患 整形外科	第一ユニット 60 運動失調と不随意運動 消化器・神経内科学
10月20日 木	第一ユニット 61 自主学習	第一ユニット 62 自主学習	第一ユニット 63 高次神経機能 細胞情報生理学	第一ユニット 64 高次神経機能 細胞情報生理学	第一ユニット 65 高次神経機能 細胞情報生理学	第一ユニット 66 変性疾患および認知症② 消化器・神経内科学
10月21日 金	第一ユニット 67 脳血管障害1 脳出血 脳神経外科学	第一ユニット 68 脳血管障害2 くも膜下出血 脳神経外科学	第一ユニット 69 先天性奇形 小児科学	第一ユニット 70 脳血管障害3 脳梗塞(外科的治療) 脳神経外科学	第一ユニット 71 脳血管障害4 AVM・AVF・IVR 脳神経外科学	

(第一ユニット 第4週)

5 4	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
10月24日 月	第一ユニット 72 神経感染症・中毒 精神神経医学	第一ユニット 73 精神科医療の法と倫理 精神神経医学	第一ユニット 74 症状精神病の概念と診断 精神神経医学	第一ユニット 75 変性疾患および認知症③ 消化器・神経内科学	第一ユニット 76 脊椎脊髄疾患(1) 整形外科	上級英語 2 16:20~17:50
10月25日 火	第一ユニット 77 チュートリアル	第一ユニット 78 自主学習	第一ユニット 79 自主学習	第一ユニット 80 病理学講義 運動器の病理学 炎症病理学	第一ユニット 81 病理学講義 運動器の病理学 炎症病理学	第一ユニット 82 病理学実習 運動器の病理学 炎症病理学
10月26日 水	第一ユニット 83 児童精神医学 精神神経医学	第一ユニット 84 心身症(摂食障害含む) 精神神経医学	慰霊祭			
10月27日 木	第一ユニット 85 関節疾患総論 整形外科	第一ユニット 86 リウマチ性疾患 整形外科	第一ユニット 87 スポーツ外傷・骨折 整形外科	第一ユニット 88 膝・足関節疾患 整形外科	第一ユニット 89 自主学習	
10月28日 金	第一ユニット 90 チュートリアル	第一ユニット 91 自主学習	第一ユニット 92 自主学習	第一ユニット 93 頭部外傷(急性期) 脳神経外科学	第一ユニット 94 頭部外傷(慢性期) 脳神経外科学	

(第一ユニット 第5週)

6 5	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
10月31日 月	第一ユニット 95 チュートリアル発表会	第一ユニット 96 ミオパチー① 消化器・神経内科学	第一ユニット 97 自主学習	第一ユニット 98 精神療法・認知行動療法 精神神経医学	第一ユニット 99 アルコール・薬物依存の 病態と診断 精神神経医学	上級英語 2 16:20~17:50
11月1日 火	第一ユニット 100 自主学習	第一ユニット 101 自主学習	第一ユニット 102 病理学講義 運動器の病理学 炎症病理学	第一ユニット 103 病理学講義 運動器の病理学 炎症病理学	第一ユニット 104 病理学実習 運動器の病理学 炎症病理学	
11月2日 水	第一ユニット 105 自主学習	第一ユニット 106 脊椎脊髄疾患(2) 整形外科	第一ユニット 107 不安性障害・解離性障害 精神神経医学	第一ユニット 108 コンサルテーション・ リエゾン精神医学 精神神経医学	第一ユニット 109 てんかん(小児) 小児科学	第一ユニット 110 脊髄・脊椎疾患 消化器・神経内科学
11月3日 木	文化の日					
11月4日 金	第一ユニット 111 自主学習	第一ユニット 112 骨軟部腫瘍(1) 整形外科	第一ユニット 113 変性疾患 (機能的脳神経外科) 脳神経外科学	第一ユニット 114 先天奇形 脳神経外科学	第一ユニット 115 特別講義 脳の不思議とその理由 脳神経外科学	

(第一ユニット 第6週)

7 6	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
11月7日 月	第一ユニット 116 神経感染症・中毒① 消化器・神経内科学	第一ユニット 117 神経感染症・中毒② 消化器・神経内科学	第一ユニット 118 周産期脳障害① 小児科学	第一ユニット 119 周産期脳障害② 小児科学	第一ユニット 120 自主学習	上級英語 2 16:20~17:50
11月8日 火	第一ユニット 121 自主学習	第一ユニット 122 自主学習	第一ユニット 123 病理学講義 運動器の病理学 炎症病理学	第一ユニット 124 病理学講義 運動器の病理学 炎症病理学	第一ユニット 125 病理学実習 運動器の病理学 炎症病理学	
11月9日 水	第一ユニット 126 末梢神経疾患 整形外科学	第一ユニット 127 上肢疾患 整形外科学	第一ユニット 128 先天性代謝障害 消化器・神経内科学	第一ユニット 129 骨軟部腫瘍(2) 整形外科学	第一ユニット 130 末梢神経障害① 消化器・神経内科学	第一ユニット 131 末梢神経障害② 消化器・神経内科学
11月10日 木	第一ユニット 132 脳腫瘍1 脳腫瘍の分類、Glioma 脳神経外科学	第一ユニット 133 脳腫瘍2 鞍上部・松果体腫瘍 脳神経外科学	第一ユニット 134 自主学習	第一ユニット 135 股関節疾患 整形外科学	第一ユニット 136 骨代謝性疾患 整形外科学	
11月11日 金	第一ユニット 137 脊髄・脊椎疾患 脳神経外科学	第一ユニット 138 脳腫瘍3 後頭蓋窩腫瘍 脳神経外科学	第一ユニット 139 脳腫瘍4 髄膜腫 脳神経外科学	第一ユニット 140 小児神経疾患(1) 小児科学	第一ユニット 141 小児神経疾患(2) 小児科学	

(第一ユニット 第7週)

8 7	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
11月14日 月	第一ユニット 142 頭痛 消化器・神経内科学	第一ユニット 143 ミオパチー② 消化器・神経内科学	第一ユニット 144 ミオパチー③ 消化器・神経内科学	第一ユニット 145 ミオパチー④ 消化器・神経内科学	第一ユニット 146 自主学習	上級英語 2 16:20~17:50
11月15日 火	第一ユニット 147 自主学習	第一ユニット 148 自主学習	第一ユニット 149 自主学習	第一ユニット 150 自主学習	第一ユニット 151 自主学習	
11月16日 水	第一ユニット 152 自主学習	第一ユニット 153 自主学習	第一ユニット 154 自主学習	第一ユニット 155 統合講義試験	第一ユニット 156 統合講義試験	
11月17日 木	第一ユニット 157 自主学習	第一ユニット 158 自主学習	第一ユニット 159 自主学習	第一ユニット 160 自主学習	第一ユニット 161 自主学習	
11月18日 金	第一ユニット 162 自主学習	第一ユニット 163 自主学習	第一ユニット 164 自主学習	第一ユニット 165 自主学習	第一ユニット 166 自主学習	

(第二ユニット 第1週)

9 1	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
11月21日 月	第二ユニット 1 チュートリアル 課題1-1 (内分泌)	第二ユニット 2 自主学習	第二ユニット 3 自主学習	第二ユニット 4 自主学習	第二ユニット 5 自主学習	上級英語 2 16:20~17:50
11月22日 火	第二ユニット 6 構造と機能 内分泌細胞の機能 I 分子細胞機能学	第二ユニット 7 構造と機能 内分泌細胞の機能 II 分子細胞機能学	第二ユニット 8 診断と検査・疾患 視床下部疾患の病態と診断 I 第一内科・先端医療	第二ユニット 9 診断と検査・疾患 下垂体疾患の病態と診 I 第一内科・先端医療	第二ユニット 10 診断と検査・疾患 下垂体疾患の病態と診 II 第一内科・先端医療	
11月23日 水	勤労感謝の日					
11月24日 木	第二ユニット 11 チュートリアル 課題1-2 (内分泌)	第二ユニット 12 自主学習	第二ユニット 13 構造と機能 代謝の調節 I 生化学	第二ユニット 14 疾患 肥満とやせ 第一内科	第二ユニット 15 自主学習	
11月25日 金	第二ユニット 16 自主学習	第二ユニット 17 構造と機能 代謝の調節 II 生化学	第二ユニット 18 構造と機能 代謝の調節 III 生化学	推薦入試準備		

(第二ユニット 第2週)

10 2	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
11月28日 月	第二ユニット 19 チュートリアル 課題1 (内分泌) 発表会	第二ユニット 20 自主学習	第二ユニット 21 自主学習	第二ユニット 22 自主学習	第二ユニット 23 自主学習	上級英語 2 16:20~17:50
11月29日 火	第二ユニット 24 構造と機能 個体の機能 細胞情報生理学	第二ユニット 25 診断と検査・疾患 甲状腺疾患の病態と診断Ⅰ 第一内科・先端医療	第二ユニット 26 診断と検査・疾患 甲状腺疾患の病態と診断Ⅱ 第一内科・先端医療	第二ユニット 27 診断と検査・疾患 多発性内分泌腺腫症 第一内科・先端医療	第二ユニット 28 疾患 甲状腺疾患の外科治療 呼吸器・乳腺外科	
11月30日 水	第二ユニット 29 自主学習	第二ユニット 30 自主学習	第二ユニット 31 自主学習	第二ユニット 32 診断と検査・疾患 小児と成長ホルモン 小児科	第二ユニット 33 診断と検査・疾患 小児の下垂体疾患 小児科	
12月1日 木	第二ユニット 34 チュートリアル 課題2-1 (代謝)	第二ユニット 35 自主学習	第二ユニット 36 自主学習	第二ユニット 37 東洋医学概論 第一内科	第二ユニット 38 自主学習	
12月2日 金	第二ユニット 39 自主学習	第二ユニット 40 自主学習	第二ユニット 41 自主学習	第二ユニット 42 疾患 症例検討 1 第一内科・先端医療	第二ユニット 43 疾患 症例検討 2 第一内科・先端医療	

(第二ユニット 第3週)

11 3	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
12月5日 月	第二ユニット 44 チュートリアル 課題2-2 (代謝)	第二ユニット 45 自主学習	第二ユニット 46 自主学習	第二ユニット 47 疾患 骨粗鬆症 第一内科	第二ユニット 48 診断と検査 副腎 生化学	上級英語 2 16:20~17:50
12月6日 火	第二ユニット 49 自主学習	第二ユニット 50 疾患 副腎疾患Ⅰ 第一内科・先端医療	第二ユニット 51 疾患 副腎疾患ⅠⅠ 第一内科・先端医療	第二ユニット 52 構造と機能 消化管ホルモン 分子細胞機能学	第二ユニット 53 疾患 消化管ホルモン 第一内科	
12月7日 水	第二ユニット 54 疾患 副腎疾患の外科治療 泌尿器・副腎外科	第二ユニット 55 疾患 小児の内分泌疾患、甲状腺 小児科	第二ユニット 56 疾患 小児の内分泌疾患、副腎・性腺疾患 小児科	第二ユニット 57 疾患 小児の内分泌疾患、糖代謝 小児科	第二ユニット 58 疾患 小児の内分泌疾患、Ca、P 小児科	
12月8日 木	第二ユニット 59 チュートリアル 課題2 (代謝) 発表会	第二ユニット 60 自主学習	第二ユニット 61 自主学習	第二ユニット 62 疾患 先天性代謝疾患 小児科	第二ユニット 63 疾患 先天性代謝疾患 小児科	
12月9日 金	第二ユニット 64 自主学習	第二ユニット 65 自主学習	第二ユニット 66 疾患 肥満とやせ 精神神経科	第二ユニット 67 疾患 糖代謝 第一内科・先端医療	第二ユニット 68 疾患 糖代謝 第一内科・先端医療	

(第二ユニット 第4週)

12 4	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
12月12日 月	第二ユニット 69 自主学習	第二ユニット 70 疾患 メタボリックシンドローム 第一内科・先端医療	第二ユニット 71 疾患 脂質代謝・動脈硬化 第一内科・先端医療	第二ユニット 72 疾患 症例検討 3 第一内科・先端医療	第二ユニット 73 疾患 症例検討 4 第一内科・先端医療	上級英語 2 16:20~17:50
12月13日 火	第二ユニット 74 内分泌病理講義 甲状腺腫瘍の病理 炎症病理学	第二ユニット 75 病理 内分泌病理実習 炎症病理学	第二ユニット 76 病理 内分泌病理実習 炎症病理学	第二ユニット 77 自主学習	第二ユニット 78 自主学習	
12月14日 水	第二ユニット 79 自主学習	第二ユニット 80 自主学習	第二ユニット 81 自主学習	第二ユニット 82 自主学習	第二ユニット 83 自主学習	
12月15日 木	第二ユニット 84 自主学習	第二ユニット 85 自主学習	第二ユニット 86 自主学習	第二ユニット 87 試験 統合試験	第二ユニット 88 試験 統合試験	
12月16日 金	第二ユニット 89 自主学習	第二ユニット 90 自主学習	第二ユニット 91 自主学習	第二ユニット 92 自主学習	第二ユニット 93 自主学習	

(第六ユニット 第1週)

13 1	I 8:30-9:45	II 9:55-11:10	III 11:20-12:35	IV 13:30-14:45	V 14:55-16:10	VI 16:20-17:35
12月19日 月	第六ユニット1 消化器外科総論 消化器外科	第六ユニット2 新生児の外科的 消化器疾患 小児外科	第六ユニット3 消化管の解剖 組織細胞生物	第六ユニット4 胃炎、消化性潰瘍 消化器・神経内科	第六ユニット5 消化器外科における 術前術後管理 消化器外科	上級英語2 16:20~17:50
12月20日 火	第六ユニット6 新生児消化器疾患 小児科	第六ユニット7 肝胆膵の解剖 組織細胞生物	第六ユニット8 消化管の病理I 腫瘍病理	第六ユニット9 病理実習(I) 腫瘍病理	第六ユニット10 病理実習(II) 腫瘍病理	
12月21日 水	第六ユニット11 食道疾患の外科治療 消化器外科	第六ユニット12 胃疾患の外科治療 消化器外科	第六ユニット13 食道炎・ 食道アカラシア 消化器・神経内科	第六ユニット14 過敏性腸症候群、 大腸憩室 消化器・神経内科	第六ユニット15 胃良性腫瘍、 胃悪性腫瘍 消化器・神経内科	
12月22日 木	第六ユニット16 食道静脈瘤、 食道悪性腫瘍 消化器・神経内科	第六ユニット17 消化器内視鏡治療 消化器・神経内科	第六ユニット18 消化器内視鏡学 消化器・神経内科	第六ユニット19 大腸の外科治療 消化器外科	第六ユニット20 小腸、虫垂、 肛門病変の外科治療 消化器外科	
12月23日 金	天皇誕生日					

第3学期

(第六ユニット 第2週)

1 2	I 8:30-9:45	II 9:55-11:10	III 11:20-12:35	IV 13:30-14:45	V 14:55-16:10	VI 16:20-17:35
1月2日 月	冬季休業					
1月3日 火	冬季休業					
1月4日 水	第六ユニット21 急性腹症、腸閉塞 消化器外科	第六ユニット22 腸壁、横隔膜疾患 消化器外科	第六ユニット23 小腸疾患 消化器・神経内科	第六ユニット24 潰瘍性大腸炎、 クローン病 消化器・神経内科	第六ユニット25 小児の消化管疾患 小児科	
1月5日 木	第六ユニット26 大腸ポリープ 消化器・神経内科	第六ユニット27 大腸の炎症性疾患 消化器・神経内科	第六ユニット28 チュートリアル	第六ユニット29 小児消化器疾患 症候論 小児科	第六ユニット30 消化器作用薬 消化器・神経内科	
1月6日 金	第六ユニット31 低侵襲下外科治療 消化器外科	第六ユニット32 自主学習	第六ユニット33 大腸癌 消化器・神経内科	第六ユニット34 肝疾患総論 消化器・神経内科	第六ユニット35 肝硬変 消化器・神経内科	

(第六ユニット 第3週)

2 3	I 8:30-9:45	II 9:55-11:10	III 11:20-12:35	IV 13:30-14:45	V 14:55-16:10	VI 16:20-17:35
1月9日 月	成人の日					
1月10日 火	第六ユニット36 症候II(腹痛、吐血、 下血、悪心、嘔吐) 消化器・神経内科	第六ユニット37 自主学習	第六ユニット38 消化管の病理II 腫瘍病理	第六ユニット39 消化管の病理III 腫瘍病理	第六ユニット40 病理実習(III) 腫瘍病理	
1月11日 水	第六ユニット41 消化器系における 寄生虫症I 国際医動物	第六ユニット42 消化器系における 寄生虫症II 国際医動物	第六ユニット43 消化器系における 寄生虫症III 国際医動物	第六ユニット44 肝胆膵の超音波検査 消化器・神経内科	第六ユニット45 ウイルス性肝炎I 消化器・神経内科	
1月12日 木	第六ユニット46 急性肝炎、慢性肝炎 消化器・神経内科	第六ユニット47 自己免疫性肝炎、 原発性胆汁性肝硬変 消化器・神経内科	第六ユニット48 症候I(黄疸、 腹部膨隆、腹部腫瘍) 消化器・神経内科	第六ユニット49 チュートリアル	第六ユニット50 劇症肝炎 消化器・神経内科	
1月13日 金	第六ユニット51 肝、脾、門脈の 外科治療 消化器外科	第六ユニット52 肝移植と脾移植 消化器外科	第六ユニット53 ウイルス性肝炎II 消化器・神経内科	センター試験準備		

(第六ユニット 第4週)

3 4	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
1月16日 月	第六ユニット54 小児の外科的・上部 消化管疾患 小児外科	第六ユニット55 小児の外科的・下部 消化管疾患 小児外科	第六ユニット56 自主学習	第六ユニット57 原発性肝癌 消化器・神経内科	第六ユニット58 その他の肝疾患 消化器・神経内科	上級英語2 16:20~17:50
1月17日 火	第六ユニット59 消化管造影検査 放射線科	第六ユニット60 消化器疾患の血管 造影(治療を含む) 放射線科	第六ユニット61 消化器のCTおよび MR検査 放射線科	第六ユニット62 消化器疾患に対する 放射線治療 放射線科	第六ユニット63 小児の 肝胆膵疾患 小児科	
1月18日 水	第六ユニット64 膵・胆道疾患の 外科治療Ⅰ 消化器外科	第六ユニット65 膵・胆道疾患の 外科治療Ⅱ 消化器外科	第六ユニット66 肝胆膵の病理 腫瘍病理	第六ユニット67 病理実習(Ⅳ) 腫瘍病理	第六ユニット68 病理実習(Ⅴ) 腫瘍病理	
1月19日 木	第六ユニット69 急性膵炎、慢性膵炎 消化器・神経内科	第六ユニット70 膵腫瘍 消化器・神経内科	第六ユニット71 自主学習	第六ユニット72 チュートリアル 発表	第六ユニット73 自主学習	
1月20日 金	第六ユニット74 膵・胆道疾患の 外科治療Ⅲ 消化器外科	第六ユニット75 膵・胆道疾患の 外科治療Ⅳ 消化器外科	第六ユニット76 自主学習	第六ユニット77 胆道腫瘍 消化器・神経内科	第六ユニット78 胆道感染症 消化器・神経内科	

(第六ユニット 第5週)

4 5	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
1月23日 月	第六ユニット79 小児の外科的 肝胆膵疾患 小児外科	第六ユニット80 小児消化器系の 先天異常 小児外科	第六ユニット81 胆膵その他 消化器・神経内科	第六ユニット82 自主学習	第六ユニット83 自主学習	上級英語2 16:20~17:50
1月24日 火	第六ユニット84 自主学習	第六ユニット85 自主学習	第六ユニット86 自主学習	第六ユニット87 自主学習	第六ユニット88 自主学習	課題実習説明会 (予定)
1月25日 水	第六ユニット89 自主学習	第六ユニット90 自主学習	第六ユニット91 自主学習	第六ユニット92 病理学実習試験	第六ユニット93 病理学実習試験	課題実習説明会 (予定)
1月26日 木	第六ユニット94 自主学習	第六ユニット95 自主学習	第六ユニット96 自主学習	第六ユニット97 自主学習	第六ユニット98 自主学習	
1月27日 金	第六ユニット99 自主学習	第六ユニット100 自主学習	第六ユニット101 自主学習	第六ユニット102 試験	第六ユニット103 試験	

(臨床総論講義 第1週)

5 1	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
1月30日 月	臨床総論講義1 医の原則 (1) 医の倫理と生命倫理 (2) 患者の権利 (3) 医師の義務と責任 (4) インフォームド・コンセント 総合診療部	臨床総論講義2 医療における安全性確保 (1) 安全性の確保 (2) 危機管理 総合診療部	臨床総論講義3 コミュニケーションとチーム医療 (1) コミュニケーション (2) 患者と医師の関係 (3) チーム医療 総合診療部	臨床総論講義4 課題探求・解決と論理的思考 (1) 課題探求・解決能力 (2) 論理的思考と表現能力 (3) 生涯学習への準備 (4) 医療の評価 総合診療部	臨床総論講義5 病因と病態 (2) 細胞障害・変成と細胞死 消化器・神経内科学	上級英語2 16:20~17:50
1月31日 火	臨床総論講義6 病因と病態 (3) 代謝障害 代謝・血液・免疫・呼吸器内科学	臨床総論講義7 病因と病態 (4) 循環障害 循環器・腎臓・脳卒中内科学	臨床総論講義8 病因と病態 (1) 遺伝子異常と疾患・発生発達異常 小児科学	臨床総論講義9 Evidence-based Pediatrics 小児科学	臨床総論講義10 外科学総論 外科学概論 消化器外科学	
2月1日 水	臨床総論講義11 病因と病態 (5) 炎症と創傷治癒、創傷治癒(正常と異常)-瘢痕と加齢 形成外科学	臨床総論講義12 臨床診断学 総合診療部	臨床総論講義13 医療情報とは・医療情報の扱い方 医療情報部	臨床総論講義14 遠隔診断システム・医療情報ネットワーク 医療情報部	臨床総論講義15 医学・医療と社会 (1) 社会・環境と健康 (2) 疫学と予防医学 (4) 保健・医療・福祉と介護の制度 (3) 生活習慣と疾病 (5) 診療情報 (6) 臨床研究と医療 総合診療部	
2月2日 木	臨床総論講義16 基本的診療知識 (2) 臨床検査 (1) 臨床検査医学	臨床総論講義17 基本的診療知識 (2) 臨床検査 (2) 臨床検査医学	臨床総論講義18 基本的診療知識 (2) 臨床検査 (3) 値の意義・重み 臨床検査医学	臨床総論講義19 基本的診療知識(外科系) (3) 外科的治療と周術期 消化器外科学	臨床総論講義20 診断病理学: 病理組織診断学 病理部	
2月3日 金	臨床総論講義21 診断病理学: 細胞診断学 病理部	臨床総論講義22 基本的診療知識 (5) 輸液療法 総合診療部	臨床総論講義23 基本的診療知識 (5) 食事(療法) 総合診療部	臨床総論講義24 基本的診療知識 (6) 医用機器と人工臓器 心臓血管外科学	臨床総論講義25 麻酔学総論(含: 基本的診療知識 (4) 麻酔 麻酔学	

(臨床総論講義 第2週)

6 2	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
2月6日 月	臨床総論講義26 麻酔と呼吸・循環管理 麻酔学	臨床総論講義27 基本的診療知識(8)内視鏡を用いる診断と治療 総合診療部	臨床総論講義28 基本的診療知識(8)内視鏡を用いる診断と治療 消化器外科学	臨床総論講義29 基本的診療知識(総合・内科系) (9)超音波を用いる診断と治療(基礎) 総合診療部	臨床総論講義30 基本的診療知識(総合・内科系) (9)超音波を用いる診断と治療(臨床) 総合診療部	上級英語2 16:20~17:50
2月7日 火	臨床総論講義31 基本的診療知識(総合・内科系) (9)超音波を用いる診断と治療 周産期学婦人科学	臨床総論講義32 基本的診療知識(10)輸血と移植 輸血 輸血部	臨床総論講義33 基本的診療知識(外科系) (10)輸血と移植 移植 泌尿器科学	臨床総論講義34 基本的診療知識(12)介護と在宅医療 総合診療部	臨床総論講義35 基本的診療知識(13)緩和医療 総合診療部	
2月8日 水	臨床総論講義36 基本的診療知識(総合・内科系) (1)薬物療法の基本原則 薬剤部	臨床総論講義37 基本的診療知識東洋医学漢方医学総論(1) 非常勤講師	臨床総論講義38 基本的診療知識東洋医学漢方医学総論(2) 非常勤講師	臨床総論講義39 基本的診療技能(総合)(1)問題志向型システム(2)医療面接(3)診療記録(4)臨床判断 総合診療部	臨床総論講義40 基本的診療技能(内科系)(5)身体診察①全身状態とバイタルサイン③胸部(循環器系) 総合診療部	
2月9日 木	臨床総論講義41 基本的診療技能(内科系)(5)身体診察②頭頸部 耳鼻咽喉科学	臨床総論講義42 基本的診療技能(内科系)(5)身体診察②頭頸部(歯・顎・唾液腺) 歯科口腔外科学	臨床総論講義43 基本的診療技能(内科系)(5)身体診察③胸部(呼吸器系) 代謝・血液・免疫・呼吸器内科	臨床総論講義44 基本的診療技能(内科系)(5)身体診察④腹部 消化器・神経内科学	臨床総論講義45 基本的診療技能(内科系)(5)身体診察⑤神経 消化器・神経内科学	
2月10日 金	臨床総論講義46	臨床総論講義47	臨床総論講義48	臨床総論講義49	臨床総論講義50	

(課題実習 第1週)

7 1	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
2月13日 月	課題実習	課題実習	課題実習	課題実習	課題実習	
2月14日 火	課題実習	課題実習	課題実習	課題実習	課題実習	
2月15日 水	課題実習	課題実習	課題実習	課題実習	課題実習	
2月16日 木	課題実習	課題実習	課題実習	課題実習	課題実習	
2月17日 金	課題実習	課題実習	課題実習	課題実習	課題実習	

(課題実習 第2週)

8 2	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
2月20日 月	課題実習	課題実習	課題実習	課題実習	課題実習	
2月21日 火	課題実習	課題実習	課題実習	課題実習	課題実習	
2月22日 水	課題実習	課題実習	課題実習	課題実習	課題実習	
2月23日 木	課題実習	課題実習	課題実習	課題実習	課題実習	
2月24日 金	課題実習	課題実習	課題実習	課題実習	課題実習	

(課題実習 第3週)

9 3	I	II	III	IV	V	VI
	8 : 30-9 : 45	9 : 55-11 : 10	11 : 20-12 : 35	13 : 30-14 : 45	14 : 55-16 : 10	16 : 20-17 : 35
2月27日 月	課題実習	課題実習	課題実習	課題実習	課題実習	
2月28日 火	課題実習	課題実習	課題実習	課題実習	課題実習	
2月29日 水	課題実習	課題実習	課題実習	課題実習	課題実習	
3月1日 木	課題実習	課題実習	課題実習	課題実習	課題実習	
3月2日 金	課題実習	課題実習	課題実習	課題実習	課題実習	

(課題実習 第4週)

10 4	I	II	III	IV	V	VI
	8 : 30-9 : 45	9 : 55-11 : 10	11 : 20-12 : 35	13 : 30-14 : 45	14 : 55-16 : 10	16 : 20-17 : 35
3月5日 月	課題実習	課題実習	課題実習	課題実習	課題実習	
3月6日 火	課題実習	課題実習	課題実習	課題実習	課題実習	
3月7日 水	課題実習	課題実習	課題実習	課題実習	課題実習	
3月8日 木	課題実習	課題実習	課題実習	課題実習	課題実習	
3月9日 金	課題実習	課題実習	課題実習	課題実習	課題実習	

平成23年度 講義・実習時間割 4年次生

第1学期

(第三ユニット 第1週)

※4日のみ大D講義室で行う

1 1	I 8:30-9:45	II 9:55-11:10	III 11:20-12:35	IV 13:30-14:45	V 14:55-16:10	VI 16:20-17:35
4月4日 月 ※	第三ユニットA 1 補講	第三ユニットA 2 構造と機能 心臓の解剖 (神経機能形態)	第三ユニットA 3 構造と機能 血管の解剖 (神経機能形態)	第三ユニットA 4 構造と機能 心臓の生理 (自律機能生理)	第三ユニットA 5	
4月5日 火	第三ユニットA 6 補講	第三ユニットA 7 構造と機能 心臓電気生理 (自律機能生理)	第三ユニットA 8	第三ユニットA 9 診断と検査 心電図 (循・腎・脳内科)	第三ユニットA 10	
4月6日 水	第三ユニットA 11 診断と検査 心カテーテル検査 (循・腎・脳内科)	第三ユニットA 12 診断と検査 循環器超音波検査 (循・腎・脳内科)	第三ユニットA 13 診断と検査実習 スモールグループ実習 心音・心電図・心エコー (循・腎・脳内科・検査部・他合同参加)	第三ユニットA 14	第三ユニットA 15	
4月7日 木	第三ユニットA 16 チュートリアル 課題(胸痛)-1	第三ユニットA 17 心不全 (循・腎・脳内科)	第三ユニットA 18	第三ユニットA 19 心不全治療薬 (薬理)	第三ユニットA 20 補講	
4月8日 金	公衆衛生学 オリエンテーション 全員	公衆衛生学 公衆衛生総論 平尾	公衆衛生学 ケースメソッド(1)	衛生学 疫学(1) 宮武	衛生学 疫学(2) 宮武	公衆衛生学 医療関連法規 平尾

(第三ユニット 第2週)

2 2	I 8:30-9:45	II 9:55-11:10	III 11:20-12:35	IV 13:30-14:45	V 14:55-16:10	VI 16:20-17:35
4月11日 月	第三ユニットA 21 先天性心疾患 (小児科)	第三ユニットA 22 成人先天性心疾患 (循・腎・脳内科)	第三ユニットA 23 心筋・心膜疾患 (循・腎・脳内科)	第三ユニットA 24	第三ユニットA 25	
4月12日 火	第三ユニットA 26 弁膜疾患の病態・診断 (循・腎・脳内科)	第三ユニットA 27 感染性心内膜炎 (循・腎・脳内科)	第三ユニットA 28 弁膜疾患の外科治療 (心臓血管外科)	第三ユニットA 29	第三ユニットA 30	
4月13日 水	第三ユニットA 31 心疾患の病理 (炎症病理)	第三ユニットA 32	定期健康診断(午後休講)			
4月14日 木	第三ユニットA 34 チュートリアル 課題(胸痛)-2	第三ユニットA 35 チュートリアル グループワーク	第三ユニットA 36 診断と検査 循環器疾患検査値 (循・腎・脳内科)	第三ユニットA 37 虚血性心疾患 (循・腎・脳内科)	第三ユニットA 38	第三ユニットA 33 心臓病理実習 (炎症病理)
4月15日 金	公衆衛生学 医療制度 平尾	公衆衛生学 社会保障 平尾	公衆衛生学 医療保障 平尾	衛生学 疫学(3) 宮武	衛生学 疫学(4) 宮武	公衆衛生学 医療倫理 平尾

(第三ユニット 第3週)

3 3	I 8:30-9:45	II 9:55-11:10	III 11:20-12:35	IV 13:30-14:45	V 14:55-16:10	VI 16:20-17:35
4月18日 月	第三ユニットA 39 虚血性心疾患 (循・腎・脳内科)	第三ユニットA 40 川崎病 (小児科)	第三ユニットA 41 抗狭心症薬・血栓治療薬 (薬理)	第三ユニットA 42 虚血性心疾患 外科的治療 (心臓血管外科)	第三ユニットA 43	
4月19日 火	第三ユニットA 44 循環器外科総論 (心臓血管外科)	第三ユニットA 45 先天性心疾患の外科治療 (心臓血管外科)	第三ユニットA 46 心膜疾患・ 腫瘍外科 (心臓血管外科)	第三ユニットA 47 症候論1-1 チアノーゼ(心疾患) (小児科)	第三ユニットA 48 症候論1-2 チアノーゼ(呼吸器疾患) (内代・血・免・呼内科)	
4月20日 水	第三ユニットA 49 心疾患の病理 (炎症病理)	第三ユニットA 50	第三ユニットA 51	第三ユニットA 52	第三ユニットA 53	
4月21日 木	第三ユニットA 54 チュートリアル 課題(胸痛)-3	第三ユニットA 55 チュートリアル グループワーク	第三ユニットA 56 不整脈 (循・腎・脳内科)	第三ユニットA 57 抗不整脈薬 (薬理)	第三ユニットA 58	
4月22日 金	公衆衛生学 母子保健 鈴江	衛生学 疫学演習(1) 宮武、坂野	衛生学 疫学演習(2) 宮武、坂野	衛生学 保健統計 宮武	公衆衛生学 学校保健 鈴江	公衆衛生学 ケースメソッド(2)

(第三ユニット 第4週)

4 4	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
4月25日 月	第三ユニットA 59 診断と検査・心臓核医学 (放射線)	第三ユニットA 60	第三ユニットA 61 症候論2-1 動悸(精神科) (精神科)	第三ユニットA 62 症候論2-2 動悸(循環器) (循・腎・脳内科)	第三ユニットA 63 診断と検査・胸部単純 X線写真・CT (放射線)	
4月26日 火	第三ユニットA 64 動脈疾患・外傷 (心臓血管外科)	第三ユニットA 65 補講	第三ユニットA 66 静脈・リンパ管 (循・腎・脳内科)	第三ユニットA 67 静脈・リンパ管 (心臓血管外科)	第三ユニットA 68 肺塞栓症 (循・腎・脳内科)	
4月27日 水	第三ユニットA 69 血管の病理 (炎症病理)	第三ユニットA 70	第三ユニットA 71 血管病理実習 (炎症病理)	第三ユニットA 72	第三ユニットA 73 補講	
4月28日 木	第三ユニットA 74 チュートリアル発表会 課題(胸痛)-4	第三ユニットA 75	第三ユニットA 76 症候論3-1 外傷性・出血性・敗血症性 ショック(救急災害医学)	第三ユニットA 77 症候論3-2 心原性ショック (循・腎・脳内科)	第三ユニットA 78 症候論3-3 産科ショック (周産期婦人)	
4月29日 金	昭和の日					

(第三ユニット 第5週)

5 5	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
5月2日 月	第三ユニットA 79 補講	第三ユニットA 80 補講	第三ユニットA 81 補講	第三ユニットA 82 補講	第三ユニットA 83 補講	
5月3日 火	憲法記念日					
5月4日 水	みどりの日					
5月5日 木	こどもの日					
5月6日 金	公衆衛生学 休講	公衆衛生学 休講	公衆衛生学 休講	衛生学 休講	衛生学 休講	衛生学 休講

(第三ユニット 第6週)

6 6	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
5月9日 月	第三ユニットA 84 本態性高血圧 (循・腎・脳内科)	第三ユニットA 85 二次性高血圧 (循・腎・脳内科)	第三ユニットA 86 高血圧と心臓 (循・腎・脳内科)	第三ユニットA 87 抗高血圧薬 (薬理)	第三ユニットA 88 補講	
5月10日 火	第三ユニットA 89	第三ユニットA 90	第三ユニットA 91	第三ユニットA 92	第三ユニットA 93	
	試験					
5月11日 水	第三ユニットB 1 生理学・薬理学実習 説明会	第三ユニットB 2 症候論1-1 血尿・蛋白尿(検尿異常) (循・腎・脳内科)	第三ユニットB 3 症候論1-2 肉眼的血尿 (泌尿器)	第三ユニットB 4	第三ユニットB 5 腎臓の生理 (自機生)	
5月12日 木	第三ユニットB 6 高血圧と腎臓 (薬理)	第三ユニットB 7	第三ユニットB 8	第三ユニットB 9	第三ユニットB 10	
	腎臓の生理 (自機生)					
5月13日 金	衛生学 環境保健(1) 坂野	第三ユニットB 11 腎臓病態論 (薬剤部)	衛生学 産業保健(1)	公衆衛生学 医療と社会福祉 江草	公衆衛生学 高齢者保健 鈴江	衛生学 社会医学実習 全員

(第三ユニット 第7週)

7	I	II	III	IV	V	VI
7	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
5月16日 月	第三ユニットB 12	第三ユニットB 13	第三ユニットB 14	第三ユニットB 15	第三ユニットB 16	第三ユニットB 17
	チュートリアル 課題(血尿)-1	腎機能検査 水・電解質代謝異常 (循・腎・脳内科)		生理・薬理実習 (I-1)		
5月17日 火	第三ユニットB 18	第三ユニットB 19	第三ユニットB 20	第三ユニットB 21	第三ユニットB 22	第三ユニットB 23
	全身疾患と腎 (循・腎・脳内科)		先天異常 (小児)	生理・薬理実習 (I-2)		
5月18日 水	第三ユニットB 24	第三ユニットB 25	第三ユニットB 26	第三ユニットB 27	第三ユニットB 28	
	腎・尿路系の病理 (腫瘍病理)			腎・尿路系の病理 (腫瘍病理)		
5月19日 木	第三ユニットB 29	第三ユニットB 30	第三ユニットB 31	第三ユニットB 32	第三ユニットB 33	第三ユニットB 34
	原発性糸球体疾患 (循・腎・脳内科)		学校検尿 (小児)	生理・薬理実習 (I-3)		
5月20日 金	公衆衛生学 地域保健	公衆衛生学 感染症対策	公衆衛生学 がん対策	公衆衛生学 健康危機管理	公衆衛生学 循環器の疫学	公衆衛生学 ケースメソッド(3)
	平尾	依田	平尾	星川	万波	

(第三ユニット 第8週)

8	I	II	III	IV	V	VI
8	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
5月23日 月	第三ユニットB 35	第三ユニットB 36	第三ユニットB 37	第三ユニットB 38	第三ユニットB 39	第三ユニットB 40
	チュートリアル 課題(血尿)-2	診断と検査、腎・尿路系の画像診断 (放射線)		生理・薬理実習 (II-1)		
5月24日 火	第三ユニットB 41	第三ユニットB 42	第三ユニットB 43	第三ユニットB 44	第三ユニットB 45	第三ユニットB 46
	排尿障害 (泌尿器)	尿管機能異常 (循・腎・脳内科)	外傷 (泌尿器)	生理・薬理実習 (II-2)		
5月25日 水	第三ユニットB 47	第三ユニットB 48	第三ユニットB 49	第三ユニットB 50	第三ユニットB 51	
	腎・尿路系病理実習 (腫瘍病理)			腎・尿路系の病理 (腫瘍病理)		
5月26日 木	第三ユニットB 52	第三ユニットB 53	第三ユニットB 54	第三ユニットB 55	第三ユニットB 56	第三ユニットB 57
	尿路結石 (泌尿器)	尿路感染症 (泌尿器)	慢性腎不全・移植 (泌尿器)	生理・薬理実習 (II-3)		
5月27日 金	衛生学 環境保健(2)	衛生学 産業保健(2)	公衆衛生学 地域医療	衛生学 産業保健(3)	衛生学 ケースメソッド(4)-1	衛生学 衛生学特論
	浅川	菅沼	住友	氏家	宮武	河島

(第三ユニット 第9週)

9	I	II	III	IV	V	VI
9	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
5月30日 月	第三ユニットB 58	第三ユニットB 59	第三ユニットB 60	第三ユニットB 61	第三ユニットB 62	第三ユニットB 63
	チュートリアル 課題(血尿)-3	ネフローゼ症候群 (循・腎・脳内科)	全身疾患と腎 (周産期婦人)	生理・薬理実習 (III-1)		
5月31日 火	第三ユニットB 64	第三ユニットB 65	第三ユニットB 66	第三ユニットB 67	第三ユニットB 68	第三ユニットB 69
	グループワーキング (発表準備)	腫瘍 (泌尿器)		生理・薬理実習 (III-2)		
6月1日 水	第三ユニットB 70	第三ユニットB 71	第三ユニットB 72	第三ユニットB 73	第三ユニットB 74	
	腎・尿路系病理実習 (腫瘍病理)			酸塩基平衡・電解質代謝異常 (麻酔)		
6月2日 木	第三ユニットB 75	第三ユニットB 76	第三ユニットB 77	第三ユニットB 78	第三ユニットB 79	第三ユニットB 80
	腎不全 (循・腎・脳内科)	血液浄化法 (循・腎・脳内科)	症候論2-1 尿量・排尿の異常 (泌尿器)	生理・薬理実習 (III-3)		
6月3日 金	公衆衛生学 見学実習	公衆衛生学 見学実習	公衆衛生学 見学実習	公衆衛生学 見学実習	公衆衛生学 見学実習	公衆衛生学 見学実習
	全員	全員	全員	全員	全員	全員

(第三ユニット 第10週)

10 10	I 8:30-9:45	II 9:55-11:10	III 11:20-12:35	IV 13:30-14:45	V 14:55-16:10	VI 16:20-17:35
6月6日 月	第三ユニットB 81	第三ユニットB 82	第三ユニットB 83	第三ユニットB 84	第三ユニットB 85	
	チュートリアル(発表会) 課題(血尿)-4			実習試験(腫瘍病理)		
6月7日 火	第三ユニットB 86	第三ユニットB 87	第三ユニットB 88	第三ユニットB 89	第三ユニットB 90	
	補 講					
6月8日 水	第三ユニットB 91	第三ユニットB 92	第三ユニットB 93	第三ユニットB 94	第三ユニットB 95	
	補 講					
6月9日 木	第三ユニットB 96	第三ユニットB 97	第三ユニットB 98	第三ユニットB 99	第三ユニットB 100	
	試 験					
6月10日 金	衛生学 栄養、食品保健 須那	衛生学 産業保健(4) 高尾	衛生学 ケースメソッド(4)-2 宮武	衛生学 見学実習 全員	衛生学 見学実習 全員	衛生学 見学実習 全員

(第五ユニット 第1週)

11 1	I 8:30-9:45	II 9:55-11:10	III 11:20-12:35	IV 13:30-14:45	V 14:55-16:10	VI 16:20-17:35
6月13日 月	第五ユニット1 呼吸生理 呼吸器・乳腺内分泌外科 松浦奈都美	第五ユニット2 呼吸器の構造 組織細胞生物学 三宅 克也	第五ユニット3 実習(呼吸生理・血液ガス分析) 代謝血液免疫呼吸器内科内科内科 石井 知也	第五ユニット4	第五ユニット5	
	第五ユニット6 呼吸器作動薬 薬理学 中野 大介	第五ユニット7 チュートリアル 課題1 チューターあり	第五ユニット8 呼吸生理(酸塩基平衡理論) 生体情報分子学 小林 良二	第五ユニット9 呼吸器画像診断(1) 放射線科 室田 真希子	第五ユニット10 呼吸器画像診断(2) 放射線科 室田 真希子	
6月14日 火	第五ユニット11 小児呼吸器疾患 小児科 磯部 健一	第五ユニット12 喘息アレルギー(1) 代謝血液免疫呼吸器内科内科 坂東 修二	第五ユニット13 喘息アレルギー(2) 代謝血液免疫呼吸器内科内科 坂東 修二	第五ユニット14 喘息アレルギー(3) 小児科 西庄 佐恵	第五ユニット15	
6月15日 水	第五ユニット16 肺感染症の外科(1) 呼吸器・乳腺内分泌外科 呉 哲彦	第五ユニット17 肺感染症の外科(2) 呼吸器・乳腺内分泌外科 呉 哲彦	第五ユニット18 小児呼吸器感染症 小児科 西庄 佐恵	第五ユニット19	第五ユニット20 気管支鏡・胸腔鏡・ステント・レーザー 呼吸器・乳腺内分泌外科 張 性洙	
6月16日 木	公衆衛生学 精神保健 鈴江	公衆衛生学 国際保健 依田	公衆衛生学 社会医学実習 全員	衛生学 社会医学実習 全員	衛生学 社会医学実習 全員	衛生学 社会医学実習 全員
6月17日 金						

(第五ユニット 第2週)

12 2	I 8:30-9:45	II 9:55-11:10	III 11:20-12:35	IV 13:30-14:45	V 14:55-16:10	VI 16:20-17:35
6月20日 月	第五ユニット21 呼吸器感染症(1) 代謝血液免疫呼吸器内科内科 石井 知也	第五ユニット22 呼吸器感染症(2) 代謝血液免疫呼吸器内科内科 石井 知也	第五ユニット23 喀痰細菌検査(1) 分子微生物学講座 (未定)	第五ユニット24 喀痰細菌検査(2) 分子微生物学講座 (未定)	第五ユニット25 喀痰病理 病理部 羽場 礼次	
	第五ユニット26 チュートリアル 課題2 チューターあり	第五ユニット27 呼吸器画像診断(3) 放射線科 室田 真希子	第五ユニット28 呼吸器画像診断(4) 放射線科 室田 真希子	第五ユニット29 胸膜疾患 呼吸器・乳腺内分泌外科 石川 真也	第五ユニット30 縦隔疾患 呼吸器・乳腺内分泌外科 垂水 晋太郎	
6月21日 火	第五ユニット31 異常呼吸 代謝血液免疫呼吸器内科内科 坂東 修二	第五ユニット32 呼吸不全(1) 代謝血液免疫呼吸器内科内科 坂東 修二	第五ユニット33 呼吸理学療法 リハビリテーション部 森田 伸	第五ユニット34 呼吸器感染症の病理 腫瘍病理学 今井田 克己 他	第五ユニット35 実習(呼吸器感染症) 腫瘍病理学 今井田 克己 他	
6月22日 水	第五ユニット36 チュートリアル 課題まとめ チューターなし	第五ユニット37	第五ユニット38	第五ユニット39 胸部外傷 呼吸器・乳腺内分泌外科 横見瀬 裕保	第五ユニット40 肺癌外科療法 呼吸器・乳腺内分泌外科 横見瀬 裕保	
6月23日 木	衛生学 環境保健(3) 坂野	衛生学 社会医学実習 全員	衛生学 社会医学実習 全員	衛生学 社会医学実習 全員	衛生学 社会医学実習 全員	衛生学 社会医学実習 全員
6月24日 金						

(第五ユニット 第3週)

13 3	I 8:30-9:45	II 9:55-11:10	III 11:20-12:35	IV 13:30-14:45	V 14:55-16:10	VI 16:20-17:35
6月27日 月	第五ユニット 41 肺癌 内科療法 代謝血液免疫呼吸器内科内科 石井 知也	第五ユニット 42 肺癌 放射線療法 放射線科 竹川 佳宏	第五ユニット 43 閉塞性拘束性疾患(1) 腫瘍病理学 今井田 克己 他	第五ユニット 44 実習(閉塞性拘束性疾患) 腫瘍病理学 今井田 克己 他	第五ユニット 45 実習(閉塞性拘束性疾患) 腫瘍病理学 今井田 克己 他	
6月28日 火	第五ユニット 46 チュートリアル 課題まとめ チューターなし	第五ユニット 47 チュートリアル 課題まとめ チューターなし	第五ユニット 48 肺癌の病理 腫瘍病理学 今井田 克己 他	第五ユニット 49 実習(肺癌) 腫瘍病理学 今井田 克己 他	第五ユニット 50 実習(肺癌) 腫瘍病理学 今井田 克己 他	
6月29日 水	第五ユニット 51 呼吸循環器障害 代謝血液免疫呼吸器内科 坂東 修二	第五ユニット 52 呼吸不全(2) 麻酔学 別宮 小由理	第五ユニット 53 呼吸不全(3) 麻酔学 別宮 小由理	第五ユニット 54 チュートリアル発表 代謝血液免疫呼吸器内科内科 坂東修二・石井知也	第五ユニット 55 チュートリアル発表 代謝血液免疫呼吸器内科内科 坂東修二・石井知也	
6月30日 木	第五ユニット 56 塵肺(1) 代謝血液免疫呼吸器内科内科 香川労災 多田 慎也	第五ユニット 57 塵肺(2) 代謝血液免疫呼吸器内科内科 香川労災 多田 慎也	第五ユニット 58 呼吸器疾患における社会保障論 医療ソーシャルワーカー 川口 郁代	第五ユニット 59 喘息アレルギー(4) 免疫病理学 平島 光臣	第五ユニット 60 呼吸器核医学 放射線科 山本 由佳	
7月1日 金	公衆衛生学 社会医学実習 全員	公衆衛生学 社会医学実習 全員	公衆衛生学 社会医学実習 全員	公衆衛生学 社会医学実習 全員	公衆衛生学 社会医学実習 全員	公衆衛生学 社会医学実習 全員

(第五ユニット 第4週)

14 4	I 8:30-9:45	II 9:55-11:10	III 11:20-12:35	IV 13:30-14:45	V 14:55-16:10	VI 16:20-17:35
7月4日 月	第五ユニット 61 閉塞性拘束性疾患(2) 代謝血液免疫呼吸器内科内科 石井 知也	第五ユニット 62 閉塞性拘束性疾患(3) 代謝血液免疫呼吸器内科内科 石井 知也	第五ユニット 63 小児肺疾患外科療法 小児外科 野田 卓男	第五ユニット 64	第五ユニット 65	
7月5日 火	第五ユニット 66	第五ユニット 67	第五ユニット 68	第五ユニット 69 実習試験 腫瘍病理学 今井田 克己 他	第五ユニット 70 実習試験 腫瘍病理学 今井田 克己 他	
7月6日 水	第五ユニット 71	第五ユニット 72	第五ユニット 73	第五ユニット 74	第五ユニット 75	
7月7日 木	第五ユニット 76	第五ユニット 77	第五ユニット 78	第五ユニット 79 試験 (監督 呼吸器乳腺外科2人)	第五ユニット 80 試験 (監督 呼吸器乳腺外科2人)	
7月8日 金	衛生学 社会医学実習 発表会 全員	衛生学 社会医学実習 発表会 全員	衛生学 社会医学実習 発表会 全員	公衆衛生学 社会医学実習 発表会 全員	公衆衛生学 社会医学実習 発表会 全員	公衆衛生学 社会医学実習 発表会 全員

(臨床総論講義 第1週)

15 1	I 8:30-9:45	II 9:55-11:10	III 11:20-12:35	IV 13:30-14:45	V 14:55-16:10	VI 16:20-17:35
7月11日 月	臨床総論講義1 基本的診察技能(内科系) (5)身体診察④泌尿生殖器(男性) 泌尿器科学	臨床総論講義2 基本的診察技能(内科系) (5)身体診察 ④泌尿生殖器(女性) 産産期学婦人科学	臨床総論講義3 基本的診察技能(内科系) (5)身体診察 ⑥四肢と脊柱 整形外科科学	臨床総論講義4 外傷学総論 整形外科科学	臨床総論講義5 基本的診察知識 (11)リハビリテーション 理学療法部	
7月12日 火	臨床総論講義6 基本的診察知識 (11)リハビリテーション 理学療法部	臨床総論講義7 基本的診察技能 (5)基本的診察技能⑦小児の診察 小児科学	臨床総論講義8 小児外科学総論 小児外科学	臨床総論講義9 基本的診察技能(内科系) (5)身体診察 ⑦小児の診察:小児頭形腫瘍 小児外科学	臨床総論講義10 基本的診察技能(内科系) (5)身体診察 ⑦小児の診察:胸壁/腹壁疾患 小児外科学	
7月13日 水	臨床総論講義11 基本的外科診断法 ②(呼吸器・乳腺甲状腺) 呼吸器・乳腺内分泌外科科学	臨床総論講義12 基本的診察技能(外科系) (6)基本的臨床手技 外科手技①(消毒・清潔・直腸診察) 消化器外科科学	臨床総論講義13 形成外科の基本手技・美容外科 形成外科科学	臨床総論講義14 四肢・体幹部その他の形成外科 形成外科科学	臨床総論講義15 皮膚腫瘍・母斑の形成外科的治療・頭頸部その他悪性腫瘍切除後の再建手術 形成外科科学	
7月14日 木	臨床総論講義16 顔面の先天異常・顔面外傷・顔面骨折 形成外科科学	臨床総論講義17 放射線を用いる治療 放射線医学	臨床総論講義18 放射線を用いる診断 放射線医学	臨床総論講義19 放射線を用いる診断 放射線医学	臨床総論講義20 放射線を用いる診断の基礎1 放射線医学	
7月15日 金		公衆衛生学 試験 全員	衛生学 試験 全員			

2学期
(臨床総論講義 第2週)

1 2	I 8:30-9:45	II 9:55-11:10	III 11:20-12:35	IV 13:30-14:45	V 14:55-16:10	VI 16:20-17:35
8月22日 月	臨床総論講義21 放射線を用いる診断 放射線医学	臨床総論講義22 放射線を用いる診断 放射線医学	臨床総論講義23 放射線を用いる診断 放射線医学	臨床総論講義24 腫瘍 疫学、病理・病態、発生原因、予防 総合診療部	臨床総論講義25 腫瘍 症候および診断 消化器・神経内科学	
8月23日 火	臨床総論講義26 腫瘍 治療 化学療法および生物学的治療 呼吸器・乳腺内分泌外科学	臨床総論講義27 腫瘍 治療 手術療法および集学的治療 消化器外科学	臨床総論講義28 放射線を用いる治療 放射線医学	臨床総論講義29 腫瘍 治療 支持療法および緩和療法 総合診療部	臨床総論講義30 腫瘍 チーム医療とバイオエッセンス 総合診療部	臨床英語 Introductions Warm-up Willey
8月24日 水	臨床総論講義31 救急災害医学総論 救急災害医学	臨床総論講義32 心停止・心肺脳蘇生 救急災害医学	臨床総論講義33 熱傷の病態と治療 救急災害医学	臨床総論講義34 脳神経外科救急疾患 救急災害医学	臨床総論講義35 多発外傷 救急災害医学	
8月25日 木	臨床総論講義36 中毒 救急災害医学	臨床総論講義37 集中治療総論・院内感染症 麻酔学	臨床総論講義38 静脈麻酔薬・筋弛緩薬 麻酔学	臨床総論講義39 局所麻酔 麻酔学	臨床総論講義40 小児麻酔・高齢者麻酔・特殊麻酔 麻酔学	
8月26日 金	臨床総論講義41 多臓器不全・重症患者管理概論 麻酔学	臨床総論講義42 ペインクリニック 麻酔学	臨床総論講義43 災害医療 救急災害医学	臨床総論講義44 口腔の構造・機能・生理(1) 歯科口腔外科学	臨床総論講義45 口腔の構造・機能・生理(2) 歯科口腔外科学	

(臨床総論講義 第3週)

2 3	I 8:30-9:45	II 9:55-11:10	III 11:20-12:35	IV 13:30-14:45	V 14:55-16:10	VI 16:20-17:35
8月29日 月	臨床総論講義46 薬物体内動態、therapeutic drug monitoring 薬剤部	臨床総論講義47 麻薬の取り扱い 薬剤部	臨床総論講義48 漢方の実際(1) 非常勤講師	臨床総論講義49 漢方の実際(2) 非常勤講師	臨床総論講義50 物理・化学的因子による疾患 法医学	
8月30日 火	臨床総論講義51 人の死・死と法 法医学	臨床総論講義52	臨床総論講義53	臨床総論講義54	臨床総論講義55	臨床英語 GP Unit 1 Willey
8月31日 水	臨床総論講義56	臨床総論講義57	臨床総論講義58	臨床総論講義59	臨床総論講義60	
9月1日 木	臨床総論講義61	臨床総論講義62	臨床総論講義63	臨床総論講義64 試験	臨床総論講義65	
9月2日 金	法医学 総論 法医学とは 木下	法医学 死体現象 早期死体現象 木下	法医学 死体現象 晚期死体現象 木下	衛生学 希望者特別実習 全員	衛生学 希望者特別実習 全員	衛生学 希望者特別実習 全員

(第四ユニット 第1週)

3 1	I 8:30-9:45	II 9:55-11:10	III 11:20-12:35	IV 13:30-14:45	V 14:55-16:10	VI 16:20-17:35
9月5日 月	第四ユニット1 生体防御・自然免疫 分子微生物学	第四ユニット2 菌交代症・日和見感染症 分子微生物学	第四ユニット3 アレルギー疾患概要 免疫病理学 平島・大水	第四ユニット4 アレルギー 免疫病理学 平島・大水	第四ユニット5	
9月6日 火	第四ユニット6 血液疾患概論 代謝・血液・免疫・呼吸器	第四ユニット7 貧血の鑑別診断 代謝・血液・免疫・呼吸器	第四ユニット8 再生不良性貧血 代謝・血液・免疫・呼吸器	第四ユニット9 自己免疫疾患概論 免疫病理学 平島・大水	第四ユニット10	臨床英語 GP Unit 1 Willey
9月7日 水	第四ユニット11 自己抗体 代謝・血液・免疫・呼吸器 洲崎	第四ユニット12 自己免疫疾患概論 代謝・血液・免疫・呼吸器 土橋	第四ユニット13 溶血性貧血等 代謝・血液・免疫・呼吸器	第四ユニット14 鉄欠乏性貧血等 代謝・血液・免疫・呼吸器	第四ユニット15 感染症の臨床検査 臨床検査医学 藤田	
9月8日 木	第四ユニット16 下痢症・食中毒 分子微生物学	第四ユニット17 下痢症・食中毒 分子微生物学	第四ユニット18 抗菌薬(1) 薬理学 小坂(非常勤講師)	第四ユニット19 小児発疹性疾患(1) 小児科学 岩瀬	第四ユニット20 小児発疹性疾患(2) 小児科学 岩瀬	
9月9日 金	法医学 血液型 ABO型, Rh式 飴野	法医学 血液型 その他の血液型 飴野	法医学 法医学と社会 医師に期待される役割 山本	衛生学 希望者特別実習 全員	衛生学 希望者特別実習 全員	公衆衛生学 希望者特別実習 全員

(第四ユニット 第2週)

4 2	I 8:30-9:45	II 9:55-11:10	III 11:20-12:35	IV 13:30-14:45	V 14:55-16:10	VI 16:20-17:35
9月12日 月	第四ユニット 21 百日咳・破傷風 分子微生物学	第四ユニット 22 プリオン感染症 分子微生物学	第四ユニット 23 感染免疫(1) 免疫病理学 平島・大水	第四ユニット 24 感染免疫(2) 免疫病理学 平島・大水	第四ユニット 25 院内感染症 臨床検査医学 藤田	
9月13日 火	第四ユニット 26 骨髄異形成症候群 代謝・血液・免疫・呼吸器	第四ユニット 27 急性白血病 代謝・血液・免疫・呼吸器	第四ユニット 28 敗血症・SIRS 代謝・血液・免疫・呼吸器	第四ユニット 29 婦人科領域のSTD 婦人科	第四ユニット 30 泌尿器科領域のSTD 泌尿器科 佐藤(非常勤講師)	臨床英語 GP Unit 2 Willey
9月14日 水	第四ユニット 31 SLE病態・症候 代謝・血液・免疫・呼吸器 土橋	第四ユニット 32 SLE治療・抗リン脂質抗体症候群 代謝・血液・免疫・呼吸器 土橋	第四ユニット 33 ウイルス性呼吸器感染症 代謝・血液・免疫・呼吸器	第四ユニット 34 血流感染症・SIRS 代謝・血液・免疫・呼吸器	第四ユニット 35 チュートリアル(1)	
9月15日 木	第四ユニット 36 抗菌薬(2) 薬理学 小坂(非常勤講師)	第四ユニット 37 消化器系以外の寄生虫症(1) 国際医動物学 新井	第四ユニット 38 消化器系以外の寄生虫症(2) 国際医動物学 新井	第四ユニット 39 その他の小児感染症 小児科学 岩瀬	第四ユニット 40	
9月16日 金	法医学 損傷 総論, 創傷の観察 木下	法医学 損傷 銃器損傷, 銃器損傷 木下	法医学 損傷 鈍器損傷 木下	公衆衛生学 希望者特別実習 全員	公衆衛生学 希望者特別実習 全員	公衆衛生学 希望者特別実習 全員

(第四ユニット 第3週)

5 3	I 8:30-9:45	II 9:55-11:10	III 11:20-12:35	IV 13:30-14:45	V 14:55-16:10	VI 16:20-17:35
9月19日 月	敬老の日					
9月20日 火	第四ユニット 41 急性白血病の臨床 代謝・血液・免疫・呼吸器	第四ユニット 42 リンパ節腫脹 代謝・血液・免疫・呼吸器	第四ユニット 43 リンパ系腫瘍概論 代謝・血液・免疫・呼吸器	第四ユニット 44 予防接種 小児科学 伊地知	第四ユニット 45	臨床英語 GP Unit 2 Willey
9月21日 水	第四ユニット 46 強皮症 代謝・血液・免疫・呼吸器 土橋	第四ユニット 47 多発筋炎・皮膚筋炎 代謝・血液・免疫・呼吸器 土橋	第四ユニット 48 特殊な悪性リンパ腫 代謝・血液・免疫・呼吸器	第四ユニット 49 尿路感染症 泌尿器科 野村(非常勤講師)	第四ユニット 50 チュートリアル(2)	
9月22日 木	第四ユニット 51 エイズ 輸血部 窪田	第四ユニット 52 腫瘍免疫(1) 免疫病理学 平島・大水	第四ユニット 53 腫瘍免疫(2) 免疫病理学 平島・大水	第四ユニット 54 小児皮膚筋炎・若年性RA 小児科学 西庄	第四ユニット 55	
9月23日 金	秋分の日					

(第四ユニット 第4週)

6 4	I 8:30-9:45	II 9:55-11:10	III 11:20-12:35	IV 13:30-14:45	V 14:55-16:10	VI 16:20-17:35
9月26日 月	第四ユニット 56	第四ユニット 57 特別講義 坂出市立病院:中村	第四ユニット 58 特別講義 坂出市立病院:中村	第四ユニット 59 特別講義 県立中央病院:川上	第四ユニット 60 特別講義 県立中央病院:川上	
9月27日 火	第四ユニット 61 多発性骨髄腫 代謝・血液・免疫・呼吸器	第四ユニット 62 骨髄増殖性腫瘍 代謝・血液・免疫・呼吸器	第四ユニット 63 慢性骨髄性白血病 代謝・血液・免疫・呼吸器	第四ユニット 64 症候論:関節痛 代謝・血液・免疫・呼吸器 土橋	第四ユニット 65 自己炎症症候群 代謝・血液・免疫・呼吸器 土橋	臨床英語 GP Unit 3 Willey
9月28日 水	第四ユニット 66 関節リウマチの病態・徴候 代謝・血液・免疫・呼吸器 土橋	第四ユニット 67 関節リウマチの薬物療法 代謝・血液・免疫・呼吸器 土橋	第四ユニット 68 症候学:不明熱 代謝・血液・免疫・呼吸器 土橋	第四ユニット 69 ブ菌・溶連菌感染症 代謝・血液・免疫・呼吸器	第四ユニット 70 チュートリアル(3)	
9月29日 木	第四ユニット 71 遺伝性血液疾患・血友病など 小児科学 岡田	第四ユニット 72 小児造血器腫瘍 小児科学 岡田	第四ユニット 73 リンパ節炎の病理 炎症病理学 上野	第四ユニット 74 垂直感染症 小児科学 中村	第四ユニット 75	
9月30日 金	法医学 中毒 総論 飴野	法医学 中毒 医薬品 飴野	法医学 中毒 アルコール 飴野			

(第四ユニット 第5週)

7 5	I 8:30-9:45	II 9:55-11:10	III 11:20-12:35	IV 13:30-14:45	V 14:55-16:10	VI 16:20-17:35
10月3日 月	第四ユニット 76	第四ユニット 77	第四ユニット 78	第四ユニット 79 チュートリアル 発表会	第四ユニット 80 チュートリアル 発表会	
10月4日 火	第四ユニット 81 白血病・悪性リンパ腫の病理(1) 炎症病理学 上野	第四ユニット 82 白血病・悪性リンパ腫の病理(2) 炎症病理学 上野	第四ユニット 83 悪性リンパ腫 代謝・血液・免疫・呼吸器	第四ユニット 84 悪性RA・成人ステイル病 代謝・血液・免疫・呼吸器 亀田	第四ユニット 85 血管炎症候群(1) 代謝・血液・免疫・呼吸器 土橋	臨床英語 GP Unit 3 Willey
10月5日 水	第四ユニット 86 白血病・悪性リンパ腫の病理(3) 炎症病理学 上野	第四ユニット 87 白血病・悪性リンパ腫の病理(4) 炎症病理学 上野	第四ユニット 88 癌化学療法 代謝・血液・免疫・呼吸器	第四ユニット 89	第四ユニット 90	
10月6日 木	第四ユニット 91 血管炎症候群(2) 代謝・血液・免疫・呼吸器 土橋	第四ユニット 92 MCTD・シェーグレン 代謝・血液・免疫・呼吸器 土橋	第四ユニット 93	第四ユニット 94 血液病理学実習 炎症病理学	第四ユニット 95 血液病理学実習 炎症病理学	
10月7日 金	法医学 予備日	法医学 予備日	法医学 予備日	医学部祭(午後休講)		

(第四ユニット 第6週)

8 6	I 8:30-9:45	II 9:55-11:10	III 11:20-12:35	IV 13:30-14:45	V 14:55-16:10	VI 16:20-17:35
10月10日 月	体育の日					
10月11日 火	第四ユニット 96 症候学・出血 代謝・血液・免疫・呼吸器	第四ユニット 97 止血・凝固(1) 代謝・血液・免疫・呼吸器	第四ユニット 98 止血・凝固(2) 代謝・血液・免疫・呼吸器	第四ユニット 99 補講	第四ユニット 100 補講	臨床英語 GP Unit 4 Willey
10月12日 水	第四ユニット 101 補講	第四ユニット 102 先天性免疫不全症候群 小児科学 岡田	第四ユニット 103 補講	第四ユニット 104 補講	第四ユニット 105 補講	
10月13日 木	第四ユニット 106 補講	第四ユニット 107 総合試験	第四ユニット 108 総合試験	第四ユニット 109 試験解説	第四ユニット 110 試験解説	
10月14日 金	法医学 損傷 交通事故損傷 木下	法医学 トピックス 分子病態法医学 近藤	法医学 トピックス 分子病態法医学 近藤	法医学 中毒 有機溶剤 飴野	法医学 中毒 農薬 飴野	法医学 中毒 CO中毒 他 飴野

(第七ユニット 第1週)

9 1	I 8:30-9:45	II 9:55-11:10	III 11:20-12:35	IV 13:30-14:45	V 14:55-16:10	VI 16:20-17:35
10月17日 月	第七ユニット 1 構造と機能① 胎児・新生児 神経機能形態学	第七ユニット 2 胎児・新生児 用語の定義・適応整理 小児科学	第七ユニット 3 胎児・新生児 診察法 小児科学	第七ユニット 4 胎児・新生児 新生児仮死 小児科学	第七ユニット 5 小児期 小児の成長 小児科学	
10月18日 火	第七ユニット 6 自主学習	第七ユニット 7 自主学習	第七ユニット 8 女性生殖器 症候 周産期学婦人科学	第七ユニット 9 診断と検査 産婦人科の間診及び診察法 周産期学婦人科学	第七ユニット 10 自主学習	臨床英語 GP Unit 4 Willey
10月19日 水	第七ユニット 11 診断と検査 婦人科疾患の診断 周産期学婦人科学	第七ユニット 12 診断と検査 婦人科疾患の診断 周産期学婦人科学	第七ユニット 13 構造と機能② 女性生殖器 組織細胞生物学	第七ユニット 14 構造と機能② 男性生殖器 組織細胞生物学	第七ユニット 15 自主学習	
10月20日 木	第七ユニット 16 女性生殖器疾患 子宮・卵巣の腫瘍 周産期学婦人科学	第七ユニット 17 女性生殖器疾患 子宮・卵巣の腫瘍 周産期学婦人科学	第七ユニット 18 女性生殖器疾患 子宮・卵巣の腫瘍 周産期学婦人科学	第七ユニット 19 女性生殖器疾患 子宮・卵巣の腫瘍 周産期学婦人科学	第七ユニット 20 女性生殖器疾患 外陰部・膣と骨盤内感染 周産期学婦人科学	
10月21日 金	法医学 窒息 総論, 縊死 木下	法医学 窒息 絞死, 扼死, 溺死 木下	法医学 異常環境 温度異常 木下	法医学 法生物学 DNA 関口	法医学 法生物学 物体検査, 個人識別 関口	法医学 演習 死体検案書作成演習1 木下

(第七ユニット 第2週)

10 2	I 8:30-9:45	II 9:55-11:10	III 11:20-12:35	IV 13:30-14:45	V 14:55-16:10	VI 16:20-17:35
10月24日 月	第七ユニット 21 主な女性生殖器 疾患の病因論と形態学 炎症病理	第七ユニット 22 主な女性生殖器 疾患の病因論と形態学 炎症病理	第七ユニット 23 主な女性生殖器 疾患の病因論と形態学 炎症病理	第七ユニット 24 診断と検査 乳房腫瘍 呼吸器・乳腺内分泌外科学	第七ユニット 25 疾患 良性乳腺疾患・乳癌 呼吸器・乳腺内分泌外科学	
10月25日 火	第七ユニット 26 主な女性生殖器 疾患の病因論 炎症病理	第七ユニット 27 主な女性生殖器 疾患の病因論 炎症病理	第七ユニット 28 主な女性生殖器 疾患の病因論 炎症病理	第七ユニット 29 Tutorial 課題1	第七ユニット 30 Tutorial 課題1	臨床英語 GP Unit 5 Willey
10月26日 水	第七ユニット 31 女性生殖器疾患の 病因論と形態学 炎症病理	第七ユニット 32 男性生殖器疾患 (陰茎、精巣)の病理 炎症病理	第七ユニット 33 男性生殖器疾患 (陰茎、精巣)の病理 炎症病理	第七ユニット 34 男性生殖器疾患 (陰茎、精巣)の病理 炎症病理	第七ユニット 35 胎児・新生児 新生児黄疸の鑑別と治療 小児科学	
10月27日 木	第七ユニット 36 自主学習	第七ユニット 37 自主学習	第七ユニット 38 自主学習	第七ユニット 39 自主学習	第七ユニット 40 自主学習	
10月28日 金	法医学 異常環境 感電、熱中症 木下	法医学 損傷 頭部外傷の法医学 西村	法医学 損傷 頭部外傷の法医学 西村	法医学 実習 全員	法医学 実習 全員	法医学 実習 全員

(第七ユニット 第3週)

11 3	I 8:30-9:45	II 9:55-11:10	III 11:20-12:35	IV 13:30-14:45	V 14:55-16:10	VI 16:20-17:35
10月31日 月	第七ユニット 41 胎児・新生児 新生児呼吸障害 小児科学	第七ユニット 42 乳児 染色体異常と先天奇形 小児科学	第七ユニット 43 乳児 母子相互作用 小児科学	第七ユニット 44 小児期 母乳と人工乳 小児科学	第七ユニット 45 更年期 更年期障害の機序と診療 周産期学婦人科学	
11月1日 火	第七ユニット 46 主な男性生殖器 疾患の病因論と形態学 炎症病理	第七ユニット 47 主な男性生殖器 疾患の病因論と形態学 炎症病理	第七ユニット 48 小児期 小児保健 「マスキング・統計」 小児科学	第七ユニット 49 Tutorial 課題2	第七ユニット 50 Tutorial 課題2	臨床英語 GP Unit 5 Willey
11月2日 水	第七ユニット 51 疾患 男性生殖器 泌尿器科学	第七ユニット 52 自主学習	第七ユニット 53 小児期 乳児健診・育児相談 小児科学	第七ユニット 54 疾患 男性生殖器疾患 泌尿器科学	第七ユニット 55 疾患 男性生殖器疾患 泌尿器科学	
11月3日 木	文化の日					
11月4日 金	法医学 小児の法医学 嬰児殺、battered child 木下	法医学 トピックス 循環器疾患の法医学 高橋	法医学 トピックス 循環器疾患の法医学 高橋	法医学 実習 全員	法医学 実習 全員	法医学 実習 全員

(第七ユニット 第4週)

12 4	I 8:30-9:45	II 9:55-11:10	III 11:20-12:35	IV 13:30-14:45	V 14:55-16:10	VI 16:20-17:35
11月7日 月	第七ユニット 56 正常妊娠・分娩・産褥 周産期学婦人科学	第七ユニット 57 正常妊娠・分娩・産褥 周産期学婦人科学	第七ユニット 58 正常妊娠・分娩・産褥 周産期学婦人科学	第七ユニット 59 乳児の発達 小児科学	第七ユニット 60 小児期 小児の発達障害 小児科学	
11月8日 火	第七ユニット 61 疾患 異常妊娠 周産期学婦人科学	第七ユニット 62 疾患 異常妊娠 周産期学婦人科学	第七ユニット 63 疾患 異常妊娠 周産期学婦人科学	第七ユニット 64 発表会	第七ユニット 65 発表会	臨床英語 GP Unit 6 Willey
11月9日 水	第七ユニット 66 疾患 異常妊娠・産褥 周産期学婦人科学	第七ユニット 67 疾患 異常妊娠・産褥 周産期学婦人科学	第七ユニット 68 小児心身症 小児科学	第七ユニット 69 疾患 男性生殖器疾患 泌尿器科学	第七ユニット 70 疾患 男性生殖器疾患 泌尿器科学	
11月10日 木	第七ユニット 71 自主学習	第七ユニット 72 胎児・新生児 循環 小児科学	第七ユニット 73 小児治療学 薬物代謝 小児科学	第七ユニット 74 疾患 不妊症の病態および治療 周産期学婦人科学	第七ユニット 75 疾患 不妊症の病態および治療 周産期学婦人科学	
11月11日 金	法医学 医と法 医療関連法規 木下	法医学 法医学と社会 乱用薬物 木下	法医学 法医学と社会 乱用薬物 木下	法医学 実習 全員	法医学 実習 全員	法医学 実習 全員

(第七ユニット 第5週)

13 5	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
11月14日 月	第七ユニット 76 疾患 異常分娩・産褥 周産期婦人科学	第七ユニット 77 疾患 異常分娩・産褥 周産期婦人科学	第七ユニット 78 疾患 異常妊娠・産褥 周産期婦人科学	第七ユニット 79 疾患 異常妊娠・産褥 周産期婦人科学	第七ユニット 80 自主学習	
11月15日 火	第七ユニット 81 自主学習	第七ユニット 82 自主学習	第七ユニット 83 自主学習	第七ユニット 84 自主学習	第七ユニット 85 自主学習	臨床英語 GP Unit 6 Willey
11月16日 水	第七ユニット 86 自主学習	第七ユニット 87 自主学習	第七ユニット 88 自主学習	第七ユニット 89 自主学習	第七ユニット 90 自主学習	
11月17日 木	第七ユニット 91 自主学習	第七ユニット 92 自主学習	第七ユニット 93 自主学習	第七ユニット 94 試験	第七ユニット 95 試験	
11月18日 金	法医学 法医学と社会 検案の実際 木下	法医学 演習 死体検案書作成演習2 木下		法医学 試験	法医学 試験	

(第八ユニット 第1週)

14 1	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
11月21日 月	第八ユニット 1 オリエンテーション 感覚系の構造と機能 I 神経機能形態学	第八ユニット 2 感覚系の構造と機能 I 神経機能形態学	第八ユニット 3 感覚系の構造と機能2 皮膚感覚 (細胞情報生理学)	第八ユニット 4 皮膚科総論 1 構造と機能	第八ユニット 5 皮膚科総論 2 発疹学と検査	
11月22日 火	第八ユニット 6 皮膚科各論 1 (皮膚科) 皮膚瘡、メラノーマ	第八ユニット 7 皮膚科各論 2 (皮膚科) 母斑、色素異常	第八ユニット 8 皮膚科各論 3 (皮膚科) 脱毛症と皮膚附属器疾患	第八ユニット 9 皮膚科各論 4 (皮膚科) 乾癬、角化症	第八ユニット 10 皮膚科各論 5 (皮膚科) 水疱症と膿疱症	臨床英語 GP Unit 7 Willey
11月23日 水	勤労感謝の日					
11月24日 木	第八ユニット 11 皮膚科各論 6 (皮膚科) 湿疹、蕁麻疹、薬疹	第八ユニット 12 皮膚科各論 7 (皮膚科) 血管炎、肉芽腫症	第八ユニット 13 皮膚科各論 8 (皮膚科) 感染症 (1) 感染症 (2) (性病も)	第八ユニット 14 皮膚科各論 9 (皮膚科) 感染症 (2) (性病も)	第八ユニット 15 皮膚科各論 10 (皮膚科) 全身と皮膚	
11月25日 金	第八ユニット 16 形成外科総論 I 基本的知識・治療手技 1 (形成外科)	第八ユニット 17 形成外科総論 II 治療手技 2 (形成外科)	第八ユニット 18 形成外科各論 I 先天性疾患 (形成外科)	推薦入試準備		

(第八ユニット 第2週)

15 2	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
11月28日 月	第八ユニット 19 形成外科各論 II 後天性疾患 1 (外傷) (形成外科)	第八ユニット 20 形成外科各論 II 後天性疾患 2 (顔面神経麻痺・熱傷) (形成外科)	第八ユニット 21 感覚系の構造と機能3 視覚・聴覚 (細胞情報生理学)	第八ユニット 22 感覚系の構造と機能4 平衡覚・味覚・嗅覚 (細胞情報生理学)	第八ユニット 23 眼科総論 1	
11月29日 火	第八ユニット 24 課題 1 :	第八ユニット 25 自主学習	第八ユニット 26 眼科総論 : 2	第八ユニット 27 眼科総論 3	第八ユニット 28 眼科各論 1	臨床英語 GP Unit 7 Willey
11月30日 水	第八ユニット 29 皮膚の病理 (腫瘍病理学) 実習	第八ユニット 30 皮膚の病理 (腫瘍病理学) 実習	第八ユニット 31 皮膚の病理 (腫瘍病理学) 実習	第八ユニット 32 皮膚の病理 (腫瘍病理学) 実習	第八ユニット 33 皮膚の病理 (腫瘍病理学) 実習	
12月1日 木	第八ユニット 34 皮膚の病理 (腫瘍病理学) 実習	第八ユニット 35 皮膚の病理 (腫瘍病理学) 実習	第八ユニット 36 自主学習	第八ユニット 37 自主学習	第八ユニット 38 自主学習	
12月2日 金	第八ユニット 39 耳鼻咽喉科総論 1 耳科領域 1 (耳鼻咽喉科)	第八ユニット 40 耳鼻咽喉科総論 2 耳科領域 2 (耳鼻咽喉科)	第八ユニット 41 耳鼻咽喉科総論 3 耳科領域 3 (耳鼻咽喉科)	第八ユニット 42 耳鼻咽喉科各論 1 中耳疾患 (耳鼻咽喉科)	第八ユニット 43 耳鼻咽喉科各論 2 内耳疾患 1 (耳鼻咽喉科)	

(第ハユニット 第3週)

16 3	I 8:30-9:45	II 9:55-11:10	III 11:20-12:35	IV 13:30-14:45	V 14:55-16:10	VI 16:20-17:35
12月5日 月	第ハユニット 44 課題1 総括	第ハユニット 45 課題1 総括	第ハユニット 46	第ハユニット 47	第ハユニット 48	
12月6日 火	第ハユニット 49	第ハユニット 50	第ハユニット 51	第ハユニット 52	第ハユニット 53	臨床英語 GP Unit 8 Willey
12月7日 水	第ハユニット 54 皮膚科・形成外科試験	第ハユニット 55 眼科各論 2	第ハユニット 56 眼科各論 3	第ハユニット 57 耳鼻咽喉科各論 3 内耳疾患 2 (耳鼻咽喉科)	第ハユニット 58 耳鼻咽喉科総論 4 鼻科領域 (耳鼻咽喉科)	
12月8日 木	第ハユニット 59 耳鼻咽喉科各論 4 鼻副鼻腔疾患 (耳鼻咽喉科)	第ハユニット 60 耳鼻咽喉科総論 5 咽喉頭領域 (耳鼻咽喉科)	第ハユニット 61 耳鼻咽喉科各論 5 咽喉頭疾患 (耳鼻咽喉科)	第ハユニット 62 耳鼻咽喉科総論 6 頭頸部領域 (耳鼻咽喉科)	第ハユニット 63 耳鼻咽喉科各論 6 免疫アレルギー疾患 (耳鼻咽喉科)	
12月9日 金	第ハユニット 64 眼科各論 4	第ハユニット 65 眼科各論 5	第ハユニット 66 眼科各論 6	第ハユニット 67 眼科各論 7	第ハユニット 68 眼科各論 8	

(第ハユニット 第4週)

17 4	I 8:30-9:45	II 9:55-11:10	III 11:20-12:35	IV 13:30-14:45	V 14:55-16:10	VI 16:20-17:35
12月12日 月	第ハユニット 69 課題2:	第ハユニット 70	第ハユニット 71 耳鼻咽喉科各論 7 頭頸部腫瘍 1 (耳鼻咽喉科)	第ハユニット 72 耳鼻咽喉科各論 8 頭頸部腫瘍 2 (耳鼻咽喉科)	第ハユニット 73 耳鼻咽喉科各論 9 言語障害・構音障害 (耳鼻咽喉科)	
12月13日 火	第ハユニット 74 課題2:	第ハユニット 75 自主学習	第ハユニット 76 自主学習	第ハユニット 77 耳鼻咽喉科各論 10 頭頸部の診察 (耳鼻咽喉科)	第ハユニット 78 咀嚼障害・嚥下障害 2 (耳鼻咽喉科)	臨床英語 GP Unit 8 Willey
12月14日 水	第ハユニット 79 頭頸部の画像診断 1 (放射線科)	第ハユニット 80 頭頸部の画像診断 2 (耳鼻咽喉科)	第ハユニット 81 自主学習	第ハユニット 82 自主学習	第ハユニット 83	
12月15日 木	第ハユニット 84 課題2: 総括	第ハユニット 85 課題2: 総括	第ハユニット 86	第ハユニット 87	第ハユニット 88	
12月16日 金	第ハユニット 89	第ハユニット 90	第ハユニット 91	第ハユニット 92	第ハユニット 93	

(第ハユニット 第5週)

18 5	I 8:30-9:45	II 9:55-11:10	III 11:20-12:35	IV 13:30-14:45	V 14:55-16:10	VI 16:20-17:35
12月19日 月	第ハユニット 94 頭頸部腫瘍の病理 (腫瘍病理)	第ハユニット 95 頭頸部腫瘍の病理 (腫瘍病理)	第ハユニット 96 頭頸部腫瘍の病理 (腫瘍病理)	第ハユニット 97 頭頸部腫瘍の病理 (腫瘍病理)	第ハユニット 98	
12月20日 火	第ハユニット 99 自主学習	第ハユニット 100 腫瘍病理実習試験	第ハユニット 101 歯科口腔外科総論 (歯科口腔外科) <small>歯学概論・歯の発生・う蝕症</small>	第ハユニット 102 咀嚼障害・嚥下障害 1 (歯科口腔外科)	第ハユニット 103	臨床英語 GP Unit 9 Final Projects Willey
12月21日 水	第ハユニット 104 歯科口腔外科各論 1 (歯科口腔外科) 歯周疾患と口腔清掃	第ハユニット 105 歯科口腔外科各論 2 (歯科口腔外科) 良性腫瘍	第ハユニット 106 歯科口腔外科各論 3 (歯科口腔外科) 外傷・顎関節・顎変形症	第ハユニット 107 歯科口腔外科各論 4 (歯科口腔外科) 頭頸部の診察 (口腔内審査)	第ハユニット 108	
12月22日 木	第ハユニット 109	第ハユニット 110 歯科口腔外科各論 6 (歯科口腔外科) 菌性炎症	第ハユニット 111 歯科口腔外科各論 7 (歯科口腔外科) 神経疾患・唾液腺・嚢胞	第ハユニット 112 歯科口腔外科各論 8 (歯科口腔外科) 粘膜疾患・悪性腫瘍	第ハユニット 113 歯科口腔外科各論 5 (歯科口腔外科) 病院歯科における口腔外科臨床	
12月23日 金	天皇誕生日					

(第八ユニット 第6週)

19 6	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
1月2日 月	冬季休業					
1月3日 火	冬季休業					
1月4日 水	第八ユニット 114	第八ユニット 115	第八ユニット 116	第八ユニット 117	第八ユニット 118	
1月5日 木	第八ユニット 119	第八ユニット 120	第八ユニット 121	第八ユニット 122	第八ユニット 123	
1月6日 金	第八ユニット 124	第八ユニット 125 総合評価試験	第八ユニット 126 総合評価試験	第八ユニット 127	第八ユニット 128	

(第八ユニット 第7週)

20 7	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
1月9日 月	成人の日					
1月10日 火	共用試験準備					
1月11日 水	共用試験準備					
1月12日 木	共用試験準備					
1月13日 金	共用試験準備			センター試験準備		

21 8	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
1月16日 月	共用試験準備					
1月17日 火	共用試験準備					
1月18日 水	共用試験準備					
1月19日 木	共用試験準備					
1月20日 金	共用試験準備					

22 9	I	II	III	IV	V	VI
	8 : 30-9 : 45	9 : 55-11 : 10	11 : 20-12 : 35	13 : 30-14 : 45	14 : 55-16 : 10	16 : 20-17 : 35
1月23日 月	共用試験準備					
1月24日 火	共用試験準備					
1月25日 水	共用試験準備					
1月26日 木	共用試験準備					
1月27日 金	CBT試験（予定）					

23 10	I	II	III	IV	V	VI
	8 : 30-9 : 45	9 : 55-11 : 10	11 : 20-12 : 35	13 : 30-14 : 45	14 : 55-16 : 10	16 : 20-17 : 35
1月30日 月	臨床実習講義					
1月31日 火	臨床実習講義					
2月1日 水	臨床実習講義					
2月2日 木	臨床実習講義					
2月3日 金	臨床実習講義					

24	I	II	III	IV	V	VI
	8 : 30-9 : 45	9 : 55-11 : 10	11 : 20-12 : 35	13 : 30-14 : 45	14 : 55-16 : 10	16 : 20-17 : 35
2月6日 月	臨床実習講義					
2月7日 火	臨床実習講義					
2月8日 水	臨床実習講義					
2月9日 木	臨床実習講義					
2月10日 金	臨床実習講義					

25	I	II	III	IV	V	VI
	8 : 30-9 : 45	9 : 55-11 : 10	11 : 20-12 : 35	13 : 30-14 : 45	14 : 55-16 : 10	16 : 20-17 : 35
2月13日 月	臨床実習講義					
2月14日 火	臨床実習講義					
2月15日 水	臨床実習講義					
2月16日 木	臨床実習講義					
2月17日 金	臨床実習講義					
2月18日 土	OSCE (予定)					

26	I	II	III	IV	V	VI
	8 : 30-9 : 45	9 : 55-11 : 10	11 : 20-12 : 35	13 : 30-14 : 45	14 : 55-16 : 10	16 : 20-17 : 35
2月20日 月						
2月21日 火						
2月22日 水						
2月23日 木						
2月24日 金						

27	I	II	III	IV	V	VI
	8 : 30-9 : 45	9 : 55-11 : 10	11 : 20-12 : 35	13 : 30-14 : 45	14 : 55-16 : 10	16 : 20-17 : 35
2月27日 月						
2月28日 火						
2月29日 水						
3月1日 木						
3月2日 金	CBT再試験 (予定)					

平成23年度 講義・実習時間割 5年次生

第1学期

第1週

1	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-18:00
4月4日 月	臨床実習(医学実習Ⅰ)			医療管理学・診断学 (~17:30) 看護学科棟マルチメディア実習室 学生用電子カルテ説明 横井		
4月5日 火	臨床実習(医学実習Ⅰ)					
4月6日 水	臨床実習(医学実習Ⅰ)					
4月7日 木	臨床実習(医学実習Ⅰ)					
4月8日 金	臨床実習(医学実習Ⅰ)					

第2週

2	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-18:00
4月11日 月	臨床実習(医学実習Ⅰ)			医療管理学・診断学 (~17:30) 看護学科棟マルチメディア実習室 EBM1 平尾		
4月12日 火	臨床実習(医学実習Ⅰ)					
4月13日 水	臨床実習(医学実習Ⅰ)					
4月14日 木	臨床実習(医学実習Ⅰ)					
4月15日 金	臨床実習(医学実習Ⅰ)					

第3週

3	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-18:00
4月18日 月	臨床実習(医学実習Ⅰ)			定期健康診断(午後休講)		
4月19日 火	臨床実習(医学実習Ⅰ)					
4月20日 水	臨床実習(医学実習Ⅰ)					
4月21日 木	臨床実習(医学実習Ⅰ)					
4月22日 金	臨床実習(医学実習Ⅰ)					

第 4 週

4	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-18:00
4月25日 月	臨床実習(医学実習Ⅰ)				医療管理学・診断学 (~17:30) EBM 2	看護学科棟マルチメディア実習室 平尾
4月26日 火	臨床実習(医学実習Ⅰ)					
4月27日 水	臨床実習(医学実習Ⅰ)					
4月28日 木	臨床実習(医学実習Ⅰ)					
4月29日 金	昭和の日					

第 5 週

5	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-18:00
5月2日 月	臨床実習(医学実習Ⅰ)				医療管理学・診断学 大A (~17:30) 予備	
5月3日 火	憲法記念日					
5月4日 水	みどりの日					
5月5日 木	こどもの日					
5月6日 金	臨床実習(医学実習Ⅰ)					

第 6 週

6	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-18:00
5月9日 月	臨床実習(医学実習Ⅰ)				医療管理学・診断学 大A (~17:30) 医療安全 1	平尾
5月10日 火	臨床実習(医学実習Ⅰ)					
5月11日 水	臨床実習(医学実習Ⅰ)					
5月12日 木	臨床実習(医学実習Ⅰ)					
5月13日 金	臨床実習(医学実習Ⅰ)					

第 7 週

/	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-18:00
5月16日 月	臨床実習(医学実習 I)				医療管理学・診断学 大A (~17:30) 医療安全 2	平尾
5月17日 火	臨床実習(医学実習 I)					
5月18日 水	臨床実習(医学実習 I)					
5月19日 木	臨床実習(医学実習 I)					
5月20日 金	臨床実習(医学実習 I)					

第 8 週

8	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-18:00
5月23日 月	臨床実習(医学実習 I)				医療管理学・診断学 大A (~17:30) 院内感染対策	藤田
5月24日 火	臨床実習(医学実習 I)					
5月25日 水	臨床実習(医学実習 I)					
5月26日 木	臨床実習(医学実習 I)					
5月27日 金	臨床実習(医学実習 I)					

第 9 週

9	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-18:00
5月30日 月	臨床実習(医学実習 I)				医療管理学・診断学 大A (~17:30) 慢性疾患管理 1	岡田・舛形・樋本
5月31日 火	臨床実習(医学実習 I)					
6月1日 水	臨床実習(医学実習 I)					
6月2日 木	臨床実習(医学実習 I)					
6月3日 金	臨床実習(医学実習 I)					

第 10 週

10	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-18:00
6月6日 月	臨床実習(医学実習 I)				医療管理学・診断学 大A	臨床病理検討会 5・6年生合同 病理部
6月7日 火	臨床実習(医学実習 I)					
6月8日 水	臨床実習(医学実習 I)					
6月9日 木	臨床実習(医学実習 I)					
6月10日 金	臨床実習(医学実習 I)					

第 11 週

11	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-18:00
6月13日 月	臨床実習(医学実習 I)				医療管理学・診断学 大A	臨床病理検討会 5・6年生合同 腫瘍病理学
6月14日 火	臨床実習(医学実習 I)					
6月15日 水	臨床実習(医学実習 I)					
6月16日 木	臨床実習(医学実習 I)					
6月17日 金	臨床実習(医学実習 I)					

第 12 週

12	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-18:00
6月20日 月	臨床実習(医学実習 I)				医療管理学・診断学 大A	臨床病理検討会 5・6年生合同 炎症病理学
6月21日 火	臨床実習(医学実習 I)					
6月22日 水	臨床実習(医学実習 I)					
6月23日 木	臨床実習(医学実習 I)					
6月24日 金	臨床実習(医学実習 I)					

第 13 週

13	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-18:00
6月27日 月	臨床実習(医学実習 I)			医療管理学・診断学 大A	臨床病理検討会 5・6年生合同 免疫病理学	
6月28日 火	臨床実習(医学実習 I)					
6月29日 水	臨床実習(医学実習 I)					
6月30日 木	臨床実習(医学実習 I)					
7月1日 金	臨床実習(医学実習 I)					

第 14 週

14	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-18:00
7月4日 月	臨床実習(医学実習 I)			医療管理学・診断学 大A (~17:30) 医療倫理	中島	
7月5日 火	臨床実習(医学実習 I)					
7月6日 水	臨床実習(医学実習 I)					
7月7日 木	臨床実習(医学実習 I)					
7月8日 金	臨床実習(医学実習 I)					

第 15 週

15	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-18:00
7月11日 月	臨床実習(医学実習 I)			医療管理学・診断学 大A (~17:30) 慢性疾患管理2	村尾	
7月12日 火	臨床実習(医学実習 I)					
7月13日 水	臨床実習(医学実習 I)					
7月14日 木	臨床実習(医学実習 I)					
7月15日 金	臨床実習(医学実習 I)					

第 13 週

16	I	II	III	IV	V	VI
	8 : 30-9 : 45	9 : 55-11 : 10	11 : 20-12 : 35	13 : 30-14 : 45	14 : 55-16 : 10	16 : 20-18:00
7月18日 月	海の日					
7月19日 火	臨床実習(医学実習 I)					
7月20日 水	臨床実習(医学実習 I)					
7月21日 木	臨床実習(医学実習 I)					
7月22日 金	臨床実習(医学実習 I)					

第 14 週

17	I	II	III	IV	V	VI
	8 : 30-9 : 45	9 : 55-11 : 10	11 : 20-12 : 35	13 : 30-14 : 45	14 : 55-16 : 10	16 : 20-18:00
7月25日 月	臨床実習(医学実習 I)				医療管理学・診断学 大A (~17:30) 予備	
7月26日 火	臨床実習(医学実習 I)					
7月27日 水	臨床実習(医学実習 I)					
7月28日 木	臨床実習(医学実習 I)					
7月29日 金	臨床実習(医学実習 I)					

第2学期

第1週

1	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
8月29日 月	臨床実習(医学実習Ⅰ)				医療管理学・診断学 大A 講義の進め方説明 岡田	児童精神医学Ⅱ 家族・薬物療法 概論1 大A 石川
8月30日 火	臨床実習(医学実習Ⅰ)					
8月31日 水	臨床実習(医学実習Ⅰ)					
9月1日 木	臨床実習(医学実習Ⅰ)					
9月2日 金	臨床実習(医学実習Ⅰ)					

第2週

2	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
9月5日 月	臨床実習(医学実習Ⅰ)				医療管理学・診断学 大A 診断学実習1	児童精神医学Ⅱ 家族・薬物療法 概論2 大A 石川
9月6日 火	臨床実習(医学実習Ⅰ)					
9月7日 水	臨床実習(医学実習Ⅰ)					
9月8日 木	臨床実習(医学実習Ⅰ)					
9月9日 金	臨床実習(医学実習Ⅰ)					

第3週

3	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
9月12日 月	臨床実習(医学実習Ⅰ)				医療管理学・診断学 大A 自習	児童精神医学Ⅱ 家族・薬物療法 メカニズム(1) 大A 石川
9月13日 火	臨床実習(医学実習Ⅰ)					
9月14日 水	臨床実習(医学実習Ⅰ)					
9月15日 木	臨床実習(医学実習Ⅰ)					
9月16日 金	臨床実習(医学実習Ⅰ)					

第 4 週

4	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
9月19日 月	敬老の日					
9月20日 火	臨床実習(医学実習Ⅰ)					
9月21日 水	臨床実習(医学実習Ⅰ)					
9月22日 木	臨床実習(医学実習Ⅰ)					
9月23日 金	秋分の日					

第 5 週

5	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
9月26日 月	臨床実習(医学実習Ⅰ)				医療管理学・診断学 大A 自習	児童精神医学Ⅱ 家族・薬物療法 メカニズム(2) 大A 石川
9月27日 火	臨床実習(医学実習Ⅰ)					
9月28日 水	臨床実習(医学実習Ⅰ)					
9月29日 木	臨床実習(医学実習Ⅰ)					
9月30日 金	臨床実習(医学実習Ⅰ)					

第 6 週

6	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
10月3日 月	臨床実習(医学実習Ⅰ)				医療管理学・診断学 大A 診断学実習2	児童精神医学Ⅱ 家族・薬物療法 メカニズム(3) 大A 石川
10月4日 火	臨床実習(医学実習Ⅰ)					
10月5日 水	臨床実習(医学実習Ⅰ)					
10月6日 木	臨床実習(医学実習Ⅰ)					
10月7日 金	臨床実習(医学実習Ⅰ)					

第 7 週

/	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
10月10日 月	体育の日					
10月11日 火	臨床実習(医学実習 I)					
10月12日 水	臨床実習(医学実習 I)					
10月13日 木	臨床実習(医学実習 I)					
10月14日 金	臨床実習(医学実習 I)					

第 8 週

8	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
10月17日 月	臨床実習(医学実習 I)				医療管理学・診断学 大A 診断学実習3	児童精神医学Ⅱ 家族・薬物療法 アトキチン(1) 大A 石川
10月18日 火	臨床実習(医学実習 I)					
10月19日 水	臨床実習(医学実習 I)					
10月20日 木	臨床実習(医学実習 I)					
10月21日 金	臨床実習(医学実習 I)					

第 9 週

9	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
10月24日 月	臨床実習(医学実習 I)				医療管理学・診断学 大A 自習	児童精神医学Ⅱ 家族・薬物療法 アトキチン(2) 大A 石川
10月25日 火	臨床実習(医学実習 I)					
10月26日 水	臨床実習(医学実習 I)					
10月27日 木	臨床実習(医学実習 I)					
10月28日 金	臨床実習(医学実習 I)					

第 10 週

10	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
10月31日 月	臨床実習(医学実習Ⅰ)			医療管理学・診断学 大A 診断学実習4	児童精神医学Ⅱ 家族・薬物療法 アトキンソン(3) 大A 石川	
11月1日 火	臨床実習(医学実習Ⅰ)					
11月2日 水	臨床実習(医学実習Ⅰ)					
11月3日 木	文化の日					
11月4日 金	臨床実習(医学実習Ⅰ)					

第 11 週

11	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
11月7日 月	臨床実習(医学実習Ⅰ)			医療管理学・診断学 大A 自習	児童精神医学Ⅱ 家族・薬物療法 精神薬理トピックス(1) 大A 石川	
11月8日 火	臨床実習(医学実習Ⅰ)					
11月9日 水	臨床実習(医学実習Ⅰ)					
11月10日 木	臨床実習(医学実習Ⅰ)					
11月11日 金	臨床実習(医学実習Ⅰ)					

第 12 週

12	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
11月14日 月	臨床実習(医学実習Ⅰ)			医療管理学・診断学 大A 診断学実習5	児童精神医学Ⅱ 家族・薬物療法 精神薬理トピックス(2) 大A 石川	
11月15日 火	臨床実習(医学実習Ⅰ)					
11月16日 水	臨床実習(医学実習Ⅰ)					
11月17日 木	臨床実習(医学実習Ⅰ)					
11月18日 金	臨床実習(医学実習Ⅰ)					

第 13 週

13	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
11月21日 月	臨床実習(医学実習 I)			医療管理学・診断学 大A 自習	児童精神医学Ⅱ 家族・薬物療法 精神薬理トピックス(3) 大A 石川	
11月22日 火	臨床実習(医学実習 I)					
11月23日 水	勤労感謝の日					
11月24日 木	臨床実習(医学実習 I)					
11月25日 金	臨床実習(医学実習 I)					

第3学期

第 1 週

1	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
11月28日 月	臨床実習(医学実習 I)			医療管理学・診断学 大A 診断学実習6	児童精神医学Ⅱ 家族・薬物療法 ﾌﾟﾚﾝﾄ-(1) 大A 石川	
11月29日 火	臨床実習(医学実習 I)					
11月30日 水	臨床実習(医学実習 I)					
12月1日 木	臨床実習(医学実習 I)					
12月2日 金	臨床実習(医学実習 I)					

第 2 週

2	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
12月5日 月	臨床実習(医学実習 I)			医療管理学・診断学 大A 自習	児童精神医学Ⅱ 家族・薬物療法 ﾌﾟﾚﾝﾄ-(2) 大A 石川	
12月6日 火	臨床実習(医学実習 I)					
12月7日 水	臨床実習(医学実習 I)					
12月8日 木	臨床実習(医学実習 I)					
12月9日 金	臨床実習(医学実習 I)					

第3週

3	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
12月12日 月	臨床実習(医学実習Ⅰ)				医療管理学・診断学 大A 診断学実習7	児童精神医学Ⅱ 家族・薬物療法 家族療法(1) 大A 石川
12月13日 火	臨床実習(医学実習Ⅰ)					
12月14日 水	臨床実習(医学実習Ⅰ)					
12月15日 木	臨床実習(医学実習Ⅰ)					
12月16日 金	臨床実習(医学実習Ⅰ)					

第4週

4	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
12月19日 月	臨床実習(医学実習Ⅰ)				医療管理学・診断学 大A 自習	児童精神医学Ⅱ 家族・薬物療法 家族療法(2) 大A 石川
12月20日 火	臨床実習(医学実習Ⅰ)					
12月21日 水	臨床実習(医学実習Ⅰ)					
12月22日 木	臨床実習(医学実習Ⅰ)					
12月23日 金	天皇誕生日					

第5週

5	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
1月2日 月	冬季休業					
1月3日 火	冬季休業					
1月4日 水	臨床実習(医学実習Ⅰ)					
1月5日 木	臨床実習(医学実習Ⅰ)					
1月6日 金	臨床実習(医学実習Ⅰ)					

第 6 週

6	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
1月9日 月	成人の日					
1月10日 火	臨床実習(医学実習 I)					
1月11日 水	臨床実習(医学実習 I)					
1月12日 木	臨床実習(医学実習 I)					
1月13日 金	臨床実習(医学実習 I)					

第 7 週

7	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
1月16日 月	臨床実習(医学実習 I)				医療管理学・診断学 大A 診断学実習 8	児童精神医学 II 家族・薬物療法 臨床病理(1) 大A 石川
1月17日 火	臨床実習(医学実習 I)					
1月18日 水	臨床実習(医学実習 I)					
1月19日 木	臨床実習(医学実習 I)					
1月20日 金	臨床実習(医学実習 I)					

第 8 週

8	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
1月23日 月	臨床実習(医学実習 I)				医療管理学・診断学 大A 自習	児童精神医学 II 家族・薬物療法 臨床病理(2) 大A 石川
1月24日 火	臨床実習(医学実習 I)					
1月25日 水	臨床実習(医学実習 I)					
1月26日 木	臨床実習(医学実習 I)					
1月27日 金	臨床実習(医学実習 I)					

第 9 週

9	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
1月30日 月	臨床実習(医学実習 I)				医療管理学・診断学 大A 診断学実習9	児童精神医学Ⅱ 家族・薬物療法 大A 石川
1月31日 火	臨床実習(医学実習 I)					
2月1日 水	臨床実習(医学実習 I)					
2月2日 木	臨床実習(医学実習 I)					
2月3日 金	臨床実習(医学実習 I)					

第 10 週

10	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
2月6日 月	臨床実習(医学実習 I)				医療管理学・診断学 大A 自習	児童精神医学Ⅱ 家族・薬物療法 大A 石川
2月7日 火	臨床実習(医学実習 I)					
2月8日 水	臨床実習(医学実習 I)					
2月9日 木	臨床実習(医学実習 I)					
2月10日 金	臨床実習(医学実習 I)					

第 11 週

11	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
2月13日 月	臨床実習(医学実習 I)				医療管理学・診断学 大A 診断学実習10	児童精神医学Ⅱ 家族・薬物療法 大A 石川
2月14日 火	臨床実習(医学実習 I)					
2月15日 水	臨床実習(医学実習 I)					
2月16日 木	臨床実習(医学実習 I)					
2月17日 金	臨床実習(医学実習 I)					

第 12 週

12	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
2月20日 月	臨床実習(医学実習 I)				医療管理学・診断学 大A 自習	児童精神医学Ⅱ 家族・薬物療法 大A 石川
2月21日 火	臨床実習(医学実習 I)					
2月22日 水	臨床実習(医学実習 I)					
2月23日 木	臨床実習(医学実習 I)					
2月24日 金	臨床実習(医学実習 I)					

第 13 週

13	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
2月27日 月	臨床実習(医学実習 I)				医療管理学・診断学 大A 診断学実習 1 1	児童精神医学Ⅱ 家族・薬物療法 大A 石川
2月28日 火	臨床実習(医学実習 I)					
2月29日 水	臨床実習(医学実習 I)					
3月1日 木	臨床実習(医学実習 I)					
3月2日 金	臨床実習(医学実習 I)					

平成23年度 講義・実習時間割 6年次生

第1学期

第1週

1	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-18:00
4月4日 月	医学実習 II					臨床病理検討会 腫瘍病理学 ※この日は臨床講義棟1階で
4月5日 火	医学実習 II					
4月6日 水	医学実習 II					
4月7日 木	医学実習 II					
4月8日 金	医学実習 II					

第2週

2	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-18:00
4月11日 月	医学実習 II					臨床病理検討会 炎症病理学
4月12日 火	医学実習 II					
4月13日 水	医学実習 II					
4月14日 木	医学実習 II					
4月15日 金	医学実習 II					定期健康診断（午後休講）

第3週

3	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-18:00
4月18日 月	医学実習 II			※ 定期健康診断（午後）予備		
4月19日 火	医学実習 II					
4月20日 水	医学実習 II					
4月21日 木	医学実習 II					
4月22日 金	医学実習 II					

※ 4月18日 午後 臨時健康診断

第4週

4	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-18:00
4月25日 月	医学実習 II					臨床病理検討会 病理部
4月26日 火	医学実習 II					
4月27日 水	医学実習 II					
4月28日 木	医学実習 II					
4月29日 金	昭和の日					

第5週

5	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-18:00
5月2日 月	医学実習 II					臨床病理検討会 腫瘍病理学
5月3日 火	憲法記念日					
5月4日 水	みどりの日					
5月5日 木	こどもの日					
5月6日 金	医学実習 II					

第6週

6	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-18:00
5月9日 月	医学実習 II					臨床病理検討会 炎症病理学
5月10日 火	医学実習 II					
5月11日 水	医学実習 II					
5月12日 木	医学実習 II					
5月13日 金	医学実習 II					

第7週

7	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-18:00
5月16日 月	医学実習 II					臨床病理検討会 免疫病理学
5月17日 火	医学実習 II					
5月18日 水	医学実習 II					
5月19日 木	医学実習 II					
5月20日 金	医学実習 II					

第8週

8	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-18:00
5月23日 月	医学実習 II					臨床病理検討会 腫瘍病理学
5月24日 火	医学実習 II					
5月25日 水	医学実習 II					
5月26日 木	医学実習 II					
5月27日 金	医学実習 II					

第9週

9	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-18:00
5月30日 月	医学実習 II					臨床病理検討会 炎症病理学
5月31日 火	医学実習 II					
6月1日 水	医学実習 II					
6月2日 木	医学実習 II					
6月3日 金	医学実習 II					

第 10 週

10	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-18:00
6月6日 月	医学実習 II					臨床病理検討会 5・6年生合同 病理部
6月7日 火	医学実習 II					
6月8日 水	医学実習 II					
6月9日 木	医学実習 II					
6月10日 金	医学実習 II					

第 11 週

11	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-18:00
6月13日 月	医学実習 II					臨床病理検討会 5・6年生合同 腫瘍病理学
6月14日 火	医学実習 II					
6月15日 水	医学実習 II					
6月16日 木	医学実習 II					
6月17日 金	医学実習 II					

第 12 週

12	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-18:00
6月20日 月	医学実習 II					臨床病理検討会 5・6年生合同 炎症病理学
6月21日 火	医学実習 II					
6月22日 水	医学実習 II					
6月23日 木	医学実習 II					
6月24日 金	医学実習 II					

第 13 週

13	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-18:00
6月27日 月	医学実習 II					臨床病理検討会 5・6年生合同 免疫病理学
6月28日 火	医学実習 II					
6月29日 水	医学実習 II					
6月30日 木	医学実習 II					
7月1日 金	医学実習 II					

第1学期

第14週

14	I	II	III	IV
	8:30-10:10	10:40-12:20	13:30-15:10	15:20-17:00
7月4日 月	医療総合講義	医療総合講義	医療総合講義	医療総合講義
7月5日 火	医療総合講義 人工臓器 人工関節 整形外科学	医療総合講義 人工臓器 人工関節 整形外科学	医療総合講義	医療総合講義
7月6日 水	医療総合講義	医療総合講義 免疫と肝疾患 自己免疫性肝炎およびその周辺疾患 消化器・神経内科	医療総合講義	医療総合講義
7月7日 木	医療総合講義 頭部画像診断 中枢神経系におけるPET検査の役割 脳神経外科学	医療総合講義 臓器移植 心臓移植・肺移植 呼吸器・乳腺内分泌外科	医療総合講義 画像診断 婦人科腫瘍の画像診断 周産期婦人科学	医療総合講義
7月8日 金	医療総合講義 心不全の治療 循環器・腎臓・脳卒中内科学	医療総合講義 俊英を育てる卒後研修とは: エール・千葉大・東大・故郷山梨40年の経験から 消化器・神経内科	【Advanced OSCE 準備】	【Advanced OSCE 準備】

第15週

15	I	II	III	IV
	8:30-10:10	10:40-12:20	13:30-15:10	15:20-17:00
7月11日 月	医療総合講義 血液製剤の使い方 血液製剤の適正使用と安全管理 輸血部	医療総合講義 組織移植 マイクロサージャリー 形成外科学	医療総合講義	医療総合講義
7月12日 火	医療総合講義 臓器移植 造血幹細胞移植 内分泌・血液・免疫・呼吸器内科	医療総合講義 ショックと肝の治療 急性肝不全 消化器・神経内科	医療総合講義 糖尿病 生活習慣病の臨床 先端医療・臨床検査	医療総合講義
7月13日 水	医療総合講義	医療総合講義 病院前外傷対応シミュレーション JPTEC 救急災害医学	医療総合講義	医療総合講義
7月14日 木	医療総合講義 臨床薬理学 総論 薬物投与設計 小児科学	医療総合講義 IVRの実際 放射線医学	医療総合講義	医療総合講義
7月15日 金	医療総合講義 臨床薬理学 小児への薬物投与 小児科学	医療総合講義 医事紛争 医師になる前に 知っておくべき法律問題 歯科口腔外科学	医療総合講義	医療総合講義

第2学期

第1週

1	I	II	III	IV
	8:30-10:10	10:40-12:20	13:30-15:10	15:20-17:00
8月29日 月	医療総合講義	医療総合講義	医療総合講義	医療総合講義
8月30日 火	医療総合講義 ネットワークシステムによって 地域医療はこう変わる 医療情報部	医療総合講義	医療総合講義	医療総合講義
8月31日 水	医療総合講義	医療総合講義 臓器移植 肝臓移植・膵臓移植 消化器外科学	医療総合講義	医療総合講義
9月1日 木	医療総合講義	医療総合講義 救急治療処置 熱傷治療 形成外科学	医療総合講義	医療総合講義
9月2日 金	医療総合講義 放射線診断核医学 (特別講義) 分子イメージング 放射線医学	医療総合講義 臓器移植 腎移植と臓器提供 泌尿器科	医療総合講義	医療総合講義

第2週

2	I	II	III	IV
	8:30-10:10	10:40-12:20	13:30-15:10	15:20-17:00
9月5日 月	医療総合講義	医療総合講義	医療総合講義	医療総合講義
9月6日 火	医療総合講義	医療総合講義	医療総合講義	医療総合講義
9月7日 水	医療総合講義 呼吸器・胸壁 肺癌の遺伝子・診断治療 呼吸器・乳腺内分泌外科	医療総合講義 救急医療実習 災害机上トリアージシミュレーション 救急災害医学	医療総合講義	医療総合講義
9月8日 木	医療総合講義 グリア細胞の多様性と その産生機序の解明 消化器・神経内科	医療総合講義 感染対策 院内感染・外科的感染症 手術部	医療総合講義	医療総合講義
9月9日 金	医療総合講義 臨床薬理学 女性と漢方 周産期婦人科学	医療総合講義 血液浄化療法 血液浄化療法 循環器・腎臓・脳卒中内科学	医療総合講義 医療とは？ 消化器内科医の現場から 消化器・神経内科	医療総合講義

第3週

3	I	II	III	V
	8:30-10:10	10:40-12:20	13:30-15:10	15:20-17:00
9月12日 月	医療総合講義	医療総合講義 新生児外科 新生児の手術と管理 小児外科学	医療総合講義	医療総合講義
9月13日 火	医療総合講義	医療総合講義	医療総合講義 甲状腺 甲状腺疾患の臨床 先端医療・臨床検査	医療総合講義
9月14日 水	医療総合講義	医療総合講義 安全管理(1) 手術室をめぐる安全管理 手術部	医療総合講義	医療総合講義
9月15日 木	医療総合講義 消化管・腸壁・腹膜 消化管出血 消化器・神経内科	医療総合講義 安全管理(2) 医療機器と安全管理 手術部	医療総合講義	医療総合講義
9月16日 金	医療総合講義 病理診断学 細胞診断の有用性 病理部	医療総合講義 病理診断学 術中迅速診断の有用性 病理部	医療総合講義 理学療法とリハビリテーション リハビリテーションの実際 内分泌・血液・免疫・呼吸器内科	医療総合講義

第4週

4	I	II	III	V
	8:30-10:10	10:40-12:20	13:30-15:10	15:20-17:00
9月19日 月	敬老の日			
9月20日 火				
9月21日 水				
9月22日 木				
9月23日 金	秋分の日			

※9月26日（月）より卒業試験期間開始